

Discipleship Evangelism

～真の福音を学び
イエスに付き従う者となるための
スタディブック～

48レッスン



アンドリュー・ウォマック

ドン・クロウ

Andrew Wommack Ministries
Woodland Park, Colorado



引用されている聖書箇所は特記のない限りすべて
新改訳2017(©2017 新日本聖書刊行会)を使用しています。

© 2022 By Andrew Wommack Ministries, Inc

Andrew Wommack Ministries, Inc
PO Box 3333
Colorado Springs 80934-3333
www.awmi.net

ISBN: 978-1-948876-24-7

Item Code JP417

当書籍は、国際著作権条約により保護されています。
福音伝道の目的のために使用する場合を除き、営利目的のコピー・複製は禁じられています。

目次

1

1. 永遠のいのち	1 - 7
2. 恵みによる救い	1- 12
3. 恵みによって義とされる	1- 19
4. 神との関係	1- 24
5. 神の本質	1 - 31
6. 悔い改め	1- 37
7. コミットメント – イエスに対する固い決意	1- 44
8. 水のバプテスマ(洗礼)	1- 49
9. キリストにあるアイデンティティー (1)	1- 55
10. キリストにあるアイデンティティー (2)	1- 62
11. クリスマンが罪を犯したらどうなるのか?	1- 67
12. 神の言葉の完全性・一貫性	1- 72
13. 神のせいじゃない	1- 78
14. 聖霊に満たされたいのちの力	1- 84
15. 聖霊のバプテスマを受ける	1- 89
16. 異言で話す/祈るメリット	1- 94

2

1. 自己中心性	2-101
2. みことばの黙想	2-107
3. 思考を新たに	2-111
4. キリストの教会の重要性と意義	2-116
5. 悪霊からの解放	2-124
6. イエスを信じる者たちが持つ権威	2-130
7. 十字架で成し遂げられた癒し	2-138
8. 癒しの妨げとなる要因	2-145
9. 他人を赦すこと	2-153
10. 結婚(1)	2-162
11. 結婚(2)	2-168
12. 神の愛(1)	2-177
13. 神の愛(2)	2-185
14. 財政(1)	2-193
15. 財政(2)	2-199
16. 祈りが答えられないように思えるとき	2-204

3

1. あふれ出る神の愛	3-146
2. 聖霊の賜物を用いて仕える	3-153
3. 奇跡は神の栄光を現す	3-162
4. 強い信仰で結ばれた人間関係の中に働く力	3-170
5. 迫害	3-174
6. 王であるキリストと神の国	3-181
7. 救いをもたらす信仰の真の対象とは	3-192
8. 神の律法の適切な理解	3-199
9. 律法からの解放と恵みによる救い	3-207
10. 罪悪感からの解放	3-214
11. 私は神に愛されていて、私は美しい	3-224
12. 救いの実(1)	3-231
13. 救いの実(2)	3-240
14. イエスに付き従って行く者としての使命	3-248
15. 証しの用い方	3-257
16. イエスに付き従う者たちを育てるために皆の賜物を用いる	3-267



このスタディブックは、個人や地域社会を神の力によって変えていくために、
様々な国の言語に翻訳され、世界中で用いられています。

<https://www.awmi.net/about-us/demo/>

Discipleship Evangelism

～真の福音を学び
イエスに付き従う者となるための
スタディブック～



レベル1

目次

レベル1

1. 永遠のいのち	1- 7
2. 恵みによる救い	1-12
3. 恵みによって義とされる	1-19
4. 神との関係	1-24
5. 神の本質	1-31
6. 悔い改め	1-37
7. コミットメントー イエスに対する固い決意	1-44
8. 水のバプテスマ(洗礼)	1-49
9. キリストにあるアイデンティティー (1)	1-55
10.キリストにあるアイデンティティー (2)	1-62
11.クリスチャンが罪を犯したらどうなるのか?	1-67
12.神のことばの完全性・一貫性	1-72
13.神のせいじゃない	1-78
14.聖霊に満たされたいのちの力	1-84
15.聖霊のバプテスマを受ける	1-89
16.異言で話す/祈るメリット	1-94

レッスン1

永遠のいのち

アンドリュー・ウォマック

聖書の中でよく引用される箇所の一つにヨハネ3章16節があります。教会に通い始めたときから何度も聞いて知っているように思えるかもしれませんが、じつは大半の人たちが、このみことばの本当の意味を理解しないまま、間違った適用の仕方をしているのではないかと思います。ヨハネ3章16節には「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」と書いてあります。

以前からこのみことばは、私たちが滅びないためにイエスがこの地上に来て、私たちの罪のために死んだということを教えるのに使われてきました。それが真実であるのと同時にこのみことばは、イエスがこの地上に来て私たちのために死んだ真の目的は、私たちが永遠のいのちを得られるようにするためだと言っています。それは、アダムにより全人類に罪が入り(創世記3章)、罪が私たちと永遠のいのちとの間を遮る壁となったからです。

イエスが私たちの罪のために死んだこと、そしてイエスを信じれば滅びることはないというのは真実ですが、福音には、はるかそれ以上の意味があります。神があなたに永遠のいのちを与えたいというのが、福音の真のメッセージです。ここからは‘永遠のいのち’について説明しましょう。

イエスが十字架につけられる前の晩に祈っていたとき、「**永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。**」(ヨハネ17:3)と言いました。

これは、‘永遠のいのち’とは唯一まことの神である天の父を知ることと、神が送ったイエス・キリストを知ることだと言っています。それがまさに‘永遠のいのち’が意味することなのです。多くの人が‘永遠のいのち’とは永遠に生きることだと考えています。しかしじつは、すべての人が永遠に生きるのです。人が死ぬとその存在は消えてなくなるという考えは間違いです。クリスチャンであれば、その人が亡くなると霊と魂は神のもとへ帰ります。遺体は焼かれて骨になりますが、実際には、地上のすべての人が霊の形で生き続けるのです。ですから、‘永遠のいのち’を永遠に生きることと理解するだけでは不十分なのです。だれもが永遠に生き続けるからです。このみことばは、神とともに生きる‘永遠のいのち’が、すべての人に自動的に与えられるわけではないことをはっきりと示しています。

レッスン1

ある人たちは「永遠のいのちとは、地獄ではなく天国で永遠に生きることだ」と言うかもしれませんが。しかし「永遠のいのち」とは、イエスがヨハネ17章3節で言ったとおり、神とイエス・キリストとを知ることなのです。この「知る」とは、単に知識として知ること以上のものです。聖書中のあちこちで使われている「知る」という言葉は、私たちがだれかと築くことのできる信頼関係の中でも、最も親密で個人的な信頼関係を意味しています。

救いの真の目的は、天国で永遠に生きること—それも真実であり、それは素晴らしいことですが—だけではありません。救いの真の目的は、親密な関係を築くこと、つまり、主である神との個人的な信頼関係を築くことなのです。人々は、罪の赦しを叫び求めて神に救われますが、そこで止まってしまい、その先に求めるべき神との個人的な信頼関係を築くことなく終わってしまうことが多いのです。

救いの真の目的をきちんと伝えないことで、私たちは福音を台無しにしています。「救い」を、地上の人生が終わった後の、永遠の未来にだけ良いことをもたらす、あくまでも霊的な事柄として伝えることは、本当の意味で人々の助けにはなりません。今この時にこの地上で、文字通り地獄のような中で生きている人たちがいます。多くの人が生きる気力さえ失ったまま貧困の中で生きていて、争い、拒絶、過去の傷や痛み、結婚の失敗などと苦闘しながら生きています。その人たちは、その日その日をやっとのことで生き延びようとしています。まるで頭をなんとか水面上に出して、やっとのことで息をしようとしているかのようです。その人たちは毎日が手一杯で必死なので、私たちが「救い」をただ単に未来とだけ関連する事柄として取り扱うことで、その人たちが救われるための決断をするのを先送りさせてしまうのです。

救いの真の目的は、イエスは私たちの死後に待ち受ける永遠の未来が、天国と地獄のどちらであるのか、私たちにその選択肢を与えることによって、私たちが地獄の罰や呪いの中ではなく、天国の祝福の中で永遠に生きられるようにするためだけに来たということではありません。イエスは、現に今私たちが生きている悪の世界から私たちを救い出すために来たのです(ガラテヤ1:4)。イエスは、天の父なる神との親密で個人的な関係をあなたに与えるために来ました。

イエスは、あなたとイエス・キリストとの親密で個人的な関係を回復させるために来たのです。イエスはあなたを愛しています。イエスはあなたのことを個人的に知りたいのです。イエスは、ほかの何からも得ることのできない素晴らしい人生をあなたに与えたいと思っています。

イエスはヨハネ10章10節でこう言っています。「盗人*(サタンを表している)が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、

羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。』[*()]内は筆者による加筆] 神はあなたに永遠のいのちを与えたいのです。そして、神はあなたに豊かな人生を与えたいのです。私は、あなたが今日それを必要としていて、それを求めていると信じています。イエス・キリストはあなたの罪を赦すためだけでなく、神との関係の中へあなたを招き入れるために死にました。もしもあなたが主イエス・キリストを知らないなら、あなたの罪の赦しのために、また、神との関係を築くためにイエスを知る必要があります。もしもあなたがすでに救われているなら、ただあなたの罪が赦されたというだけでなく、天の父なる神との親密な関係、つまり、‘永遠のいのちの関係’を築き始める必要があるのです。

永遠のいのちについての真実

- A. 福音の真のメッセージは、永遠のいのちです。(ヨハネ3:16)
- B. 永遠のいのちとは、神を知ることです。(ヨハネ17:3)
- C. 神を知ることとは、神との親しい個人的な関係を持つことです。(1コリント6:16-17)
- D. 永遠のいのちは、今この地上において得られるものです。(1ヨハネ5:12)
- E. 神はあなたとの個人的な関係を持つことを望んでいます。(黙示録3:20)

振り返りのための質問とみことば

1. ヨハネ3:16を読みましょう。神がイエスをこの世に送った目的は何ですか？

ヨハネ3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

2. 聖書の中で使われている「知る」という言葉は、その相手と親密で個人的な信頼関係を築くという意味です(創世記4:1)。ヨハネ17:3を読みましょう。この箇所によると、永遠のいのちとは何ですか？

創世記4:1 人は、その妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「私は、主によって一人の男子を得た」と言った。

ヨハネ17:3 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

3. 1ヨハネ5:11-12を読みましょう。この箇所によると、永遠のいのちはどの時点で始まりますか？

1ヨハネ5:11-12 その証しとは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったということ、そして、そのいのちが御子のうちにあるということです。^[12]御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

4. ヨハネ10:10を読みましょう。イエスはどのような人生を私たちに与えるために来ましたか？

ヨハネ10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

5. 豊かな人生とはどのような人生ですか？あなた自身の言葉で言い表してみましょう。

6. あなたは、神がそのひとり子であるイエスを私たちの罪の赦しのためにこの世に送り、イエスが私たちの身代わりとなって死んだこと、それを信じる者には永遠のいのちが与えられるということを信じますか？

7. 永遠のいのちとは、単に永遠の時間を生きることではなく、質と長さの両方を備えた豊かな人生を生きることだということが、あなたの中ではっきりと分かりましたか？

質問の解答 — レッスン1

1. ヨハネ3:16を読みましょう。神がイエスをこの世に送った目的は何ですか？
御子を信じるすべての者に、罪を取り除くことで永遠のいのちを与え、この世を救うため。
2. 聖書の中で使われている「知る」という言葉は、その相手と親密で個人的な信頼関係を築くという意味です(創世記4:1)。ヨハネ17:3を読みましょう。この箇所によると、永遠のいのちとは何ですか？
唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ること(結婚した夫婦関係のような親密な関係)。
3. 1ヨハネ5:11-12を読みましょう。この箇所によると、永遠のいのちはどの時点で始まりますか？
イエス・キリストを自分の人生に受け入れたとき。
4. ヨハネ10:10を読みましょう。イエスはどのような人生を私たちに与えるために来ましたか？
豊かな人生。
5. 豊かな人生とはどのような人生ですか？あなた自身の言葉で言い表してみましょう。
イエスがヨハネ10:10で言った盗人がもたらす人生とは正反対の人生。
6. あなたは、神がそのひとり子であるイエスを私たちの罪の赦しのためにこの世に送り、イエスが私たちの身代わりとなって死んだこと、それを信じる者には永遠のいのちが与えられるということを信じますか？
はい。
7. 永遠のいのちとは、単に永遠の時間を生きることではなく、質と長さの両方を備えた豊かな人生を生きることだということが、あなたの中ではっきりと分かりましたか？
はい。

レッスン2

恵みによる救い

ドン・クロウ

イエスは、目には見えない霊的な真理を説明するために、よくたとえ話を使いました。ルカ18章9節から14節までの始まり、9節には「**自分は正しいと確信していて、他の人を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された。**」と書いてあります。イエスは、そこに集まってイエスの話を聞いている大勢の人々の中でも、ある特定の人たちに対して、それは自分のことを正しいと信じ込んでいて、他の人たちを軽蔑して見下しているような人たちにこのたとえ話をしました。イエスはこのたとえ話を、自分の行いの正しさを基準にして生きているような人たちに向けて話したのです。そういった人たちは、自己義により正義を自称する聖人ぶった人たちと言えるでしょう。それはイエスが言うところの「自分は他人より優れている」と言って他のすべての人を見下しているような人たちなのです。

10節でイエスは「**二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。**」(ルカ18:10)と述べています。現代の言葉で言うと、二人が祈るために行った場所は教会だったと言えるでしょう。そのうちの一人、パリサイ人はとても宗教的な人でした。「パリサイ」の原語には「分離者：律法を守らない人々から自分たちを分離する者」という意味があります。つまり、このパリサイ人はあまりにも宗教的だったために、「私を汚すな！私に近寄るな！私は他の人とは違う！私はだれよりも優れている！」と言わんばかりの人物像だったわけです。ここでイエスが話題にしたもう一人の人物は取税人でした。取税人とは税を取り立てる人たちで、非常に邪悪で、人々からお金を騙し取るような罪深い人たちとして知られていました。彼らは手段を選ばずありったけの税金を徴収してその多くを横領し、かつ、当時のローマ政府に一部を横流ししていたので、同胞であるユダヤ人たちからも良く思われていませんでした。

イエスのたとえ話は11節に続きます。「**パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。』**」(ルカ18:11)このパリサイ人の言ったことに注目してください。彼はだれに向かって祈ったのでしょうか？「神よ」と言って正しい言葉を並べて祈ったのですが、実際には自分自身に向かって祈っていました。神はこの祈りを祈りとは認めませんでした。そして、なぜそうなのかが後で分かります。彼が「神よ。私が他の人たちとは違うことに感謝します」と言ったことに注目してください。この宗教的なパリサイ人は、「神よ、私は他の人とは違います。私は罪人ではありません。ふんだくる者でもなければ不正をする者でもないし、姦淫をす

る者でもありません。ましてここで祈っている極悪な取税人とは全く違います」と言っているのです。この発言から、このパリサイ人がいかに自分のことをだれよりも偉いと思っていて、他の人たちを見下していたかが分かるでしょう。

12節でこのパリサイ人は「『私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』」(ルカ18:12)と言いました。つまり彼は、「私の正しい行いを知っているか?」と言っているのです。断食が何か分かりますか?断食とは一定の期間、すべての食物あるいは特定の食物の摂取を絶つ宗教上の行為です。彼は教会での献金も欠かせませんでした。彼は「私の邪魔をするな!私の生き方は正しい!私は貧しい人々に施しもしているし、教会にも寄付してやってる!」と言っているような人たちの一人だったのです。

そして13節で取税人が登場します。「一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』」(ルカ18:13)ここで「遠く離れて立ち」という部分に注目してください。つまり彼は、教会の中にさえ入って行かなかったのです。彼はこれまでの人生で自分がしてきたことをとても恥ずかしく思い、教会から遠く離れたところに立って、うつむいたまま天を見上げようともせず自分の胸を打ち叩きました。旧約聖書の中で、胸を叩くことについて書かれているとき、人々は胸を叩きながら、よく自分の服を引き裂きました。それは「神様、ごめんなさい!私がしたことを赦してください!」という心を表す行動でした。それは自分の罪を認め、悔い改める心を表すもので、神が見過ごすはずはない‘打ち砕かれた霊’の表れでした。この罪深かった取税人は神に叫び、「神様、私をあわれんでください。私は罪人です!」と祈ったのです。

第14節には「あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」(ルカ18:14)と書いてあります。この取税人は正当化されて、神の前に義(神との関係において正しい者とされ、神と一致すること)と宣言され、神に赦されて家に帰りました。なぜ彼は赦されたのでしょうか?なぜ宗教的なパリサイ人ではなく、この取税人が神の前に義と認められて家に帰ったのでしょうか?それは、このパリサイ人が自画自賛して、「私はだれよりも偉いのだ!私は罪人ではない!私は他の人とは違う!」と言ったのに対してこの取税人は、自分は神の前に義と認められていない者であり、神に良いものを何一つささげることができないのを自分で認めていたからです。この取税人は罪深い人間でした。聖書には「イエスは正しい人ではなく罪人を救うために来た」(ルカ5:23)と書いてあります。また、「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができない」(ローマ3:23)と書いてあります。この取税人は自分自身を低くして、神の赦しを見つけたのです。

レッスン2

私たちは今、恵みによる救いについて話しています。「恵み」とは素晴らしい言葉です。ここではまず、一般的な「恵み」の定義を書きますが「恵み」には、はるかそれ以上の意味があります。新約聖書の原語であるギリシャ語では、「恵み」は「**Charis(カリス)**」という語で、人間が受けるに値しない、無償で与えられる神からの一方的な好意という意味です。先ほどの取税人は、神から何かを頂ける資格はありませんでしたが、自分自身を低く謙虚にしたので神の恵みを見つけました。また、ギリシャ語には「**Charisma(カリスマ)**」という、「**Charis(カリス)**」の末尾に「**ma(マ)**」が付いたもう一つの単語があります。この語は、神の恵みの具体的な形や現れを意味します。そしてこの取税人は、神の前に義と認められるという形で、神からの贈り物として「恵み」を見つけたのです。

ローマ5章17節には「もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと*義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあつて支配するようになるのです。[*下線は筆者による加筆]と書かれています。先ほどの箇所が登場した取税人は、イエス・キリストだけを通して与えられる義の贈り物を見つけました。神は、私たちが‘神の前に義と認められる’という贈り物を、あなたにも私にも同じように差し出しているのです。聖書のヨハネ1章17節には「**律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。**」と書いてあります。この恵みは、自分自身を低くし、自分は神の前に立つことができないと分かっている、神にあわれみを乞う人たちだけが受け取ることができるのです。こういった人たちは必ず、神のあわれみを見つけ、神の赦しを受け取ることでしょう。

振り返りのための質問とみことば

1. ルカ18:9を読みましょう。聖書の中でイエスは、どのような目的でたとえ話を話しましたか？

ルカ18:9-12 自分は正しいと確信していて、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された。^[10]「二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。^[11]パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。^[12]私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』

2. ルカ18:9で、イエスはだれに対してこのたとえ話を話しましたか？
3. ルカ18:9には、自分のことを正しいと思っている人たちが他の人々に対してとる態度が書かれています。それはどのような態度ですか？
 - A. 他の人たちに好意を示す態度。
 - B. 他の人たちを蔑む態度。
 - C. 他の人たちに愛を示す態度。
4. ルカ18:10を読みましょう。この箇所では二人が祈りに行った場所(宮)は、現代の言葉で言うと何と言えますか？
5. ルカ18:10によると、ここに登場する二人はそれぞれ、何者でしたか？
6. ルカ18:11を読みましょう。このパリサイ人はどのような祈りをしましたか？
7. ルカ18:12を読みましょう。断食とは何ですか？
8. ルカ18:12を読みましょう。十一献金とは何ですか？
9. ルカ18:13を読みましょう。取税人はどこに立っていましたか？それはなぜですか？

ルカ18:13-14 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』^[14]あな

レッスン2

たがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」

10. ルカ18:13で、取税人はなぜうつむいたままで、天を見上げなかったのでしょうか？
11. ルカ18:13で、取税人は何と祈りましたか？
12. ルカ18:14を読みましょう。二人のうちのどちらが、神によって義と宣言されて家に帰りましたか？
13. ルカ18:14によると、なぜパリサイ人ではなく、取税人が義と認められたのでしょうか？
14. ルカ18:14で、神は取税人を赦しましたか？
15. ローマ10:13と1ヨハネ1:8-9を読みましょう。あなたが今ひざまずいて「神様、私は罪人です。私をあわれんでください」と心から主イエス・キリストを呼び求めたなら、神はあなたをこの取税人と同じように扱ってくれるのでしょうか？

ローマ10:13「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。

1ヨハネ1:8-9 もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。^[9]もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

質問の解答 — レッスン2

1. ルカ18:9を読みましょう。聖書の中でイエスは、どのような目的でたとえ話を話しましたか？
目には見えない霊的な真理を説明するため。
2. ルカ18:9で、イエスはだれに対してこのたとえ話を話しましたか？
自分のことを正しいと信じ込んでいて、自己義により正義を自称する聖人ぶった人たちに対して。
3. ルカ18:9には、自分のことを正しいと思っている人たちが他の人々に対してとる態度が書かれています。それはどのような態度ですか？
B. 他の人たちを蔑む態度。
4. ルカ18:10を読みましょう。この箇所では二人が祈りに行った場所(宮)は、現代の言葉で言うと何と言えますか？
教会。
5. ルカ18:10によると、ここに登場する二人はそれぞれ、何者でしたか？
一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。
6. ルカ18:11を読みましょう。このパリサイ人はどのような祈りをしましたか？
「神よ、私は他の人とは違います。私は罪人ではありません。ふんだくる者でもなければ不正をする者でもないし、姦淫をする者でもありません。ましてここで祈っている極悪な取税人とは全く違います」というように祈った。
7. ルカ18:12を読みましょう。断食とは何ですか？
断食とは一定の期間、すべての食物あるいは特定の食物の摂取を絶つ宗教上の行為。
8. ルカ18:12を読みましょう。十一献金とは何ですか？
収入の十分の一を神にささげること。
9. ルカ18:13を読みましょう。取税人はどこに立っていましたか？
**宮から遠く離れたところ。
それはなぜですか？
これまでの人生で自分がしてきたことをとても恥ずかしく思い、自分はひどい**

レッスン2

罪人で教会内に入る資格などないと思っていたから。

10. ルカ18:13で、取税人はなぜうつむいたままで、天を見上げなかったのでしょうか？
あまりにも自分を恥じていたから。
11. ルカ18:13で、取税人は何と祈りましたか？
「神様、罪人の私をあわれんでください」と祈った。
12. ルカ18:14を読みましょう。二人のうちのどちらが、神によって義と宣言されて家に帰りましたか？
取税人。
13. ルカ18:14によると、なぜこのパリサイ人ではなく、取税人が義と認められたのでしょうか？
取税人は神の前で謙遜になり自分を低くしたが、パリサイ人はプライドを握って、自分には救い主は必要ないと思っていたから。
14. ルカ18:14で、神は取税人を赦しましたか？
はい。
15. ローマ10:13と1ヨハネ1:8-9を読みましょう。あなたが今ひざまずいて「神様、私は罪人です。私をあわれんでください」と心から主イエス・キリストを呼び求めたなら、神はあなたをこの取税人と同じように扱ってくれるのでしょうか？
はい。私たちが自分の罪を告白するなら、神はその罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくれる。

レッスン3

恵みによって義とされる

ドン・クロウ

今日私たちは、神の恵みによって義とされることについて考えていきます。ローマ3章21-23節には「しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。^[22]すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。^[23]すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」と書いてあります。

このみことばが「しかし今や、律法とは関わりなく」と言っていることに注目してください。私は以前、ある人に「天国に行くにはどうしたらいいと思いますか?」と聞いてみたことがあります。その人の答えは、モーセの十戒を守って、自分の妻を裏切らず、道徳的に正しく生きることに加えて、いろいろな良いことをするというものでした。そこで私は「では、天国に行って神の王国の中で、神の目の前に立つにはどうしたらいいか分かりますか?そのためには‘神の義’と同じ‘義’を持つ必要があります」と言いました。それを聞いて彼は、「えっ?ちょっと待ってください。神の義と同じ義を持つことができる人はいません。そのような義を持っているのはただ一人だけ、それがイエス・キリストです!」と言いました。私は、「そうです!そのとおり!他の人から見える形であろうとなかろうと、自分の努力によって律法や戒めを完璧に守ることができる人、つまり、神の義と同じ義を持っている人はどこにもいません。しかし、私たちが神に受け入れられるためには、神の義と同じ義を持つことが必要なのです」と言いました。

それがまさに、ローマ3章21-22節の「しかし今や、律法とは関わりなく、… 神の義が示されました。^[22]すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。」が意味していることなのです。神が、あなたにも私にも同じように与えてくれる義は、イエス・キリストを信じることによって与えられる義です。義について考えるとき、そこには二種類の義があります。それは‘人間の義’と‘神の義’です。人間の義とは、その人ができるベストな振る舞いであり最良の行いですが、それがあなたを‘神に受け入れられる者’とすることはできません。そのためにはただ、神の義と同じ義が必要であり、神はその‘神の義’、つまり、律法(人間の行いと関係するもの)とは関わりのない義をあなたに差し出しているのです。

新約聖書の原語であるギリシャ語の聖書では、義という単語の前に*不定冠詞[*英語のaやanに当たるもので、複数あるうちの一つを指す]は付いていません。つまりその義とは、‘律法による義(複数ある義のうちの一つ)’ではなく、紛れもなく、神が、‘神ご自身の義’を私たちに差し出しているのだということを意味しています。‘律

レッスン3

法による義とは、神に受け入れられるために良い行いをして、神からのポイントを稼ぐことでそれを達成しようとする事です。今どきの‘宗教’には、神に受け入れられるためには良い行いをして、神から合格点をもらわなければならないという考えがあります。しかし、福音という言葉は‘良い知らせ’を意味し、イエス・キリストが私たちの罪のために十字架で死んだことを信じるすべての人に、人間の努力では全うすることのできない、律法に匹敵する神の義と神の受け入れを、神ご自身が私たちに差し出しているのだという知らせなのです。そしてその義は、律法から完全に切り離された神の義で、ただイエス・キリストを信じる信仰によってもたらされるのです。

22節に「**神の義はイエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる**」(ローマ3:22)と書いてあることに注目してください。なぜ神はすべての人に神の義を差し出しているのでしょうか?23節には「**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**」(ローマ3:23)と書いてあります。あなたも私も、すべての人が罪を犯しました。そしてだれもが皆、神の基準や完璧さからはほど遠いのです。この罪のために、私たちが必要とする最も重大なことは神に受け入れてもらうこと、神との正しい関係、そして、神の前に正しい者とされること、つまり、神によって義とされることなのです。神が私たちに差し出している神の義は、律法を行うことではなく、ただイエス・キリストを信じる信仰によってもたらされます。神の義は、あなたの行いや努力によって神の基準に到達しようとかんばることで得られるものではありません。それは信仰によって神を信頼すること、主イエス・キリストを信頼することによってもたらされるのです。

アブラハム(ユダヤ人の祖先)がどのように救われたか分かりますか?聖書には「アブラハムは神を信じ、神が彼に与えた約束を信じた。それで、それが彼の義と認められた」(ローマ4:3)と書いてあります。アブラハムが信仰によって神の前に義と認められたという事実は、彼だけのものではありません。私たちは、先ほど読んだローマ3章21-22節で、イエス・キリストを信じる信仰によって人は義と認められるということを知りました。また聖書には、イエス・キリストが私たちの罪のために十字架の上で血を流し、私たちの罪の代価を支払ってくれたので、イエス・キリストをただ信じるならだれでも、神によって義とされると書いてあります。

ローマ5章17節には「もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。」と書いてあります。神はあなたに義の贈り物、神の前に正しい者として立つことができる権利を差し出しています。贈り物を用意するには費用がかかりますが、それを受け取る側は、ただ受け取るだけで何の費用もかかりません。もしもあなたが私に贈り物を持ってきて、その贈り物の代金を私に支払うように頼んだなら、それはもはや贈り物ではなくなるで

しょう。しかし、贈る側は必ず何らかの代価を払う必要があり、その代価がイエス・キリストなのです。神はだれもが同じように、神の義を贈り物として受け取ることができるようにしてくれました。そして、この義の贈り物、罪の赦し、神の前に正しい者として立つことができる権利は、イエス・キリストを信じる信仰によってもたらされるのです。

振り返りのための質問とみことば

1. テトス3:5を読みましょう。私たちが必要としている義は、行いによって生み出すことができるものですか？

テトス3:5 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

2. 2コリント5:21を読みましょう。私たちが必要としているのはどのような義ですか？

2コリント5:21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。

3. ローマ3:22を読みましょう。どうすれば神の義を受け取ることができますか？

ローマ3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

4. ピリピ3:9を読みましょう。律法による義とは何ですか？

ピリピ3:9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。

5. ガラテヤ2:21を読みましょう。‘神の恵みを無にする’とはどのようなことですか？(どのようなことをすると、神の恵みを無にすることになりますか？)

ガラテヤ2:21 私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。

6. ローマ5:17を読みましょう。神の義はどのような形で受け取るべきものですか？

ローマ5:17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにおいて支配するようになるのです。

質問の解答 — レッスン3

1. テトス3:5を読みましょう。私たちが必要としている義は、行いによって生み出すことができるものですか？
いいえ。
2. 2コリント5:21を読みましょう。私たちが必要としているのはどのような義ですか？
神の義。(キリストによってもたらされる。)
3. ローマ3:22を読みましょう。どうすれば神の義を受け取ることができますか？
イエス・キリストを信じることによって。
4. ピリピ3:9を読みましょう。律法による義とは何ですか？
自分の義、つまり、自分の行いによって生み出すことのできる義。
5. ガラテヤ2:21を読みましょう。‘神の恵みを無にする’とはどのようなことですか？
(どのようなことをすると、神の恵みを無にすることになりますか?)
キリストが私たちの救いのために死んでくれたことを信じ、キリストを信頼する代わりに、自分の行いの良さによって救われようとするなら、神の恵みを無にすることになる。
6. ローマ5:17を読みましょう。神の義はどのような形で受け取るべきものですか？
賜物(贈り物)として。

レッスン4

神との関係

アンドリュー・ウォマック

人間関係において最も重要なことの一つは、関わろうとする相手のことを理解することです。そしてそれは神との関係にも当てはまります。神と健全な良い関係を築くには、神の基本的な性質と性格を理解する必要があります。神の性質と性格を誤解していることが、多くの人たちが神との間に良い関係を築くことができずにいる原因の一つなのです。人間が神を誤解していたために、神との関係を築くことに失敗してしまったこと、これがまさに、アダムとエバがエデンの園で蛇に誘惑されたときに起こったことなのです。彼らは誘惑に陥り、最終的には神に背いて全人類を罪に陥れました。彼らが神の性質をきちんと理解していなかったことが、誘惑に陥るに至った要因の一つだったのです。

聖書を読んだことのある人にとって、創世記3章1-5節の話は馴染み深い話だと思います。「さて蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。『園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。』^[2] 女は蛇に言った。『私たちは園の木の实を食べてもよいのです。^[3] しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。』^[4] すると、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死にません。^[5] それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。』」（創世記3:1-5）

ここには、神は本当は良い神ではないのだというサタンの巧妙な囁き — 神はアダムとエバが本来受けるべきものを与えずに隠している。それは神が、アダムとエバがその能力を最大限に発揮することを望んでいないから。アダムとエバが神に似た者となってほしくないから。そして善悪の知識の木の実を食べてはいけないというルールを作った理由は、彼らに損をさせるために何かを出し渋っているからだという囁き — が書かれています。サタンが、神はアダムとエバにとっての最善を望んでいないのだということを言って神を中傷したとき、要するにサタンは、神の性質と性格とは正反対のことを言ったのです。これと全く同じようなことが現代の人々にも起こっています。サタンは人々の耳元で、「神に従うことで、神のことばに反するからといって世の中のいろいろなことを試しに体験してみないなら、本当の喜びを経験することはない。人生はつまらなくなつて・・・死んだも同然になる」と囁くのです。悲しいことに人々は、麻薬、アルコール、セックス、何かに対する反抗、やりたい放題の生き方、仕事中毒になってまで得た仕事の成功などを経験した後で、試みてきたそれらの何からも、本当の満たしを得ることはできなかったと

気づくのです。そしてそれに気づくころには最悪、自分の人生、家族、健康を壊してしまっているのです。

事実、神は良い神で、私たちに対する神の意図は良いことだけなのです。しかしサタンは今の世の中で、エデンの園でアダムとエバを騙したのと同じ類の誘惑を使い、基本的に神は良い神ではないとほのめかしているのです。聖書をよく理解していない人たちは、聖書の中で神が人々を厳しく残酷な方法で取り扱った箇所を読んで、神はそのような恐ろしい方だという印象を持ってしまうかもしれません。民数記15章32-36節には、安息日に男が薪を集め、安息日を守らなかったために、主の命令によって石で打ち殺されたことが書かれています。こういった箇所を読むと、神はとても厳しい方であるように思えますが、そのような罰の背景には目的があるのです。しかしその目的はあからさまには書かれていないので、普通に聖書を読んでいるだけでは、ほとんどの人には理解することができません。パウロがローマ7章13節で言っているように、聖書を詳しく調べていくと旧約聖書の律法は、私たちが犯した罪を限りなく罪深いものとするために与えられたことが分かります。なぜなら人々は、罪が自分たちにとってどれほど致命的であるかということに気づかないまま、神に対して罪を犯し続けていたからです。人々は自分と他の人を比べることによって、自分の行動の善悪を判断するという間違いを犯していました。

旧約聖書の中で、もしもだれかが罪を犯しても、その当人が打たれて死ななかった場合、人々はその罪がそれほど悪くなかったからだと考えて罪の判断基準を下げました。人々は善悪の真の基準を見失っていたのです。神は、人々が悪魔とその誘惑をはねのけ、間違った選択の先に起こる結末がどのようなものであるかを認識することができるように、人類が正しく生きるための適切な規範の中に人々を取り戻さなければなりません。そして、神がそのことを実現するために律法を与え実施したのです。

神は、「あなたがこの律法をすべて完璧に守れるようになるまでは、あなたを受け入れることも愛することもできない」ということを示すために旧約の律法を与えたものではありません。それは神の性質・性格に当てはまるものではありません。むしろ神は、私たちのずれてしまった善悪の感覚を的確なものに修正して、私たちには救い主が必要なのだという事実に目覚めさせるために律法を与えました。問題は人々が、神は自分たちが完璧になれば自分を愛してはくれないと考えてしまっていることです。その考えは、多くの人々が持っている‘神の愛は自分たちの行いに応じて与えられる’という考え方につながっています。このような考えを持っている人たちは、すべてのことを正しくできるまでは自分は神に受け入れてもらえないと感じていますが、それは聖書のメッセージではありません。

神の思いは人間を裁くことではなく神と和解させること、・・・それは罰を与えるこ

レッスン4

とではなく、人間に罪による負債を負わせないようにする思いなのです。それこそが聖書に書かれている神の人々に対する思いであり、今日、あなたへの神の思いでもあります。私たちは、「**神は愛だからです。**」(1ヨハネ4章8節)という神の真の性質を理解する必要があります。神は、あなたの罪はもちろんのこと、あなたと神との間を隔てるすべてのものを取り除こうとしています。神はイエス・キリストを通してすでにそれを成し遂げました。あなたの行いによるのではなく、あなたの罪を背負ったイエス・キリストをあなたが信じて受け入れることで、今日、神はあなたに、神との関係の始まりを差し出しています。これまでの人生で、あなたがしてしまった失敗がどんなに大きかったとしても、あなたは今日、神と関係を持ち始めることができるのです。そのために神が求めているのはただ、あなたが主イエス・キリストを信じることだけです。

振り返りのための質問とみことば

1. 創世記3:1を読みましょう。サタン(蛇)がエバにした質問は何でしたか？
創世記3:1 さて蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」
2. 創世記2:17と創世記3:3を読みましょう。エバは、神がアダムに言った実際のことばに対してどのようなことばを付け足しましたか？
創世記2:17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」
創世記3:3 しかし、園の中央にある木の実については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけな
いからだ』と神は仰せられました。」
3. 創世記3:6を読みましょう。サタンは神のことばについて、エバの頭に疑いをもた
らすことに成功しました。この箇所ではエバは何をしましたか？
創世記3:6 そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、
またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って
食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。
4. 創世記3:9-10を読みましょう。アダムとエバが罪を犯した後も、神はこの二人との
会話を続け、二人との関係を追い求めましたか？
創世記3:9-10 神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこ
にいるのか。」^[10] 彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、
自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」
5. 創世記3:22-24を読みましょう。なぜ神はアダムとエバをエデンの園から追放した
のでしょうか？
創世記3:22-24 神である主はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひ
どりのようになり、善悪を知るようになった。今、人がその手を伸ばして、いの
ちの木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」^[23] 神である
主は、人をエデンの園から追い出し、人が自分を取り出された大地^[24] こうし
て神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて
回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。

レッスン4

6. 神がアダムとエバを園から追放したことは罰するためではなく、神のあわれみからした事だったということが分かりますか？
7. ローマ5:17を読みましょう。神の豊かな恵みと義の賜物はどうすれば得ることができますか？
- A. 買う。
 - B. がんばって稼いで得る。
 - C. 受け取る。

ローマ5:17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。

8. ローマ6:23を読みましょう。私たちが罪を犯すなら、その報酬は何に値しますか？

ローマ6:23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

9. 死の代わりに、神は恵みによって何を与えてくれましたか？
10. ローマ10:3を読みましょう。もしも私たちが神の前に自らの義を立てようとするなら、それはどうすることと同じですか？

ローマ10:3 彼らは神の義を知らずに、自らの義を立てようとして、神の義に従わなかったのです。

11. 1ヨハネ1:9とローマ4:3を読みましょう。神は私たちがただ神を信じるなら、神に背く私たちのすべての罪と悪の行いに対してどうすることを約束していますか？

1ヨハネ1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

ローマ4:3 聖書は何と言っていますか。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあります。

12. これ(質問11の解答内容)は、神の性質・性格がどのようなことを表していますか？

質問の解答 — レッスン4

1. 創世記3:1を読みましょう。サタン(蛇)がエバにした質問は何でしたか？
園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。
2. 創世記2:17と創世記3:3を読みましょう。エバは、神がアダムに言った実際のことばに対してどのようなことばを付け足しましたか？
それに触れてもいけない。
3. 創世記3:6を読みましょう。サタンは神のことばについて、エバの頭に疑いをもたらすことに成功しました。この箇所ではエバは何をしましたか？
その実を取って食べた。
4. 創世記3:9-10を読みましょう。アダムとエバが罪を犯した後も、神はこの二人との会話を続け、二人との関係を追い求めましたか？
はい。
5. 創世記3:22-24を読みましょう。なぜ神はアダムとエバをエデンの園から追放したのでしょうか？
人がその手を伸ばして、いのちの木からも取って食べ、罪人のまま永遠に生きることがないように。
6. 神がアダムとエバを園から追放したことは罰するためではなく、神のあわれみからしたことだったということがわかりますか？
はい。
7. ローマ5:17を読みましょう。神の豊かな恵みと義の賜物はどうすれば得ることができますか？
C. 受け取る。
8. ローマ6:23を読みましょう。私たちが罪を犯すなら、その報酬は何に値しますか？
死。
9. 死の代わりに、神は恵みによって何を与えてくれましたか？
主キリスト・イエスにある永遠のいのち。
10. ローマ10:3を読みましょう。もしも私たちが神の前に自らの義を立てようとす

レッスン4

るなら、それはどうすることと同じですか？

神の義に従わないこと。

11. 1ヨハネ1:9とローマ4:3を読みましょう。神は私たちがただ神を信じるなら、神に背く私たちのすべての罪と悪の行いに対してどうすることを約束していますか？
罪を赦し(罪を完全に忘れ去り)、私たちをすべての不義からきよめてくれる。

12. これ(質問11の解答内容)は、神の性質・性格がどのようなことを表していますか？
神はあわれみ深く、愛であること。

レッスン5

神の本質

アンドリュー・ウォマック

神と良い関係を築くには、神の本質と真の性格を知る必要があります。神は私たちが罪を犯したので怒っている神ですか？それとも、私たちの行いの良し悪しにかかわらず、私たちにイエス・キリストのいのちと祝福を与えたいと思っているあわれみ深い神でしょうか？神は聖書の中で、旧約と新約という二つの異なった視点から描かれていますが、それは神の性質が途中でコロッと変わってしまったとか、やり方を変えたということではありません。聖書には、神が人間に罪のための刑罰を負わせた期間のことが書かれています。

この期間のことは、子育てにたとえることができます。子どもがまだ幼いうちは、なぜきちんとふるまうべきなのか、なぜ自分勝手に他の兄弟からおもちゃを奪ってはいけないのかを説明しても理解することはできません。その代わりルールを決めて、それを破った場合には罰を与えてしつけなければなりません。子どもたちが神と悪魔のことを何も知らなかったとしても、ルールはきちんと守らせなければなりません。そうしないと子どもたちは自分勝手に振る舞って、悪魔に機会を与えてしまうことになるからです。子どもたちにはルールの概念は理解できないかもしれませんが、ルールを破ると罰を受けるということは理解できるでしょう。

ある意味これが、旧約聖書の中で神が私たち人間に対してしたことなのです。人間がイエス・キリストによって救われて、霊によって生まれ変わるようになる前の時代の人々は、新しい契約(新約)の下で生きている今の私たちが持っているような霊的な認識を持っていなかったために、神は人間に律法を与え、時には死さえも伴う形で罰を与えることで律法を執行し、人間を罪から守ろうとしたのです。なぜならサタンが罪によって人間を滅ぼしていたので、人間が罪を犯すのを食い止める必要があります、そのためには律法が強制的に執行されなければなりません。このことは、神が私たちを罪のために愛していないのだという間違った印象をもたらしましたが、それは聖書のことばが教えていることではありません。ローマ5章13節には「**実に、律法が与えられる以前にも、罪は世にあったのですが、律法がなければ罪は罪として認められないのです。**」と書いてあります。「律法が与えられる以前」とは、神がモーセを通してユダヤ人たちに、十戒とその他の儀式的律法を与える前までの時代を意味します。それより以前から罪は世の中にあったのですが、人々がその罪のための刑罰を負わされることはありませんでした。この「**負わせる(imputeインピュート)**」という語は、英語では簿記用語として使われていて、たとえば、お店で買い物をして「ツケ払いにしといて」と言ったとします。すると、それがあなたのツケ、つまりあなたへの売掛金として売主に記録され、後日あなた宛てに請求書が送られてきます。しかし売主が売掛金を計上するのを忘れた場合、そのツ

レッスン5

ケは記録されず、あなたが負うべき請求は帳消しになります。「負わせる」とは、このような場面で使われる言葉です。

先ほど読んだローマ5章13節のみことばは、十戒が与えられるまでは、罪に対する刑罰は人々に科せられていなかったことを示しています。このことは驚くべき証言です。創世記3章と4章を読んでみてください。多くの人々は、創世記3章でアダムとエバが神に対して罪を犯したとき、神は聖なる存在であるのに対し、今や人間は罪を犯したので、もはや神は罪深い人類とは何の関わりもなくなってしまったのだという概念を持っています。そして神は、罪に汚れた人間を面前から取り除くために、エデンの園から追い出したのだと考えています。さらには、私たちが正しい行いを通して自分の清さを証明するまでは、私たちは再び神と関係を持つことはできないのだと考えています。しかしそれは、イエスがもたらした福音とは正反対のメッセージです。ローマ5章8節には、神はあなたへの愛を差し伸べ、あなたがまだ罪人であったとき、キリストがあなたのために死んでくださったのだと書いてあります。つまり新約聖書は、私たちが自分の行いを清めた後ではなく、まだ罪の中で生きている間に、神は私たちに愛を与えてくれたのだということを教えているのです。あなたの人生を変えることのできる福音の素晴らしいメッセージに含まれる真理の一つは、神はありのままのあなたを愛しているということです。神の愛があまりにも素晴らしいので、もしもあなたが神の愛を受け取ったなら、あなたはもう今のままの自分ではいたくなくなることでしょう。あなたは自然と良い方向に変わり始めますが、その変化は神の愛を獲得するためではなく、あくまでも神の愛を受け取ったことのおまけとして付いてくるのです。

創世記4章では、神はアダムとエバが罪を犯した後も二人に話しかけ、関わり続けていることが分かります。神はまた、カインとアベルにも話しかけています。この二人が神にささげ物を捧げたとき、神は彼らに物理的な音声で、つまり耳に聞こえる声で話しかけました。その時の二人の様子から、彼らは神の声に聞き慣れていて、その声を怖がっていなかったことが分かります。カインが弟のアベルを殺し、地球上で最初の殺人者になったとき、天から神の声がしました。「あなたの弟アベルはどこにいるのか？」そしてカインは神に対して平気で嘘をつきました。神の声を聞くことに慣れていて、それを当たり前だと思っていたからこそ、何の恐れもなく嘘がつけたのでしょう。これらの出来事から、その時まではまだ、神と人間との交流が続いていて、一般的に信じられていることとは逆に、神は人間との関わりを無くしてはいなかったということが言えるでしょう。この時点ではまだ、神は人間に罪の刑罰を負わせてはいませんでした。それは神が罪を大目に見たとか、人間がしたことが間違っていなかったということなのでしょう。そうではありません。人間の罪と間違いを正すために、その後律法が与えられました。神は、人間を適切な規範に戻すために律法を与えなければならなかったのです。神は、人間には救い主が必要であり、人間が謙虚になって神からの贈り物としての赦しを受け取らな

ければならないことを私たちに示す必要がありました。残念なことに宗教的な教えは、これらのことを都合のいいように使って、法律が与えられたのは、それを守ることによって神の赦しと受け入れを得ることができるようにするためだと教えてきました。それは大きな間違いです!旧約の法律の目的は、私たち人間の罪を明らかにし、自分の力で自分を救おうとすることに絶望して「神様、これがあなたの正しさと清さの基準であるなら、私がそれに達することはとうてい無理です。私を赦してください。私をあわれんでください」と言えるようになるためです。神の本質はいつもまろごと愛なのです。

振り返りのための質問とみことば

1. ローマ5:13を読みましょう。この箇所にある「罪が認められる」とはどのような意味ですか？

ローマ5:13 実に、律法が与えられる以前にも、罪は世にあったのですが、律法がなければ罪は罪として認められないのです。

2. ローマ7:7を読みましょう。律法の目的は何ですか？

ローマ7:7 それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることにはなかつたでしょう。実際、律法が「隣人のものを欲してはならない」と言わなければ、私は欲望を知らなかつたでしょう。

3. ガラテヤ3:24を読みましょう。この箇所によると、律法の目的は何ですか？

ガラテヤ3:24 こうして、律法は私たちがキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。

4. ヨハネ8:1-11を読みましょう。姦淫の現場で捕まった女をイエスはどのように扱いましたか？

ヨハネ8:1-11 イエスはオリーブ山に行かれた。^[2]そして朝早く、イエスは再び宮に入られた。人々はみな、みもとに寄って来た。イエスは腰を下ろして、彼らに教え始められた。^[3]すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、^[4]イエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。^[5]モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするよう私たちに命じています。あなたは何と言われますか。」^[6]彼らはイエスを告発する理由を得ようと、イエスを試みてこう言ったのであった。だが、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。^[7]しかし、彼らが問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」^[8]そしてイエスは、再び身をかがめて、地面に何かを書き続けられた。^[9]彼らはそれを聞くと、年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き、真ん中にいた女とともに、イエスだけが残された。^[10]イエスは身を起こして、彼女に言われた。「女の人よ、彼らはどこにいますか。だれもあなたにさばきを下さなかつたのですか。」^[11]彼女は言った。「はい、主よ。だれも。」イエ

スは言われた。「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」

5. イエスのことばと行動は、神の本質を反映していますか？ヨハネ3:34を参照してください。

ヨハネ3:34 神が遣わした方は、神のことばを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。

6. 1ヨハネ4:8を読みましょう。このみことばによると、神の本質は何ですか？

1ヨハネ4:8 愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。

7. ローマ5:6を読みましょう。神の愛は、私たちがまだどのようなところ、私たちに向けられましたか？

ローマ5:6 実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。

8. ローマ5:8を読みましょう。神は私たちがまだ何であったときに、私たちを愛してくれましたか？

ローマ5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

9. ローマ5:10を読みましょう。神は私たちがまだ何であったときに、私たちを愛してくれましたか？

ローマ5:10 敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです。

10. もしもあなたが、あなたの罪のためにイエス・キリストが払った犠牲を信じて、イエスに「私を赦してください。私の救い主になってください」とお願いするならば、神はあなたにも、神の本質であるあわれみと恵みを表してくれるのでしょうか？

質問の解答 — レッスン5

1. ローマ5:13を読みましょう。この箇所にある「罪が認められる」とはどのような意味ですか？
罪を犯した本人に刑罰が科せられること。
2. ローマ7:7を読みましょう。律法の目的は何ですか？
罪を分からせるため。
3. ガラテヤ3:24を読みましょう。この箇所によると、律法の目的は何ですか？
私たち人間にはイエス・キリストによる救いが必要であるということを示すため。
4. ヨハネ8:1-11を読みましょう。姦淫の現場で捕まった女をイエスはどのように扱いましたか？
あわれみと恵みによって扱った。
5. イエスのことばと行動は、神の本質を反映していますか？ヨハネ3:34を参照してください。
はい。
6. 1ヨハネ4:8を読みましょう。このみことばから、神の本質は何ですか？
愛。
7. ローマ5:6を読みましょう。神の愛は、私たちがまだどのようなようであったところに、私たちに向けられましたか？
まだ弱かったころ。(弱かったころとは、救いようがなく、神を信じず、不敬虔な者だったとき。)
8. ローマ5:8を読みましょう。神は私たちがまだ何であったときに、私たちを愛してくれましたか？
罪人。
9. ローマ5:10を読みましょう。神は私たちがまだ何であったときに、私たちを愛してくれましたか？
神の敵。
10. もしもあなたが、あなたの罪のためにイエス・キリストが払った犠牲を信じて、イエスに「私を赦してください。私の救い主になってください」とお願いするなら、神はあなたにも、神の本質であるあわれみと恵みを表してくれるのでしょうか？
はい。

レッスン6

悔い改め

ドン・クロウ

悔い改めとは何でしょう。それは完璧になるということではなく方向転換することです。聖書の中の放蕩息子(失われた息子)のたとえ話について考えていきましょう。イエスはこのたとえ話を使って、悔い改めることがどういうことであるかをパーフェクトに説明しています。ルカ15章11-12節には「イエスはまた、こう話された。『ある人に二人の息子がいた。^[12]弟のほうが父に、『お父さん、財産のうち私がいただく分を下さい』と言った。それで、父は財産を二人に分けてやった。』と書いてあります。

この息子(弟の方)は、父親がまだ生きているにもかかわらず相続財産を要求したのです。こういったことはかなり非常識なことでしたが、父親はその要求を承諾して二人の息子に相続財産を与えました。13節には「それから何日もしないうちに、弟息子は、すべてのものをまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して、財産を湯水のように使ってしまった。」(ルカ15:13)と書いてあります。この息子は、彼の全財産である父親からの相続財産をすべて持って遠い国へ行き、飲み騒いでパーティー三昧の生活をして、そのお金を無駄に使い果たしました。ある聖書の訳では、「パーティーと売春婦にお金を使った」と書いてあります。

14-15節には「何もかも使い果たした後、その地方全体に激しい飢饉が起こり*(その土地に農作物が実らず食物が不足して人々は飢え苦しんでいた)彼は食べることも困り始めた。^[15]それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑に送って、豚の世話をさせた。」(ルカ15:14-15)[*()内は筆者による加筆]と書いてあります。この息子は、その国のある男性の下で仕事を得て、豚に餌をやるために働いていました。次の16節には「彼は、豚が食べているいなご豆で腹を満たしたいほどだったが、だれも彼に与えてはくれなかった。」(ルカ15:16)と書いてあります。彼は死にそうなほどお腹が空いていたので、「豚の餌でも何でもいいから食べ物をください」と泣きつきましたが、だれも何も与えてはくれませんでした。彼は浪費によって相続財産のすべてを使い果たし、何も持っていませんでした。続く17節には「しかし、彼は我に返って言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が、なんと大勢いることか。それなのに、私はここで飢え死にしようとしている。』(ルカ15:17)と書いてあります。ある聖書の訳には「彼は迷いから覚めて」と書かれています。つまり彼は、自分の父親の下では召使でさえも有り余るほど食べ物があるのに、自分は餓え死にしようになっていることに気づいたのです。

彼は決心しました・・・そして悔い改めたのです。悔い改めは思考の変化であり、

その人を方向転換させ、新たな方向に進ませる心の変化です。18-19節でこの息子は「立って、父のところに行こう。そしてこう言おう。“お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。^[19]もう、息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。”」(ルカ15:18-19)と言いました。そして彼は立ち上がり、彼の父のところに行きました。悔い改めは、態度の変化・思考の変化・心の変化以上のものです。悔い改めは、その人が確信したことに基づいて行動を起こさせ、方向転換(または戻ること)させ、新しい方向に進むように導きます。私たちは皆、天の父である神に、そして、私たちの本当の家である天国に背を向けていました。イザヤ53章6節には「**私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。**」と書いてあります。神は私たちの罪を取り、それをイエスに負わせたのです。

物語は20-24節に続きます。「**こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとへ向かった。**」(ルカ15:20) ある夜、私はこの放蕩息子の話を聞いたことがない男性と、この箇所について話していました。彼が知っている父親とは、もしもこのような状況の中で息子が戻ってきたら、「お前がしたことを考えてみろ。お前は私が人生を費やして貯めてきた私の全財産を無駄にしたのだ。私の雇用人になれ」と言うような父親でした。おそらくこの世の大半の父親は激怒してそのように言うかと思います。しかしこの箇所に出てくる父親の態度に注目してください。「**ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけて、かわいそうに思い*(父親の心から息子への愛が溢れ出した)、駆け寄って彼の首を抱き、口づけした。**^[21]息子は父に言った。『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。』^[22]ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い衣を持って来て、この子に着せなさい。手に指輪をはめ、足に履き物をはかせなさい。^[23]そして肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。^[24]この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。』**こうして彼らは祝宴を始めた。**」(ルカ15:20-24)[*(*)内は筆者による加筆] その父親は、帰ってきた息子のためにお祝いのパーティーを始めたのです。

私は以前、「このルカの箇所を読んで、イエスの言っていることが分かりました。もしも私が、天の父なる神様にあわれみを求めて“神様、私はあなたに対して罪を犯しました。私はあなたの息子としてふさわしくありません”と言って悔い改めるなら、神様は私を受け入れてくれると思います」と言った男性に対して言ったのと同じことを、今日、あなたにも言います。天の父なる神はあなたを深くあわれんで、あなたのことを奴隷になどしないでしょ。神はあなたを神の息子・娘として完全に取り戻し、迎え入れてくれます。神はあなたを待っています。今まで神に背を向けてきましたか? 今日、方向転換して、あなたの父である神と、本当の家である天国への道に向かってみませんか?

振り返りのための質問とみことば

1. 悔い改めを定義してみましょう。
2. ルカ13:1-5を読みましょう。私たちが滅びないためには、何をする必要がありますか？

ルカ13:1-5 ちょうどそのとき、人々が何人かやって来て、ピラトがガリラヤ人たちの血を、ガリラヤ人たちが献げるいけにえに混ぜた、とイエスに報告した。^[2] イエスは彼らに言われた。「そのガリラヤ人たちは、そのような災難にあったのだから、ほかのすべてのガリラヤ人よりも罪深い人たちだったと思いますか。^[3] そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。^[4] また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも多く、罪の負債があったと思いますか。^[5] そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

3. 2ペテロ3:9を読みましょう。すべての人に対して神が望んでいることは何ですか？

2ペテロ3:9 主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

4. ルカ16:19-31を読みましょう。この金持ちはなぜ、だれかが死者の中から生き返って、自分の兄弟たちに話しに行くことを望んだのでしょうか？

ルカ16:19-31 ある金持ちがいた。紫の衣や柔らかい亜麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。^[20] その金持ちの門前には、ラザロという、できものだらけの貧しい人が寝ていた。^[21] 彼は金持ちの食卓から落ちる物で、腹を満たしたいと思っていた。犬たちもやって来ては、彼のできものをなめていた。^[22] しばらくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懷に連れて行かれた。金持ちもまた、死んで葬られた。^[23] 金持ちが、よみで苦しみがら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懷にいるラザロが見えた。^[24] 金持ちは叫んで言った。『父アブラハムよ、私をあわれんでラザロをお送りください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすようにしてください。私はこの炎の中で苦しくてたまりません。』^[25] するとアブラハムは言った。『子よ、思い出さない。おまえは生きている間、良いものを受け、ラザロは生きている間、悪いものを受けた。しかし今は、彼はここで慰められ、おまえは苦しみをだえている。』

[26] そればかりか、私たちとおまえたちの間には大きな淵がある。ここからおまえたちのところへ渡ろうとしても渡れず、そこから私たちのところへ越えて来ることができない。』[27] 金持ちは言った。『父よ。それではお願いですから、ラザロを私の家族に送ってください。』[28] 私には兄弟が五人いますが、彼らまでこんな苦しい場所に来ることがないように、彼らに警告してください。』[29] しかし、アブラハムは言った。『彼らにはモーセと預言者がいる。その言うことを聞くがよい。』[30] 金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ。もし、死んだ者たちの中から、だれかが彼らのところに行けば、彼らは悔い改めるでしょう。』[31] アブラハムは彼に言った。『モーセと預言者たちに耳を傾けないのなら、たとえ、だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』』

5. ルカ16:30によると、この苦しみ場所(地獄)を避けるために、この金持ちの兄弟たちは何をしなければなりませんか?
6. 使徒26:18を読みましょう。ここには、はっきりと‘悔い改め’とは書かれていませんが、この箇所は悔い改めのことを言っています。悔い改めた人はどうなりますか?

使徒26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。』

7. 使徒26:20を読みましょう。この箇所の後半部分では、異邦人がすべき三つのことが書かれています。それは何ですか?

使徒26:20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ地方全体に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えてきました。

8. マタイ7:21-23を読みましょう。イエスは、これらの人々が神のみこころを行う代わりに、何をしたと言いましたか?

マタイ7:21-23 わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。[22] その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』[23] しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』

9. マタイ7:21-23から、口先だけで神に好意を示すことと対比して、真の悔い改めの重要性について、どのようなことが言えますか？
10. イザヤ55:7を読みましょう。悪しき者は何をしなければなりませんか？

イザヤ55:7 悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。

11. 不法者がしなければならない二つのことは何ですか？
12. 上記のことをするなら、神はその人のためにどのようなことをしてくれますか？
13. ルカ15:7を読みましょう。一人の罪人が悔い改めるとき、天国ではどのようなことが起こりますか？

ルカ15:7 あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。

14. 使徒3:19を読みましょう。もしもあなたが悔い改めて神に立ち返るなら、あなたの罪はどうなりますか？

使徒3:19 ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。

質問の解答 — レッスン6

1. 悔い改めを定義してみましょう。
 - 新しく決意した約束に向かって180度方向転向をすること。
 - 思考の変化。
 - 今までの自分の古い生き方から、神が与えてくれる新しい人生へと向き直り、自分を神に立ち返らせる心の変化。
 - 完璧になることではなく、方向転換すること。
 - 人生の全体的な方向性を変える決断をすること。
 - 今までの古い生き方から転向し、神とともに歩み生きることを決意し実行すること。
 - イエス・キリストを通して神に立ち返ること。

2. ルカ13:1-5を読みましょう。私たちが滅びないためには、何をする必要がありますか？
悔い改め。

3. 2ペテロ3:9を読みましょう。すべての人に対して神が望んでいることは何ですか？
すべての人が悔い改めに進むこと。

4. ルカ16:19-31を読みましょう。この金持ちはなぜ、だれかが死者の中から生き返って、自分の兄弟たちに話しに行くことを望んだのでしょうか？
彼らまでこんな苦しい場所に来ることがないように、彼らに警告してもらいたいと思ったから。

5. ルカ16:30によると、この苦しみ場所(地獄)を避けるために、この金持ちの兄弟たちは何をしなければなりませんか？
悔い改めなければならない。

6. 使徒26:18を読みましょう。ここには、はっきりと‘悔い改め’とは書かれていませんが、この箇所は悔い改めのことを言っています。悔い改めた人はどうなりますか？
 - 霊の目が開かれる。
 - 闇から光に立ち返る。
 - サタンの支配から神に立ち返る。
 - 罪の赦しを得る。
 - 神の国の相続にあずかる。

7. 使徒26:20を読みましょう。この箇所の後半部分では、異邦人がすべき三つのことが書かれています。それは何ですか？
 - 悔い改めること。
 - 神に立ち返ること。
 - 悔い改めにふさわしい行いをする事。

8. マタイ7:21-23を読みましょう。イエスは、これらの人々が神のみこころを行う代わりに、何をしたと言いましたか？
不法を行った。

9. マタイ7:21-23から、口先だけで神に好意を示すことと対比して、真の悔い改めの重要性について、どのようなことが言えますか？
救いのための真の悔い改めとは、口先で言う言葉によって起こるのではなく、心の底から起こることである。

10. イザヤ55:7を読みましょう。悪しき者は何をしなければなりませんか？
自分の道を捨て去る。

11. 不法者がしなければならない二つのことは何ですか？
自分のはかりごとを捨て去って主に帰る。

12. 上記のことをするなら、神はその人のためにどのようなことをしてくれますか？
主はあわれんでくださり、豊かに赦してくださる。

13. ルカ15:7を読みましょう。一人の罪人が悔い改めるとき、天国ではどのようなことが起こりますか？
大きな喜びが天にある。

14. 使徒3:19を読みましょう。もしもあなたが悔い改めて神に立ち返るなら、あなたの罪はどうなりますか？
あなたの罪はぬぐい去られる。

コミットメントーイエスに対する固い決意

ドン・クロウ

ルカ14章25-26節 「さて、大勢の群衆がイエスと一緒に歩いていたが、イエスは振り向いて彼らに言われた。^[26] わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。」

「さて、大勢の群衆がイエスと一緒に歩いていたが、イエスは振り向いて彼らに言われた。」(ルカ14:25) 当時、イエスのミニストリーにおいて、イエスについて行く人たちが大勢いました。聖書の英語訳には表されていませんが、原語であるギリシャ語の聖書では、当時人々が‘イエスについて行っていた’ことに関して、*未完了時制[*過去の動作の継続と進行、または反復、習慣的な動作を意味する。「いつも～していた」など]が使われています。これは、この時点では大勢の人たちが繰り返し継続的にイエスについて行き始めていたことを意味します。それはたぶん、イエスが行っていた奇跡によるものか、イエスが彼らに食べ物を分け与えていたからなのか、正確な理由は分かりませんが、とにかく大勢の人たちがイエスの後について一緒に歩いていました。そしてこの瞬間、ルカ14章25節の場面でイエスは振り向いて、あえてその人たちがもうそれ以上、イエスにはついて来なくなる何かを言いました。それが次の箇所です。

「わたしのもとに来て、*(それは、イエスに同行したい、付き添いたい、従いたいと志願していることが要件であることを意味します)自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。」(ルカ14:26) [*()]内は筆者による加筆]私はこの箇所を読んだとき、「主よ、‘憎む’とは、まさか文字通りの意味ではないですよね?」と言い、この「憎む」という言葉はきっと「少しだけ愛する」というような意味なのではないかと考えました。しかしこの箇所について調べていくうちに、これが文字通り、憎むことを意味していることが分かったのです。

この箇所でイエスは、要点を強調するためにできる限り強い言葉「憎む」を使ったのです。イエスは、あなたが自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできないと言いました。ここで皆さんに質問があります。この地球上で、あなたと一番強い絆で結ばれている人たちはだれですか? それはあなたの母親と父親、または、あなたの配偶者と子どもたちです。もしもあなたの配偶者があなたを裏切って離婚に至ったり、母親と父親が亡くなったりしたらどうなりますか? だれがあなたと一緒にいてくれますか? それはあなたの兄弟たちです。イエスは、あなたがそれらの人たちを憎まない限り、イエスの弟子になることはできないと言いました。イエスはこれをどのような意味で言ったのでしょうか?

この箇所ではイエスは、私たちと一番強い絆で結ばれている人たちについて話しています。イエスは、彼自身の神に対する完全なコミットメントと同じレベルのコミットメントをあなたに求めています。イエスはあなたの人生の中で、あなたにとってのナンバーワンになりたいのです。この箇所ではイエスは、あなたとイエスとの関係を、あなたが地球上で持つことのできる一番強い絆関係と比べようとしています。ここでイエスが言っている‘憎む’とは、*メタファー/暗喩[*比喩の一種で、あからさまなたとえの形式をとらないもの。ある物事を分かりやすく伝えるために、似ているものを引き合いに出して表現する方法]であり、「あなたとのわたしの関係はとても重要なので、地球上のだれよりも何よりも優先させるべきだ」と言っているのです。じつはあなたのことを、あなたの妻、子ども、母親、父親、もしくは、あなたの兄弟以上に愛している人がいます。それがだれか分かりますか？それは神ではありません。・・・それはあなた自身です。あなたは、あなたと一番近い人たちを愛するよりももっと、自分自身のことを愛しています。

どうして結婚は続かないのでしょうか？なぜ人々は離婚してしまうのでしょうか？それは、配偶者よりも自分自身を愛しているからです。そして、配偶者に向かってこのように言うかもしれません。「あなたは私が望んでいるように～をしてくれないので、私はもうあなたのことは知らないわ。」

この箇所ではイエスが言ったのは、あなたの自己中心的な人生よりも、わたしのことを優先してほしい、あなたにとっての一番の関係になりたいということです。これが本当の意味でイエスに付き従う者になるということです。イエスは、犠牲を払わずにイエスについて行けるとは言いませんでした。イエスは私たちが本気で彼に付き従って行くことを望んでいます。イエスはあなたの人生で、あなたにとってのナンバーワンになることを望んでいるのです。

振り返りのための質問とみことば

1. ルカ9:57-62を読みましょう。この箇所は、イエスについて行くことに対するコミットメントについて、どのようなことを教えていますか？

ルカ9:57-62 彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」^[58] イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところもありません。」^[59] イエスは別の人に、「わたしに従って来なさい」と言われた。しかし、その人は言った。「まず行って、父を葬ることをお許してください。」^[60] イエスは彼に言われた。「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」^[61] また、別の人が言った。「主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許してください。」^[62] すると、イエスは彼に言われた。「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」

2. ルカ8:13-14を読みましょう。なぜキリスト教の信仰から脱落したり、離れてしまったりする人がいるのでしょうか？

ルカ8:13-14 岩の上に落ちたものとは、みことばを聞くと喜んで受け入れるのですが、根がないので、しばらくは信じていても試練のときに身を引いてしまう、そのような人たちのことです。^[14] 茨の中に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らはみことばを聞いたのですが、時がたつにつれ、生活における思い煩いや、富や、快樂でふさがれて、実が熟すまでになりません。

3. エゼキエル16:8を読みましょう。この箇所で神は、結婚をたとえに使って、神と神の民との関係を説明しています。神の民はだれのものとなりましたか？

エゼキエル16:8 わたしがそばを通りかかってあなたを見ると、ちょうど、あなたは恋をする年ごろになっていた。わたしは衣の裾をあなたの上に広げ、あなたの裸をおおった。わたしはあなたに誓って、あなたと契りを結んだ——神である主のことば——。そして、あなたはわたしのものとなった。

4. 1コリント6:19を読みましょう。あなたはだれのものでしょうか？

1コリント6:19-20 あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは

もはや自分自身のものではありません。^[20] あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。

5. 1コリント6:20を読みましょう。あなたのからだと霊はだれのものでしょうか？
6. ヤコブ4:4を読みましょう。神に対して霊的な姦淫を犯すということは起こり得ますか？

ヤコブ4:4 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。

7. 神の目に霊的な姦淫として映るのはどのようなことでしょうか？ローマ1:25を参照してください。

ローマ1:25 彼らは神の真理を偽りと取り替え、造り主の代わりに、造られた物を拝み、これに仕えました。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。

8. ヨハネ2:23-25を読みましょう。この箇所から、コミットメントと信仰について、どのようなことを学ぶことができますか？

ヨハネ2:23-25 過越の祭りの祝いの間、イエスがエルサレムにおられたとき、多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた。^[24]しかし、イエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。すべての人を知っていたので、^[25]人についてだれの証言も必要とされなかったからである。イエスは、人のうちに何があるかを知っておられたのである。

9. ルカ14:28-30を読みましょう。イエスについて行くための犠牲について考えたことがありますか？イエスについて行きたいですか？

ルカ14:28-30 あなたがたのうちに、塔を建てようとするとき、まず座って、完成させるのに十分な金があるかどうか、費用を計算しない人がいるでしょうか。^[29] 計算しないと、土台を据えただけで完成できず、見ていた人たちはみなその人を嘲って、^[30]『この人は建て始めたのに、完成できなかった』と言うでしょう。

質問の解答 — レッスン7

1. ルカ9:57-62を読みましょう。この箇所は、イエスについて行くことに対するコミットメントについて、どのようなことを教えていますか？
自分自身を神に完全に明け渡すこと。
2. ルカ8:13-14を読みましょう。なぜキリスト教の信仰から脱落したり、離れてしまったりする人がいるのでしょうか？
そういった人たちは、みことばを聞いてもそれが根付くまでしっかりと守ることがないので、時がたつにつれ、生活における思い煩いや、富や、快樂によってみことばの実がふさがれてしまうから。
3. エゼキエル16:8を読みましょう。この箇所では神は、結婚をたとえに使って、神と神の民との関係を説明しています。神の民はだれのものとなりましたか？
神のものとなった。
4. 1コリント6:19を読みましょう。あなたはだれのものでしょうか？
神のもの。
5. 1コリント6:20を読みましょう。あなたのからだはだれのものでしょうか？
神のもの。
6. ヤコブ4:4を読みましょう。神に対して霊的な姦淫を犯すということは起こり得ますか？
はい。
7. 神の目に霊的な姦淫として映るのはどのようなことでしょうか？ローマ1:25を参照してください。
主に背を向け、偶像(神よりも大事に優先させているあらゆる物事)に向けられた心。
8. ヨハネ2:23-25を読みましょう。この箇所から、コミットメントと信仰について、どのようなことを学ぶことができますか？
イエスは、私たちの心が100%彼に向けられる(完全なコミットメント)ことを望んでいる。
9. ルカ14:28-30を読みましょう。イエスについて行くための犠牲について考えたことがありますか？イエスについて行きたいですか？
はい。

レッスン8

水のバプテスマ(洗礼)

ドン・クロウ

質問: 天国に行くためには、*水のバプテスマ[*以下本文中「洗礼」と表記]を受ける必要がありますか？僕は神様を愛していて、7歳のときに洗礼を受けました。現在18歳ですが、特定宗派に属さないある教会の人が僕に、「だれもあなたのように若い年齢で救われて洗礼を受けることはできない」と言いました。また、その教会の人たちは天国に行くには洗礼を受けなければならないと言っていますが、僕の家族(バプテスト派)は、その必要はないと言っています。ただ確実に天国に行けるようにしたいのです。僕は毎日、神様のために生きていますが、もう一度洗礼を受けなおす必要がありますか？18歳になったので、洗礼を受けてもよい年齢だと思います。再び洗礼を受けなければならないかどうか知りたいので教えてください。できるだけ早く回答をください。よろしく申し上げます。神様の祝福がありますように。感謝します。

回答: 救いと罪の赦しはイエス・キリストへの信仰を通して、贈り物として、信じた人には無条件でもたらされます。使徒10章43節には「**預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられると、証ししています。**」と書いてあります。信仰とは、イエス・キリストを信じて、イエスに自分自身をゆだねることです。そうすることで、イエスが十字架で流した血によって、あなたは神の前に正しい者とされるのです。使徒10章44-48節を読むと、イエスを信じた人たち(救われたことが確かだった人たち)全員に、その人たちが洗礼を受けるよりも前の段階で、聖霊が与えられたことが分かります。

先ほど、「救いと罪の赦しはイエスへの信仰を通してもたらされる」と書きました。これも真実ですが、また別のときには、罪の赦しは洗礼を受けるのと同時に起こったことが分かります(使徒2:38)。それはなぜなら洗礼が、その人が悔い改めてイエスへの信仰を持ったときに実行される信仰の表現、もしくは、信仰の行いだからです(「**信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。**」マルコ16:16)。また洗礼は、健全な良心を持つことができるよう主に願い、主を呼び求める行為でもあります(使徒22:16, 1ペテロ3:21)。

あなたが7歳のときに心からイエスを信じて洗礼を受けたなら、神はあなたの子どもなりの純真な信仰心を認めてくれます。ここで、洗礼を受けるための前提条件を確認しておきましょう。その一つは悔い改めです。あなたが罪から離れてイエス・キリストを信じ、神の赦しを信じた結果、あなたの心と考え方に変化がありましたか(使徒2:38, 20:21, 17:30)? イエスをあなたの人生の主であり救い主として信じま

レッスン8

したか(マルコ16:16, ヨハネ3:16, ローマ10:9-10)? 今までにこれらのことが起こっていない場合には、今、イエスに立ち返って罪を悔い改め、神の恵みによって赦されてイエスについて行くというあなたの決意を、洗礼を通してはっきりと表しましょう。

洗礼は、イエスに対する信仰を表す行いです。その信仰がなければ、行いそのものには何の意味もありません。イエスを人生の主であり救い主として信じた人たちは、その信仰を他の人々の前でオープンに表すことをためらいません。イエスの命令に対して「ノー」と言う人たちは、ある意味、ノーという言葉によってイエスに対する信仰がないことを表しています。**行い(信仰の表明)のない信仰は死んだも同然です**(ヤコブ2:18-19)。信仰(目には見えないもの)だけが救いをもたらしますが、救われた後の信仰は、決して目に見えないものではありません。この信仰を持った人は、自分の信仰を表明することをためらいません。洗礼は信仰を表明する方法です。ただし洗礼は救いをもたらすものではありません。救いをもたらすのはイエスです。水は罪を洗い流すものではありません。**罪を洗い流すのはイエスの血です。そして、イエスの血による罪の洗い流しをもたらすのはあなたの信仰です。**また、時にその信仰は、洗礼を受けることで表されます(使徒22:16)。確認として次の質問に答えてみてください。神の前に悔い改めましたか? イエス・キリストを信じていますか? もしもあなたの答えがどちらも「Yes」なら、先延ばしにする必要はありません。今、決心して洗礼を受けましょう!

振り返りのための質問とみことば

1. 冒頭で若い男性が尋ねている質問は何ですか？

2. 使徒10:43によると、救いはどのようにもたらされますか？

使徒10:43 預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しを受けられると、証しています。」

3. 洗礼はたいてい、救われたときに起こる信仰の表現です。使徒2:38には、このことがどのように表されていますか？

使徒2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」

4. また、マルコ16:16には、このこと(洗礼はたいてい救われたときに起こる信仰の表現ということ)はどのように表されていますか？

マルコ16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。」

5. 洗礼とは、主を呼び求める行為でもあります。使徒22:16には、このことがどのように表されていますか？

使徒22:16 さあ、何をためらっているのですか。立ちなさい。その方の名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』

6. 洗礼は、健全な良心を持つことができるよう主に願い、主を呼び求める行為です。1ペテロ3:21から、このことが真実であると言えますか？

1ペテロ3:21 この水はまた、今あなたがたをイエス・キリストの復活を通して救うバプテスマの型なのです。バプテスマは肉の汚れを取り除くものではありません。それはむしろ、健全な良心が神に対して行う誓約です。」

7. 使徒2:38によると、洗礼を受けるのに必要な前提条件は何ですか？

使徒2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

8. マルコ16:16によると、洗礼を受けるのに必要な要件は何ですか？

マルコ16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

9. *乳児[*生後0日から満1歳未満までの子]は悔い改めることができますか？
10. 乳児は信仰を持つことができますか？
11. 使徒10:43-48を読みましょう。イエスを信じた後、その人がとるべき次のステップは何ですか？

使徒10:43-48 預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられると、証ししています。〔^[44]ペテロがなおもこれらのことを話し続けていると、みことばを聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。〔^[45]割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたことに驚いた。〔^[46]彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。するとペテロは言った。〔^[47]「この人たちが水でバプテスマを受けるのを、だれが妨げることができるでしょうか。私たちと同じように聖霊を受けたのですから。」〔^[48]ペテロはコルネリウスたちに命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。それから、彼らはペテロに願って、何日か滞在してもらった。

質問の解答 — レッスン8

1. 冒頭で若い男性が尋ねている質問は何ですか？
天国に行くためには洗礼を受ける必要があるかどうか。
2. 使徒10:43によると、救いはどのようにもたらされますか？
イエス・キリストを信じる者ならだれにでも、その信仰によって、贈り物として無条件にもたらされる。
3. 洗礼はたいてい、救われたときに起こる信仰の表現です。使徒2:38には、このことがどのように表されていますか？
ペテロが救いを勧める人たちに対して「悔い改めて、バプテスマを受けなさい」と言った。
4. また、マルコ16:16には、このこと(洗礼はたいてい救われたときに起こる信仰の表現ということ)はどのように表されていますか？
イエスは「信じてバプテスマを受ける者は救われます」と言うことによって、洗礼と救いが同時に起こり得ることを示した。
5. 洗礼とは、主を呼び求める行為でもあります。使徒22:16には、このことがどのように表されていますか？
この箇所には、主の名を呼び求めるとその人の罪が洗い流されることが示されている。主の名を呼び求める行為は、ルカ18:13に書かれているように、実際に声に出して主を呼び求めることと、この箇所にあるように、洗礼を受ける行為によって主を呼び求めることがあると考えられる。(ルカ18:13一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』)
6. 洗礼は、健全な良心を持つことができるよう主に願い、主を呼び求める行為です。1ペテロ3:21から、このことが真実であると言えますか？
はい。
7. 使徒2:38によると、洗礼を受けるのに必要な前提条件は何ですか？
悔い改め。
8. マルコ16:16によると、洗礼を受けるのに必要な要件は何ですか？
イエス・キリストを信じること。

レッスン8

9. *乳児[*生後0日から満1歳未満までの子]は悔い改めることができますか?
いいえ。
10. 乳児は信仰を持つことができますか?
いいえ。
11. 使徒10:43-48を読みましょう。イエスを信じた後、その人がとるべき次のステップは何ですか?
水の洗礼を受けること。

キリストにあるアイデンティティー (1)

アンドリュー・ウォマック

2コリント5章17節には「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と書いてあります。聖書の中で「キリストのうちに」という表現は常に、私たちにとって必要不可欠な神との一体関係を意味しています。その神との結びつきが起こると、人は新しく生まれ変わります。聖書の訳によっては文字通り、‘新しい創造物’になると書かれています。

この2コリント5章17節のみことばを理解することが、キリストにある新しいアイデンティティーを理解するための重要な鍵であると思います。‘新しくなる’ことは物理的な領域で起こるものではありません。これは肉体的変化について言っているのではないのです。すべてが新しくなるからといって、外見が変わるわけではありません。救われる前に太っていた人は、ダイエットをしない限り太ったままです。これはまた、精神的・感情的な領域—それは大半の人たちが‘これが本当の私’と捉えている領域—の変化について言っているのでもありません。もしもあなたが救われる前に、ものすごく頭が良かったというのであれば、救われた後も急に頭が良くなるわけではなく、あなたの記憶と考え方の大半は以前と同じままです。

これ以外に私たち人間を構成するものには第三の部分があり、その部分とは、先ほどのみことばによると、救いによって起こる古いものが取り払われる過程を経て瞬時に変えられた部分であり、私たちのうちにある‘霊なる人’なのです。このことを証明しているのが、パウロのテサロニケの人々に対する祈りの箇所、1テサロニケ5章23節で、「平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように。あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。」と書いてあります。このみことばは、私たちが霊・たましい・からだの存在であることを示しています。からだについては明らかです。からだは目に見える部分であり、私たちの外見です。また、私たちは目に見えない部分—それは感情や精神の部分であり、聖書ではたましいとして書かれている部分—があることも認識しています。そして、私たちは他の人が物理的に自分に触れることがなかったとしても、その人が発する言葉を通して、良くも悪くも、自分に影響が及ぶことを知っています。ほとんどの人は、私たち人間が、からだとたましいから成り立っていると聞いて違和感はないと思います。しかし聖書によれば、私たちが構成するものにはもう一つ別の部分があり、それが霊なのです。

霊は私たちの一部であり、救われた瞬間に変化して新しくなる部分です。この

霊の部分が実際に私たちにいのちを与えるのです。ヤコブ2章26節には「**からだ**が**霊**を欠いては死んでいるのと同じように、**信仰**も**行い**を欠いては死んでいるのです。」と書いてあります。このみことばは、霊こそが私たちのからだにいのちを吹き込むものであることを示しています。霊が私たちのいのちの源です。アダムとエバが創造された創世記2章で、そこには完成されたアダムのからだがあり(しかしそのからだは生きていなかった)、神はそのからだに向かって‘息をして’いのちを吹き込みました(創世記2:7)。旧約聖書の原語であるヘブライ語で「息をする」という言葉は、今の私たちが「呼吸」という意味で使うのと全く同じ言葉で、聖書の他の箇所では「霊」と訳されています。神は、アダムの物理的なからだと人間としてのたましいを創造してから、そこにいのちの息を吹き込み、アダムのたましいは生きたものとなりました。霊は私たち人間の一部であり、私たちにいのちを与える部分なのです。

人が救われる前、その人が完全に主イエス・キリストを受け入れることを決意し、主がその人の中に入ってくるまでは、その人の霊は死んでいるのです。エペソ2章1節には「***そして、あなたがたは背きと罪の中に死んでいたが、神によって生き返らせられ、**」[*Ephesians 2:1 And you **He made alive**, who were dead in trespasses and sins, NKJVからの直訳]と書いてあります。私たちは救われる前も生きてはいましたが、この「死んでいた」という言葉は霊の部分について言っているのです。聖書が意味する死は、人々が一般的にイメージする死とは違って、人が死ぬと存在しなくなるということではありません。聖書が言う死とは、分離や独立を意味します。人が肉体的に死んだとき、その存在は消えてなくなるわけではありません。聖書には、人が死ぬとその人は瞬時に神の前、もしくは、地獄に行くと書いてあります。その人のたましいと霊は、死んだ瞬間から朽ちていくからだから分離して生き続けるのです。

創世記2章17節には「**しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。**」と書いてありますが、これは肉体的に死ぬということではなく霊的に死ぬという意味で、神から分離することを意味しています。神が私たちに吹き込んだ霊、それが私たちにいのちと生きる活力を与えますが、その霊はアダムとエバが善悪の知識の木の実を食べて以来、神の超自然ないのち・・・神が与えてくれる聖なる完全ないのち(ギリシャ語の聖書では「**Zoe Life(ゾーイライフ)**」または「豊かで完全な意義ある人生」と言われている)・・・から離れて、人間は墮落し始めました。生きて動いてはいますが、神から離れ独立して生きるようになりました。このことがじつに、現代に生きる私たちの人生に起こるすべての問題、精神的なストレスなどを引き起こす原因となったのです。

人がイエス・キリストを人生の主として受け入れたとき、新しい霊を受け取り、新たに生まれ変わります。それが、イエスがヨハネ3章5節で言ったことです。このみことば

のとおり、人間は霊・たましい・からだを持って物理的にこの世に生まれ、霊的に再び生まれ変わった瞬間(救われたとき)にキリストの霊を受けます。ガラテヤ4章6節には「そして、あなたがたが子であるので、神は「アバ、父よ」と叫ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わされました。」と書いてあります。神は文字通り、‘御子の御霊を私たちの心に’与えてくれて、その瞬間から私たちの新たな素晴らしい人生が始まり、その人は新しいアイデンティティーを持ち、新しい霊によって完全に新しい人となるのです。

そこから先のクリスチャンとしての人生は、あなたの霊の部分で起こっていることを、たましいである心と知力の領域で学んでいくことなのです。事実として、あなたが人生の主としてイエス・キリストを受け入れた時点で、救いの三分の一は完了したのです。それは、あなたの霊が完全に別のものとなったからです。その霊は、今後あなたが永遠に持ち続ける霊です。その霊の中にはすでに愛・喜び・平安があり、常に神の臨在が満ちています。あなたの霊は完全で、不足や欠陥は全くないのですが、あなた自身がそのことを理解する必要があります。そのためには、みことばを学んでいくことが必須なのです。あなたは完全に新しい人となりました。しかし、みことばによって古い認識を変えていかない限り、あなたのたましいの部分は変わらないままでしょう。クリスチャンとしての勝利の人生は、霊でありいのちである聖書のことばを熱心に学び、みことばを通してあなた自身がだれであるのか、キリストにあるあなたのアイデンティティーを知って、神があなたにどのようなことをしてくれたのかを見て、それを信じ始めるときに始まるのです。

振り返りのための質問とみことば

1. 2コリント5:17を読みましょう。だれでもキリストのうちにあるなら、その人はどのような者ですか？

2コリント5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

2. 2コリント5:17によると、古いものはどうなりましたか？
3. 2コリント5:17によると、何が新しくなりましたか？
4. エペソ2:1を読みましょう。救われる前、あなたはどのような者でしたか？

エペソ2:1-5 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、^[2]かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。^[3] 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けべき子らでした。^[4] しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、^[5] 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

5. エペソ2:2を読みましょう。救われる前、あなたは不信者としてどのように生きて(歩んで)いましたか？
6. エペソ2:3-5を読みましょう。神は何に富んでいますか？
7. エペソ2:4によると、神はなぜそのようにあわれみ深いのでしょうか？
8. エペソ2:5によると、神は、私たちがまだ罪の中で死んでいたときに、私たちに何をしてくれましたか？
9. エペソ2:5によると、神は何によって私たちを救ってくれましたか？
10. 1コリント6:9-10を読みましょう。この箇所に出てくる「そのような者」の中で、救われる前のあなたにも関連する事柄はありますか？

1コリント6:9-11 あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、^[10] 盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしる者、奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。^[11] あなたがたのうちのある人たちは、以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。

11. 1コリント6:11を読みましょう。「でした」という言葉は、過去形・現在形・未来形のうちのどれですか？
12. 1コリント6:11によると、あなたが救われたときに起こった三つのことは何ですか？
13. 1コリント6:11で、「しかし」以降に書かれていることは、あなたの過去の状態・現在の状態・未来の状態のうちのどれですか？
14. 1コリント6:17を読みましょう。主と交わる者はどうなりますか？

1コリント6:17 しかし、主と交わる者は、主と一つの霊になるのです。

質問の解答 — レッスン9

1. 2コリント5:17を読みましょう。だれでもキリストのうちにあるなら、その人はどのような者ですか？
新しく造られた者。
2. 2コリント5:17によると、古いものはどうなりましたか？
過ぎ去った。
3. 2コリント5:17によると、何が新しくなりましたか？
すべてが。
4. エペソ2:1を読みましょう。救われる前、あなたはどのような者でしたか？
自分の背きと罪の中に死んでいた者であった。
5. エペソ2:2を読みましょう。救われる前、あなたは不信者としてどのように生きて(歩んで)いましたか？
この世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者(悪魔)、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいた。
6. エペソ2:3-5を読みましょう。神は何に富んでいますか？
あわれみ。
7. エペソ2:4によると、神はなぜそのようにあわれみ深いのでしょうか？
私たちが愛して下さったその大きな愛のゆえに。
8. エペソ2:5によると、神は、私たちがまだ罪の中で死んでいたときに、私たちに何をしてくださいましたか？
キリストとともに生かしてくれた。
9. エペソ2:5によると、神は何によって私たちが救ってくださいましたか？
神の恵みによって。
10. 1コリント6:9-10を読みましょう。この箇所に出てくる「そのような者」の中で、救われる前のあなたにも関連する事柄はありますか？
はい。

11. 1コリント6:11を読みましょう。「でした」という言葉は、過去形・現在形・未来形のうちのどれですか？
過去形。
12. 1コリント6:11によると、あなたが救われたときに起こった三つのことは何ですか？
- 洗われた。
 - 聖なる者とされた。
 - 義と認められた。
13. 1コリント6:11で、「しかし」以降に書かれていることは、あなたの過去の状態・現在の状態・未来の状態のうちのどれですか？
現在の状態。
14. 1コリント6:17を読みましょう。主と交わる者はどうなりますか？
主と一つの霊になる。

キリストにあるアイデンティティー (2)

アンドリュー・ウォマック

前回のレッスンでは、霊において生まれ変わって(救われて)心に変化するということがどういうことであるかについて話しました。前回読んだ2コリント5章17節を見てみましょう。「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」私たちが救われたとき、私たちの霊が完全に变化したこと、そして前回のレッスンの最後の段落では、救われたときに霊において何が起こったのかを明らかにすることができるのは、みことば以外にはないのだということについて触れました。私たちは、霊において起こったことを外面的な目に見えるものや、自分の感情によって捉えることはできないのです。なぜならそれは、私たちの内側の霊とたましいが重なる部分で認識することだからです。しかし認識があるかないかにかかわらず、まずは、私たちの霊の部分が完全に变化したのだということを知るのは重要なことです。

ここからは、イエスを自分の人生に受け入れたときに、どのようなことが起こるのかを示しているいくつかのみことばを見てみましょう。エペソ4章24節には「**真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。**」と書いてあります。救われると、その人の霊は義となり完全に聖なるものとなります。じつは聖書には二つの異なるタイプの義が書かれています。

そのうちの一つは人間の行いによって生み出される義で、その義は他の人との関係の中で維持し続けなければなりません。もしもあなたが正しい生き方や正しい行いを怠ったなら、仕事をクビになったり、配偶者から離婚を言い渡されたりするかもしれません。そのようなことにならないために、あなたはその義を保持し続ける必要があります。とはいえ神は、その対外的な義に基づいて私たちを受け入れることはしません。神は聖書に書いてあるとおり、私たち人間に‘神の義’を与えたのです。

2コリント5章21節には「**神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方であって神の義となるためです。**」と書いてあります。つまり、私たちが行いによって生み出す対外的な義をはるかに超えて、神が私たちのためにしてくれたことに基づく義があり、それが神の義なのです。私たちはただ、キリストに対する信仰によって神の義を受け取りました。それによって私たちは義とされて、完全に聖なる者として新しく創造されました。私たちは‘義となっていく’というわけではありません。すでに‘義とされた’のです。このことを簡単に言い表すと、私たちはすでに神によって正しい者とみなされたということです。

神はただキリストに基づいて、私たちのことを喜んでいますが、その理由は、キリストがしたこと以外には何もないのです。私たちの霊において変化が起こりました。そのことによって、私たちはすでに義とされて完全に聖なる者として創造され、全く新しい人となったのです。エペソ2章10節には「**実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。**」と書いてあります。また、エペソ1章13節には「**このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。**」と書いてあります。

皆さんの中には、「主イエスを初めて信じたとき、自分が完全に赦されて清められたことを信じて、しばらくはすべてが順調だった。でもその後、罪を犯して神に背いてしまった」という方がいるかもしれません。もしそうであるなら、あなたは自分の行動と知的・感情的な領域において罪を犯しましたが、あなたの霊の部分は罪を犯してはいないのです。たとえば言うと、あなたの霊はすべての不純物が入らないように密閉できる容器の中に入れられ、完全に密封された状態にあるのです。救われたときあなたは新しい霊を受け、神はその霊をあなたの霊の中に封印したので、罪があなたの霊の部分に入り込むことはないのです。救われたときからあなたは、あなたの行いの良し悪しによって変わることはない新しいアイデンティティーを持ったのです。神との関係を築いていくためには、肉としてのあなたではなく、あなたのうちの霊なる人によって神と交わり、神を礼拝しなければなりません。

あなたのうちの霊なる人によって神と関係を築いていくということは、クリスチャンになったことによって起こる大きな生活の変化であり、自分自身の古いアイデンティティーを変えていく必要があります。そのためには、物理的な領域でのあなたの行いの良し悪しや、人間としての知性に基づいて神との関係を築くのではなく、あなたのうちにある霊なる人と、神があなたのためにしてくれたことに基づいて、神とつながっていく必要があるのです。神があなたのためにしてくれたことは、イエス・キリストによってすでに完了された任務であって、状況によって変わることはないものです。あなたは義とされて完全に聖なる者として新しく創造されました。それがあなたの霊の部分であり、神と交わるためにはその霊の部分とみことばの真理によって神を礼拝しなければなりません。あなたは、キリストにあるアイデンティティーを自分のものにしていく必要があるのです。

振り返りのための質問とみことば

1. 1コリント6:17を読みましょう。私たちの霊に完全な変化が起こったことを知るための唯一の手段は、みことばによるものです。この箇所によると、私たちが主と交わるとき、私たちの霊はどうなりますか？

1コリント6:17 しかし、主と交わる者は、主と一つの霊になるのです。

2. エペソ3:17を読みましょう。キリストは今どこに住んでいますか？
3. エペソ3:17によると、それ(質問2の解答内容)は何によって起こりますか？

エペソ3:17 信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。そして、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

4. 1ヨハネ5:12を読みましょう。救いを得るためには、自分のうちにだれを持っている必要がありますか？

1ヨハネ5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

5. コロサイ1:26-27を読みましょう。多くの世代にわたって隠されてきたが、今明らかにされた奥義とは何ですか？

コロサイ1:26-27 すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところなく伝えるためです。^[27] この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

6. エペソ4:23-24を読みましょう。真理に基づく義と聖をもって、何が創造されましたか？

エペソ4:23-24 また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、^[24] 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。

7. 2コリント5:21を読みましょう。私たちはだれの義を持っていますか？

2コリント5:21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。

8. エペソ1:4を読みましょう。神の前で、私たち信者はどのような者ですか？

エペソ1:4 すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方において私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

9. エペソ1:6を読みましょう。私たちはどのように(だれにおいて)受け入れられましたか？

エペソ1:6 それは、神がその愛する方において私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。

質問の解答 — レッスン10

1. 1コリント6:17を読みましょう。私たちの霊に完全な変化が起こったことを知るための唯一の手段は、みことばによるものです。この箇所によると、私たちが主と交わるとき、私たちの霊はどうなりますか？
主と一つの霊になる。
2. エペソ3:17を読みましょう。キリストは今どこに住んでいますか？
私たちの心のうち。
3. エペソ3:17によると、それ(質問2の解答内容)は何によって起こりますか？
信仰によって。
4. 1ヨハネ5:12を読みましょう。救いを得るためには、自分のうちにだれを持っている必要がありますか？
御子(イエス・キリスト)。
5. コロサイ1:26-27を読みましょう。多くの世代にわたって隠されてきたが、今明らかにされた奥義とは何ですか？
私たちの中におられるキリスト、栄光の望みのこと。
6. エペソ4:23-24を読みましょう。真理に基づく義と聖をもって、何が創造されましたか？
神にかたどり造られた新しい人(生まれ変わった霊)。
7. 2コリント5:21を読みましょう。私たちはだれの義を持っていますか？
キリストによる神の義。
8. エペソ1:4を読みましょう。神の前で、私たち信者はどのような者ですか？
聖なる、傷のない者。
9. エペソ1:6を読みましょう。私たちはどのように(だれにあって)受け入れられましたか？
神がその愛する方(イエス・キリスト)にあって。

レッスン11

クリスチャンが罪を犯したらどうなるのか？

ドン・クロウ

今日私たちは‘クリスチャンが罪を犯したらどうなるのか’ということについて考えていきたいと思います。1ヨハネ1章8-9節には「もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。^[9]もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」と書いてあります。おそらくクリスチャンだからといって全くつまずくこともなく、罪を犯さない人はいないでしょう。私たちの救われる前と救われた後の違いは、救われた後の私たちは新しい性質を持っているということです。その新しい性質は、もしも私たちが罪を犯したなら、私たちのうちに深い悲しみをもたらします。もちろん私たちは罪を犯したくはありません。義に基づいた生き方をしたいと思っています。しかし、もし罪を犯してしまったらどうなるのでしょうか？再び救われなければならないのでしょうか？聖書はそのように言っていますか？もしそうであるなら、救われたといっても私たちには何の保証もなく、ある意味それは不信者として世俗的に生きるよりも惨めなことです。この世の者として生きるなら、少なくとも罪の意識にそこまで苦しめられることはなかったでしょう。しかしイエスを信じる者として、私たちが常に意識を向けるべきこと、中心は、罪ではないのです。ヘブル10章2節には「イエスの犠牲によって、信者たちはきよめられ、もはや罪を意識することがなくなる」と書いてあります。言い換えれば、罪を犯さないようにすることが私たちの生活の焦点であってはならないのです。神こそが私たちの焦点であるべきです。

ローマ4章2節には「もしアブラハムが行いによって義と認められたのであれば、彼は誇ることができます。しかし、神の御前ではそうではありません。」と書いてあります。もしも救いが私たちの優秀さや行いの良さに基づいていたなら、救われたことを自慢することができたかもしれません。たとえば私たちは神に向かって、「主よ、あなたが十字架でしてくれたことに本当に感謝しています。でも私の行いの素晴らしさも覚えておいてください！」などと言うかもしれません。そして私たち人間は繰り返し永遠に、イエスがしてくれたことと、自分たちの功績の両方をほめ続けるのです。しかし、それは違います！神は、人間が自分のことを誇ったり栄光を受けたりすることがないものとして救いを設計しました。栄光と誇りはただ、主イエス・キリストにあるのです(ローマ3:27)。神の賜物である永遠のいのちは神からの贈り物であり、私たちの行いに対する報いとして得られるものではないのです(ローマ6:23)。

ローマ4章2節には、「もしアブラハムが行いによって義と認められたのなら、自分を誇ることでできる何らかの理由があったであろう」と書いてありますが、事実アブラハムは

行いによって義と認められたのではなく、彼が自分自身を誇る理由もありませんでした。聖書は人がどのように救われると言っていますか？その人の功績によってですか？努力によってですか？行いによってですか？アブラハムはどのようにして義とみなされましたか？何かをしたから、もしくは、しなかったからですか？それとも、信仰によってただ神を信じて信頼し、神に頼ったからでしょうか？ローマ4章3節には「**聖書は何と言っていますか。『アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた』**と書いてあります。

もしも私が失敗して罪を犯すようなことがあったとしたら、一体何が私の‘神の子ども’としての地位を保ち、滅びることから守ってくれるのでしょうか？それはイエスが私のすべての罪を十字架で負い、私自身の行いによってではなく、信仰によって私が正しい者とされた(神の前に義とされた)ことによるのです。

ローマ4章6節には「**同じようにダビデも、行いと関わりなく、神が義とお認めになる人の幸いを、このように言っています。**」と書いてあります。旧約の時代に生きたダビデは、神が人間の行いとは関係なく、人間に神の義を与え、私たち人間を神と正しい関係にあるとみなすとき、イエス・キリストを通して神と人間との間に、新しい契約(新約)が結ばれる日が来ると言っています。そして次の7節には「**幸いなことよ、不法を赦され、罪をおおわれた人たち。**」(ローマ4:7)と書いてあり、そのうえ8節には「**幸いなことよ、主が罪をお認めにならない人。**」(ローマ4:8)と書いてあります。ここには、「主が場合によっては罪を認めず(罪を赦し)、また別の場合には罪を認めることもある(罪を赦さない)だろう」とは書かれていません。「主が罪を認めない人は祝福された人だ」と書いてあるのです。ギリシャ語の聖書では、この部分は否定の強調形として書かれていて、神は私たちに‘決して、絶対に、罪による負債を負わせない’ということの意味しています。そしてこれこそが新約の良い知らせなのです。ヘブル10章16節には「**これらの日の後に、わたしが彼らと結ぶ契約はこうである。——主のことば——わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにこれを書き記す**」と書いてあり、さらに神はその契約の一部として、次の17節で「**わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない**」(ヘブル10:17)と約束しているのです。もしもあなたが罪を犯し、その罪を神の前で告白する時間がなかったとしたら、何があなたの神の子どもとしての地位、あなたが義であること、あなたと神との正しい関係を保ってくれるのでしょうか？それは、イエス・キリストにあるあなたの信仰です。私たちが信じ続けるべき方の名はイエスであり、イエスこそが人々を罪から救うのです(マタイ1:21)。

振り返りのための質問とみことば

1. ローマ4:5を読みましょう。神はどのような人を義と認めますか？

ローマ4:5 しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

2. ローマ4:2-3を読みましょう。神はアブラハムが神を信じたときに、彼が以前は持ち合わせていなかったものを与え、アブラハムを〜と認めました。神はアブラハムを何と認めましたか？

ローマ4:2-3 もしアブラハムが行いによって義と認められたのであれば、彼は誇ることができます。しかし、神の御前ではそうではありません。^[3] 聖書は何と言っていますか。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあります。

3. ローマ4:22-24を読みましょう。もしも私たちがアブラハムと同じように神を信じるなら、神は私たちを何と認めますか？

ローマ4:22-24 だからこそ、「彼には、それが義と認められた」のです。^[23] しかし、「彼には、それが義と認められた」と書かれたのは、ただ彼のためだけでなく、^[24] 私たちのためでもあります。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、義と認められるのです。

4. ローマ4:6を読みましょう。神は何によって人を義と認めますか？

- A. 行いによって。
- B. 行いとは関係なく。
- C. その人がどれだけ素晴らしいかによって。

ローマ4:6 同じようにダビデも、行いと関わりなく、神が義とお認めになる人の幸いを、このように言っています。

5. ヘブル10:14を読みましょう。イエスを信じる者たちは、どれくらいの間、神の前で完成された者(聖なる者)としていられますか？

ヘブル10:14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ

物によって永遠に完成されたからです。

6. ローマ5:17を読みましょう。義はどのように受け取ることができますか？
- A. 努力によって。
 - B. 贈り物として。
 - C. 行いによって。

ローマ5:17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。

7. 「賜物」という言葉はどのようなことを意味していますか？
8. イエスをあなた自身の救い主であると信じるからには、イエスがあなたを～まで連れて行ってくれるということを信じなければなりません。～とはどこでしょうか？
- A. 教会。
 - B. 天国。
 - C. ロシア。

質問の解答 — レッスン

1. ローマ4:5を読みましょう。神はどのような人を義と認めますか？
不敬虔であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人。
2. ローマ4:2-3を読みましょう。神はアブラハムが神を信じたときに、彼が以前は持ち合わせていなかったものを与え、アブラハムを〜と認めました。神はアブラハムを何と認めましたか？
義(神の前に正しい者である)と認めた。
3. ローマ4:22-24を読みましょう。もしも私たちがアブラハムと同じように神を信じるなら、神は私たちを何と認めますか？
義(神の前に正しい者である)と認める。
4. ローマ4:6を読みましょう。神は何によって人を義と認めますか？
B. 行いとは関係なく。
5. ヘブル10:14を読みましょう。イエスを信じる者たちは、どれくらいの間、神の前で完成された者(聖なる者)としていられますか？
永遠に。
6. ローマ5:17を読みましょう。義はどのように受け取ることができますか？
B. 贈り物として。
7. 「賜物」という言葉はどのようなことを意味していますか？
受け取る側の人には代金を払うことなく、ただで与えられ、ただで受け取るもの。
8. イエスをあなた自身の救い主であると信じるからには、イエスがあなたを〜まで連れて行ってくれるということを信じなければなりません。〜とはどこでしょうか？
B. 天国。

神のことばの完全性・一貫性

アンドリュー・ウォマック

マルコ4章は、神のことばの完全性・一貫性—それは神の力・品性・信仰がそのことばの中にあること—について、非常によく書かれている章です。この章では、ある一日のうちにイエスが少なくとも十のたとえ話を使って人々に教えています。イエスが使ったたとえ話のうちの一つが、種を蒔く人のたとえ話です。この種を蒔く人のたとえ話については、マルコ4章と、マタイ13章およびルカ8章とを照らし合わせて読んでみてください。さて、マルコ4章26節には「**またイエスは言われた。「神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと、**」と書いてあります。ここで、マルコ4章14節に、「種とはみことばである」と書かれていることを思い出してください。神はこの箇所では、私たちが農夫になる方法を教えているのではありません。霊的な真理を表すために、自然界で起こる出来事を使って説明しているのです。27節には「**夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。**」(マルコ4:27)と書いてあります。ここで、次の部分の理解が重要になります。ここには「その人は知りません」と書かれています。つまりその人は、種の発芽と成長がどのように起こるのか、そのメカニズムを知らないのです。

聖書についてある人たちは、「私にはあなたの言っていることが分かりません。一体どうして聖書を読むことで自分自身が変わられ、私の中で神の力が生きて働くようになるのですか?」と言うかもしれません。みことばがどのようにしてその人の人生に働くのか、私はそのすべてを理解しているわけではありませんが、みことばが確かに生きて働くことを知っています。土の中に小さな種を植えると、そんなにも小さい種からどのようにして芽が出て茎となり、茎全体に穂が出て百倍の実を付けるのか、私には分かりません。だれもその仕組みを完璧に理解している人はいないと思いますが、私たちがそれを理解していなくても、種を植えれば自然にそのようになるのです。みことばもそれと同じように機能します。聖書を読んであなたがみことばに浸ることによって、あなた自身の態度、あなたが経験することや物事に対する認識が変わっていきます。

続く28節には「**地はひとりでに実をならせ、・・・**」(マルコ4:28)と書いてあります。土は種を培養し発芽させ、その生命を解き放つために造られました。それと同じようにあなたの心は神のことばのために造られたのです。これは聖書の真理です。みことばは、あなたの心の中に植えられるためにあるのです。ですから、ただ聖書を手にとって身近なところに置いてみたり、ただ枕元に置いたり持ち歩いたりしても何の効力もありません。そのようにしたからといって、神のことばの力があなたの人生に働くことはありません。あなたはみことばを種とみなし手に取って、それを心の中に植えなければなりません。

あなたがそうするなら、あなたの心はみことばの実を実らせるように設計されているのです。みことばは自然とあなたの人生に働いて、物事の起こり方を変えていきます。先ほどの28節は、「…初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。」(マルコ4:28)というように続きます。これは成長と成熟が段階を踏んで起こることを意味しています。よく人々が私のところに来ては、「神様が将来〇〇のような素晴らしいことをしてくれると信じている」と、彼らが信じていること—それは私も応援したくなるような素晴らしいこと—を私に言ってくるのですが、もしその人が今までそのことについて何もしたことがなく、たとえば、だれかを救いへと導いた経験もないのであれば、そういった人がいきなり数週間後にテレビやラジオのミニストリーを始めるというようなことは起こらないでしょう。

まずは一歩ずつ進んでいかなければならないのです。私たちには、神から受け取る一つ一つのステージがあり、それがこのたとえ話が示していることです。第一に、あなたは何かを始めることからスタートしなければなりません。そして期待しつつ待ち、信仰によって進み、やがて結果を生むのです。勝利を得るためには常に、踏んでいくべきステップがあるのです。ゼロから一気に加速して、瞬時に時速1,000マイル(約1,600キロ)に達するような人はいません。それがたとえ篤い信仰心から出た思いだったとしても、そのようには機能しないのです。このみことばは、神の国が種のようなことを示しています。まずはみことばが、あなたの心に植え付けられなければなりません。そして成長が段階的に起こります。初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂の中に実ります。次の29節には「実が熟すと、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。」(マルコ4:29)と書いてあります。段階を経て、やがて実りと成熟の時が来るのです。

少し先の35節は、神のことばの完全性・一貫性について理解するための鍵となる箇所です。「さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに「向こう岸へ渡ろう」と言われた。」(マルコ4:35) イエスは一日中、弟子たちにみことばの力—それは種のようなもので、みことばを通してどのように神の力がその人の人生に働くのか—について教えていました。イエスは少なくとも十のたとえ話を使ってこのことを教え、その後、弟子たちをテストしたのです。イエスは弟子たちに「いいですか、これは主からのことばです。湖の向こう岸へ渡りましょう」と言いました。イエスは、「ではボートに乗って湖の真ん中まで行って、そこで溺れましょう」とは言いませんでした。ただ、「向こう岸へ渡りましょう」と言ったのです。そしてイエスはボートに乗り込み、眠りにつきました。その後、大きな嵐が来て、ボートに水が入り沈みそうになるという話の展開です。ここで忘れてはならないのは、このボートが決して*キャビクルーザー[*生活できるほどの設備を整えた大型のボート]ではなかったということです。つまりイエスは、嵐の中で濡れることもなく、何が起きているのか知らないまま眠り込んでいたわけではなかったということです。それは屋根のないボートで、イエスは水浸しになりながらも眠っていました。重要なポイントは、イエスは何が起きているのかを知りつつも、寝続けようとしていたというこ

レッスン12

とです。弟子たちは動揺しイエスのもとに来て、「先生。私たちが死んでも、かまわないのですか」(マルコ4:38)と言いました。別の表現をすると、弟子たちはイエスに向かって「あなたも何かしてください!バケツで水を汲み出しましょう!ボートをこいでください!どうにかしてください!少しは協力してください!」というように叫んでいたわけです。

私たちもこの弟子たちと同じように、よく神に向かって「神様、どうしてあなたは何もしてくれなかったのですか?」というようなことを言うことがあります。しかし神は、すでにすべてを成し遂げてくれたのです。神は、主イエスの贖いを通して、私たちに必要なものをすべて与えてくれました。神は聖書を生み出し、私たちが必要とするものの種として、私たちにみことばを与えたのです。私たちの仕事は、みことばの種を心に蒔くことです。神が与えてくれたみことばの種を手にとって心の中に植え付け、その種がいのちを解き放つようになるまで黙想することが私たちの仕事です。しかし先ほどの箇所です。弟子たちは、イエスを揺り起こして「どうしてあなたは何もしてくれないのですか?」と言いました。イエスは起き上がり、風と波を叱りつけると辺りは静かになりました。そしてイエスは振り向いて、弟子たちに「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」(マルコ4:40)と言いました。ここでイエスは、「いや、悪かった。ごめんね。わたしも何かするべきだったね」とは言いませんでした。なぜならイエスの役割は、彼らにみことばを教え、みことばの約束を与えることであり、みことばを受け入れてその約束を信じることは弟子たちの役割だったからです。神はイエスをこの地上に送ることによって、私たちにすべてを与えました。神は、私たちが人生のあらゆる領域で成功するために必要なもののすべてを、みことばの種という形で私たちに与えたのです。あなたがしなければならないのは、みことばの種を手にとって読むことで心の中に植え付け、みことばを黙想し、そのみことばについて何度も考え、あなたの中に根付かせることです。あなたがそれをするにつれて、あなた自身が立ち上がって、人生の中で起こる嵐を止めることができるようになるのです。

神が弟子たちに一番期待していたことは、彼らがその日イエスから教えられたことを自分たちのものにして、嵐の真っ只中にいる時に落ち着いて、「必ず岸の向こうへたどり着こう!」と言うことだったのではないかと思います。弟子たちは、「イエスが今日私たちに教えてくれたことから考えると、‘湖の途中まで行って溺れよう’ではなく、‘向こう岸へ渡ろう’と言ったのは、ほかでもない宇宙の創造主で、つまりこれは神の約束だ」と言うこともできたでしょう。彼らはそのことばを受け取って信仰と結び付け、自分たちで風と波とを叱りつけることもできたのです。それがまさにイエスが言ったことば、「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」(マルコ4:40)が示していることです。ですから、私たちは神のことばを信じ、それに基づいて行動する必要があるのです。

振り返りのための質問とみことば

1. マタイ13:19を読みましょう。みことばをしっかりと心に植え付けないと、どうなりますか？

マタイ13:19 だれでも御国のことばを聞いて悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪います。道端に蒔かれたものとは、このような人のことです。

2. ヨシュア1:8を読みましょう。みことばは、いつ黙想するべきですか？

ヨシュア1:8 このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分がすることで繁栄し、そのとき、あなたは栄えるからである。

3. ヨハネ6:63を読みましょう。この箇所によると、神のことばとは何ですか？

ヨハネ6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。

4. マタイ4:4を読みましょう。人は実際の食べ物だけで生きるのではなく、何によって生きるべきですか？

マタイ4:4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」

5. エペソ6:17を読みましょう。神のことばはどのような武器にたとえられますか？

エペソ6:17 救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。

6. 剣は敵にダメージを与えることができますか？

7. ローマ8:6を読みましょう。私たちが日々の生活の中にみことばを適切に取り込むなら、何が得られますか？

ローマ8:6 肉の思いは死ですが、御霊の思いはいのちと平安です。

レッスン12

8. 2コリント3:18を読みましょう。私たちが一番気にかける事柄が私たちの内側を満たします。私たちは何に焦点を合わせるべきですか？

2コリント3:18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

質問の解答 — レッスン12

1. マタイ13:19を読みましょう。みことばをしっかりと心に植え付けないと、どうなりますか？
悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪ってしまうので、人生の中にみことばの実がなくなってしまう。
2. ヨシュア1:8を読みましょう。みことばは、いつ黙想すべきですか？
昼も夜も。
3. ヨハネ6:63を読みましょう。この箇所によると、神のことばとは何ですか？
霊であり、いのち。
4. マタイ4:4を読みましょう。人は実際の食べ物だけで生きるのではなく、何によって生きるべきですか？
神の口から出る一つ一つのことばによって。
5. エペソ6:17を読みましょう。神のことばはどのような武器にたとえられますか？
剣。
6. 剣は敵にダメージを与えることができますか？
はい。
7. ローマ8:6を読みましょう。私たちが日々の生活の中にみことばを適切に取り込むなら、何が得られますか？
いのちと平安。
8. 2コリント3:18を読みましょう。私たちが一番気にかける事柄が私たちの内側を満たします。私たちは何に焦点を合わせるべきですか？
主と主の栄光。

レッスン13

神のせいじゃない

アンドリュー・ウォマック

今日は、今までの人生で神が私に示してくれたことの中でも、最も重要なことの一つを皆さんと共有したいと思います。人々は、自分の身に起こることはすべて神が起こしている、神がすべてを支配していると無意識のうちに信じ込んでいるように思えます。その理由は一般的に人々が、神とはこの世の最高位にあって全能であり、私たちの人生に起こるすべてのことを支配しているのだという定義的な前提によって捉えているからだと思います。神を信じていない人々でさえ、そのように思っています。また、こういった考え方に基づいた教義を推進するクリスチャンたちが多くいて、このような考え方は、そういった人々たちの中に深く染み込んでいます。しかしこのような教義は聖書が教えていることに反していて、私はこのことについて学ぶのは非常に重要だと考えています。ヤコブ1章13-17節には「だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されていると言っ**てはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することはありません。**^[14]人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。^[15]そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。^[16]私の愛する兄弟たち、思い違いをしてはいけません。^[17]すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。父には、移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはありません。」と書いてあります。

この箇所は、神こそが良いものの創造主であることをはっきりと示しています。イエスはヨハネ10章10節で、「**盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。**」と言っています。良いもの・良いことは神から、悪いもの・悪いことは悪魔からです。それはとても単純明解な神学です。これを理解することがなぜとても重要であるのか、その理由はヤコブ4章7節に「**ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。**」と書いてあり、このみことばが、私たちが神に従うのと同時に悪魔に対抗する必要があることを示しているからです。この箇所にある「対抗する」とは、積極的に戦うことを意味します。

人々が、人生に起こること—たとえば病気、仕事の失敗、失業、子供の反抗、離婚など—はすべて神から来るのだと信じる時、それらの悪い出来事に対して無抵抗になってしまうのです。なぜならもし人々が、神がその状況を作り、その出来事を使って人々を罰したり変えたりしようとしているのだと信じるなら、その状況に抵抗することは神に抵抗することになってしまうからです。しかしヤコブ4章7節には「**悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。**」と書いてあるのです。あなたは悪

魔にではなく、神に従う必要があります。このみことばは、ある事柄は神から来ていて、また別のある事柄は悪魔から来ることを示しています。この世には悪魔の力が働いていて、人生で起こるすべてのことが神から来るというわけではないのです。そのことを理解していないと、意に反して悪魔に従うことになり、結果的にサタンに力を与えてしまうのです。

ここで、よく間違っ引用されているローマ書の一節を取り上げたいと思います。この箇所はアメリカ人の間ではとても有名で、私は実際にいくつかの葬儀に参列したことがあるのですが、そこに集まった人たちは、神についてよく知らず、教会に行ったこともなく、聖書をほとんど知らない人たちでしたが、このローマ書のみことばだけには知っていました。ローマ8章28節には「**神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。**」と書いてあります。このみことばはよく、「あなたの人生に起こるどんなことも、それを起こしたのは神で、神が何らかの形でそれを良いことのために働かせてくれる」という風に解釈されています。私はある少年と少女の葬儀の場にいました。二人はアルコールに薬物を混ぜて飲み、酔った状態で車を運転し、滑りやすい路面状況にもかかわらずスピードを出して、その車はカーブでスリップし、電柱に衝突して二人とも亡くなってしまったのです。その葬儀の説教者はこの箇所を引用し、「私たちはすべてのことがともに働いて益となることを知っています」と言い、「神がこれを起こしたのには目的があるはずだ」と言ったのです。神がこの10代の二人を殺したのではありません。ある意味、悪魔が二人を殺したとさえ言えないでしょう。それは彼ら自身から起こったことです。悪魔が彼らをそそのかして、道徳的規範や、両親やほかの人たちの教えに反抗するように仕向けたことは間違いありませんが、結局それを選んだのは彼ら自身なのです。薬物とアルコールに浸ったのは彼ら自身です。電柱に衝突したのも彼ら自身です。それは起こるべくして起こったことであり、神がその原因ではないのです。

「**すべてのことがともに働いて益となることを知っている**」と言うとき、それはどういう意味でしょうか？ 第一に、この箇所には「すべてのことが‘神から’のもので、ともに働いて益となることを知っている」とは書いてありません。「すべてのことがともに働いて益となる」と書いてありますが、それには、「**神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには**」という条件が付いているのです。神を愛していない人には、このみことばは働きません。このみことばが条件付きであることは明らかで説明するまでもないことですが、薬物とアルコールに浸り、神とその原理に反抗していたこの二人のような事例に対して、人々がこのローマ書のみことばを適用するには驚かされます。このみことばは、「**神を愛する人たち、それは、神の計画にしたがって召された人たちにのみ、すべてのことがともに働いて益となる**」と言っているのです。

1ヨハネ3章8節には「罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」と書いてあります。神は、悪魔の働きを打ち破るためにイエス・キリストとして現れたのです。それこそが神の目的であり、神を愛し、神の計画にしたがって召された人々のためだけに、すべてのことがともに働いて益となるのです。それらの人々は、神の計画の中を歩み、悪魔に対抗し、悪魔の働きを打ち破りながら歩んでいる人々です。そのように悪魔に対抗しながら神のために生きている人々は、悪魔がどんな攻撃を仕掛けてきたとしても、神がそれを好転させ益として用いてくれると断言することができるのです。

私たちは、神が私たちの生活のすべてを支配しているのではないということを理解し、物事を見分けられるようになる必要があります。敵は殺し、盗み、破壊するために来ましたが、イエスは私たちにいのちを与えるために来たのです。私たちはいのちを選び、人生に起こることは、そのすべてが神のせいではないのだということをはっきりと認識しなければなりません。

もしも神が肉体を持った人間のような存在だったなら、そして、ガン・奇形・鬱・悲しみ・嘆きなどをもたらした張本人であったなら、この地球上のどの国の政府であれ、必ずその張本人を捕まえ、投獄するなどしてその働きを阻止しようとするでしょう。しかし神は、私たちが今までに会ったことがあるだれよりも、また、私たちが想像できるどのような人よりもはるかに慈悲深い方です。それにもかかわらず私たちは、神がこれらの悪いことをもたらすことで人々を痛めつけているのだと誤解しているのです。この世には悪魔の攻撃によって起こることと、自然現象として起こることがあり、すべての災害を神が起こしているわけではありません。アメリカの保険会社の保険約款には「地震や疫病等、神による行為」と書かれていますが、それは間違っています。神は、決してこれらすべての悪い出来事の創造主ではないのです。

振り返りのための質問とみことば

1. ヤコブ1:13を読みましょう。神が人間を誘惑することはありますか？

ヤコブ1:13 だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されていると言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することはありません。

2. ヤコブ1:17を読みましょう。良い贈り物はどこから来ますか？

ヤコブ1:17 すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。父には、移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはありません。

3. ヨハネ10:10を読みましょう。盗人とは、だれを指していますか？

ヨハネ10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

4. ヨハネ10:10によると、盗人の目的は何ですか？

5. ヨハネ10:10によると、イエスが来た目的は何ですか？

6. ヤコブ4:7を読みましょう。神に従い、悪魔に対抗するとどうなりますか？

ヤコブ4:7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

7. ローマ8:28を読みましょう。このみことばは、「すべてのことは神から来る」と言っていますか？

ローマ8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

8. 使徒10:38を読みましょう。病気は神からのものですか？

レッスン13

使徒10:38 それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。

9. 1ヨハネ3:8を読みましょう。神の御子が現れた目的は何ですか？

1ヨハネ3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。

質問の解答 — レッスン13

1. ヤコブ1:13を読みましょう。神が人間を誘惑することはありますか？
いいえ。
2. ヤコブ1:17を読みましょう。良い贈り物はどこから来ますか？
光を造られた父(神)から。
3. ヨハネ10:10を読みましょう。盗人とは、だれを指していますか？
悪魔。
4. ヨハネ10:10によると、盗人の目的は何ですか？
盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするため。
5. ヨハネ10:10によると、イエスが来た目的は何ですか？
羊たち(私たち)がいのちを得るため。それも豊かに得るため。
6. ヤコブ4:7を読みましょう。神に従い、悪魔に対抗するとどうなりますか？
悪魔はあなたがたから逃げ去る。
7. ローマ8:28を読みましょう。このみことばは、「すべてのことは神から来る」と言っていますか？
いいえ。
8. 使徒10:38を読みましょう。病気は神からのものですか？
いいえ。
9. 1ヨハネ3:8を読みましょう。神の御子が現れた目的は何ですか？
悪魔のわざを打ち破るため。

レッスン14

聖霊に満たされたいのちの力

～聖霊のバプテスマ～

ドン・クロウ

マルコ16章15-16節は、大宣教命令の箇所として知られています。イエスは弟子たちに、「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。^[16]信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。」(マルコ16:15-16)と言いました。使徒8章5節と12節では、サマリアでのピリポの宣教活動を通して、この大宣教命令が実際にどのように広まっていったのかが分かります。「ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。」(使徒8:5)「しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。」(使徒8:12)

ここで一つの疑問が浮かんできます。マルコ16章15-16節にある大宣教命令に従ったピリポの宣教活動によって、そのサマリアの人たちは本当にクリスチャンになったのでしょうか?その答えは、そうです。その人たちはクリスチャンになりました。ピリポがサマリアの町に行き、人々にイエス・キリストの名を宣べ伝え、信仰によってイエスを信じた人たちは男も女もバプテスマ(水の洗礼)を受けたのです。大宣教命令の観点から見ると、これらの人たちは‘救われた’と言えます。しかし、聖霊のバプテスマについてはどうだったのでしょうか?これらの人たちは聖霊のバプテスマを受けたのでしょうか?

聖書には、バプテスマのヨハネは水でバプテスマを授けたが、イエス・キリストだけが聖霊によるバプテスマを授けることができると書いてあります(マルコ1:8)。また、次に読む使徒の働き箇所からは、信じて救われ水のバプテスマを受けたものの、聖霊のバプテスマを受けたことがない人たちがいたことが分かります。使徒8章14-17節には「さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところに遣わした。^[15]二人は下って行って、彼らが聖霊を受けるように祈った。^[16]彼らは主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊はまだ、彼らのうちのだれにも下っていなかったからであった。^[17]そこで二人が彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」と書いてあります。

この箇所を読むと、信じて救われ、洗礼(水のバプテスマ)を受けたからといって、それは聖霊のバプテスマを受けたという意味ではないことが分かります。ヨハネ20章22節には、イエスがまだ天に上げられる前に、弟子たちに息を吹きかけ聖霊を受けさせたので、弟子たちのいのち(霊)の中に聖霊が入ってきて、新しいいのちが与えられたこと

が書かれています。しかし、彼らが聖霊のバプテスマを受け、聖霊による力を与えられたのは五旬節の日—それはイエスが天に上げられてから10日後—のことだったのです。救われたときにその人の中に聖霊が入ってくることに、その人に聖霊が臨んで聖霊のバプテスマを受けることとは異なります。‘聖霊のバプテスマを受ける’とは、聖霊がその人に臨んで聖霊に満たされることによって力が与えられることです。つまり救われたからといって、一概に聖霊のバプテスマを受けているとは言えないのです。

使徒19章1-2節には「アポロがコリントにいたときのことであった。パウロは内陸の地方を通してエペソに下り、何人かの弟子たちに出会った。^[2]彼らに「信じたとき、聖霊を受けましたか」と尋ねると、彼らは「いいえ、聖霊がおられるのかどうか、聞いたこともありません」と答えた。」と書いてあります。この箇所では、パウロは弟子たちに「信じたとき、聖霊を受けましたか?」と聞いています。彼らは「聖霊については何も知りません」と答えました。パウロはさらに、「信じたときに聖霊のバプテスマを受けなかったのなら、どのようなバプテスマを受けたのですか?」と尋ねました。彼らは、「ヨハネのバプテスマです」(使徒19:3)と答えました。私はこのときパウロが、イエスがキリスト(救い主)であること、つまり、信じて救われることがどういうことであるのかを、改めてよく説明したので、それを聞いた弟子たちは、ヨハネのバプテスマ(水のバプテスマ)をすでに受けていることによって、自分がすでにイエスと一つの霊になっているのだということを理解することができたのだと思います。そして、使徒19章6-7節には「パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が彼らに臨み、彼らは異言を語ったり、預言したりした。^[7]その人たちは、全員で十二人ほどであった。」と書いてあります。

この人たちは、*来たるべき方であるメシア[*イエスがキリストであることを限定する言葉]を信じた弟子たちでしたが、まだ聖霊のバプテスマを受けてはいませんでした。救われて水のバプテスマを受けていたとしても、聖霊のバプテスマは受けていないということがあり得るのです。聖霊のバプテスマを受けることは、救われること、水のバプテスマを受けることとは異なる別の体験なのです。

仮に私が水のバプテスマを授けることはできたとしても、聖霊のバプテスマを授けることはできません。イエスだけがそれを行うことができるのです。もしあなたがまだ一度も、イエスに聖霊のバプテスマを授けてくれるように祈り求めたことがないのなら、今それをしてみませんか?ルカ11章13節には「ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます。」と書いてあります。きっと今がその時です!

振り返りのための質問とみことば

1. マルコ16:16、使徒8:5、使徒8:12を読みましょう。使徒8:12に書かれている人々は、クリスチャンになりましたか？

マルコ16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

使徒8:5 ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

使徒8:12 しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。

2. 使徒8:14-16を読みましょう。これらの人々は、すでに聖霊のバプテスマを受けていましたか？

使徒8:14-16 さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところに遣わした。^[15]二人は下って行って、彼らが聖霊を受けるように祈った。^[16]彼らは主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊はまだ、彼らのうちのだれにも下っていなかったからであった。

3. 使徒19:1-5を読みましょう。これらの人々は、イエスを信じていましたか？

使徒19:1-5 アポロがコリントにいたときのことであった。パウロは内陸の地方を通過してエペソに下り、何人かの弟子たちに出会った。^[2]彼らに「信じたとき、聖霊を受けましたか」と尋ねると、彼らは「いいえ、聖霊がおられるのかどうか、聞いたこともありません」と答えた。^[3]「それでは、どのようなバプテスマを受けたのですか」と尋ねると、彼らは「ヨハネのバプテスマです」と答えた。^[4]そこでパウロは言った。「ヨハネは、自分の後に来られる方、すなわちイエスを信じるように人々に告げ、悔い改めのバプテスマを授けたのです。」^[5]これを聞いた彼らは、主イエスの名によってバプテスマを受けた。

4. 使徒19:6-7を読みましょう。彼らはこの時点よりも前の段階で、すでに聖霊のバプテスマを受けていましたか？

使徒19:6-7 パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が彼らに臨み、彼らは異言

を語ったり、預言したりした。^[7]その人たちは、全員で十二人ほどであった。

5. ルカ11:13を読みましょう。聖霊を受けるためには、何をすると書いてありますか？

ルカ11:13 ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます。

6. 1コリント14:2を読みましょう。私たちが異言で話すとき、何をしていますか？

1コリント14:2 異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませんが、御霊によって奥義を語るのです。

7. 1コリント14:14を読みましょう。私たちが異言で祈るとき、何をしていますか？

1コリント14:14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。

8. 1コリント14:16-17を読みましょう。私たちが異言で話す(もしくは祈る)とき、何をしていますか？

1コリント14:16-17 そうでないと、あなたが霊において賛美しても、初心者の席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。^[17]あなたが感謝するのはけっこうですが、そのことでほかの人が育てられるわけではありません。

9. 使徒2:4を読みましょう。私たちが異言で話すとき、話している(口を開いて声を出している)のは聖霊ですか？それともその人自身ですか？

10. 使徒2:4によると、その人に語らせているのはだれですか？

使徒2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

質問の解答 — レッスン14

1. マルコ16:16、使徒8:5、使徒8:12を読みましょう。使徒8:12に書かれている人々は、クリスチャンになりましたか？
はい。
2. 使徒8:14-16を読みましょう。これらの人々は、すでに聖霊のバプテスマを受けていましたか？
いいえ。
3. 使徒19:1-5を読みましょう。これらの人々は、イエスを信じていましたか？
はい。
4. 使徒19:6-7を読みましょう。彼らはこの時点よりも前の段階で、すでに聖霊のバプテスマを受けていましたか？
いいえ。(注: この箇所には、聖霊のバプテスマを受けることと救われることとは、異なる別の体験であるということが示されている。)
5. ルカ11:13を読みましょう。聖霊を受けるためには、何をすると書いてありますか？
天の父(神)に求める。
6. 1コリント14:2を読みましょう。私たちが異言で話すとき、何をしていることになりますか？
神に向かって、御霊によって奥義を語っている。
7. 1コリント14:14を読みましょう。私たちが異言で祈るとき、何をしていることになりますか？
その人の霊が神に祈っている。
8. 1コリント14:16-17を読みましょう。私たちが異言で話す(もしくは祈る)とき、何をしていることになりますか？
その人の霊において賛美し、神に感謝をささげている。
9. 使徒2:4を読みましょう。私たちが異言で話すとき、話している(口を開いて声を出している)のは聖霊ですか?それともその人自身ですか？
その人自身。
10. 使徒2:4によると、その人に語らせているのはだれですか？
聖霊。

レッスン15

聖霊のバプテスマを受ける

ドン・クロウ

今日は、どうすれば聖霊のバプテスマを受けられるのかについて話します。使徒10章1節には「さて、カイサリアにコルネリウスという名の人があった。イタリヤ隊という部隊の百人隊長であった。」と書いてあります。百人隊長とは、当時の軍の階級で、50人から100人程度の連隊を率いていた指揮官のことです。続いて2節には「彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。」(使徒10:2)と書いてあります。ここには、彼は正義の味方のような人で道徳的に正しいことをし、神を恐れ、困っている人々に多くのお金を与え、いつも神に祈っていた様子が書かれています。しかし驚くべきことに、この後の箇所を読むと、彼は正しいことをして神を恐れ、常に祈る生活を送っていたにもかかわらず、イエス・キリストを通して神との個人的な関係を持っていなかったことが分かります。

続く3-6節には「ある日の午後三時ごろ、彼は幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。その御使いは彼のところに来て、「コルネリウス」と呼びかけた。^[4]彼は御使いを見つめていたが、恐ろしくなって言った。「主よ、何でしょうか。」すると御使いは言った。「あなたの祈りと施しは神の御前に上って、覚えられています。^[5]さあ今、ヤツファに人を遣わして、ペテロと呼ばれているシモンという人を招きなさい。^[6]その人は、シモンという皮なめし職人のところに泊まっています。その家は海辺にあります。」(使徒10:3-6)と書いてあります。

この百人隊長は神を恐れ、行いにおいては常に正しいことをして、神に祈る生活を送っていましたが、そんなある日、彼の下に天使が現れて「コルネリウスよ、あなたは人を遣わして、ペテロと呼ばれているシモンという人を招きなさい。その人が、あなたにすべきことを教えてください」と告げられたのです。使徒10章43節を読むと、ペテロが彼に言ったその「すべきこと」が何であったのかが分かります。ペテロは「預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名*(主イエスの名)によって罪の赦しを受けられると、証ししています。」(使徒10:43)[*()内は筆者による加筆]と言いました。つまりこの箇所から、このような素晴らしい評判を得ていた百人隊長は、その評判の良さにもかかわらず、イエス・キリストを通して神との個人的な関係を持ってはいなかったという驚くべきことが分かるのです。神が彼に、「あなたがしていることは大変素晴らしく良いことで、わたしはそれを知っているが、わたしがあなたに対して今、何をしようとしているのかを教えよう。わたしは、あなたがペテロという名の男の下に人を遣わすよう命じるために天使を送った。そのペテロという男が、あなたがすべきことを教えるだろう」と言ったのち、ペテロがコルネリウスの家に行き、「預言者たち

もみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名*(主イエス・キリストの名)によって罪の赦しを受けられると、証しています。」(使徒10:43)[*()内は筆者による加筆]と言って、彼がすべきことを教えたのです。

ここで、ペテロがコルネリウスの家に行ったときに何が起こったのかを見てみましょう。「ペテロがなおもこれらのことを話し続けていると、みことばを聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。」(使徒10:44) コルネリウスは、ペテロからキリストにある信仰について聞いたとき、罪の赦しを信じ、キリストへの信仰を持ちました。彼がイエスを信じるとすぐに、彼とその家にいたすべての人に聖霊が下りました。45節には「割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたことに驚いた。」(使徒10:45)と書いてあります。ペテロたちは、どうしてコルネリウスとその家にいた人たちに聖霊が下ったことが分かったのでしょうか?次の節に「彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。」(使徒10:46)と書いてあります。

新約聖書には、聖霊が下ると必ず、その人に聖霊の賜物が現れて、その人が聖霊の満たし(聖霊のバプテスマ)を受けたという証拠が与えられたこと、そしてその人は異言を語ったり預言したりしたことが書かれています。

ある晩私は、テキサス州ダラスの野原の中でひざまずいて、「神様、私には、ほかの人たちが言っている異言のことや聖霊のバプテスマのことはよく分かりません。でも、あなたを賛美し、あなたの偉大さをほめたたえるために、人間としての言葉の域を超えることができる何かがあるのなら、私はそれが欲しいです」と祈って神を賛美し始めました。私が賛美するにつれて、聖霊が私に今まで習ったこともない知らないことば、つまり異言を与えてくれました。使徒2章4節には「すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。」と書いてあります。他国のいろいろなことば(異言)で話し始めたのはだれでしょうか?それは彼ら自身です。異言を与えたのはだれでしょうか?それは聖霊です。

ルカ11章13節には「ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます。」と書いてあります。今あなたがしなければならぬのは、神に聖霊のバプテスマとそのしるしを祈り求め、それを受け取ったと信じて神に自分を明け渡し、主を賛美し始めることです。そうすれば、神を賛美しほめたたえるための、今までに習ったこともない新しいことば(異言)を神が与えてくれるでしょう。

振り返りのための質問とみことば

1. 以下の六つの聖書箇所から、救いとはどのようなことであるかを説明してみましょう。

ヨハネ3:3 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

使徒3:19 ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。

マルコ16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

コロサイ2:13 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、

ローマ8:9 しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちではなく、御霊のうちにいるのです。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。

マタイ25:46 こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入るのです。」

2. 使徒11:15を読みましょう。聖霊のバプテスマは、どのように表現されていますか？

使徒11:15 そこで、私が話し始めると、聖霊が初めに私たちの上に下ったのと同じように、彼らの上に下ったのです。

3. ヨハネ20:22でイエスの弟子たちは聖霊を受けましたが、聖霊のバプテスマを受けたのは、使徒2:1-4のとき、つまり、初めて聖霊を受けてから数日後のことでした。これらの事実を、この二つの箇所(ヨハネ20:22と使徒2:1-4)を読んで比較してみましょう。

ヨハネ20:22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

使徒2:1-4 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。^[2]すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。^[3]また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。^[4]すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

4. 使徒1:8を読みましょう。聖霊のバプテスマの目的は何ですか？

使徒1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

5. 使徒2:38-39と1コリント1:7を読みましょう。私たちも実際に聖霊のバプテスマを体験することができるでしょうか？

使徒2:38-39 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。^[39]この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

1コリント1:7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっています。

6. ルカ11:13を読みましょう。聖霊のバプテスマを受けていないなら、今すべきことは何ですか？

ルカ11:13 ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます。」

7. 使徒2:4を読みましょう。神から与えられた祈りのことば(異言)を使って神に祈り求め、神から受け、神に向かって話し、賛美するのはあなた自身ですか？それとも聖霊ですか？

使徒2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

質問の解答 — レッスン15

1. 以下の六つの聖書箇所から、救いとはどのようなことであるかを説明してみましょう。
 - 霊において新しく生まれること。(ヨハネ3:3)
 - 悔い改めて神に立ち返ること。(使徒3:19)
 - 信じてバプテスマを受けること。(マルコ16:16)
 - 赦されること。(コロサイ2:13)
 - キリストの御霊を持っていること。(ローマ8:9)
 - 永遠のいのちに入ること。(マタイ25:46)
2. 使徒11:15を読みましょう。聖霊のバプテスマは、どのように表現されていますか？
聖霊がその人の上に下る。
3. ヨハネ20:22でイエスの弟子たちは聖霊を受けましたが、聖霊のバプテスマを受けたのは、使徒2:1-4のとき、つまり、初めて聖霊を受けてから数日後のことでした。これらの事実を、この二つの箇所(ヨハネ20:22と使徒2:1-4)を読んで比較してみましょう。
ヨハネ20:22で弟子たちは初めて聖霊を受けた。使徒2:1-4では、その同じ弟子たちが聖霊に満たされ聖霊のバプテスマを受けた(内面的な満たしにより、外的な力が現れた)。(使徒1:8も参照のこと。)
4. 使徒1:8を読みましょう。聖霊のバプテスマの目的は何ですか？
イエスの証人となるため(または、神の働きのため)に聖霊の力を受けること。
5. 使徒2:38-39と1コリント1:7を読みましょう。私たちも実際に聖霊のバプテスマを体験することができるでしょうか？
はい。聖霊の賜物の現れは、キリストの再臨のときに終わるが、それまでは終わらない。
6. ルカ11:13を読みましょう。聖霊のバプテスマを受けていないなら、今すべきことは何ですか？
天の父(神)に求めること。
7. 使徒2:4を読みましょう。神から与えられた祈りのことば(異言)を使って、神に祈り求め、神から受け、神に向かって話し、賛美するのはあなた自身ですか？それとも聖霊ですか？
私自身が異言で話すが、異言を与えるのは聖霊。

異言で話す/祈るメリット

アンドリュー・ウォマック

聖書の中で人々が初めて聖霊のバプテスマを受けたとき、それによって起こったことの一つは、そのすべての人々が異言で話したことでした。使徒2章4節には、五旬節の日に「**みな**が聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、**他国のことばで話した**。」と書いてあります。人々が聖霊を受けたとき、その場には‘主がここにいる’という神の臨在と力の現れがあったことが、使徒の働きの中で一貫して書かれています。

もちろん、聖霊の賜物については異言を話すことだけではなく、もっとはるかに多くのことがあります。異言で話し始めることは、聖霊のバプテスマを受けたしとしての、聖霊の賜物の重要な現れの一つです。1コリント14章13-14節には「**そういうわけで、異言で語る人は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。**^[14]もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。」と書いてあります。あなたが異言で祈るとき、それはあなたの霊が祈るのです。あなたがすでに聖霊のバプテスマを受け、日常的に異言で祈っているなら、あなたの知性が実を結ぶために、異言の解き明かしが与えられるように祈り求めてみてください。

ここで、私が聖霊のバプテスマを受けて異言で話し始めたとき、私の人生が劇的に変わったことについて話したいと思います。私は自分が救われたとき、キリストが私のうちに来てすべてのものを与えてくれたと信じていましたが、その時点では私の人生に劇的な変化はなく、その後、聖霊が私の上に臨んだとき、聖霊の力が私自身や周りの人たちに働き始めました。そしてそれまでには体験したことがなかったいくつかのことが起こり始めました。異言で祈るようになった最初の年には、異言で祈るたびに、「自分はきっと、どこかおかしくなってしまうに違いない。異言で祈るのは単なる時間の無駄だ」と思っていました。異言で祈るには信仰が必要なのです。それがユダ1章20節に「**あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。**」と書いてある理由です。異言で祈ることによって私たちの思考は、単に人間的な考えや理由付けの域を超え、超自然的な信仰の領域へと導かれるのです。

私が経験したもう一つのことは、異言で祈ると、何年も思い出さなかった人たちのことが急に心に浮かんでくることでした。そして私はその人たちのために祈りました。するとその数日後にその人たちから連絡が来て、私が祈ったタイミングで奇跡的なことがその人たちの身に起こったということが分かったのです。同じようなことが何度も起こ

ったので、その出来事を総合的に考えてみた結果、私が異言で祈っているときは、単に人間としての能力の域を超えた神の知恵によって祈っているのだということに気づきました。また、私の霊の部分はすべてを分かっている、キリストの思考によって、人間としての知的な理解だけでは決してできない方法で、他のだれかのために祈っているのだということが分かりました。

ある日、私は異言で祈りながら一先ほど伝えたように、異言で祈るには信仰が必要なのですが—「こんな意味不明な言葉で祈るよりも普通の言葉で祈って、この時間をもっと有効に使った方がいいのではないか」という考えと戦っていました。そして、この自分の考えをなんとか打ち破るために、とにかく異言で祈り続けていました。するとそのとき突然、4年間も会っていなかった知人がやって来て、私の家のドアをノックしました。彼は家の中に入って来て挨拶もせず、その場に座り、いきなり泣きながら、彼が抱えているたくさんの悩みについて話し始めました。私もその場に座り、「なんてこった。あんな変な言葉で祈っているのを聞かれました。普通の言葉で祈るべきだった」と思っていました。そして次に考えたことは、「4年間もずっと会っていなかったこの人のためにどう祈るべきか、私に分かるはずがない」ということでした。そこまで考えが及んだとき、私はついに、異言で祈っていたことはじつは、神が私をこの知人のために準備していたのだということに気づき始めました。人間としての知性で普通に祈っていたのでは決してできなかった方法で、私は彼のためにとりなしの祈りをしていたのだということに気づいたのです。そしてそのとき突然、神からの啓示が与えられ、私はその知人に「私にはあなたが抱えている問題が分かります」と言い、彼がまだ話していない部分までも、彼の身に起こっている問題のすべてを話し、彼がどうすべきか、神からの答えを告げることができたのです。

異言で祈ることで私の身に起こったこの変化について話すためには、私が以前は、ある特定宗派の教会に所属していて、異言のことなど教えてもらったことがなかったということを理解する必要があります。そのとき私の知人は、私に何が起こったのか分かりませんでした。そして私自身も、一体何が起きているのか分かりませんでした。そのため、その啓示が突然与えられたとき、私たちは二人とも、そのことを恐ろしく感じました。しかしそれは神の力の現れであり、神がその啓示を超自然的に用いたのです。それが先ほど読んだ1コリント14章14節にあった「異言で祈るなら、私の霊が祈る」ということばが意味していることなのです。救われたときあなたの霊は生まれ変わり、キリストの思考を持つようになるので、あなたの霊の部分は何をすべきかを完全に分かっているのです。霊の部分には神からの油注ぎがあるので、その霊はすべてを知っていて限界がないのです。もしもあなたが、あなたの霊の部分からの力と啓示によって歩むことができるなら、あなたの人生は大きく変わることでしょう。人生を大きく変えるための方法、—これは唯一の方法ではなく、いくつかある中の一つですが—それは日常的に異

言で祈ることです。そして異言で祈るとき、あなたの中の最も聖なる信仰の上に自分自身を築き上げているのだということ、つまりそれは、あなたの霊が、隠された奥義である神の知恵によって祈っているのだ、神の素晴らしい啓示が与えられるのだということ、それを理解し、それを信じて祈ってください。また、1コリント14章13節に「**異言で語る人は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。**」と書いてあるように、異言の解き明かしを祈り求めてください。個人的に異言で祈ってその解き明かしをするというのは、たとえば外国語を通訳するように、異言と普通の言葉を交互に使って、異言を訳しながら祈るということではありません。それは、あなたの知性が実を結ぶこと、つまり、思考によって神からの啓示を理解することを意味します。

ただし、教会の礼拝において異言で何かを語るなら、それを普通の言葉で他の人に分かるように解き明かす必要があります。そうではなく、自分だけで個人的に異言で祈るなら、それによって神が自分に啓示を与えてくれることを信じて祈るのです。私の場合そうすることで、いつもではありませんが、物の見方が変わります。何か特別な言葉が与えられるわけではありませんが、突然物事がはっきりと見え、今までとは違った観点で物事を見ることができるようになるのです。ある一つの事柄について、神からの啓示を完全に受け取るまでに一週間ぐらいかかることもあります。その間に異言で祈るのに費やす時間と、その解き明かしに費やす時間は無駄なものではなく、神からの啓示を受け取るために必要な費やすべき時間だと信じています。

異言で祈ることがなぜ大事なのか、その理由はたくさんあり、言うまでもなくそれは聖霊を受けたことを証明する以上の意味があります。異言で祈ることは日常生活の一部であるべきです。異言の祈りは、天の父なる神と直接的に深いコミュニケーションをとるための方法であり、自分の中に起こる疑いや恐れを振り切るための手段です。異言は、あなたの最も聖なる信仰の上に自分自身を築き上げ、隠された奥義である神の知恵をあなたの思考の中に解き放つのです。今日ここで学んだ皆さん全員が、聖霊の導きに仕掛けて信仰を働かせて異言で話し始め、異言で祈ることによってもたらされる神からの恩恵を最大限に受けることができるようにと祈ります。

振り返りのための質問とみことば

1. ユダ1:20を読みましょう。聖霊によって異言で祈ることで、どのような素晴らしいメリットがありますか？
ユダ1:20 しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。
2. 使徒2:4を読みましょう。集まっていたうちの何人が聖霊に満たされましたか？
使徒2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。
3. 使徒2:4によると、人々が聖霊に満たされた結果、何をし始めましたか？
4. 1コリント14:14を読みましょう。異言で祈るとき、あなたのどの部分が祈っていますか？
1コリント14:14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。
5. 1コリント14:2を読みましょう。異言で語るとき、その人はだれに向かって語りかけることになりますか？
1コリント14:2 異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませんが、御霊によって奥義を語るのです。
6. 1コリント14:2によると、異言で語るとき、その人は自分が語っている内容を理解していますか？
7. 1コリント14:2によると、異言で語るとき、あなたの霊は何を語っていますか？
8. 1コリント14:4を読みましょう。異言で語るとき、あなたは何をしますか？
1コリント14:4 異言で語る人は自らを成長させますが、預言する人は教会を成長させます。
9. 1コリント14:16を読みましょう。異言で祈るとき、あなたは何をしていますか？
1コリント14:16 そうでないと、あなたが霊において賛美しても、初心者の席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。

質問の解答 — レッスン16

1. ユダ1:20を読みましょう。聖霊によって異言で祈ることで、どのような素晴らしいメリットがありますか？
自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げることになる。
2. 使徒2:4を読みましょう。集まっていたうちの何人が聖霊に満たされましたか？
皆。
3. 使徒2:4によると、人々が聖霊に満たされた結果、何を始めましたか？
他国のいろいろなことばで話し始めた。
4. 1コリント14:14を読みましょう。異言で祈るとき、あなたのどの部分が祈っていますか？
霊の部分。
5. 1コリント14:2を読みましょう。異言で語るとき、その人はだれに向かって語りかけることになりますか？
神。
6. 1コリント14:2によると、異言で語るとき、その人は自分が語っている内容を理解していますか？
いいえ。
7. 1コリント14:2によると、異言で語るとき、あなたの霊は何を語っていますか？
 - 奥義。
 - 秘められたこと。
 - 神と自分の間だけの親密なこと。
8. 1コリント14:4を読みましょう。異言で語るとき、あなたは何をしますか？
自らを成長させる。
9. 1コリント14:16を読みましょう。異言で祈るとき、あなたは何をしていますか？
霊において賛美し、神に感謝をささげている。

Discipleship Evangelism

～真の福音を学び
イエスに付き従う者となるための
スタディブック～



レベル2

目次

レベル2

1. 自己中心性	2-101
2. みことばの黙想	2-107
3. 思考を新たにする	2-111
4. キリストの教会の重要性と意義	2-116
5. 悪霊からの解放	2-125
6. イエスを信じる者たちが持つ権威	2-131
7. 十字架で成し遂げられた癒やし	2-139
8. 癒やしの妨げとなる要因	2-146
9. 他の人を赦すこと	2-154
10. 結婚(1)	2-163
11. 結婚(2)	2-169
12. 神の愛(1)	2-178
13. 神の愛(2)	2-186
14. 財政(1)	2-194
15. 財政(2)	2-200
16. 祈りが答えられないように思えるとき	2-205

レッスン1

自己中心性

アンドリュー・ウォマック

私たちの中にある自己中心性は、じつに多くの場合、私たちが遭遇する体験がどのようなものになるのかを決める要因となっています。箴言13章には、皆さんに改めてよく考えてもらいたい箇所があります。なぜなら、さらっと読み流してしまうとそこに書いてある重要なことを見逃してしまうからです。10節には「***プライドによってのみ、口論は生じ、知恵は勧告を聞く者とともにある。**」[*Proverbs 13:10 **Only by pride cometh contention: but with the well advised is wisdom.** KJVからの直訳]と書いてあります。なぜ口論や争いが起こるのかについて考えたとき、最初に多くの人が「いや、口論や争いを引き起こすのはプライドだけではないはずだ」「箴言17章14節には口論は争いの始まりと書いてあるから、争いは単にプライド以上のものによって起こるはずだ」「私はある人からこんなことをされたから…」またある人たちは、「あなたには理解できませんよ。なぜなら短気なのは私の性格的なものだから…」などと言うでしょう。しかし、みことばにはプライドだけが口論を引き起こすと書いてあるのです。プライドは‘おもな原因のうちの一つ’ではありません。プライドが唯一、口論の原因なのです。ある人たちは再びこれについて考えて、「私はあらゆる種類の問題を抱えているがプライドは持っていない。むしろ私の問題は自尊心が低いことにあるから、だれも私のことをプライドが高いと言って非難することはできない」などと言うでしょう。

ここでプライドの定義を見直す必要があります。プライドとは、あなたが他のだれかよりも優れていると考えることだけではなく、最もシンプルに言い表すならそれは、自分自身を中心とした視点から一つ一つの物事を捉えることです。つまり、自己中心性がすべてのプライドの根源なのです。民数記12章2節でミリアムとアロン、つまりモーセの姉と兄が*異人種間の結婚[*現代でいう国際結婚のようなもの]のことでモーセを非難しにやって来て、「**主はただモーセとだけ話されたのか。われわれとも話されたのではないか。**」と言いました。そして3節には、***モーセは地球上で最も謙遜な人だった[*さて、モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった。新改訳第三版(旧版)]**と書いてあります。モーセは彼らが言ったことに対して反撃する代わりに彼らのために祈り、とりなしを始めたのです。

ここで「モーセは地球上で最も謙遜な人だった」と書いてある箇所について考えてみましょう。当時、地球の人口がどれくらいだったのかは分かりませんが、少なくとも数百万人はいたことでしょう。そしてモーセはこれらすべての人々の中で最も謙遜な人だったのです。この箇所についての驚くべきことは、モーセ自身がこの一文を書いた人だったということです。ほとんどの人は、本当にその人が謙遜であるならば本人はその

レッスン1

自覚すら持っていないだろうと考えることでしょう。しかしそれは、プライド(傲慢さ)が本当にどういうことであるのかについての誤った考え方です。プライドとは、あなたが他のだれよりも優れていると考えることだけではなく、自己中心性そのものなのです。たとえるなら一本の棒の片端に傲慢さをぶら下げ、もう片端に自尊心の低さをぶら下げているようなものです。傲慢さと自尊心の低さは相対する表現ですが、両方とも同じ棒の上にあるのです。これがつまり、自己中心性なのです。自分が他の人よりも優れていると思うのか、または、他の人よりも劣っていると思うのかは関係ありません。そのどちらも自己中心性から来るのです。あなたの中に自己中心性が強くあるなら、すべては自己中心性のフィルターを通してやって来ます。臆病で何をするにもためらってしまうような人は、じつはプライドが高く自己中心的で自分のことばかり考えています。

ここで確認しておきたいポイントは、自己中心性がすべてのプライドの根源であって、箴言13章10節に戻ると「**プライドによってのみ、口論は生じ…**」とあり、つまり私たちに怒りを引き起こさせるものは私たちの自己中心性なのであって、他の人々が自分に対して何をするのかが原因ではないということです。私たちの自己中心性が他の人々の行動に対して反応を起こさせるのです。他の人があなたを不快にするような言動をとることを完全にやめさせることはできません。そういったことを完全に避けて生きることは不可能なのです。信仰は他の人をコントロールすることではなく、あなた自身が自分の内側の問題に取り組むことを助けます。ですから、他の人々があなたに対して何をするのかは問題ではないのです。

イエスが十字架につけられていたとき、イエスは自分を十字架につけたその人たちを見ながら「**父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。**」(ルカ23:34)と言いました。イエスはその人たちをコントロールするのではなく、自分自身をコントロールしました。この例からも分かるように、私たちが怒らせるのは自分の中にある自己中心性なのです。イエスはこの世をとっても愛していたので、自分自身のためにこの地上に来たのではなく、私たちのためにこの地上に来てくれました。イエスは十字架につけられながらも自分の母親のことを思い、弟子の一人にイエスの母親の世話をするように頼みました。イエスが激しい苦痛と不当な仕打ち、そして、彼に降りかかってくるすべての事の真っ只中で人々を赦し愛によって行動することができたのは、彼が自己中心的ではなかったからです。

あなたに怒りをもたらす原因の根本は、あなたの中にある自己中心性です。しかし、みことばには「あなたは自分自身に死んでいるはずである」ということが書いてあります(ガラテヤ2:20)。もしも目の前に死体が転がっていて、その死体に向かってバカにすることを言ったり蹴ったり、つばを吐きかけたり無視したりしたとしても、それが本当に死体であるのなら全く反応を示さないでしょう。あなたが周りの事柄に反応を示すとき、

その反応の原因は周りの事柄にあるのではなく、あなた自身の内側にあるのです。あなたの信仰がどんなに強くなったとしても、身の回りの障害物や不快に感じる物事の一つ一つをすべて取り除けるようにはならないでしょう。しかし信仰の力によって、あなた自身の内側の問題に取り組むことができるのです。イエスを自分の人生の主とし、自分自身を愛する以上にイエスと神の王国、他の人々を愛することができるようになるのです。あなたが自分自身の内側の問題に取り組むことで自己中心的な考え方を打ち破るにつれて、あなたの日常の中で口論や争いが止んでいくことに気づくでしょう。

神があなたの人生に与えてくれた信仰の力を実生活に適用するための重要なポイントの一つは、神の王国はあなたの利己的な目的を達成するために与えられたのではないということを理解することです。神はただあなたの必要がすべて満たされるためだけに信仰の力を与えてくれたではありません。あなた自身を神にささげ、人生を神に手放すことによって、人生とは本当に何であるかを学び見出し始める必要があります。自分よりも他の人々と神を愛することで、自分の中にある怒りや傷を和らげることができるようになるのです。

神が、今日学んだいくつかのことを用いてあなたの心を開き、あなたの中にある自己中心性が、あなた自身に嘆き・悲しみを引き起こしているのだということに気づかせてくれるようにと祈ります。物事を他のだれかのせいにするのではなく、あなた自身が責任を持ち、自分の問題に向き合うことができるように、また、神の前で謙遜になれるように、神があなたの人生の中にさらに大きな存在として入って来てくれるようにと祈ります。それが、あなたが勝利の人生を歩むための秘訣なのです。

振り返りのための質問とみことば

1. マルコ9:33-34を読みましょう。カペナウムに行く道で弟子たちは何について議論していましたか？

マルコ9:33-34 一行はカペナウムに着いた。イエスは家に入ってから、弟子たちにお尋ねになった。「来る途中、何を論じ合っていたのですか。」^[34] 彼らは黙っていた。来る途中、だれが一番偉いか論じ合っていたからである。

2. 弟子たちのこの様子は、私たちの中にある自己中心性を表していますか？
3. マルコ9:35を読みましょう。この箇所には、人の先頭に立ちたいと思う者はどのような者になるべきだと書いてありますか？

マルコ9:35 イエスは腰を下ろすと、十二人を呼んで言われた。「だれでも先頭に立ちたいと思う者は、皆の後になり、皆に仕える者になりなさい。」

4. ルカ22:24-27を読みましょう。この箇所でイエスが教えたことの内容を詳しく説明してみましょう。

ルカ22:24-27 また、彼らの間で、自分たちのうちでだれが一番偉いのだろうか、という議論も起こった。^[25]すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々に対し権威を持つ者は守護者と呼ばれています。^[26]しかし、あなたがたは、そうであってははいけません。あなたがたの間で一番偉い人は、一番若い者のようにになりなさい。上に立つ人は、給仕する者のようにになりなさい。^[27]食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く人ではありませんか。しかし、わたしはあなたがたの間で、給仕する者のようにしています。

5. 箴言13:10を読みましょう。口論を引き起こす唯一のものは何ですか？

箴言13:10 *プライドによってのみ、口論は生じ、知恵は勧告を聞く者とともにある。[*Proverbs 13:10 Only by pride cometh contention: but with the well advised is wisdom. KJVからの直訳]

6. ガラテヤ2:20を読みましょう。私たちはどのように人生を生きるべきですか？

ガラテヤ2:20 もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

7. マタイ7:12を読みましょう。自己中心性を打ち破る対策はどのようなことですか？

マタイ7:12 ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。

質問の解答 — レッスン1

1. マルコ9:33-34を読みましょう。カペナウムに行く道で弟子たちは何について議論していましたか？
だれが一番偉いかについて論じ合っていた。
2. 弟子たちのこの様子は、私たちの中にある自己中心性を表していますか？
はい。
3. マルコ9:35を読みましょう。この箇所には、人の先頭に立ちたいと思う者はどのような者になるべきだと書いてありますか？
皆に仕える者になる。
4. ルカ22:24-27を読みましょう。この箇所でイエスが教えたことの内容を詳しく説明してみましょう。
また彼らの間で、やがて実現する御国でだれが一番偉いかということで議論が起きました。^[25] イエスは、それを見て言われました。「この世では、王や高官たちが支配者として権力をほしいままにしています。^[26] だが、あなたがたの間では違います。一番よく人に仕える人こそ、よく人を治める人になるのです。^[27] この世では、主人が食卓に着き、召使に給仕をさせます。しかし、あなたがたの間では、このわたしが給仕をするのです。(ルカ22:24-27 リビングバイブル)
5. 箴言13:10を読みましょう。口論を引き起こす唯一のものは何ですか？
プライド。
6. ガラテヤ2:20を読みましょう。私たちはどのように人生を生きるべきですか？
自分の優劣をだれかと比較すること(自己中心性)によって生きるのではなく、イエス・キリストへの信仰(神の御子に対する信仰)によって。
7. マタイ7:12を読みましょう。自己中心性を打ち破る対策はどのようなことですか？
神と他の人を中心にして、人からしてもらいたいことは何でも、あなたも同じように人にしてあげること。

レッスン2

みことばの黙想

ドン・クロウ

黙想とは「繰り返し思いめぐらすこと、思案すること、頭の中で構想すること、もくろむこと」を意味します。新約聖書の原語であるギリシャ語では、「頭の中で何かを回転させること」を意味し、「**想像すること**」とも訳されています。

みことばを黙想することには二つの目的があります。一つは、聖書から得た真理の知識についてじっくり考え心を新たにすること(ローマ12章2節で言及されている)、もう一つは、祈りと賛美に加えて黙想することで、みことばの奥にある神とつながることです。つまり、みことばの黙想とは神について思いをめぐらし、思案し、考えることなのです。

みことばの黙想にはトピックを決め、それについて調べていくというやり方があります。聖書の中から改めてよく考えてみたいと思うトピックを選びます。たとえば「バプテスマ」を選んだとします。ギリシャ語、旧約聖書の原語であるヘブライ語、もしくは優秀な辞書からその言葉を定義します。その言葉のもととなった原語を見つけます。聖書箇所文脈も踏まえてじっくり考えていくと、赦し(使徒2:38)・悔い改め(使徒2:38)・信仰(マルコ16:16)・良心(1ペテロ3:21)・主の名を呼ぶ(使徒22:16)など、関連するほかのトピックの学びにもつながっていきます。

たとえば、バプテスマ(水の洗礼)を受ける前に満たすべき資格や条件はあるのか?何のためにバプテスマを受けるのか?聖書の中ではいつ、どのようなタイミングでバプテスマが行われていたのかなど、あなたの中にある疑問や聖書箇所から浮かんでくる質問についてじっくり考えてみる必要があります。

みことばの黙想には一つの書を一節ごとに分解して調べていくというやり方があります。聖書の中の一書を選び、一節ごとに語彙や不明点を調べ、参照箇所や参考文献も含め詳細に読んでいきます。重要なことは、内容(節と書)全体が本当によく分かるようになるまで時間をかけてじっくりと考えながら読み解いていくことです。

みことばの黙想には単語の意味を突き詰めて調べていくというやり方があります。たとえば、「信じる」とはどういう意味か?「主」とはどういう意味か?「イエス」とはどういう意味か?「キリスト」とはどういう意味か?また、「義」の意味など、ある特定の単語を取り上げてその意味を調べていきます。

聖書の段落ごとに黙想することもできます。**段落(意味段落)**とはその文章にお

レッスン2

いてひと続きの意味を持った文の塊で、通常は複数の文によって構成されています。
*書かれている話の内容が変わると段落も変わり、通常は新しい段落が始まります。
[*一般的な日本語の聖書では、次の段落は前の段落から改行されて、行頭は1文字の字下げがある。ただし話の内容の変わり目で必ずしも段落が変わっているとは限らない。]

みことばを黙想するときは*問いかけ表現になっている箇所[*例：ヤコブ2:14など]を探してみてください。そしてなぜその問いかけがあるのか、文脈とどう関連しているのか、などについて考えてみてください。

みことばの黙想とは、単に言葉の意味について考えるということではなく、みことばの奥にある神について考えることであり、神とつながることなのです。

振り返りのための質問とみことば

1. 黙想とはどのような意味ですか？
2. みことばを黙想することの二つの目的は何ですか？
3. トピックごとの黙想とは、どのようなやり方ですか？
4. 一つの書を一節ごとに分解して調べていく黙想とは、どのようなやり方ですか？
5. ルカ6:46を読みましょう。「主」とは、どのような意味ですか？

ルカ6:46 なぜあなたがたは、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。

6. マタイ1:21を読みましょう。「イエス」とは、どのような意味ですか？

マタイ1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

7. ルカ23:1-2を読みましょう。「キリスト」とは、どのような意味ですか？

ルカ23:1-2 集まっていた彼ら全員は立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。^[2]そしてイエスを訴え始めて、こう言った。「この者はわが民を惑わし、カエサルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることが分かりました。」

8. 段落とは何ですか？
9. みことばの黙想とは、単に言葉の意味について考えるということではなく、どのようなことですか？

質問の解答 — レッスン2

1. 黙想とはどのような意味ですか？
繰り返し思いめぐらすこと、思案すること、頭の中で構想すること、もくろむこと、頭の中で何かを回転させること。
2. みことばを黙想することの二つの目的は何ですか？
 - 聖書から得た真理の知識についてじっくり考え、心を新たにすること。
 - みことばの奥にある神とつながること。
3. トピックごとの黙想とは、どのようなやり方ですか？
聖書の中から、改めてよく考えてみたいと思うトピックを選んで、それについて調べていくというやり方。
4. 一つの書を一節ごとに分解して調べていく黙想とは、どのようなやり方ですか？
聖書の中の一書を選び、一節ごとに語彙や不明点を調べ、参照箇所や参考文献も含め詳細に読んでいくやり方。
5. ルカ6:46を読みましょう。「主」とは、どのような意味ですか？
私たちが従うべき相手(たとえば会社の上司のような相手)。
6. マタイ1:21を読みましょう。「イエス」とは、どのような意味ですか？
人々を罪から救う救い主。
7. ルカ23:1-2を読みましょう。「キリスト」とは、どのような意味ですか？
王となるために油を注がれた者。
8. 段落とは何ですか？
その文章においてひと続きの意味を持った文の塊。
9. みことばの黙想とは、単に言葉の意味について考えるということではなく、どのようなことですか？
みことばの奥にある神について考えることであり、神とつながること。

レッスン3

思考を新たにする

ドン・クロウ

今日は思考を新たにすることについて話したいと思います。次の二つの聖書箇所を読んでみましょう。まず一つ目のピリピ4章8節には「最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。」と書いてあります。この箇所で使徒パウロは、私たちが考えるべきこと、心に留めるべきことは何であるかを明らかにしています。つまり、自分がどのようなことを考えるのかは選ぶことができるということです。しかしそれが分かっていたとしても、私たちはだれでもローマ7章22-23節に書いてあるように、しばしば聖書のことばに反した考えを持ってしまうことがあります。私たち自身の内側に戦いを引き起こす罪の律法が、心の律法に対して戦いを挑み、私たちの思考を攻撃するからです(ローマ7:23)。しかし先ほどのピリピの箇所からも言えるように、たとえて言うなら「いつの間にか家の軒先にツバメの巣が出来上がっていた」というようなことにならないために、私たちは自分の思考を常に見張ることによって、何について考えるのかを選ぶことができるのです。また聖書には「*人は心の中で思うとおりの人である。」(箴言23:7)[*Proverbs 23:7 For as he thinks in his heart, so is he. NKJVからの直訳]と書いてあります。ですから、私たちが何を考えるのかは本当に重要なことなのです。

二つ目の聖書箇所、ローマ12章1-2節には「ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたまさげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。^[2]この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。」と書いてあります。聖書は思考を新たにすることによって、あなたは完全に変えることができると言っているのです。アポロ宇宙船が打ち上げられた後、月に向かう道中、10分ごとに軌道修正をしなければならなかったことを知っていましたか？宇宙船は何度も軌道修正を繰り返し、ジグザグに進みながら月に向かいました。着陸目標地には500マイル(約800キロ)の区域が指定されていましたが、最終的に彼らが着陸したとき、ほんの数十センチの差でなんとかこの着陸目標区域内に入りました。それはぎりぎりではあったものの、彼らの宇宙飛行全体としては成功を収めました。私たちもこのように、自分の人生のコースをしっかりと定め、生きたまさげ物となることによって自分自身を主イエス・キリストに完全にささげ切る必要があります。ただし、生きたまさげ物の問題点は、ときどき祭壇から這い出たくなってしまうことです。だから私たちは自分の考えを常に軌道修正する必要があるのです。「神様、私にはあなたが必要です。あなたの道を歩んで行きたいです」と祈り求める心を常に持たなければなりません。

レッスン3

クリスチャンとして勝利の人生を歩むためには、自分を神に完全にささげ切る必要があるだけでなく、成長し続けるために常に新たな一步を踏み出し、思考を新しくすることによって自分自身が変わり続ける必要があります。自分の人生に起こる出来事の結末が、この世的なものになることを望んでいないなら、この世的な考え方をするのをやめましょう。ピリピ4章8節で読んだように私たちは、何を考えるのかを選ぶことができます。愛すべきこと、正しいこと、評判の良いことについて考えましょう。旧約聖書の中の人々がしていたことは、日々神のことばを受け取ってそのことばをしるしとして自分の手に結び付け、また、家の戸口の柱と門に書き記すことでした(申命記6:8-9)。そうすることで、神のことばは常に彼らの目の前にありました。神は、人々が神のことばを夜も昼も寝るときも起きるときも語り、そのことばの教えを守るように命じました。さらにこれらすべてのことを子どもたちにも教えるように命じました。私たちが何を考えるのかはとても重要です。真に勝利の人生を歩むための秘訣は、神のことばを常に自分の目の前に置いておくことです。愛すべきこと、正しいこと、評判の良いことについて考えることの対極は、神のことと聖霊の思いを考えないことです。ローマ8章6節には「**肉の思いは死ですが、御霊の思いはいのちと平安です。**」と書いてあります。聖霊の思いを考えることはいのちであり平安です。しかし姦淫を犯すこと、下品なこと、金銭を愛し追い求めること、お金・物・地位・権力などに対する貪欲な願望、そのような様々な肉の思いを思いめぐらせるとき、私たちの人生にどのようなことが起こるでしょうか? 聖書には「***人は心の中で思うとおりの人である。**」[*箴言23章7節NKJVからの直訳]と書いてあるように、もしも私たちがそのような肉の思いを思いめぐらせるなら、その思考に基づいて行動し始めるでしょう。心の中で思ったこと(思考したこと)を自分の人生の中で実演し始め、やがてそのことがその人の人生を破壊していくのです。イエスを信じる者たちにとって真の霊的戦いは、悪魔に抵抗したり悪魔をしかりつけたりすること(場合によってはそうすることが必要なこともあります)ではありません。私たちの霊的な戦いは、私たちが考えていること、思いめぐらしていることの中身と関連しているのです。

イザヤ26章3節には「***あなたは、思考をあなたに留め続ける者を全き平安のうちに守られます。**」[*Isaiah 26:3 You will keep him in perfect peace, Whose mind is stayed on You, NKJVからの直訳]と書いてあります。先ほど読んだローマ12章で述べられているように、私たちはだれでも、一日を過ごす中で常に考えを軌道修正する必要があります。「神様、今私は良くないことを考えてしまいました。この考えを方向転換させ私の思考を新しくして、愛すべきこと、正しいこと、評判の良いことについて考えることができるように助けてください」と祈り求める必要があります。

もしもあなたの中に*要塞があるなら、もしもあなたが何かの虜になってしまっているなら、もしもあなたが考えるべきではないことを考えているなら、直ちにそれに気づいてその思考をストップする必要があります[*要塞とは、敵があなたに信じ込ませた嘘によ

て思考の中に築き上げられた真理に反した考え。強固な城のように簡単には崩すことができない]。ヤコブ4章7-8節には「**ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。^{18]}神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。**」と書いてあります。だれでも時にはうっかり過ちを犯してしまい、落ち込んでしまうことがあります。そんなとき聖書を手に取って座り、みことばを読みながら「神様、これが、あなたが私について言っていることです。これが、あなたが言う‘私’です。あなたこそが私の強さです」と言うのは難しいかもしれません。でもあなたが勝利するためにすべきことはただそれをするだけ、それほどシンプルで簡単なことなのです。「私は今、敵の攻撃に立ち向かいます。座って聖書を開いて、そこに書いてあるみことばを読みます。そして、そのみことばの奥にあるあなたとつながります。私の思考が主の中に留まるようにします。主よ、これが、あなたが言う‘私’です。あなたは、私が赦された者だと言っています。あなたは、私がきよめられた者だと言っています。あなたは、あなたの愛から私を引き離すものは何もないと言っています」と声に出して言い、実際にみことばを読んでみましょう。そして神がこれまでにしてくれたすべての良いことについて考えてみましょう。そうすればあつという間に他の余計なことなど忘れてしまうことでしょう。

ここでちょっとしたエピソードを交えて説明したいと思います。ある人が、その場にいる人たちに向かって「今から10分間、ピンク色の象については考えないようにしてください」と言いました。するとどうでしょう。それを聞いた人たちは全員、次の10分間ピンク色の象のことだけを考えました。10分後にその人は「では、自由の女神は何色ですか?」と尋ねました。だれかが「緑色」と答えました。「では、自由の女神はどちらの腕を上げていますか?」と聞きました。だれかが「右の腕だ」と言いました。「自由の女神は手に何を持っていますか?」と聞くとなれかが「松明だ」と言いました。それからその人は「ピンク色の象についての考えはどうになりましたか?」と尋ねました。つまり、「〇〇については考えないように」と、ある特定の考えを禁止することがポイントではないのです。そういったところであなただけはそれについて考えてしまうことを分かっています。聖書は私たちの肉の思いを禁止するのではなく、神の考えに置き換える必要があることを教えています。そして私たちに対して敵が攻撃してくることが分かった瞬間、また、私たちが考えるべきではないことを考えてしまった瞬間、即座に私たちの新しいアイデンティティー(キリストによって新しく造られた者であること)を思い起こす必要があります。すぐに主に目を向け、単にみことばの字面を見るだけでなく、みことばの奥にある神とつながる必要があります。聖書がローマ8章6節で言っているように、私たちが思考を神と聖霊の思いに留め続けるにつれて、神が与えてくれるいのちと平安がもたらす変化を見るようになるのです。今日これらのことを考え、イエス・キリストがあなたのために代価を払い、勝ち取って与えてくれた自由の中を歩んでいきましょう。

振り返りのための質問とみことば

1. ローマ12:1を読みましょう。私たちのからだをどうするべきですか？
ローマ12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。
2. ローマ12:2を読みましょう。私たちは、何と違っているべきですか？
ローマ12:2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。
3. 使徒17:11を読みましょう。私たちの考えを何と一致させなければなりませんか？
使徒17:11 この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、非常に熱心にみことばを受け入れ、はたしてそのとおりかどうか、毎日聖書を調べた。
4. ローマ8:5-6を読みましょう。御霊の思いは何ですか？
ローマ8:5-6 肉に従う者は肉に属することを考えますが、御霊に従う者は御霊に属することを考えます。^[6] 肉の思いは死ですが、御霊の思いはいのちと平安です。
5. ローマ12:1-2を読みましょう。この箇所によれば、私たちがしなければならない二つのことは何ですか？
ローマ12:1-2 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。^[2] この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。
6. イザヤ26:3を読みましょう。どうすれば完全な平安に留まることができますか？
7. イザヤ26:3を読んで、思考を主の中に留め続けるためには、どのようなことをしたらいいと思いますか？
イザヤ26:3 *あなたは、思考をあなたに留め続ける者を全き平安のうちに守られます。[*Isaiah 26:3 You will keep him in perfect peace, Whose mind is stayed on You, NKJVからの直訳]

質問の解答 — レッスン3

1. ローマ12:1を読みましょう。私たちのからだをどうするべきですか？
神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げる。
2. ローマ12:2を読みましょう。私たちは、何と違っているべきですか？
この世、もしくは世間一般の神を信じていない人たち。
3. 使徒17:11を読みましょう。私たちの考えを何と一致させなければなりませんか？
聖書(みことば)。
4. ローマ8:5-6を読みましょう。御霊の思いは何ですか？
いのちと平安。
5. ローマ12:1-2を読みましょう。この箇所によれば、私たちがしなければならない二つのことは何ですか？
 - 自分たちのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げること。
 - 心を新たにする。
6. イザヤ26:3を読みましょう。どうすれば完全な平安に留まることができますか？
私たちの思考を主の中に留め続けることによって。
7. イザヤ26:3を読んで、思考を主の中に留め続けるためには、どのようなことをしたらいいと思いますか？
 - 祈る。
 - 賛美する。
 - みことばを黙想する。
 - 神に感謝する。

レッスン4

キリストの教会の重要性と意義

ドン・クロウ

今日はキリストの教会の重要性と意義について話します。ヘブル10章25節を読んでみましょう。この箇所には「ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですからますます励もうではありませんか。」と書いてあります。キリストの教会の重要性と意義について考えるとき、「そもそも教会とは何か?」という疑問が浮かんできます。

私はここ、*コロラドスプリングス[*米国・コロラド州]の地元教会に、*このスタディブック[*Discipleship Evangelism/ディサイプルシップ・エヴァンジェリズム]を紹介し、その学びのプログラムを導入しました。このプログラムでの学びを実践する方法を教えたのち、私たちは教会の外に行き、学んだことを実践しました。このプログラムの実践を始めてから6週間以内に、教会の外で20の新しいバイブルスタディグループが始まりました。私たちはそれから数か月間にわたって一緒にバイブルスタディをしていました。そんなある日、その教会の牧師が「聖書には‘主が毎日、救われる人々を教会に加えた’(使徒2:47)と書いてあるのに、なぜこのバイブルスタディからは新しい人たちが私たちの教会に来ないのでしょうか?」と言って私を当惑させました。

私たちがそのプログラムの実践として教会の外で伝道活動をしていたとき、新しい人たちが救われて私たちのバイブルスタディに参加し、リーダーたちからも気遣われ信仰の助けを受けていました。しかし、その牧師が言ったことの本当の意味は、「その救われた人たちはなぜ‘この建物内で日曜の朝に行われている礼拝に’来ないのだろうか?」ということだったのです。当時私が持っていた教会についての概念も、本来のものからは少しずれていました。その牧師が言ったことで私はすごく悩み始め、その疑問に対してどう答えたらいいのか分かりませんでした。私は「この学びのプログラムは本当に機能しているのだろうか? 私たちは本当に人々の人生の助けとなっているのだろうか?」と考えました。私たちがたくさんの人々に伝道し、救いが起こっていることは分かっていたのですが、私が悩んだのは、その救われた人たちはなぜ日曜の朝の礼拝に来ないのだろうかということでした。

私は「教会」という言葉について調べてみることにしました。今日のこのレッスンでは、それによって分かったことについて話します。ローマ16章3節、1コリント16章19節、コロサイ4章15節、ピレモン1章2節、使徒5章42節、使徒20章20節を見てみると、新約聖書に書かれている初期教会の集まりは、おもにだれかの家で行われていたことが分かります。今の時代は「教会」といっても様々な教会があります。たとえばホームチャーチと

呼ばれるもの、少人数の教会、参加者が非常に多い、いわゆるメガチャーチなどがあります。先ほど挙げた聖書箇所の中で私が注目したことは、新約聖書に書かれている教会はだれかの家で行われ、比較的少人数の集まりだったということです。

*ローレンスO・リチャーズによる聖書用語の解説辞書[*著書名: Expository Dictionary of Bible Words、著者: Lawrence O. Richards]の164ページには、「教会という言葉の意味がよく分からないという人がいたとしても当然かもしれない。なぜなら私たちはこの言葉をじつに様々な意味で使っているからだ」とあり、「教会とは特定の建物(例: 四丁目の教会)、宗派または組織化された信仰(例: アメリカの改革派教会、バプテスト教会)、日曜日の礼拝(例: 今日教会に行った)を意味するが、これらの意味はどれも聖書的なものではない」と書かれています。そして私は「ここに書かれていることは一体どういうことだろうか? 教会という言葉の意味は何だろうか?」と考え始めました。その解説辞書からさらに引用を続けると、「多くの人は教会を、神を賛美するための‘人々の集まり’というよりは宗教的礼拝のための‘建物’と考えているので、教会が建物外で行なっている奉仕活動は教会としての活動とはみなされないかもしれない。‘教会’とはギリシャ語で‘Ecclesia(エクレシア)’で、その意味は文字通り人々がともに賛美し祈り、神をほめたたえ、神を見上げるための集まりという意味である」とあります。ここでEcclesia(エクレシア)について調べてみると、「新約聖書の中のEcclesia(エクレシア)は信者を何人でも収容することができた。Ecclesia(エクレシア)という言葉は家の中で行われる少人数の集まりについても使うことができた(ローマ16:5)。また、大都市に住む信者たち(使徒11:22)やアジアやガラテヤなど、政治的な理由ではなく地理的な理由により区切られた大きな地区に住むすべての信者を網羅することができた」とあり、さらに、「教会の典型的な集会は家の中で行われていた。そこで信者たちが集まるとき、すべての人が賛美したり、教えたり、啓示を告げたり、異言を話したり、解き明かしたりしていた(1コリント14:26)。預言する者たちも、二人か三人が語り、ほかの者たちはそれを吟味した(1コリント14:29)。…そのように互いの賜物を共有することは、信仰の共同体としての教会の存在に不可欠なものとして常に行われていた…すべての人が何かしらの形で貢献するように、また、各々に与えられた聖霊の賜物によって互いに仕え合うことを期待されていた」とあります。

ヘブル10章25節には「**自分たちの集まりをやめたりせず、**」と書いてあります。教会とはイエスに目を向け、主を賛美し、主からの啓示を受け、神の道を歩み続けるという目的のために人々が集まる、その集まりのことなのです。新約聖書に書かれている初期教会のおもな目的は啓発(霊的に成長していくこと)でした。人々は互いの信仰を築き上げることを目的として集まったのです。

当時、初期教会は伝道活動を活発にしていました。人々はいたるところに出て行

レッスン4

ってイエス・キリストにある彼らの信仰を伝え、新しい人々が教会に加えられ—それは建物という意味の教会ではなく—悔い改めてイエスを信じた人々が神の家族として加えられていったのです。そして彼らは互いに励まし合うために、聖霊の賜物を実践するために、互いに仕え合うために、また、一緒に食事することによってともに時間を過ごし、互いの交流を持つために集まりました。彼らが集まったとき、互いに啓発し合うために聖霊の賜物を用いました。そして再び外へ出て行ってみことばを宣べ伝えるという活動のサイクルを繰り返していました。彼らは主イエス・キリストを信じて、その信仰によってともに集まりました。集まる場所はどこでもよかったです。どこかのビルの一角やだれかの家だったかもしれません。大勢の集まりだったかもしれないし、家の中での少人数の集まりだったかもしれません。主の名の下に集まり聖霊の賜物を用いて互いに励まし合い啓発し合い建て上げ合うことができる交流が持てるのであれば、どこで集まるのか、どのくらいの人数が集まるのかは問題ではありませんでした。

このレッスンの冒頭で述べた地元教会の活動を通して始まった20のバイブルスタディグループは、つまりこの地域内で20か所の教会の集まりが行われていたのと同じことであることが分かりました。それは今日一般的に「教会」と言われているものとは異なる形でしたが、私たちは教会としての集まりを週に20回行なっていたことになるのです。なぜなら私たちは主の名の下に集まり互いに励まし合い、主イエスを見上げみことばの教えを受け、聖霊の賜物を用いるために集まっていたからです。

あなたが今どのような教会に行っていたとしても—それが特定の宗派に属する教会であろうとなかろうと、また、メガチャーチであれ、逆に小さなホームチャーチであれ—それは問題ではありません。聖書には「その日が近づくにつれて、罪の増し加わるところに恵みも満ちあふれるようになる」(ヘブル10:25, ローマ5:20)と書いてあります。神の恵みは神の家族の集まりの中であふれるようになるのです。信者一人ひとりがイエス・キリストの働きをしている教会では互いが配慮し合い、啓発し合い、聖霊の賜物を用いることで互いを励まし合うことができるのです。

このような信者の集まりを持つことによって、そこに集まる全員が何らかの形で役に立つことができるのです。たとえそれがたった二人か三人の集まりだったとしても、私たちは主イエスの名の下に定期的に集まる必要があるのです。聖霊の賜物を用いて仕え合うために、互いに啓発し合い励まし合うために、ともにイエスを見上げ祈り合うために集まるのは良いことです。ほかにも、たとえば長老や執事、牧師など、また教会の運営についてなど、教会について言えることはたくさんありますが、それらは今日の学びの本題ではありません。この学びの本題は、教会の目的を知ること、そして私たちは離れ小島のように一人ひとりが孤立しているべきではないということを知ることです。私たちは孤立しては生き残れません。救われたとき、私たちは神によってキリストの

からだ —それは個々の教会の壁を越えてすべてのクリスチャンが共有するもの— の部分として組み入れられたのです。私たちは互いを必要としていて、互いに励まし合い、神が与えてくれた聖霊の賜物を用いて互いに仕え合うために、キリストの教会として集まる必要があるのです。あなたも今日、神の家族の集まりに加わってみてください。

振り返りのための質問とみことば

1. ヘブル10:25を読みましょう。私たちがやめるべきではないことは何ですか？

ヘブル10:25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

2. 使徒5:42を読みましょう。人々が毎日、宮や家々でやり続けていた二つのことは何ですか？

使徒5:42 そして毎日、宮や家々でイエスがキリストであると教え、宣べ伝えることをやめなかった。

3. 使徒2:42を読みましょう。初期教会の人々がいつもしていた四つのことは何ですか？

使徒2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていました。

4. 使徒2:44-45を読みましょう。“初期の教会は、教会の駐車場を作るために継続的に献金を集めていました。”これは、この箇所の内容に沿っていますか？

使徒2:44-45 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、^[45] 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

5. 1コリント12:28を読んで、神が教会に与えた八つの賜物(*五役者の一部を含む)を書き出してみましょう[*五役者：使徒、預言者、伝道者、牧者、教師]。

1コリント12:28 神は教会の中に、第一に使徒たち、第二に預言者たち、第三に教師たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。

6. 1コリント14:26を読みましょう。信者たちが教会としての集まりに来たとき、そこはそれぞれの賜物を用いる場所でもありました。彼らが集まったときに用いた、この箇所に書かれている五つの賜物を書き出してみましょう。

1コリント14:26 それでは、兄弟たち、どうすればよいのでしょうか。あなたがたが集まるときには、それぞれが賛美したり、教えたり、啓示を告げたり、異言を話したり、解き明かしたりすることができます。そのすべてのことを、成長に役立てるためにしなさい。

7. 使徒6:1を読みましょう。初期の教会では毎日、だれたちに対して配給を行っていましたか？

使徒6:1 そのころ、弟子の数が増えるにつれて、ギリシア語を使うユダヤ人たちから、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情が出た。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給においてなおざりにされていたからである。

8. ヤコブ1:27を読みましょう。神が気にかける唯一の宗教(神の御前できよく汚れない宗教)とはどのようなことですか？

ヤコブ1:27 父である神の御前できよく汚れない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。

9. 1テモテ5:9-11を読みましょう。初期の教会では、名簿に載せるべきやもめとはどのような要件を満たしている人でしたか？

1テモテ5:9-11 やもめとして名簿に載せるのは、六十歳未満ではなく、一人の夫の妻であった人で、^[10] 良い行いによって認められている人、すなわち、子どもを育て、旅人をもてなし、聖徒の足を洗い、困っている人を助けるなど、すべての良いわざに励んだ人にしなさい。^[11] 若いやもめの登録は断りなさい。彼女たちは、キリストに背いて情欲にかられると、結婚したがら、

10. 1コリント9:14を読みましょう。教会はやもめ、孤児、貧しい人たちの生活を支援する以外にどのような人たちの生活を支援していましたか？

1コリント9:14 同じように主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活の支えを得るように定めておられます。

11. マタイ25:35-40を読みましょう。なぜ人々は、献金の時間にお金をささげることだけが神にささげる唯一の方法だと考えるのでしょうか？

マタイ25:35-40 あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し^[36] わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』^[37]すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。^[38] いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。^[39] いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』^[40]すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

12. 使徒4:32-35と箴言3:9-10を読みましょう。初期教会の長老や牧師たちは、集まった献金をどうしましたか？また、自分たちの財産で何をしましたか？

使徒4:32-35 さて、信じた大勢の人々は心と意思を一つにして、だれ一人自分が所有しているものを自分のものと言わず、すべてを共有していた。^[33]使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。^[34]彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持って来て、^[35]使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。

箴言3:9-10 あなたの財産で主をあがめよ。あなたのすべての収穫の初物で。^[10]そうすれば、あなたの倉は豊かさに満たされ、あなたの石がめは新しいぶどう酒であふれる。

質問の解答 — レッスン4

1. ヘブル10:25を読みましょう。私たちがやめるべきではないことは何ですか？
イエスを信じる者として自分たちの集まりを持つこと。
2. 使徒5:42を読みましょう。人々が毎日、宮や家々でやり続けていた二つのことは何ですか？
 - イエスがキリストであると教えること。
 - イエスがキリストであると宣べ伝えること。
3. 使徒2:42を読みましょう。初期教会の人々がいつもしていた四つのことは何ですか？
 - 使徒たちの教えを守ること。
 - 交わりを持つこと。
 - パンを裂くこと(一緒に食事すること、ともに聖餐式をすること)。
 - 祈ること。
4. 使徒2:44-45を読みましょう。“初期の教会は、教会の駐車場を作るために継続的に献金を集めていました。”これは、この箇所の内容に沿っていますか？
いいえ。
5. 1コリント12:28を読んで、神が教会に与えた八つの賜物(*五役者の一部を含む)を書き出してみましょう[*五役者:使徒、預言者、伝道者、牧者、教師]。
 - 使徒たち。
 - 預言者たち。
 - 教師たち。
 - 力あるわざ(奇跡)の賜物。
 - 癒やしの賜物。
 - 援助の賜物。
 - 管理の賜物。
 - 異言の賜物。
6. 1コリント14:26を読みましょう。信者たちが教会としての集まりに来たとき、そこはそれぞれの賜物を用いる場所でもありました。彼らが集まったときに用いた、この箇所に書かれている五つの賜物を書き出してみましょう。
 - 賛美の賜物。
 - 教える賜物。

レッスン4

- 神からの啓示を告げる賜物。
 - 異言を話す賜物。
 - 異言の解き明かしをする賜物。
7. 使徒6:1を読みましょう。初期の教会では毎日、だれたちに対して配給を行なっていましたか？
やもめたち。
8. ヤコブ1:27を読みましょう。神が気にかける唯一の宗教(神の御前できよく汚れない宗教)とはどのようなことですか？
孤児ややもめたちが困っているときに世話をすること。
9. 1テモテ5:9-11を読みましょう。初期の教会では、名簿に載せるべきやもめとはどのような要件を満たしている人でしたか？
教会が認める奉仕者となる未亡人には、一定の条件をつけるべきです。すなわち、少なくとも六十歳以上で、結婚歴は一度に限らなければなりません。^[10]また、これまで良い行いで認められ、評判の良かった人でなければなりません。次のことを調べる必要があります。子どもをりっぱに育て上げたかどうか。クリスチャンに限らず、見知らぬ旅人をも親切にもてなしたかどうか。病人や困っている人に助けの手を差し伸べたかどうか。だれにでも、やさしくふるまってきたかどうか。^[11]若い未亡人を、そのような女性たちと同列に扱ってははいけません。それというのも、若い人はキリストへの誓いを捨てて再婚したがるからです。(1テモテ5:9-11 リビングバイブル)
10. 1コリント9:14を読みましょう。教会はやもめ、孤児、貧しい人たちの生活を支援する以外にどのような人たちの生活を支援していましたか？
福音を宣べ伝える者たち。
11. マタイ25:35-40を読みましょう。なぜ人々は、献金の時間にお金をささげることだけが神にささげる唯一の方法だと考えるのでしょうか？
そのように教えられてきたから。
12. 使徒4:32-35と箴言3:9-10を読みましょう。初期教会の長老や牧師たちは、集まった献金をどうしましたか？
集まった献金を必要に応じてそれぞれに分け与えた。
また、自分たちの財産で何をしましたか？
自分たちの財産で主をあがめた。

レッスン5

悪霊からの解放

ドン・クロウ

今日は悪魔の性質について話します。イエスはこの地上にいる間、悪霊を追い出し、病人を癒やし、死人を生き返らせ、そのほか、たくさんの奇跡を行いました。その働きのうちの約4分の1は、人々の中から悪霊を追い出すことに費やされました。使徒10章38節には「それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。」と書いてあります。また1ヨハネ3章8節には「その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」と書いてあります。悪魔の性質について私は以前、今とは違った考え方を持っていました。—悪魔・悪霊・汚れた霊・サタン、呼び方はどうであれ—それらはインドや第三世界諸国など、人々が偶像礼拝をしていて唯一本当の神を信仰していない、ある特定の地域にだけ現れるのだと思っていました。しかし私は間違っていました。

数年前にテキサス州ダラスの教会で経験したことについて話したいと思います。皆で賛美歌を歌っていると突然、一人の少女が床に倒れました。彼女は発作を起こしているかのように見えました。その場にはライスという名の医師が居合わせました。教会のすぐ近くに住んでいる人たちが何人かいたので、ライス医師はその少女を診察するために近くの家まで連れて行こうと言いました。私たちが少女を家に担ぎ込んだ途端、彼女はまるで山猫のように豹変したのです！彼女の目は大きく見開かれ、おそらく体重が100ポンド(約45キロ)未満であろうこの小柄な10代の少女が、野太い男性の声で話し始めました。そして突然‘それ’は「お前は地獄に行く！」というようなことを言って私のことを言葉で攻撃し始めました。「そんなことはない！」と私は叫びました。それまで私はこのようなものを見たことがなかったので正直怖かったです。‘それ’は再び「いや、お前は地獄に行く！」と言いました。私も「そんなことはない！地獄に行くことはない！」と言いました。‘それ’があたかも私に対して権力を持っているかのように思えて、私はこの少女の中にある‘それ’にどう対処したらいいのか分かりませんでした。

その場にいた私の親しい友人の一人は恐ろしさのあまり、すぐにそこから逃げ出しました。私は「一体どうすればいいのだろうか？」と考えていました。彼女は知っているはずもないドイツ語のような言葉を話し始めました。ほかにも彼女の内側にあった超自然的な力—悪魔のあらゆる野蛮な力が現れ始めました。私は少女が悪霊につかれているのを目の当たりにしてどうしたらいいのか分かりませんでした。聖書には力があることを信じていました。そして、子どものときに見たドラキュラ映画のワンシーンのようなことを考えていました。ドラキュラが神父に向かってくると、神父はいきなり十字架を取り出してドラキュラに向

かってかざし、ドラキュラは「ぎゃあああ!」というように退散するのです。私はその場で、聖書についてもそれと同じようなことを考えていました。聖書には力があることを知っていましたが、その力を実際にどう引き出したらいいのかが分かりませんでした。このようなことを経験したことがなかった私は、神の恵みによってその場を助けられたのです。私が無我夢中で聖書を開くとピリピの箇所が目に飛び込んできました。そして私はピリピ2章8-11節「自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。^[9]それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。^[10]それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、^[11]すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」を声に出して読み始めました。

悪魔は「やめろ!その言葉には耐えられない!やめろ!」と言いました。私は「すごい効き目だ!」と思いました。それで私は再び「イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、」と読み上げました。「やめろ!その言葉には耐えられない!ああ、やめろ!やめてくれ!」と少女は叫びました。私は「ただみことばを声に出して読んでいるだけなのに、この悪魔はこの少女の中で発狂しそうになっている!」と思いました。それで私はもう一度その箇所を読みました。「自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。^[9]それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。^[10]それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、」再び同じ反応がありました。「やめろ!耐えられない!」そして悪魔が少女の耳を塞ぎながら「やめろ!その言葉には耐えられない!やめろ!」と繰り返しました。それから悪魔は少女を私の目の前に放り投げ、彼女はそこでイエスの名によってひざまずき始めました。そして私は「イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、」と繰り返し読み上げたのです。

ほんの少し前までその悪魔は私に対して権力を持っていました。なぜなら私は、その悪魔が私のことをボコボコにして打ち負かし、その場に投げ捨てるのではないかと恐れていたからです。一何しろ初めての経験で私には何も分からなかったのです!それでも聖書には力があることを知っていたので、とっさに聖書を開いて読み始めることができました。エペソ6章17節には「御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。」と書いてあります。私のこの体験からも分かったとおり、私たちには敵を切りつけ傷を負わせることができる剣のような戦いの武器が与えられています。それは御霊の剣であり、みことばです。イエスが悪魔に誘惑された場面を覚えていますか?悪魔がイエスのところにやって来て「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」(マタイ4:9)と言ったとき、イエスは「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」(マタイ4:10)と言ったのです。悪魔は何度もイエスを誘惑しましたが、その度

にイエスは「書いてある」と言ってみことばを引用しました。イエスは御霊の剣を用いたのです。そして次の節には「すると悪魔はイエスを離れた。」(マタイ4:11)と書いてあります。

私たちには倒さなければならない敵がいます。その敵に対する最も有効な武器は御霊の剣である神のみことばです。私はこの体験を通して次のことを学びました。私が聖書を開こうとすると必ずとっていいほどお腹が空いていることに気づき、何を食べようかと考え始め、さもなければその日やり残したことなどについて考え始めてしまうのです。なぜでしょうか？また、この本を使ってバイブルスタディをしている人たちの間でも、バイブルスタディに参加できないいろいろな言い訳が出てくることがあるかと思います。これらのことがなぜ起こるのか、この体験からついにその理由が分かったのです。聖書には、神が私たちに知ってもらいたいことと、逆に悪魔からすれば私たちに知られたくないことが書かれています。そのため、あなたがみことばを学ぼうとしたり、バイブルスタディに参加しようとしたりするのなら、それはあなたが聖書の中に書かれていることについてもっと知るようになるので、敵があなたのその行為を邪魔するのです。つまり悪魔はみことばの奥にある神の存在をあなたに深く知られたくないの、あなたの学びを阻止しようとしているのです。

暗闇の支配下にあるこの世の王国と、神の愛するひとり子の下にある神の王国とがあります。コロサイ1章13節でパウロは「御父は、私たちが暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」と言っています。あなたは今どちらの王国に属していますか？王国とは、だれかが支配し統治している場所です。イエス・キリストは私たちの王です。今までにイエスに人生をささげる決心をしたことがありますか？あなたは今イエスに付き従っていますか？それともほかのことを優先させていますか？イエスはルカ6章46節で「なぜあなたがたは、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。」と言いました。イエスはあなたの人生でとびっきりの存在、ナンバーワンになりたいのです。この世の王国は、イエスのことをそのとびっきりの存在、つまり、あなたの人生の主である立場から遠ざけようと働きかけてきます。それは敵がイエスに取って代わることを狙っているからです。今日心からイエスに立ち返り、その敵の存在に気づいてください。その敵の名はサタンであり、彼は悪の力を持っていますが、聖書には「神が私たちに、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた」(ルカ10:19)と書いてあるのです。

マタイ10章8節でイエスは「病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツアラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出しなさい。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。」と言いました。神の国の福音を伝えましょう。そのために、あなたには敵に打ち勝つ権威が与えられているのです。神が計画した人生からあなたを逸らせようと誘惑してくる敵の声に耳を傾けるのをやめましょう。イエスをあなたの人生の主、ナンバーワンにしましょう。あなたはそれを後悔することは決してありません。

振り返りのための質問とみことば

1. エペソ6:12を読みましょう。このみことばは、悪霊に対する私たちの戦いのことを私たちの～と言っています。～は何ですか？

エペソ6:12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。

2. マルコ16:17を読みましょう。この箇所は、イエスを信じる者たちに与えられている権威についてどのようなことを教えていますか？(イエスの名による権威を用いると、どのようなことができますか?)

マルコ16:17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、

3. ヤコブ4:7を読みましょう。悪魔の力や影響から解放されるためには何をする必要がありますか？

ヤコブ4:7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

4. ヤコブ1:14を読みましょう。サタンは私たちの何を用いて誘惑しますか？

ヤコブ1:14 人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。

5. ローマ6:13を読みましょう。キリストを人生の中心にすると、悪魔は居心地が悪くなりあなたから離れます。このみことばには、私たちが何をすべきだと書いてありますか？

ローマ6:13 また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。

6. ローマ13:14を読みましょう。悪魔は私たちの肉の働きを糧としているので、愛と清さによって神の道を歩むことで悪魔を飢餓状態に追い込みましょう。私たちがどのようなことに心を用いるべきではないのでしょうか？

ローマ13:14 主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。

7. ルカ10:17-19を読みましょう。イエスが弟子たちに悪霊を追い出すことについて教えたとき、「わたし(イエス)が悪霊を追い出すように、わたし(イエス)に向かって願い求めなさい」と教えたことは一度もありませんでした。そうではなく、イエスは私たちに権威を与えました。このみことばから、それはどのような権威だと言えますか？

ルカ10:17-19 さて、七十二人が喜んで帰って来て言った。「主よ。あなたの御名を用いると、悪霊どもでさえ私たちに服従します。」^[18] イエスは彼らに言われた。「サタンが稲妻のように天から落ちるのを、わたしは見ました。^[19] 確かにわたしはあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けました。ですから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。

質問の解答 — レッスン5

1. エペソ6:12を読みましょう。このみことばは、悪霊に対する私たちの戦いのことを私たちの～と言っています。～は何ですか？
格闘(互いに組み合って争うこと。とっくみあい。レスリングのようなイメージ)。
2. マルコ16:17を読みましょう。この箇所は、イエスを信じる者たちに与えられている権威についてどのようなことを教えていますか？(イエスの名による権威を用いると、どのようなことができますか？)
悪霊を追い出すこと。
3. ヤコブ4:7を読みましょう。悪魔の力や影響から解放されるためには何をする必要がありますか？
神に従い、悪魔に対抗する。
4. ヤコブ1:14を読みましょう。サタンは私たちの何を用いて誘惑しますか？
自分の欲。(サタンは神の義に反する悪いものを、あたかも望ましいものであるかのように見せかけるために私たちの欲を用いる。)
5. ローマ6:13を読みましょう。キリストを人生の中心にすると、悪魔は居心地が悪くなりあなたから離れます。このみことばには、私たちが何をすべきだと書いてありますか？
自分自身を罪に献げるのではなく、神に献げ、また、自分の手足を義の道具として神に献げる(キリストのからだ、つまり教会のために、自分の手足を義の道具として、神の家族のために用いる)。
6. ローマ13:14を読みましょう。悪魔は肉の働きを糧としているので、愛と清さによって神の道を歩むことで悪魔を飢餓状態に追い込みましょう。私たちはどのようなことに心を用いるべきではないのでしょうか？
欲望(肉)を満たすこと。
7. ルカ10:17-19を読みましょう。イエスが弟子たちに悪霊を追い出すことについて教えたとき、「わたし(イエス)が悪霊を追い出すように、わたし(イエス)に向かって願い求めなさい」と教えたことは一度もありませんでした。そうではなく、イエスは私たちに権威を与えました。このみことばから、それはどのような権威だと言えますか？
敵のあらゆる力に打ち勝つ権威。

レッスン6

イエスを信じる者たちが持つ権威

アンドリュー・ウォマック

今日のレッスンでは、神が私たちに与えた、イエスを信じる者たちが持つ権威について話したいと思います。このトピックについて考えるとき、私たちの権威だけでなくサタンの権威についても触れる必要があります。なぜなら多くのクリスチャンたちがサタンの力を過大視しているからです。クリスチャンたちはいつの間にかサタンが自分たちよりも強い存在だと信じるようになり、その攻撃にじっと耐え忍ぶようになりました。しかし、それは聖書の教えからかけ離れた認識です。エペソ6章12節には「**私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。**」と書いてあります。サタンは実在するのです。サタンはピラミッド型の階級組織を持ち、その力で私たち人間に影響を及ぼしています。

だからこそ、エペソ6章11節は「**私たちは悪魔の策略に立ち向かわなければならぬ**」と教えています。サタンが私たちに対して持っている唯一の力は騙すことです。彼には私たちを打ち負かすような力はないのです。

創世記3章で、アダムとエバが人類で最初の誘惑を受けたときも、サタンは人間よりも優位に立って人間を強制するような力は持っていなかったことが分かります。このときサタンは「俺に仕えろ!さもなければ・・・」というようにアダムを脅すためにマンモスや象のような巨大な生き物を使って、その大きな足をアダムの頭の上に乗せたというのではなく、*神が造った野の生き物のうちで一番狡猾だった蛇を使ったのです[*さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。(創世記3:1)新改訳 第三版(旧版)]。「狡猾」とは「ずるく悪賢いこと」を意味します。なぜサタンが蛇を使ったのか、それはサタンにはアダムとエバに何かを強制するような力が全くなかったからです。彼にできたことは騙すことだけでした。サタンは「神は本当はあなたたちのことを愛してはいないし、あなたたちが受けるべきものを与えずに出し惜しみしている」と言って神の性質と品性に反することを言い、神を非難し始めました。サタンはアダムとエバを誘惑し、神に対して罪を犯すように仕向けました。サタンがこのようなやり方をした理由は、すべての権威を持っていたのはアダムとエバの方であったことに加え、サタンは実際には直接的に神に逆らう力を持っていなかったからなのです。

創世記3章について話したいことはまだまだたくさんありますが、時間が足りなくなるのでやめておきます。ここでイエスを信じる者たちが持つ権威として押さえておきたいポイントは、サタンはあなたに対して何一つ、力も権威も持っていないことをあな

レッスン6

たが認識する必要があるということです。サタンはすでに敗北した敵です。あなたに対する力は嘘を使って騙すことだけなのです。もしも今あなたの人生がめちゃくちゃになってしまっているなら、「サタンに攻撃されているからだ」と言うこともできます。しかしその攻撃を許してしまっているのはあなた自身であり、サタンの嘘に反撃しなければならぬのもあなた自身なのです。あなたがサタンの言いなりにさえしなければ、サタンはあなたに攻め込んでくることはできません。2コリント10章3-5節には「**私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。^[4] 私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。^[5] 私たちは様々な議論と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち倒し、また、すべてのはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させます。**」と書いてあります。この箇所には、サタンとの戦いに使うべき武器のことが書かれています。そして、その武器を使うことはあなたの思考と関連があり、あなた自身の思考に対処することでもあるということが示されています。サタンにはあなたを騙すこと以外には、あなたに何か直接危害を加える力はないのです。

ここで権威についていくつかのことを整理したいと思います。もちろん初めは、神がすべての権威を持っていました。神が唯一、すべての力と権威を持つ存在だったので、その力と権威は神から他の存在へ委任される必要がありました。神以外のすべての存在は、神によって権威を与えられたのです。神が天と地を創造した時点では、神がすべての力と権威を持っていました。その後、創世記1章26節で神がアダムとエバを創造したとき、「人にこの地上のすべてのものを支配させよう」と言いました。この箇所を詩篇115章16節「**天は主の天。地は主が人の子らに与えられた。**」と併せて解釈してみましょう。神は創造主としてすべての所有権を持っていました。そして、神はその所有権にかかわるこの地上の支配権、もしくは権威を、肉体を持つ人間に与えました。サタンがこの地球を支配する権利と力そのものを持ったことはないのです。ただサタンは、人間を騙して罪を犯させることで、その権利を奪い取りました。神は人間にその力を与えたのですが、人類が初めて罪を犯したとき、その結果として人間は神から与えられた権威と力をサタンに譲ってしまったのです。サタンは人間を虐げたりこの地球を支配したりする力を、神から直接与えられたことはありません。

聖書には、サタンは「この世の神である」(2コリント4:4)とありますが、それは神がサタンをこの世の神にしたということではありません。神が人間よりもサタンを上る地位に置いたことは一度もないのです。神は人間にこの地球上の支配権と権威を与えました。神から与えられている権威をサタンに譲りさえしなければ、サタンが人間を虐げたり支配したりして問題を引き起こすことはできないのです。しかし、人間(アダムとエバ)が神からの権威をサタンに譲ってしまったことは、神にとって深刻な問題をもたらしました。なぜなら神は霊の存在であり、肉体を持っていないので、肉体を持つ人間にこの地

上を支配する権威を与えたのであって、本来は人間だけがこの地上を支配し影響を及ぼす権威と力を持っていたのです。だからこそサタンは人間(アダムとエバ)がその権威を彼に譲るようにと仕向けました。しかしサタンのそのやり方は今も同じで、それが、サタンが肉体を持った生き物に入り込む必要がある理由です。聖書を読むと、*悪魔[*サタンの下で働きをするもの]は人間の肉体を乗っ取る必要があったことが分かります。なぜならサタンは人間の肉体を使わない限り何もできないからです。神は霊の存在で肉体を持っていないので、その権威を人間に与えましたが、人間(アダムとエバ)がその権威をサタンに譲ってしまったことで、ある意味、神は手足を縛られたような状態になったと言えるのです。それは神が力と権威を失ったからではなく、神の性質である‘完璧な一貫性’によってそのようになったのです。神は自分の権威を人間に与えたのですが、自分の言葉に完璧に忠実であるがために「これはわたしが最初に意図したことではなかった。中止してやり直そう」と言ってその言葉を撤回するようなことはできなかったのです。つまり神は、自分の言葉によって自分自身を縛ることになったのです。神は旧約の時代を通してずっと、神に完全に聞き従う者を探していましたがそのような者は見つからず、すべての人間が墮落してサタンの言いなりになっていました。では神はどうすればよかったのでしょうか？

それは最終的に神ご自身がこの地上に来て人間となることでした。あなたがこのことを理解するのはとても重要です。なぜならサタンは、このことによって窮地に陥ったからです。サタンはそれまで人間の力を利用していました。しかし人間は、神が作った法則の下に‘自らの意志によって’神から与えられた権威をサタンに譲ってしまったので、神は地上で起こるすべての問題を解決するために直接介入することができませんでした。もちろんサタンが人間を利用していたことは間違っていますが、本来人間だけに与えられた権威と力をサタンに与えてしまったのは人間なのです。しかし今や神が来ました。しかも神は霊の存在であるだけでなく、肉体を持った人間として現れました。このことはサタンをととても不利な状況に追い詰めました。なぜなら神が天において権威を持っているだけでなく、人間として現れることは、つまり、この地上の人間が再び神の権威を与えられることになるからです。イエスはヨハネ5章26-27節で「それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにしてくださったからです。^[27] また父は、さばきを行う権威を子に与えてくださいました。子は人の子だからです。」と語っています。

イエスはこの地上に来て、神から与えられた権威を行使しました。サタンはイエスを誘惑しましたが、イエスはその誘惑に負けることは一度もありませんでした。サタンはイエスとのありとあらゆる戦いに負けたのです。そしてイエスは私たちの罪を負い、私たちのために死んで地獄に行き、死からよみがえりました。イエスはマタイ28章18節で「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」と言って

います。イエスは神が人に与えた権威—それは人間が失敗して失ってしまったもの—を取り戻しました。そして肉体を持った神としてイエスは今、天においても地においても、すべての権威を持っているのです。これに続く19節でイエスは「今、あなたたち自身が出て行って、その権威を用いてあらゆる国の人々を弟子としなさい」と言いました。言い換えるとイエスは「わたしは今、天と地ですべての権威を持っていて、その権威をあなたたちと共有しています」と言っているのです。しかし今回神が、イエスを信じる者たちに取り戻した権威と、神が最初にアダムとエバに与えた権威との間には大きな違いがあります。今回与えられた権威は、私たちと主イエス・キリストとの間で共有された権威なのです。今回は単に権威だけが私たちに与えられたものではありません。アダムとエバに与えられた権威はだれかに譲ってしまうこともできたために、彼らはそれをサタンに渡してしまい、サタンが人間を虐げるのを許す結果となり、どうすることもできませんでした。しかし今私たちに与えられている権威は、主イエス・キリストと共有されているのです。たとえば言うと、私たちはイエス・キリストと共同名義の銀行口座を持っているようなものです。小切手を発行するためには両方の名義人の署名が必要になるのです。私たちの権威は主イエスと共有されていて、イエスの権威は教会と共有されています(エペソ1:22, エペソ3:10-11)。

私たちは再び失敗するかもしれませんが、神がサタンの要求を許可するような署名さえしなければ(それは絶対に起こるはずはなく)、人間が再び神から与えられた権威を失うようなことにはならないのです。サタンは完全に力を失いました。サタンは、あなたが騙されて自発的にサタンの策略に乗ってしまわない限り、あなたの人生に何かをする力は持っていません。もしかするとあなたは、人生の中で時にはサタンに権威を与えてしまうようなことがあるかもしれません。そして、そのことによって痛手を負うこともあるかもしれません。しかし、神が人間に与えた権威そのものがサタンの手に渡ってしまうことは二度と起こらないのです。なぜならその権威は今、私たちと主イエスとの間で共有されていて、たとえあなたがどんな失敗をしようともイエスとその権威に忠実であり続けるからです。あなたはただ、あなた自身もその権威と力を持っているのだということ認識する必要があります。サタンはあなたの思考に戦いを挑んできますが、あなたの武器は、みことばに反するすべての考え(サタンの攻撃)を捕らえてみことばに従わせることができるものなのです(2コリント10:4-5)。たとえば癒やしについて、みことばには何と書いてあるかを見つけることで、サタンが病気などを持ち込んであなたを肉体的に虐げることは間違っている(本来起こるべきことではない)と気づくことができます。ヨハネ8章32節には「**あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。**」と書いてあります。あなたはその力と権威を持っているのです。神が確かにあなたに権威を与えたからです。あなたがその権威を使うのを妨げている唯一の原因は、自分自身の思考をみことばに従わせていないことにあります。つまり、もしもあなたが神からの権威を使っていないなら、それはあなたがまだ霊的な武器(みことば)を本当

の意味で使っていないということです。あなたは思考を新しくするために、また、自分に与えられている権威がどのようなものであるかを知るために、その霊的な武器(みことば)を使う必要があるのです。あなたこそが、その権威と力を持っているということをはっきりと認識することは、あなた自身にとって大きな力となります。

あなたが今日学んだことを真剣に受け取って、それについて黙想することができるよう、あなたこそが、サタンが恐れおののく相手だという啓示を、神があなたに与えてくれるようにと祈ります。あなたは神から与えられた力と権威を持っているので、サタンを恐れるべきではありません。あなたが悪魔に対抗するなら、悪魔はあなたから逃げ去るのです(ヤコブ4:7)。

振り返りのための質問とみことば

1. 創世記3:1を読みましょう。サタンは確かに実在しますが、彼の本当の力は騙すことだけです。この箇所に出てくる蛇(サタン)は、エバを騙すためにどのようなことを言いましたか?
2. 創世記3:1から、なぜサタンはアダムとエバを騙したのでしょうか?

創世記3:1 さて蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」

3. 創世記1:26を読みましょう。だれが人間にこの権威を与えましたか?

創世記1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

4. 詩篇8:4-8を読みましょう。神はどのように人を創造しましたか?(どのような地位に人を置きましたか?)

詩篇8:4-8 人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。^[5] あなたは人を御使いよりわずかに欠けがあるものとしこれに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました。^[6] あなたの御手のわざを人に治めさせ万物を彼の足の下に置かれました。^[7] 羊も牛もすべてまた野の獣も^[8] 空の鳥 海の魚 海路を通うものも。

5. 2コリント4:4を読みましょう。この箇所は、この地球上で起こった‘あること’が示されています。それはどのようなことでしょうか?

2コリント4:4 彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。

6. マタイ4:8-9を読みましょう。この箇所は、質問5の解答の要点を別の形で指し示していると言えますか?

マタイ4:8-9 悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、^[9]こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」

7. マタイ28:18を読みましょう。イエスが死んでよみがえった後、今だれが天と地においてすべての権威を持っていますか？

マタイ28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」

8. マタイ28:18-19を読みましょう。この箇所によると、イエスの権威はだれに与えられて(委任されて)いますか？

マタイ28:18-19 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。^[19]ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

9. エペソ1:19を読みましょう。神の大能の力は、どのような者たちの中に働きますか？

エペソ1:19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。

質問の解答 — レッスン6

1. 創世記3:1を読みましょう。サタンは確かに実在しますが、彼の本当の力は騙すことだけです。この箇所に出てくる蛇(サタン)は、エバを騙すためにどのようなことを言いましたか?
神のことは疑わせるようなことを言った(「神は本当に言われたのですか?」と言った)。
2. 創世記3:1から、なぜサタンはアダムとエバを騙したのでしょうか?
サタンは、アダムとエバを力づくで従わせることができなかつたので、彼らを騙すことで、神が与えた権威を放棄させる必要があつた。
3. 創世記1:26を読みましょう。だれが人間にこの権威を与えましたか?
神。
4. 詩篇8:4-8を読みましょう。神はどのように人を創造しましたか?(どのような地位に人を置きましたか?)
神の御手のわざを人に治めさせ万物を彼(人)の足の下に置いた。
5. 2コリント4:4を読みましょう。この箇所は、この地球上で起こつた‘あること’が示されています。それはどのようなことでしょうか?
サタンは人間が持っていた権威を手に入れ、この世(世の中のシステム、または、ある限られた時代を指す)の神となつた。
6. マタイ4:8-9を読みましょう。この箇所は、質問5の解答の要点を別の形で指し示していると言えますか?
はい。(質問5の解答の要点とは、サタンがこの世の神となつたこと。)
7. マタイ28:18を読みましょう。イエスが死んでよみがえつた後、今だれが天と地においてすべての権威を持っていますか?
イエス。
8. マタイ28:18-19を読みましょう。この箇所によると、イエスの権威はだれに与えられて(委任されて)いますか?
イエスを信じる者たち。
9. エペソ1:19を読みましょう。神の大能の力は、どのような者たちの中に働きますか?
私たち信じる者たち。

十字架で成し遂げられた癒やし

アンドリュー・ウォマック

今日のレッスンでは、癒やしはイエスが私たちのために十字架の上で代価を払い、すでに買い取ってくれたこと(贖い)の一部であることについて話します。マルコ2章とルカ5章には、ある日イエスが混雑した家の中で教えていると、中風(麻痺)の男が友人たちの助けによって屋根から降ろされてきて、イエスの目の前に置かれた話が書かれています。そしてイエスは奇跡を行なってその男を癒やしました。マタイ8章でイエスが数々の癒やしを行なった後、14-16節には「それからイエスはペテロの家に入り、彼の姑が熱を出して寝込んでいるのをご覧になった。^[45] イエスは彼女の手に触れられた。すると熱がひき、彼女は起きてイエスをもてなした。^[46] 夕方になると人々は悪霊につかれた人を、大勢みもとに連れて来た。イエスはことばをもって悪霊どもを追い出し、病気の人々をみな癒やされた。」(マタイ8:14-16)と書いてあります。そして次の17節にはこのような癒やしが起こった理由が示されています。「これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。」(マタイ8:17) マタイ8章でイエスは多くの癒やしを行っていたことが分かりますが、これらの癒やしは具体的にはイザヤ53章3-5節と紐づいています。その箇所には「彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ*(これは主イエス・キリストについての預言)、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。^[4] まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだ。^[5] しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」(イザヤ53:3-5)[*()内は筆者による加筆]と書いてあります。

このイザヤの箇所は癒やしについての力強いみことばです。しかしこの箇所について、「いや、これは身体的な癒やしではなく精神的な癒やしのことだ」と言う人たちがいます。私がクリスチャンになりたてのころに通っていた教会も、身体的な癒やしを信じていませんでした。そのような人たちは、このイザヤの箇所やその他の癒やしについてのみことばを取り上げて、それをただ霊的な癒やしと解釈して、「私たちは精神的に傷ついていましたが、主イエスを信じて救われることでイエスがその心の傷を癒やしてくれる」というようにみことばを適用しています。しかしこのイザヤの箇所を、最初に読んだマタイの箇所と併せて解釈すると、これらのみことばの適用の仕方が180度変わります。イエスがあなたのことを精神的に癒やしてくれるのも事実です。しかしこれらのみことばは、私たちの身体的な癒やしについて語っているのです。先ほど読んだマタイ8章17節から分かるように、イエスが行っていた癒やしはイザヤが言った「その打ち傷の

ゆえに、私たちは癒やされた。」(イザヤ53:5)という預言の成就として起こったのです。このみことばは、癒やしはイエスが私たちの身体的な弱さや病気をその身に負ったことによって、‘すでに成し遂げられた’と言っているのです。このみことばは精神的な癒やしだけでなく肉体の病気・傷・痛みの癒やしについて言っているのです。イザヤ53章5節の「その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」というみことばが成就されるために、イエスは十字架にかかる前の時点から人々に身体的な癒やしを行なっていたのです。

さらに、1ペテロ2章24節には「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。」と書いてあります。ここには‘癒やされた’と過去形で書かれています。イエスがこの地上に来た目的のうちの一つが、私たちの身体的な癒やしでした。このように言うことによって、イエスが私たちの罪を赦すために来たという事実とその意味の重大さを軽視させようとしているわけではありません。イエスによる罪の赦しは、ほかのすべてのことにつながる入口のようなものでとても重要ですが、イエスが来た目的はそれだけではありません。イエスはあなたを身体的に癒やすためにも来たのです。新約聖書の「救い」は、ギリシャ語で「Sozo(ソーズー)」という語で、「救い」という意味だけではなくいくつもの意味を含んでいます。そして箇所によっては「癒やされた」とも訳されています。ヤコブ5章14-15節には「あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。^[15] 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。」と書いてあります。この箇所の15節で「Sozo(ソーズー)」は、「救う」と訳されていますが、その意味には病人が身体的に癒やされることが含まれています。また「Sozo(ソーズー)」は、新約聖書の多くの箇所で「罪の赦し」とも訳されています。

マタイ10章でイエスが弟子たちを遣わしたとき、福音を宣べ伝えるように命じたのと同時に、病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツァラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出すようにと命じました(マタイ10:7-8)。これは、それらの癒やしなどを行うことが、福音を伝えることと同じく重要であることを示しています。イエスがあなたの人生において罪の赦しを成し遂げてくれたのと同じように、癒やしもイエスがすでに成し遂げてくれたのです。

ここで少し考えてみてください。あなたが罪を犯すことによって、そこから何かを学ばせるために、神があなたに罪を犯してほしいと願っているなどとは考えられないでしょう。それと同じように、神はあなたが病気になることなど決して望んではいません。神はあなたの人生における病気の創造主ではないのです。ある人たちは「この病気はある意味、神様からの祝福です。なぜなら私はこの病を通して神様に立ち返ることができたから

です」などと言うかもしれません。危機的な状況が起こると人々は普段よりも神に目を向けるようになることは事実です。しかしあなたを神に立ち返らせるために、神があなたに病気をもたらし、その病気をを用いて教えるようなことはしません。神が、あなたが罪を犯すように仕向けることなどあり得ないのです。罪の中で生きたからといって、そこから何かを学ぶことができるでしょうか？姦淫や同性愛などの罪の中に生きていて何かの病気にかかったからといって、そのライフスタイルが間違っていたと悟ることができますか？確かに自分の間違いを悟ることはできるかもしれませんが、あなたにその間違った生き方をさせたのは神ではないのです。逆の言い方をすると、神があなたの人生に罪をもたらすことはありませんが、あなたが罪を犯すことで自分が体験した痛みから学ぶことも、あるいはあるかもしれません。たとえば自分の頭を壁にぶつけることで、それはすべきことではなかったと学ぶこともできますが、実際に壁に頭をぶつけなくても、それを学ぶことはできるのです。何も、すべてのことを実体験の痛みを通して学ぶ必要はありません。神はあなたに謙虚になることや何かを教えるために、あなたの人生に病気をもたらすようなことはしないのです。イエスはあなたの罪を赦し、あなたの病気を癒やすために十字架で死にました。イエスはあなたの罪を自分の身に負いました。そしてイエスの打ち傷によって、あなたはすでに癒やされたのです。

神の超自然的な癒やしはすべての人に与えられているものであり、イエスが十字架で死んで成し遂げた贖いの一部なのです。しかし、もしもあなたがまだ癒やしを受け取っていないからといって、神があなたに失望しているわけではありません。癒やしを受け取ることが、あなたが神を愛しているということの証明になるわけではないのです。あなたが心から神を愛していて、それと同時にイエスの贖いの一部である身体的な癒やしを信じていなかったとしても天国に行くことができます。でも、もしかすると、神の癒やしの力によって健康であり続ける方法を知らなければ、より早く天国に行くことになるかもしれません。神の癒やしはあなたにも与えられているのです。癒やしはイエスが十字架の死によって勝ち取ってくれたものだからです。あなたが健康で元気であることこそが神の望みなのです。

振り返りのための質問とみことば

1. マタイ8:14-16を読みましょう。イエスは何人の人を癒やしましたか？

マタイ8:14-16 それからイエスはペテロの家に入り、彼の姑が熱を出して寝込んでいるのをご覧になった。^[15] イエスは彼女の手に触れられた。すると熱がひき、彼女は起きてイエスをもてなした。^[16] 夕方になると、人々は悪霊につかれた人を、大勢もとに連れて来た。イエスはことばをもって悪霊どもを追い出し、病気の人々をみな癒やされた。

2. イザヤ53:3-5を読みましょう。この箇所はどのようなタイプの癒やしについて書かれていますか？

イザヤ53:3-5 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。^[4] まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。^[5] しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

3. マタイ8:17を読みましょう。私たちのわずらいと病に何が起こりましたか？

マタイ8:17 これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。」

4. 1ペテロ2:24を読みましょう。イエスが私たちのためにした二つのことは何ですか？

1ペテロ2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

5. ヤコブ5:14-15を読みましょう。15節にある「救う」は、ギリシャ語では「Sozo(ソーズー)」で、その定義は「解放する、守る、癒やす、保つ、無傷にする」とあり、そのように訳されています。また、「Sozo(ソーズー)」は新約聖書の多くの箇所ですべて「救い」と訳され、その「救い」という語の意味には「Sozo(ソーズー)」のすべての定義が含まれています。この箇所とギリシャ語の「救い」の定義からすると、私たちが受けた救いには何が含まれますか？

ヤコブ5:14-15 あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。^[15] 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

6. マタイ10:7を読みましょう。イエスが弟子たちを遣わしたとき、弟子たちに何と宣べ伝えるように命じましたか？
7. マタイ10:8を読みましょう。イエスは弟子たちに何をするように命じましたか？

マタイ10:7-8 行って、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。^[8] 病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツァラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出しなさい。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。

8. マルコ16:15を読みましょう。イエスは弟子たちに何をするように命じましたか？
9. マルコ16:16を読みましょう。私たちが福音を宣べ伝えるとき、福音を受け取ろうとする人たちは何をしますか？
10. マルコ16:17を読みましょう。信じる人々にはどのようなしるしが伴いますか？
11. マルコ16:18を読みましょう。信じる人々には、ほかにどのようなしるしが伴いますか？

マルコ16:15-18 それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。^[16] 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。^[17] 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、^[18] その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

質問の解答 — レッスン7

1. マタイ8:14-16を読みましょう。イエスは何人の人を癒やしましたか？
みな(イエスのもとに連れて来られた人々全員)。
2. イザヤ53:3-5を読みましょう。この箇所はどのようなタイプの癒やしについて書かれていますか？
身体的な癒やしも含めて、すべてのタイプの癒やし。
3. マタイ8:17を読みましょう。私たちのわずらいと病に何が起こりましたか？
イエスが私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。
4. 1ペテロ2:24を読みましょう。イエスが私たちのためにした二つのことは何ですか？
 - 私たちの罪をその身に負った。
 - 十字架の打ち傷によって私たちを癒やした。
5. ヤコブ5:14-15を読みましょう。15節にある「救う」は、ギリシャ語では「Sozo(ソーズー)」で、その定義は「解放する、守る、癒やす、保つ、無傷にする」とあり、そのように訳されています。また、「Sozo(ソーズー)」は新約聖書の多くの箇所で「救い」と訳され、その「救い」という語の意味には「Sozo(ソーズー)」のすべての定義が含まれています。この箇所とギリシャ語の「救い」の定義からすると、私たちが受けた救いには何が含まれますか？
癒やし(精神的な癒やしと身体的な癒やしの両方)。
6. マタイ10:7を読みましょう。イエスが弟子たちを遣わしたとき、弟子たちに何と宣べ伝えるように命じましたか？
天の御国が近づいた。
7. マタイ10:8を読みましょう。イエスは弟子たちに何をするように命じましたか？
 - 病人を癒やす(ツァラアトに冒された者をきよめる)。
 - 死人を生き返らせる。
 - 悪霊どもを追い出す。
8. マルコ16:15を読みましょう。イエスは弟子たちに何をするように命じましたか？
全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝える。
9. マルコ16:16を読みましょう。私たちが福音を宣べ伝えるとき、福音を受け取る

うとする人たちは何をしますか？

信じてバプテスマを受ける。

10. マルコ16:17を読みましょう。信じる人々にはどのようなしるしが伴いますか？
イエスの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語る。
11. マルコ16:18を読みましょう。信じる人々には、ほかにどのようなしるしが伴いますか？
病人に手を置けば癒やされる。

レッスン8

癒やしの妨げとなる要因

アンドリュー・ウォマック

前回のレッスンでは「私たちに癒やしを受け取ってほしい」というのが神の意志であり、癒やしは贖いの一部であるということ学びました。しかし癒やしについての学びはこれだけでは終わりません。なぜなら癒やしが神の意志だということを理解して、聖書の中の癒やしの箇所をたくさん読んだとしてもなお、「もしも私たちが癒やすことが神の意志であるなら、なぜすべての人が癒やされないのだろうか?」といった数々の疑問が浮かんでくるからです。そして、癒やしが起こらないことの要因はじつに様々です。今日はその要因に関して私が知っていることの中から、まずは入門的なことについて話したいと思います。あまりにも盛りだくさんになってしまうのでここにすべてを書くことはできませんが、癒やしが神の意志であるならなぜすべての人が癒やされないのか、その要因の一部を話していきたいと思います。一つ目の要因は無知であること、つまり、癒やしについて知らないからです。人はだれでも自分が知らないことや理解していないことを実際に適用することはできません。それが確かに真実であることを私自身の人生で身をもって知りました。

私は、神が意図することは私たちが何もしなくても自然と実現するもので、私たちの側には何の権威や力もないのだと教えられ、また、そう信じるように言われてきました。そして、私が癒やしについてまだ何も知らなかったころにいろいろなことが起こりました。私の父は私が12歳の時に亡くなり、私が21歳になるまでに私の目の前で2、3人の方が亡くなりました。私はそのつど、その人たちが癒やされるようにと祈りましたが、癒やしが現れるのを見ることはありませんでした。それは神がその人たちを癒やす気がなかったからではなく、私が癒やしについて何も知らなかったからなのです。無知が原因でいろいろなことが起こりますが、だからといって無知を言い訳にすることはできません。それは重力の法則のようなものです。たとえばある人がビルの10階から飛び降りたとして、「まさか死ぬとは思わなかった」とは言えないのと同じことです。たとえあなたがその法則について知らなかったとしても、その法則はあなたに対して絶対的な影響力を持っていて、良くも悪くも確実に働くのです。私たちは神が作った法則について多かれ少なかれ知らないことがあります。そして残念なことに、神の癒やしの法則がどのように働くのかを知らないために、多くの人が癒やしを受け取れないまま亡くなってしまっているのです。

癒やしの妨げるもう一つの要因は罪です。このように言うほとんどの場合、これを聞いた人たちからの反感を買います。なぜなら人々はこの発言を「すべての病気はその人が犯した何らかの罪が原因で起こる」という意味に解釈するからです。しかしそ

れは違います。私はそのような意味でこれを言っているのではないのです。ヨハネ9章にはイエスと弟子たちが通りすがりに見た目の見えない人について、弟子たちが尋ねる場面があります。2節には「弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」(ヨハネ9:2)と書いてあります。言い換えれば弟子たちは「だれが罪を犯したのか?」と聞くことによって、この人が盲目であることの原因を罪と結び付けようとしたのです。それに対してイエスは「この人が罪を犯したのでもなく、この人の両親が罪を犯したのでもない」と答えました。それは、この目の見えない人も彼の両親も今までに罪を犯したことがないということを言っているのではなく、この人が盲目であることと、この人自身と彼の両親とが犯した罪との間には因果関係はないと言っているのです。ここで注意したいのは「すべての病気が罪によって起こる」というのは真実ではありませんが、逆に「罪が病気の原因となることはない」というのも真実ではありません。

ヨハネ5章にはイエスがベテスダの池にいたとき、病気の男を超自然的に癒やした場面があります。そこには具合の悪い人たちが大勢横たわっていましたが、その中の一人だけが癒やされました。12節で、あるユダヤ人が「『取り上げて歩け』とあなたに言った人はだれなのか。」(ヨハネ5:12)とその男に尋ねると、彼は自分を癒やした人物がだれであったのかを知らなかったことが分かります。続く13-14節には「しかし、癒やされた人は、それがだれであるかを知らなかった。群衆がそこにいる間に、イエスは立ち去られたからである。^[14]後になって、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたは良くなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないと、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれない。」(ヨハネ5:13-14)と書いてあります。つまりイエスはここで、彼が再び罪を犯すなら、その罪は今までの彼の病気よりもっと悪い何かを引き起こすかもしれないと言ったのです。このときイエスは彼の病気の原因として罪を結び付けました。しかしイエスはヨハネ9章に登場した盲目の人については、彼の目が見えないのは罪が原因ではなく生まれつきのものだと言

つ た の す 。

病気や問題がただ自然の摂理によって起こる場合と、罪の結果として起こる場合があります。いずれの場合も、神がそれらの問題や病気をもたらしているということではありません。たとえば同性愛の罪の中に生きている場合を考えてみましょう。同性愛は本来あるべき性の形をゆがめているのであって、人間の体はそのような関係の中で生きるようには造られていません。性感染症(STD)はそのライフスタイルから来ています。それはただ人間がそのようには造られていないので、自然の摂理に逆らった結果として病気になったのであって、神がそれらの病気の創造主ではないのです。たとえばあなたが外食をして食中毒になったとします。その食中毒は良くないものを食べた結果、体が起こす自然な反応であって、神がそれを起こしたわけではありません。

レッスン8

私たちが生きているこの世界では、すべてのことを神が起こしているというのではなく、自然の摂理とそこから来る要因があるのです。そして、人々が癒やされない要因の一つが罪であるというのも事実です。

もしもあなたが、自覚がありながら罪を犯して、それと同時に神の癒やしを信じて求めているなら、その罪をやめる必要があります。なぜならそれは、あなたが自分の人生において神の力を受け取るのを妨げてしまうその糸口をサタンに与え続けることになるからです。ローマ6章16節には「**あなたがたは知らないのですか。あなたがたが自分自身を奴隷として献げて服従すれば、その服従する相手の奴隷となるのです。つまり、罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至ります**

」と書いてあります。これはサタンがあなたの人生の主になる、または、あなたが救いを失って地獄に行くという意味ではありませんが、あなたがクリスチャンであるかどうかにかかわらず罪の中に生きているのなら、あなたは自分の人生に対してサタンに侵入権を与えてしまっているのです。ヨハネ10章10節には「**盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。**」と書いてあります。しかしイエスが来たのはあなたにいのちを与えるためです。つまりあなたは、イエスのいのちと癒やしを受け取ろうとしながらも同時に、サタンが病気を持ち込むことを許してしまっているのです。罪を犯すという形であなたがサタンに服従しているなら、あなたはサタンに力を与えることになり、あなたの人生において、サタンにより多くのチャンスを与えてしまうのです。祈りによって神に強く癒やしを願い求めることができたとしても、あなたの罪の行動そのものが、サタンが病気を持ち込むことを許してしまっているのです。ですからもしもあなたが今、罪の中に生きているならすぐにその罪をやめる必要があります。

ここで付け加えておきたいことがあります。あなたが自分自身をふり返って「私はいつも何をやってもダメだから」などと思ってしまい、神の癒やしを信じているにもかかわらず「私には癒やされる価値がない。だから癒やされないのだ」などと考えてしまうかもしれません。しかしそれは明らかに間違った考えです。だれひとりとして価値があるから癒やされたという人はいません。いまだかつて神の力が働くための、その資格があった人などイエス以外にはいないのです。神の力があなたの人生に働くことを、あなたの*行いの良し悪しや清さとだけ関連付ける必要はありません[*宗教的な良い行いをするという意味ではなく、罪を犯さないという意味での行いの良し悪し]。それも全く無関係とは言えませんが、神の力の働きはイエスがあなたにしてくれたことと、イエスに対するあなたの信仰に基づく必要があります。そして、もちろんあなた自身の行動も無視することはできません。あなたが癒やしを受け取ることをサタンが妨げることがないように、自分の行動がサタンの言いなりにならないように注意しなければなりません。あなたが悔い改めて、サタンが入り込んでくる隙を与えるようなことをするのを

やめれば、癒やしの力が今よりももっと簡単に、もっと強く働くのを見ることができるようになるでしょう。

また別の要因として、癒やしについての否定的な考えと周囲の人たちの不信仰が挙げられます。このように言う人はあまり多くありませんが、癒やしについての否定的な考えと周囲の人の不信仰は、あなたが癒やしを受け取ることを妨げてしまうのです。その典型的な例としてマルコ6章には、イエスの生まれ故郷で人々は、イエスを子どものころから知っていたために、イエスとその働きを尊敬しなかった様子が書かれています。人々はイエスのことだけでなく、イエスの両親と兄弟たちのことも昔から知っていたために、ほかの人たちと同じようにはイエスを尊敬しませんでした。イエスの生まれ故郷の人たちは、イエスのところに来て彼を批判しました。マルコ6章4-6節には「**イエスは彼らに言われた。「預言者が敬われないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです。」**^[5] **それで、何人かの病人に手を置いて癒やされたほかは、そこでは、何も力あるわざを行うことができなかつた。**^[6] **イエスは彼らの不信仰に驚かれた。」**と書いてあります。ここにはイエスが力あるわざを「行わなかつた」ではなく、「行うことができなかつた」と書いてあるのです。神の御子であるイエスは完全な信仰を持った人間としてこの地上に来ました。そしてイエスの人生には罪がつけ込む隙は全くありませんでした。それでも周囲の人たちの不信仰によって、イエスがもっとできたはずの癒やしは制限されてしまったのです。このことをマタイ13章58節と併せて見てみましょう。「**そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは多くの奇跡をなさらなかつた。**」(マタイ13:58) イエスご自身の中にはその力を制限してしまう要素は何一つなく、もちろんサタンに隙を与えてしまうような罪ありませんでしたが、周囲の人たちの不信仰によってイエスの癒やしの働きが制限されてしまったことが分かります。

神はいつでもだれのことで癒やしたいという意志を持っているということを理解することは本当に重要です。そしてあなたがそのことを心から信じるなら、あなたは病院に行ってそこにいる病人を片っ端から祈って癒やし、病院を空にしようと試みるという、ある意味素晴らしい間違いを犯すかもしれません。なぜならあなたは、すべての人が癒やされることが神の意志であると信じているからです。確かに癒やしは神の意志ですが、神は本人の意志に反して動くことはしません。もし本人が「病気でも仕方がない」とか「もう良くなることはない」と思っているなら、神はその本人の意志を尊重し、それに反して癒やしの力は働かないのです。ほかの人が本人に癒やしを強要することはできません。そしてまた、本人が癒やされる意志が全くないのなら、本人以外のだれかの信仰だけでは癒やしは起こらないのです。もしも本人が癒やされようとして戦っているなら、ほかのだれかの信仰がそれを助けることはできますが、ほかの人が本人に代わって癒やしそのものを本人の身に起こすことはできないのです。このことをたとえて言うと、車のギアがニュートラルに入っているときは一人でも簡単

レッスン8

に車を押し、前に動かすことができますが、パーキングやバックに入っているときには動かすことができないのと同じことです。本人に癒やされたいという意志がない場合、その病気を克服することはできません。それが、私たちが病院にいる患者全員を祈って回復させたり、教会の礼拝で本人の意志と協力なしにすべての人が癒やされるのを見たりすることがない理由です。

癒やしと本人の意志や信仰(本人がクリスチャンである場合)とのかかわりについて言えることはまだたくさんあります。イエスが人々を癒やし、死者さえも生き返らせたとき、イエスはその当事者に対して「わたしを信じるならもう泣かないでください」と言いました。イエスはある母親に「泣かなくてもよい」と言ってから、彼女の息子を生き返らせたのです(ルカ7:13-15)。癒やしが起こるためにはだれかの信仰が働かなければなりません。癒やしには私たち自身の信仰が求められることに加え、ほかにも本当にたくさんの要因がかかわっています。今日はほんの少しだけを話しましたが、この学びが皆さんの役に立つことを願っています。そしてこの学びの中で一番理解してもらいたいことは、神は忠実な方であるということです。「癒やしを受け取ってほしい」というのは神の意志ですが、あなたが癒やされるためにはどのように神と協力して癒やしを受け取るのかを学ぶ必要があるのです。神があなたに代わって癒やしを受け取ることや、癒やしを行うことはできません。神は‘あなたを通して’癒やしを行わなければならないのです。そして、その癒やしの力はあなたの内側から来るのです。

もしも今あなたの中に癒やしを妨げる要因があるのなら、今日の学びによってその要因となっていることを神に明け渡し、完全にゆだねることができるように、それをすることで、神の力があなたを通して働くように、また、神が与えてくれる超自然的な健康の中を歩み続けることができるようにと祈ります。

振り返りのための質問とみことば

1. マタイ8:17を読みましょう。イエスは私たちが癒やされるために何をしましたか？

マタイ8:17 これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。」

2. ホセア4:6を読みましょう。人々が癒やされないのはなぜでしょうか？

- A. 無知のため(知識がないので)。
- B. 教会に行かないから。
- C. 癒やされるのに値するほど素晴らしい人たちではないから。

ホセア4:6 わたしの民は知識がないので滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしもあなたを退け、わたしの祭司としない。あなたがあなたの神のおしえを忘れたので、わたしもまた、あなたの子らを忘れる。

3. ヨハネ9:1-3を読みましょう。弟子たちは、この人が目が見えない原因は何だと考えていましたか？
その考えは正しかったですか？

ヨハネ9:1-3 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。^[2]弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」^[3]イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。」

4. ヨハネ5:14を読みましょう。罪は病気の原因となることがありますが、罪が引き起こすものはそれだけではありません。病気以外に罪はどのようなことを引き起こしますか？

ヨハネ5:14 後になって、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたは良くなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないと、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれない。」

5. ローマ5:12-14(リビングバイブル)を読みましょう。あなたの個人的な罪が必ずしも病気の原因でないなら、ほかに考えられる原因は何でしょうか？

レッスン8

ローマ5:12-14 (リビングバイブル) アダムが罪を犯した時、罪が世界に入り込みました。アダムの罪によって死が全人類に広まり、すべての人は死ぬように定められました。それというのも、すべての人が罪を犯したからです。^[13] これらの原因がアダムの罪にあることを、私たちは知っています。アダムからモーセまでの時代にも人々は罪を犯しましたが、神はそのころ、罪を犯したからといって、彼らに死刑を宣告したりはなさいませんでした。神はまだ、彼らに律法を与えておらず、また、彼らにどんなことを望んでおられるか告げてもいなかったからです。^[14] そういうわけで、彼らの肉体の死はアダムの罪によるもので、彼らの罪のせいではありませんでした。アダムは人類を代表するという意味で、やがて来られるキリストの原型ですが、両者はなんと対照的でしょう。

6. 使徒10:38を読みましょう。この箇所にかかれている病気の原因は何ですか？

使徒10:38 それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。

7. マタイ13:58を読みましょう。癒やしは何によって妨げられることがありますか？

マタイ13:58 そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは多くの奇跡をなさらなかった。

8. ヤコブ5:15を読みましょう。病んでいる人を救うのは何ですか？

ヤコブ5:15 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

質問の解答 — レッスン8

1. マタイ8:17を読みましょう。イエスは私たちが癒やされるために何をしましたか？
私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。
2. ホセア4:6を読みましょう。人々が癒やされないのはなぜでしょうか？
A. 無知のため(知識がないので)。
3. ヨハネ9:1-3を読みましょう。弟子たちは、この人が目が見えない原因は何だと考えていましたか？
罪。
その考えは正しかったですか？
いいえ。
4. ヨハネ5:14を読みましょう。罪は病気の原因となることがありますが、罪が引き起こすものはそれだけではありません。病気以外に罪はどのようなことを引き起こしますか？
最悪死に至るほどの、病気よりもっと悪いこと(ローマ6:23も参照)。
5. ローマ5:12-14(リビングバイブル)を読みましょう。あなたの個人的な罪が必ずしも病気の原因でないなら、ほかに考えられる原因は何でしょうか？
原罪(創世記3章に書かれている人類初の罪のこと)。アダムが犯した罪によって、罪と病気(死)が全人類に広まった。
6. 使徒10:38を読みましょう。この箇所にかかれている病気の原因は何ですか？
悪魔の虐げ。
7. マタイ13:58を読みましょう。癒やしは何によって妨げられることがありますか？
不信仰。
8. ヤコブ5:15を読みましょう。病んでいる人を救うのは何ですか？
信仰による祈り。

レッスン9

他の人を赦すこと

ドン・クロウ

今日はマタイ18章21-22節から、赦しについて学んでいきましょう。「そのとき、ペテロがみもと*(イエスのところ)に来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」^[22] イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」(マタイ18:21-22)[*()]内は筆者による加筆]ペテロがイエスに、「だれかが私に対して一日のうちに何度も繰り返し罪(たとえば悪口や嫌がらせなど)を犯した場合、何回赦したらいいと思いますか?七回まで赦せばいいですか?」と尋ねたとき、彼は自分自身のことを「俺ってかなり寛大だ」と思っていたに違いないと思います。イエスは「ペテロ、私は七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです」と答えました。これを計算すると490回になりますが、490回以降は赦さなくていいという意味ではありません。このときイエスは、一日のうちで一人の人に対して起こり得ない攻撃(悪口や嫌がらせなど)の回数を意味して490回と言ったのです。つまりイエスは、赦すことは絶え間なくずっと続けるべきことだと言ったのです。赦すことはクリスチャンとしてのあるべき真の姿です。イエスはルカ23章34節で「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」と言いました。また、迫害によって殺されたステパノはその迫害の場面、使徒7章60節で「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」と言っています。私たちが相手を赦したからといって、その相手の人たちは、いつも必ずその赦しを受け取るわけではありませんが、クリスチャンとしての心の態度はどのようなときも無条件に相手に赦しを差し出すべきなのです。

続くマタイ18章23-26節でイエスは赦しについてのたとえ話をします。「ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたと思った。^[24] 清算が始まると、まず*一万タラント*(リビング訳によると、一タラントは六千デナリに相当。一デナリは当時の一日分の賃金。一万タラントは莫大な金額)の負債のある者が、王のところに連れて来られた。^[25] 彼は返済することができなかつたので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。^[26] それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。」(マタイ18:23-26)[*()]内は筆者による加筆]この状況を今の時代の現実のこととして考えてみると、「ある男性がその雇い主に対して‘少なくとも数十億円’というような額を上回る莫大な借金をしていました。それは返済のめどが立たない借金で、彼の雇い主もその男性が返済できないことを分かっていた」というようになります。当時は今のように破産申告をして借金を帳消しにすることはできませんでした。そのため借金の返済ができない場合、自分の妻と子どもを売り、全財産も売り払って、自分自身は奴隷になる以外に方法はありませんでした。奴隷になるといっ

でも、すべての返済が終わるまでは牢屋に入れられ、返済ができないなら一生その牢屋から出ることはできませんでした。マタイのこの場面でこの男ができた唯一のことは、主君の前でひれ伏して「王様、どうか猶予をください。お願いします。そうすれば、すべてお返しします。それまでどうか待ってください」と泣きすがってあわれみを乞うことだけでした。次の27節で何が起こったかを見てみましょう。「**家来の主君はかわいそうに思って彼を救し、負債を免除してやった。**」(マタイ18:27)と書いてあります。

私たちはだれもが罪という返済できない借金を抱えていました。聖書には、罪の報酬は死である(ローマ6:23)—その死とは、神から永久に切り離されること—と書いてあり、たとえ世界中のすべての金銀を集めてその借金の返済に充てたとしても返済することは不可能で、この世のどんなものも、その借金のために奴隷となってしまった私たちを買い戻すことはできませんでした。そして神はあわれみと恵みによって、私たちが返済できなかったその借金を、神ご自身が肩代わりするために神のひとり子であるイエス・キリストをこの地上に送ったのです。神は私たちのことを見て、慈悲の心であわれんで「わたしはあなたの借金(罪)を救す」と言ったのです。

ここで先ほどの、雇い主に数十億円もの借金を免除してもらった男性の話に戻しましょう。この男性は自分の同僚に二千元ばかりを貸していました。そしてその同僚を見つけて「聞いてくれ。私はなんとたった今、数十億円もの借金を免除してもらった。そしてお前に貸している二千元のことを考えてみた。私と同じようにお前にも自由になってもらいたいから、その二千元のことはもういい。忘れてくれ。何しろ私は数十億円もの借金を免除してもらったのだから!」というようなことが起こるべきでしたが、そうではありませんでした。続く28-31節でどうなったのかを見てみましょう。「**ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。^[29]彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。^[30]しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。^[31]彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。**」(マタイ18:28-31) その男性は自分が数十億円もの借金を免除された直後に、たった二千元の借金のためにその同僚を刑務所に入れたのです。こんな事があっていいものでしょうか？

そして32-34節には「**そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。^[33]私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』^[34]こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。」(マタイ18:32-34)と書いてあります。この男性は自分の同僚に対してひどい扱いをしたために刑務所に入れられ、雇い主から受けた赦し(数十億円の免除)も失いました。**

35節でイエスは「あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」(マタイ18:35)とっています。私たちクリスチャンはすべての罪—それは死に値するものであり、その死とは神から永久に切り離されること—の赦しを受けたにもかかわらず、他の人を赦すことを拒否するのなら、それは全く道理に反したことです。私たちがもし神に「イエス様、あなたを信じます。だからどうか私をあわれんで赦してください」とお願いして赦しを受け取ったその後でほかの人に向き直って、その人が自分にした些細なことを「それは私にとっては重大で赦せないことだ」と言ってその相手を赦さないなら、それはこの男がしたことと同じです。神はそれを「邪悪なことだ」とっています。

私は以前、教会で牧師をしていたことがあります。その教会の中に未来の出来事を予知することができる若い女性がいました。ある日、その女性が私のところに来て「私の中の何かが、未来に起こることを私に教え、それを見せてくれるのですが、それは聖霊でしょうか？私にはいつだれが死ぬのか、いつだれが交通事故に遭うのか、そういったことが分かるのです」と言いました。私は「あなたはきっと私の答えが気に入らないでしょう。でも私は、それは聖霊だとは思いません。それは使徒16章で、若い女奴隷に取りついていて、パウロに付きまとったのと同じ類の‘占いの霊’だと思います。最終的にパウロがその霊に対して、その女奴隷から出ていくように命じるとその霊はただちに出ていき、その後、その女奴隷は占いをすることができなくなったことが書かれています(使徒16:16-19)。」私はさらに続けて「私は神様ではない」と断った上で、「私のところに聞きに来る代わりにイエスのところに行って、“主よ、私があなたに救われるよりもずっと前から、このように未来のことを私に教えるのは聖霊ですか？それともほかのものですか？”と聞いてみてください」と言いました。数日後、その彼女は再び私のところに来て「私はあのことについてイエスと話してみました。だから大丈夫だと思います」と言いました。私は「何であれ、主がそう言ったのであれば大丈夫ですね。私は*大牧者ではありませんから、私に確認しなくても大丈夫ですよ」と言いました[*大牧者とはイエスのことを指す語(ヘブル13:20)]。

それは1986年の初めのことでした。その年に何が起こったか知っていますか？アメリカのスペースシャトル・チャレンジャー号の打ち上げが予定されていて、7人の宇宙飛行士が搭乗することになっていました。そのうちの一人の女性は学校の先生でした。先ほど話したこの‘未来を予知できる’若い女性は、その女性教師が「私は明日、チャレンジャー号に乗り込みます」と言ってスペースシャトルの打ち上げについて話しているのをテレビで見っていました。そのとき‘その霊’が彼女に話しかけ、「この女は死ぬよ。この女は死ぬ」と言いました。その翌日、チャレンジャー号が打ち上げられ世界中が見守る中、チャレンジャーは空中爆発を起こし乗組員全員が亡くなってしまいました。その若い女性はまた私のところに来て「*ブラザー・ドン、私に未来のことを予知させているのは

聖霊ではないかもしれませんが[*クリスチャンの男性に対して尊敬と親しみを込めて、その人の名前に付けて言う呼び方]。私のために祈ってもらえますか？」と言いました。その日の夜の礼拝後、教会の人たちが皆帰った後、私は彼女の手を取り、「汚れた占いの霊よ、彼女の中から出なさい！」と命じました。しかし何も起こりませんでした。聖書の中でイエスの弟子たちが、ある人の息子から汚れた霊を追い出そうとして追い出せなかったことがあります。そして、そのときイエスは「あなたの息子を‘ここに連れて来なさい’」(ルカ9:40-41)と言いました。私はそれを思い出し、「主よ、私はこの女性の中で何が起っているのか理解していると思っていましたが、そうではないようです。今この女性をあなたの下に連れて行き、あなたの手ゆだねます。だから彼女の中で何が起っているのか私たちに教えてください」と祈りました。その場で私の妻と一緒に祈っていました。そして神は私の妻に知識のことばを与えてくれました。妻は「これは何か、彼女の母親と関係がある」と言いました。私はそれを聞いて、その彼女に「お母さんのことを赦しましょう」と言いました。その瞬間彼女は「いやだー！うちのお母さんは私を捨てたんだからー！」と叫ぶように吐き捨てました。私は「汚れた霊よ、お前を縛る！」と言ってから再び彼女に母親を赦すかどうかを尋ねました。その後、彼女は母親のことを赦し母親への苦い思いを心の中から追放することができました。神の恵みと助けによって母親に対する赦せない思いを手放すことができたのです。そのようにできたのは彼女が赦すという決断をしたからです。そして彼女は自分自身の解放と自由を受け取りました。

イエスがマタイ18章のたとえ話で言ったように、天の父によって莫大な借金を赦された私たちはその赦しを受け取っておきながらも、ほかのだれかを心から赦さないなら*獄吏(ごくり)たち[*牢屋の役人—それは私たちを苦しめる者]の手に引き渡される(34節)ことになるのです。獄吏たち(私たちを苦しめる者)とは何でしょうか？それは、ありとあらゆる悪い物事—悪魔が私たちの心の中に作る要塞、様々な虐待、体調不良、うつ、病気など、数えきれないほどたくさんのことがあります。そして、それらの根っ子にあるのは‘赦せない思い’なのです。私たちが神からの赦しを受けた後でほかのだれかを赦さないことは、自分自身の人生にサタンの侵入を許可することになります。聖書は私たちに、赦すことは決断であり、赦さなければならぬということを教えています。主の祈り(マタイ6:9-13)の中でイエスは「**私たちの負い目をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。**」(12節)と祈るように教えています。

マルコ11章25節には「私たちが祈るとき、だれかに対して恨んでいることがあるなら、赦しなさい」と書いてあります。これはどういう意味でしょうか？どれくらいすぐに相手を赦さなければならぬのでしょうか？私たちは常に神に祈っていますよね？このマルコの箇所は、赦せない思いがないかどうか、常に心を探り、赦せない思いがあることに気づいたらすぐにその相手を赦す決断をしなければならないということを意味しています。も

レッスン9

し私たちの心の中に少しでも赦せない思いがあるなら、私たちはその思いを今すぐ手放して「神様、私は今この思いを手放し、この人たちを赦します。私はあなたによって莫大な赦しを受けたから、ほかの人のことも赦すことを選択します」と祈るべきです。

主よ、今これを学んでいるすべての人のために祈ります。その人たちの心の中に赦せない思いがあるなら、この瞬間に赦す決断をしてその思いを手放すことができるように、赦せなかったその相手が生きている人であれ、すでに亡くなっている人であれ、赦すことができるように、主よ、あなたの力と恵みによってその赦せない思いを手放して、心の痛みと傷が癒やされるようにと祈ります。主よ、感謝します。イエスの名によって。アーメン。

振り返りのための質問とみことば

1. マタイ18:21を読みましょう。ペテロは何回までなら赦してもいいと考えていましたか？

マタイ18:21-26 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」^[22] イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。^[23] ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。^[24] 清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。^[25] 彼は返済することができなかったので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。^[26] それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。

2. マタイ18:22を読みましょう。イエスは何回まで赦さなければならないと言いましたか？ また、それはどのような意味ですか？
3. マタイ18:23-24を読みましょう。この家来は、主君に対していくらの借金がありましたか？ それは今のお金で考えると返済可能な金額ですか？
4. マタイ18:25を読みましょう。今とは違って当時は破産申告をすることができなかったので、この家来はどうしなければなりませんでしたか？
5. マタイ18:26を読みましょう。この家来は主君に対してどのようにお願いをしましたか？ この家来は借金を返すことができましたか？
6. マタイ18:27を読みましょう。主君はその家来に対してどのような態度を示しましたか？ 神は私たちと私たちの負債(罪)に対してどのような態度を示しましたか？
7. マタイ18:28を読みましょう。借金を免除された家来は、自分の仲間にはいくら貸していましたか？
8. マタイ18:28で、この家来が自分の仲間に対してとった態度はどのような態度でしたか？
9. マタイ18:29-30を読みましょう。この家来は自分の仲間をどうしましたか？

レッスン9

10. マタイ18:31-33を読みましょう。この主君は、仲間を容赦しなかった家来に何と仰いましたか？(その家来のことを何と呼びましたか?)
11. マタイ18:33でこの主君は、その家来にどうするべきだったと言いましたか?
12. マタイ18:34でこの主君は、何が起こったのかを知ったとき、この家来をどうしましたか?
13. マタイ18:34でこの家来は、自分の‘赦さない行動’もしくは‘赦さない決断’によって、彼がもともと受け取っていた赦しを失いましたか?
14. マタイ18:35を読みましょう。この箇所はどのような意味ですか?

マタイ18:27-35 家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。^[28]ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。^[29]彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。^[30]しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。^[31]彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。^[32]そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。^[33]私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』^[34]こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。^[35]あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」

質問の解答 — レッスン9

1. マタイ18:21を読みましょう。ペテロは何回までなら赦してもいいと考えていましたか？
七回。
2. マタイ18:22を読みましょう。イエスは何回まで赦さなければならないと言いましたか？
490回。
また、それはどのような意味ですか？
継続して無限に。
3. マタイ18:23-24を読みましょう。この家来は、主君に対していくらの借金がありましたか？
一万タラント。
それは今のお金で考えると返済可能な金額ですか？
少なくとも数十億円というような額を上回る莫大な借金。決して返済できない金額。
4. マタイ18:25を読みましょう。今とは違って当時は破産申告をすることができなかったのです、この家来はどうしなければなりませんでしたか？
自分自身と妻子は奴隷市場で競売にかけられ、持っている物もすべて売って返済しなければならなかった。(その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。)
5. マタイ18:26を読みましょう。この家来は主君に対してどのようにお願いをしましたか？
「もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします」と言った。
この家来は借金を返すことができましたか？
どうも返済できなかった。
6. マタイ18:27を読みましょう。主君はその家来に対してどのような態度を示しましたか？
かわいそうに思って彼を赦した。
神は私たちと私たちの負債(罪)に対してどのような態度を示しましたか？
かわいそうに思って私たちと私たちの負債(罪)を赦した。

レッスン9

7. マタイ18:28を読みましょう。借金を免除された家来は、自分の仲間にはいくら貸していましたか？
百デナリ。
8. マタイ18:28で、この家来が自分の仲間に対してとった態度はどのような態度でしたか？
短気で荒々しく、赦さない態度。
9. マタイ18:29-30を読みましょう。この家来は自分の仲間をどうしましたか？
負債を返すまで牢に放り込んだ。
10. マタイ18:31-33を読みましょう。この主君は、仲間を容赦しなかった家来に何と言いましたか？(その家来のことを何と呼びましたか？)
悪い家来だ。
11. マタイ18:33でこの主君は、その家来にどうするべきだったと言いましたか？
私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。
12. マタイ18:34でこの主君は、何が起こったのかを知ったとき、この家来をどうしましたか？
怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏(ごくり)たちに引き渡した。
13. マタイ18:34でこの家来は、自分の‘赦さない行動’もしくは‘赦さない決断’によって、彼がもともと受け取っていた赦しを失いましたか？
はい。(ただし、赦さないことによってただちに救いを失ったという意味ではない。)
14. マタイ18:35を読みましょう。この箇所はどのような意味ですか？
*あなたたちの中で、もしだれかがあなたに対してあわれみを乞うにもかかわらず、無条件にその人を赦さないなら、これがまさに、天の父が、そういったすべての赦さない人に対してすることです。*Matthew 18:35 And that's exactly what my Father in heaven is going to do to each one of you who doesn't forgive unconditionally anyone who asks for mercy. MSGからの直訳]

レッスン10

結婚(1)

ドン・クロウ

今日の学びは結婚についてです。最初にいくつかのアメリカ国内の統計データを見ていきたいと思います。国内の全世帯のうち、約75%は何らかの結婚カウンセリングを必要としています。結婚したカップルの2組のうち1組は離婚に至ります。約50%のカップルは結婚してから5年以内に夫か妻のどちらかの浮気があります。キリスト教業界の中でさえ、フルタイムでミニストリーに関わる人たちのうち約30%もの人たちが同じ教会内のだれかと不適切な関係を持つようになると言われていています。これらの数字が限りなく実態に近いものであるなら、この統計データから明らかに言えることは、私たちは結婚についての聖書の法則をきちんと理解していないということです。今日は結婚について見つめ直し、聖書の中で神が教えていること—どうしたら夫婦の関係を強化できるのか、その方法を学んでいきましょう。

私がまず伝えたいことは、結婚は神が創った概念だということです。結婚がどうあるべきかを設計したのは神です。創世記2章18節には「また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」と書いてあります。また創世記1章31節には「神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。」と書いてあります。つまり結婚は、神が創った完璧な作品で非常に良いものだったということ覚えておく必要があります。当時、神はエデンの園に来てはアダムとの交流を楽しんでいました。神とアダムとの間には素晴らしい関係がありました。毎日、夕方の涼しい時間帯になると、神は交流の時間を持つためにアダムを訪れました。私たちは時々、神との完全な関係があればほかには何もいらなと思うことがありますがそれは真実ではありません。創世記1章31節で、神は自分が創造したものすべてについて「それは非常に良かった」と言っています。そして神が初めて「良くない」と言った箇所が創世記2章18節にあります。そこには「人がひとりであるのは良くない。」と書かれています。結婚は人間の必要を満たすための神のアイデアであり、人生の中で直面する様々な問題に人がひとりで対処することのないように、その助け手となるパートナーを与えるためのものでした。もしも私たちが、神が作った人生のマニュアル(聖書)の中で、結婚について神が指示しているとおりのことを実際の結婚生活の中で行うなら、結婚は人生に幸福をもたらすものであって、惨めさや不幸をもたらすものではないはずです。

聖書の中で、結婚について初めて核心に触れている箇所が創世記2章24節で、「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」と書いてあります。結婚とはある意味、今までのすべての人間関係を捨てて、自分の人

レッスン10

生の焦点を結婚相手に定め直すことであり、神はそのように結婚を設計したのです。それは*三位一体の関係のようなものです[*神の中にある三つの位格(父・子・聖霊)はそれぞれ別の完全な存在でありながら神は唯一であること]。神がアダムとエバを夫と妻として結び合わせたとき、彼らと神との関係はもはや個々に‘アダムと神’、‘エバと神’というものではなくなりました。そのときからアダムとエバはふたりでひとりの人として、神の目的の中で一体となったのです。1ペテロ3章7節には「同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らさなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。」と書いてあります。そして創世記5章1-2節には「これはアダムの歴史の記録である。神は、人を創造したとき、神の似姿として人を造り、^[2]男と女に彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、彼らの名を「人」と呼ばれた。」と書いてあります。このみことばには、皆さんに気づいてもらいたい重要な意味があります。アダムは自分の妻をエバと名付けましたが、神はアダムとエバをふたりまとめてひとりの人として「*アダム(人)」[*「アダム」はヘブライ語で「人間」という意味を持つ]と呼んだのです。したがって、結婚生活の中での神との関係は‘神と私’もしくは‘神と自分の妻(もしくは夫)’というように、夫婦が個々に神との関係を持つというものではなくなるのです。—それは、神の目的に仕えるために召されたふたりが一つになり一致して歩み続けるために、また、神が与えてくれた人生の恵みによって「いのちの恵みをともに受け継ぐ相続者」となるために、夫と妻が一体となって神との関係を築いていくことなのです。

先ほど読んだ創世記2章24節には、「男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる」と書いてありましたが、聖書のキング・ジェームズ訳では「一体となる」の部分に「Cleave(クリーヴ)」という語が使われています。「Cleave(クリーヴ)」には意識的にぴったりくっつく、密着する、一つになるという意味があります。もしもあなたが今、結婚生活の中で何か問題を抱えているなら、私からいくつかの質問があります。日々の生活の中であなたが配偶者に対してとっている行動や話す言葉は、互いの距離を縮めてふたりが一体となっていくことを助長していますか?それとも逆に、不和や分裂を引き起こしていますか?結婚についての聖書の教えは、ふたりが互いにぴったりくっつく、密着する、つまり一体になることです。今あなたがしていることはふたりの関係を築くのに役立っていますか?それともふたりの関係を壊す方向に働いていますか?私が今言ったこれらの質問について考えてみてください。

「あなたを愛していたけど愛が冷めてしまったみたい。—私はもうあなたを愛していない」というように人々は、愛とは単に直感的な感情だと思っています。たとえばあなたが崩壊した家庭で育ったとします。大人になったあなたは、牧師や結婚届の証人の前で結婚の誓約をして、相手に自分のいのちをささげる約束します。そのときあなたは心の底からこの結婚が死ぬまで続くことを望んでいます。しかしあなたは崩壊した家

庭で育ったために、家庭内での愛情表現を見たことがなく両親が互いに愛し合っている家庭の温かさを体験することもなく、愛とはどのようなものであるかを知らずに育ちました。あなたの配偶者は愛情にあふれた家庭で育ったかもしれませんが、あなたの方は愛情をどう表現したらいいのか分からないのです。自分がいのちをささげることが約束したその相手を本気で愛したいと思っても、自分自身の中に様々な問題を抱えているのに加えて、愛情表現というものを見たことがないためにどうしたらいいか分からず、結局失敗してしまうのです。おそらく結婚してから数年以内にはカウンセリングを受けて、「これは単に性格の不一致です。私たちはもう愛し合ってはいません」というようなことになってしまうかもしれません。でも今日の学びの中に良い知らせがあります。あなたが今、結婚生活で何か問題を抱えていたとしても、それを修正する方法があります。

たとえば新品の冷蔵庫を買って何年も経たないうちにその冷蔵庫が故障したときは、まずは取扱説明書を見るでしょう。取扱説明書は何が問題なのかを教えてください。あるいは、あなたは修理を頼むかもしれません。いずれにしてもその問題を解決しようとするでしょう。ここにはあなたの結婚生活の問題を解決するための取扱説明書があります。それが聖書であり、みことばです。テトス2章4節には「愛は教えることができ、また、学ぶことができるものである」ということが書かれています。あなたがもし崩壊した家庭で育ったために配偶者をどう愛したらいいか分からなくても、また、たとえ今結婚生活が崩壊しそうになっていたとしても大丈夫です。1ヨハネ5章3節には「**神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。**」と書いてあります。聖書の中でイエス・キリストは、他の人を愛する方法、親切と寛容さの表し方、相手の幸せを追求する方法を教えてください。神はイエスの教えを通してあなたの結婚生活の今の状況を変えることができます。

今日のレッスンは結婚というテーマの前置きにすぎません。次のレッスンでも結婚についての学びを続けます。最後に、あなたが引き続きこのテーマについて学ぶにつれて、神の祝福があるようにと祈ります。この学びを通して神が私たちにより多くの知恵と知識を与えようとしていることを信じています。

振り返りのための質問とみことば

1. エペソ5:31-32を読みましょう。31節は創世記2:24からの引用です。エペソのこの箇所はどのような意味でしょうか？

エペソ5:31-32 「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」^[32] この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指しているのです。

2. ヤコブ4:4-5を読みましょう。この箇所から、神は私たちにどのようなことを望んでいると言えますか？

ヤコブ4:4-5 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。^[5] それとも、聖書は意味もなく語っていると思いますか。「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。

3. 1ペテロ3:7を読みましょう。結婚した相手と一体となって人生を歩み、互いに愛し合うべきであるのはなぜですか？

1ペテロ3:7 同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らさなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。

4. ヨハネ15:5を読みましょう。人生の主であるキリストとのつながりなしに良い結婚生活を送ることはできますか？

ヨハネ15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

5. テトス2:4-5を読みましょう。愛は単なる感情ではありません。この箇所によると、愛とはどのようなものですか？

テトス2:4-5 そうすれば、彼女たちは若い女の人に、夫を愛し、子どもを愛し、^[5] 慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で、自分の夫に従順であるように諭すこ

とができます。神のことばが悪く言われることのないようにするためです。

6. 1ヨハネ5:3を読みましょう。神の命令を守ることとは、どのようなことですか？

1ヨハネ5:3 神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。

7. マタイ7:12を読みましょう。結婚生活に問題があるのはふたりのうちのどちらか、もしくはふたりともが～のうちに歩んでいないからです。～とは何でしょうか？

マタイ7:12 ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。

8. 1コリント3:4を読みましょう。愛とは何ですか？

- A. 感情的なもの。
- B. 熱い気持ち。
- C. 親切(思いやり)。

1コリント3:4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

質問の解答 — レッスン10

1. エペソ5:31-32を読みましょう。31節は創世記2:24からの引用です。エペソのこの箇所はどのような意味でしょうか？
結婚とは、キリストとキリストの教会が一つであるように、ふたりが一体となることである。
2. ヤコブ4:4-5を読みましょう。この箇所から、神は私たちにどのようなことを望んでいると言えますか？
「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる」とは、つまり神は、私たちが神の前に偽りなく忠実であることを望んでいる。
3. 1ペテロ3:7を読みましょう。結婚した相手と一体となって人生を歩み、互いに愛し合うべきであるのはなぜですか？
祈りが妨げられないため。
4. ヨハネ15:5を読みましょう。人生の主であるキリストとのつながりなしに良い結婚生活を送ることはできますか？
できない。
5. テトス2:4-5を読みましょう。愛は単なる感情ではありません。この箇所によると、愛とはどのようなものですか？
教え(論ずることができるもの)。
6. 1ヨハネ5:3を読みましょう。神の命令を守ることは、どのようなことですか？
神を愛することであり、愛のうちに歩むこと。
7. マタイ7:12を読みましょう。結婚生活に問題があるのはふたりのうちのどちらか、もしくはふたりともが～のうちに歩んでいないからです。～とは何でしょうか？
愛。
8. 1コリント3:4を読みましょう。愛とは何ですか？
C. 親切(思いやり)。

レッスン11

結婚(2)

ドン・クロウ

今日は再び結婚について学んでいきます。結婚とは何かということについて考えてみたことはありますか？聖書を読むと結婚は神が創った概念で、結婚を設計したのは神だったことが分かります。結婚とは一緒になること、一体となること、ふたりが一つになることです。創世記2章24節には「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる*(彼ら是一緒になり、男は妻に密着する)のである。」「[*()]内は筆者による加筆]と書いてあります。しかし、結婚には単にふたりが結ばれて一つになるという以上の意味があります。1コリント6章15-16節には、たとえばある男性が売春婦のところに行って彼女と性的な関係を持つなら、その女と一体となるということが書かれています。これを踏まえて結婚についての箇所、創世記2章24節のみことばを考えてみましょう。その男性が売春婦と肉体関係を持ったからといって自動的に彼の妻と離婚することになったり、または、その売春婦と結婚することになったりはしません。では結婚とは何でしょうか？もしも結婚が一緒になること、一体となること、一つの肉となることであるなら、売春婦と肉体関係を持つことと結婚との違いは何でしょうか？もしも売春婦と肉体関係を持ったなら、その相手と一体となることは明らかです。

聖書には結婚とは一緒になること、一体となること、ふたりが一つになることと書いてありますが、決してそれだけのことではありません。結婚とは契約によってふたりが結ばれることです。「契約」はヘブライ語で「**Berith(ベリート)**」で、結び合わせるという概念を含んでいます。「**Berith(ベリート)**」は個人が結ぶ究極の約束であり、死が分かつまでの約束という意味を含んでいます。ところで、もしも私が売春婦のところに行ってそのような邪悪な罪を犯したとしても、ふたりの関係について約束が結ばれるわけではありません。結婚の根底にあるのは第一に、結婚相手以外のすべての人を捨て去ることなのです。繰り返しますが聖書には「あなたは父と母を離れ、その妻と結ばれ一体となる」(創世記2:24)と書いてあります。またエゼキエル書には「あなたはわたしのものとなった」(エゼキエル16:8)と書いてあります。結婚とは、その一人のために他のすべての人を捨てること、その一人のためだけに自分を全面的にささげることです。もしあなたがほかの人のところへ行って不品行な行いをするのなら、それは明らかに結婚の誓いによってもたらされた「ふたりが一体となること、ふたりが一つになること」という結婚の法則(守るべき決まり)に違反することになります。エゼキエル16章8節には「わたしはあなたに誓って、あなたと契り(契約)を結んだ」と書いてあります。またエペソ5章には、私たちが実際の結婚生活の中で学び実践していくべきこととして、「夫は、キリストが教会を愛したように、妻を愛しなさい」(エペソ5:25)と書かれていて、旧約においては単に契約であった結婚が、新約では‘愛の契約’となりました。それは、愛こそが結婚生活全体を形作るべき法

レッスン11

則だからです。愛は結婚生活において他のすべてに優先する法則でなければなりません。

結婚とは「一体となる」という契約です。1ペテロ3章7節には「もしも私たちが、妻が自分より弱い器であることを理解し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として妻を尊敬し感謝しながら、ともに暮らさないなら、祈りが妨げられてしまう」ということが書いてあります。これについて考えてみましょう。つまり、神が結婚のあるべき形としてデザインした一致と調和の中をふたりが歩んでいないのなら、日々の生活の中で働く神の力は妨げられてしまう可能性があるのです。箴言2章16-17節には「若いころの連れ合いとの間に結んだ結婚の契約を捨てた不誠実な女」のことが書かれています。そしてこの箇所では、結婚について「自分の神との契約」という表現が使われています。これは押さえておきたい大事なポイントです。私たちは結婚の誓いをするとき、結婚相手に対して契約を結ぶのですが、それは同時に神に対して契約を結ぶことでもあるのです。たとえ私が、自分の妻に仕えることよりもむしろ他の人々に仕えることを大事にしていると言ったとしても、神にとってもミニストリーの優先順位があり、神は私たちが他の人々に仕えることにもまさって、私たち人間の結婚を一番に重要視しているのです。結婚とは自分の人生を相手にささげることであり、先ほども言ったように、愛こそが他のすべてに優先して結婚生活全体を形作るべき法則なのです。

マタイ7章12節には「人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。」と書いてあります。これがまさに結婚の法則であり、つまり、ふたりが守るべきルールなのです。これは自分本位ではなく、自分自身のために何かをするのでもなく、相手からの見返りを期待することでもありません。1コリント13章4節には「愛は親切です。」と書いてあります。その意味は、いつも相手の幸せを思い寛大で思いやりを持って接し、常に相手にとってのベストを追求していくということです。神は、私たちと神との関係を目に見える形に表すための模型として、結婚を設計しました。神は私たち人間に、この地上の実生活の中で、私たちと神との関係を実際の形に表すものとして結婚を与えました。そして、神は聖書の教えによって、私たちが素晴らしい結婚生活の中を歩み続ける方法を示しています。なぜなら神は、私たちと神との永遠の関係がどのようなものであるか、私たちが素晴らしい結婚生活を持つことによってその模範を示すことを願っているからです。聖書には「死者の復活の時には、イエスを信じた者たちは妻を迎えたりお嫁に行ったりすることはありません」(マタイ22:30)と書いてあります。神は私たちが愛の法則—それは自分自身を無償で相手に与えるという、守るべき規範—に基づく良い結婚生活を理解することを願っています。神は「わたしはあなたを、わたしとの結婚関係の中に招いた。—それは数年間で終わってしまう一時的なものではなく永遠に続く関係で、わたしのあなたへの愛のすべてが永遠に尽きることなく注がれる関係—そのことを、あなたに本当に分かってほしい」と言っているのです。

ここでいくつかの結婚の法則について考えてみましょう。結婚とは単なる協力関係というのではなく、結びつきです。創世記4章でそれを読むことができます。また1ペテロ3章7節には「いのちの恵みをともに受け継ぐ相続人」となることが書かれています。結婚とは契約です。つまりそれには拘束力があり、変わることのない約束と責任が求められます。罪が人類の中に初めて入り込んだのは教会ではなく結婚関係の中でした。つまり結婚は常に敵の標的となっているので、私たちは聖書というマニュアルから結婚についてしっかりと学び、聖書にある愛の法則を実生活の中で実行する必要があります。では愛とは何かについても考えてみましょう。愛の定義をシンプルに言い表すなら「自分のことよりも相手の利益や幸せを考えて行動すること」と言えるでしょう。イザヤ53章6節には「**私たちはみな、羊のよう**にさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。」と書いてありますが、それとは逆に、結婚生活の中では自分の結婚相手に焦点を当て、相手の幸せと利益を求めていくのです。

エペソの箇所には「**自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。**」(エペソ5:28)と書いてあります。夫は神が与えてくれた自分の妻を大切に敬い、妻に感謝しなければなりません。「自分のからだのように愛する」とは言うまでもなく、妻の横に座って手をつないで自分自身を撫でるかのように妻を撫でながら「愛しているよ」と言うことではありません。それは自分自身を守るように相手を守り養い、いつも見守り続けることです。妻の存在や、妻がしてくれることを当たり前と考えたり、妻の欠点を取り上げてそれを他の人の前で話したり妻をからかったり、傷つけたりするようなことは絶対にしてはいけません。私たちは自分自身を愛するのと同じように妻を愛するのです。

神の前に心を開いて祈りながら、まずは神があなたを愛していることに感謝をささげてみてください。次に、神が与えてくれたあなたの配偶者のことを神に感謝してみてください。配偶者に対する感謝が足りないことが結婚生活の中で起こる問題の原因の一部となっているのです。もしもあなたが自分の妻に感謝せず、逆に相手を引き下げるような言動をとっているなら、そういったことは聖書には、自己中心的なことであり罪だということが書かれています。エペソ5章には「イエスはみことばにより、水の洗いをもって、教会に対して話しみことばによって、教会をきよめた」(エペソ5:26)と書いてあります。あなたが配偶者に話しかけると、それはあなたが発した言葉と同じレベルに相手を引き上げる、もしくは引き下げることになるのです。たとえば「お前はダメだ、ブサイクだ、太りすぎだ」などと言うなら、あなたは相手を引き下げ、ふたりの関係に分裂と疎外感をもたらすこととなります。逆に「君がしてくれることにはいつも本当に感謝しているよ。ありがとう。愛しているよ」というように親切な言葉で話しかけるのに加え、あなた自身の行動もその言葉と一致しているなら、あなたの配偶者はあなたが話す言葉によって引き上げられるのです。

今日の学びで、結婚生活の中で起こる問題の多くは、あなたが相手に対して話している言葉が原因となっているということが分かったのではないのでしょうか。あなたは妻

レッスン11

(もしくは夫)を引き上げる代わりに引き下げてきてしまったかもしれません。今日の学びを実践して、相手に良い言葉を話しかけることを始めてみてください。愛は感情ではありません。愛とは、あなたの感情とは関係なく相手の幸せと利益を求めることです。毎日相手に対して親切な態度であり続けることは、たとえると漆器(しっき)に漆(うるし)を何層にも塗り重ねていく作業のようなものです。それが、小さな親切と思いやりの積み重ねによって愛を築いていく方法なのです。あなたの妻(もしくは夫)を尊敬すること、高く評価すること、尊重すること、愛の言葉を話しかけること、今日からあなたがこれらのことを始めるなら、結婚生活の中にきっと違いが見えてきます。あなたが愛の法則を実行するとき、神があなたを祝福してくれるのです。

振り返りのための質問とみことば

1. 箴言18:22を読みましょう。結婚とはどのようなものですか？

- A. 幸せを見つけること。
- B. 惨めなもの。
- C. 主から恵みをいただくこと。

箴言18:22 妻を見つける者は幸せを見つけ、主から恵みをいただく。

2. ヘブル13:4を読みましょう。結婚生活におけるセックスとはどのようなものですか？

- A. 罪。
- B. 汚(けが)れた邪悪なもの。
- C. 汚(けが)されることのないもの。

ヘブル13:4 結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。

3. 伝道者の書9:9を読みましょう。“神の教えに忠実な結婚は主からの贈り物であり、人生の報酬です。”これは聖書の内容に沿っていますか？

伝道者の書9:9 あなたの空しい人生の間、あなたの愛する妻と生活を楽しむがよい。彼女は、あなたの空しい日々の間、日の下であなたに与えられた者だ。それが、生きている間に、日の下でする労苦から受けるあなたの分なのだ。

4. 1ヨハネ3:18を読みましょう。私たちはどのように愛を示すべきですか？

*フィリップ・ギリアム裁判官[*1940-1965年に米国・コロラド州デンバーで活躍した裁判官]は、彼が判決を下した28,000件の少年裁判のうち、父親と母親の間に愛情がないことが、それらの大多数の少年非行事件の原因であると述べました(書籍「Together Forever」の152ページからの引用)。

1ヨハネ3:18 子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。

5. エペソ5:28を読みましょう。“私は自分のからだよりも妻のからだを気かけます。”

レッスン11

これは聖書の内容に沿っていますか？

エペソ5:28 同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。

6. 1ヨハネ3:16を読みましょう。「愛している」という言葉は、行動と一致していれば素晴らしい言葉になります。イエスは私たちのために彼のいのちをささげることで愛を示しました。“私たちは自分の配偶者のために、日々できる限りの実践的な方法で、自分のいのちを相手にささげていることを示すべきです。”これ(上記の“から”内)は聖書の内容に沿っていますか？実際の生活の中で、配偶者に対して愛を示す行動にはどのようなことがありますか？

1ヨハネ3:16 キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛が分かったのです。ですから、私たちも兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

7. エペソ5:25-26を読みましょう。“妻は私が妻に対して言った言葉によって変化していきます。だから私は、自分が妻に対して話す言葉によって妻の可能性を引き出すことになるのです。”これは聖書の内容に沿っていますか？

エペソ5:25-26 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。^[26]キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

8. ローマ8:38-39と1ヨハネ4:19を読みましょう。“私たちは行動を伴った親密な言葉で話しかけられることで愛されていると感じます。また、神は聖書という親密なラブレターに書かれたみことばを通して私たちに話しかけ、私たちに愛を示しています。”これは聖書の内容に沿っていますか？

ローマ8:38-39 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、^[39]高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

1ヨハネ4:19 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。

9. 1ヨハネ5:3と2ヨハネ1:6を読みましょう。“愛を示す方法はイエスの戒めの中に示

されています。つまり私たちは、愛の法則をみことばから学ぶことができます。”
これは聖書の内容に沿っていますか？

1ヨハネ5:3 神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。

2ヨハネ1:6 私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちを歩むこと、それが命令です。

10. ヨハネ14:15を読みましょう。“愛は感情ではなく、あなたの意志の問題です。聖書の中のすべての命令は、人間の感情にではなく意志に語りかけています。神は私たちにどう感じるかではなくどう行動するのか、その方法を教えています。”
これは聖書の内容に沿っていますか？

ヨハネ14:15 もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

11. ガラテヤ5:22-23を読みましょう。神の愛と同じ種類の愛は人間が生まれつき自然と持ち合わせているものではありません。その愛は学ぶことによって、また、聖霊の力によって人間の中に生まれてくるのです。この箇所によると、愛は何の実ですか？

- A. 人間の考え。
- B. 人間の性質。
- C. 聖霊(御霊)。

ガラテヤ5:22-23 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、^[23] 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。

12. エペソ5:31-32を読みましょう。良い結婚生活は何かのミニチュア版であると言えます。何のミニチュア版でしょうか？

エペソ5:31-32 「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」^[32] この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。

質問の解答 — レッスン11

1. 箴言18:22を読みましょう。結婚とはどのようなものですか？
A. 幸せを見つけること。
C. 主から恵みをいただくこと。
2. ヘブル13:4を読みましょう。結婚生活におけるセックスとはどのようなものですか？
C. 汚(けが)されることのないもの。
3. 伝道者の書9:9を読みましょう。“神の教えに忠実な結婚は主からの贈り物であり、人生の報酬です。”これは聖書の内容に沿っていますか？
はい。
4. 1ヨハネ3:18を読みましょう。私たちはどのように愛を示すべきですか？
*フィリップ・ギリアム裁判官[*1940-1965年に米国・コロラド州デンバーで活躍した裁判官]は、彼が判決を下した28,000件の少年裁判のうち、父親と母親の間に愛情がないことが、それらの大多数の少年非行事件の原因であると述べました(書籍「Together Forever」の152ページからの引用)。
行いと真実によって。
5. エペソ5:28を読みましょう。“私は自分のからだよりも妻のからだを気かけます。”これは聖書の内容に沿っていますか？
はい。
6. 1ヨハネ3:16を読みましょう。「愛している」という言葉は、行動と一致していれば素晴らしい言葉になります。イエスは私たちのために彼のいのちをささげることで愛を示しました。“私たちは自分の配偶者のために、日々できる限りの実践的な方法で、自分のいのちを相手にささげていることを示すべきです。”これ(上記の“から”内)は聖書の内容に沿っていますか？
はい。
実際の生活の中で、配偶者に対して愛を示す行動にはどのようなことがありますか？
特に正解はない。
7. エペソ5:25-26を読みましょう。“妻は私が妻に対して言った言葉によって変化していきます。だから私は、自分が妻に対して話す言葉によって妻の可能性を引き出すことになるのです。”これは聖書の内容に沿っていますか？
はい。(エペソ5:26にある「*みことば」[*「みことばにより、水の洗いをもって」

の部分]は、ギリシャ語では「Rhema(レーマ)」で、個人的な語りかけとして受け取った御言葉という意味がある。)

8. ローマ8:38-39と1ヨハネ4:19を読みましょう。“私たちは行動を伴った親密な言葉で話しかけられることで愛されていると感じます。また、神は聖書という親密なラブレターに書かれたみことばを通して私たちに話しかけ、私たちに愛を示しています。”これは聖書の内容に沿っていますか？
はい。(聖書には私たちに対する神の愛のことばがいっぱい詰まっている。)
9. 1ヨハネ5:3と2ヨハネ1:6を読みましょう。“愛を示す方法はイエスの戒めの中に示されています。つまり私たちは、愛の法則をみことばから学ぶことができます。”これは聖書の内容に沿っていますか？
はい。
10. ヨハネ14:15を読みましょう。“愛は感情ではなく、あなたの意志の問題です。聖書の中のすべての命令は、人間の感情にではなく意志に語りかけています。神は私たちにどう感じるかではなくどう行動するのか、その方法を教えています。”これは聖書の内容に沿っていますか？
はい。
11. ガラテヤ5:22-23を読みましょう。神の愛と同じ種類の愛は人間が生まれつき自然と持ち合わせているものではありません。その愛は学ぶことによって、また、聖霊の力によって人間の中に生まれてくるのです。この箇所によると、愛は何の実ですか？
C. 聖霊(御霊)。
12. エペソ5:31-32を読みましょう。良い結婚生活は何かのミニチュア版であると言えます。何のミニチュア版でしょうか？
キリストと教会。

レッスン12

神の愛(1)

ドン・クロウ

1コリント13章13節には「こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。」と書いてあります。そして1コリント14章1節には「愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。」と書いてあります。聖書は愛を模範として追い求め、その愛をいつも実行するように、それを一番高い志にするようにと教えています。1コリント14章1節の「愛を追い求めなさい」の部分は、聖書によっては「愛をあなたの最大の目標としなさい」と訳されています。私たちがこの地上の人生を終えて永遠の天国に行くとき、唯一持って行けるものが愛です。車や家やお金を持って行くことはできませんが、イエス・キリストが聖霊によって私たちに与えてくれた愛を私たちは天国に持って行くのです。つまり愛だけが永遠に続く価値と本質を持っているのです。

では愛とは何でしょうか？英語では愛を表す言葉は一つしかないのです、たとえば「妻を愛している」、「アイスクリームを愛している」、「アップルパイを愛している」という言い方をします。実際に私は自分の妻に「愛しているよ」と言ったすぐそばから、飼っている猫に向かって「愛しているよ」と話しかけることがあるのですが、妻は私が言う「愛している」という言葉に感動してくれるのでしょうか？言うまでもなく感動などするはずがありません。愛という言葉はある人たちにとってはセックスを意味したり、また別の人たちにとっては情熱的な熱い気持ちを意味したりします。つまり人々は愛について様々な異なる定義を持っているのです。英語の「Love」に対して、ギリシャ語で愛を表す言葉はおもに四つあります。一つ目は聖書では使われていない「Eros(エロス)」で、性的な魅力に対する愛、または、性的で本能的な愛として定義されています。聖書の中で神が「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」(創世記2:24)と言ったとき、神はこのEros(エロス)の愛についての規定を定めました。旧約聖書のソロモンの雅歌には、神によって結婚関係の中だけに限定された性的な愛、Eros(エロス)のことが書かれています。神はEros(エロス)以外の愛は、だれに対しても自由に使うように定めました。このEros(エロス)だけは結婚関係の中だけで使うものとして定めたのです。

また別の種類の愛は「Storge(ストージ)」と呼ばれ、家族関係における自然な絆の中にある愛情を意味します。そしてまた別の種類の愛として「Philia(フィリア)」という原語から派生した「Phileo(フィレオ)」という語があります。このPhilia(フィリア)もしくはPhileo(フィレオ)から訳された「愛」は、新約聖書の中で約70回使われていて、激しく行き交う熱い感情的な愛を意味します。人々が愛について語る時、大半の人は

この「激しく行き交う熱い感情的な愛」が愛であると考えているので、「恋に落ちた」とか「恋が冷めた」というようなことが起こるのです。もしもあなたの結婚がこのような単に感情的な愛に基づいて築かれているなら、その関係には浮き沈みがあることでしょう。そして、あなたの愛は熱しやすく冷めやすいというような一時的で不安定なものになってしまうのです。

聖書は神のような愛、つまり**Agape(アガペー)**という種類の愛で互いを愛するようにと教えています。では**Agape(アガペー)**とはどのような愛なのでしょう？ **Agape(アガペー)**には多くの要素が含まれていて、その総体的な定義が1コリント13章に示されています。また、1ヨハネ5章3節には「**神の命令を守ること、それが、神を愛することです。**」と書いてあります。聖書に書かれているイエスの命令は愛の実践の仕方を教えていますが、その要約がマタイ7章12節のみことば「**ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。**」に示されていると思います。**Agape(アガペー)**とは、「教会の人たちがみんな自分のことを愛してくれない」とか、「私のことを気にかけてくれない」というようなものではありません。このみことばは、あなたがだれかにしてもらいたいことは何でも、あなたから先に、他の人にしなさいと教えています。それが愛なのです。**Agape(アガペー)**の愛は、私たちの肉の思いに反して、自分自身のことよりも他の人の幸せと利益を追求するのです。この愛を実践するには神の助けが必要です。神に頼らずにこれができるとは思わないでください。聖書には「御霊の実は愛です」(ガラテヤ5:22)、「神は愛です」(1ヨハネ4:8)と書いてあります。神こそが愛の源であり、聖書に書かれている命令を通して他の人を愛する方法を私たちに示してくれる存在です。神は肉にあって歩んでいる私たちでさえも、正しい選択と決断を行い、聖書にある正しい法則に基づいて行動することができるように、私たちにその力を与えてくれる存在なのです。当時私は*アンドリュー・ウォマック・ミニストリーズで働いていました[*このスタディブックの共著者であるアンドリュー・ウォマック氏が1978年に創設したミニストリー]。ある日、いつものように仕事帰りに祈りながら導かれるまま、どこかに寄り道をして帰ろうと思っていました。そしてある公園に立ち寄りました。そこで私は「神様、私が役に立つことができるだれかに出会わせてください」と祈りました。その日は比較的温かい日で、その公園のブランコに小さな男の子と女の子が座っていました。いくつかあるブランコのうちの一つが空いていたので、私はその子たちに近寄るためにブランコのところへ行って座りました。そしてその女の子に「今日はいい天気だね」と話しかけました。するとその女の子は「私、英語分からない」と言ったので「どこから来たの?」と聞くと、その子たちはルーマニアから来たことが分かりました。私はその地域にルーマニア人が固まって住んでいるのを知っていました。そしてその公園には、その地域に住むルーマニア人らしき大人たちが数人いて私のことを見ていました。おそらく「なぜあの男性はあの子どもたちに話しかけているのだろうか?」と不思議に思っていたのでしょう。私はブランコから降り、私のことを近くで見ていたルーマニア人の大人た

ちのところへ行って、「だれかの助けを必要としていることはありませんか？私はあなたを助けたいと思っています」と話しかけました。するとその人たちは「私たちのことを助けたいんですか？どうしてですか？私たちのことを何も知らないのに！」と言いました。私は「それは神様が皆さんのことを助けたいと思っているからですよ」と言いました。その日私はずっと1ヨハネ3章18節の「愛の法則」についてのみことば、「子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。」を黙想していました。このみことばは、私たちは言葉だけで愛を示そうとするのではなく、実際に愛に基づいた行動をとるべきだと教えています。私は普段あまり現金を持ち歩かないのですが、その日はポケットの中にいくらかのお金が入っていました。私は「これをどうぞ」と言ってそのお金を彼らに渡しました。また、その日は断食をしていたので食べずに持っていたランチがありました。それも取り出して「わずかですが家で召しあがってください」と言って渡しました。その人たちは驚いて「あなたは一体だれなんですか？」と言いました。私は「神様が今日、私と皆さんを特別に出会わせてくれました。だからまた必ず会えると思います」と言って彼らと別れました。

その日家に帰って、妻にこのルーマニア人たちとの出会いについて話しながら夕食を食べました。次の日、私はガレージセールで食器類を買い、それを箱いっぱい詰めて妻と一緒に昨日の公園に行きました。公園には昨日出会ったルーマニア人一家がいました。「こんにちは。今日は皆さんにプレゼントを持ってきました。でもすごく重たいので、家の場所を案内してくれたら車で家まで運びますよ」と言いました。私たちが彼らの家に着くと、そこは小さなワンルームマンションでした。私はさっそくお皿やスプーン、フォークなど一すべておそろいのセットになっているものを箱から取り出して彼らに渡し始めました。私とその食器類を一つ一つ手渡すにつれ、彼らの目から涙があふれ始めました。その夫人は「私、泣いちゃう、泣いちゃうよ」と言いました。そこで私は「毎週月曜の夜に私たちの家でバイブルスタディをやっているのでぜひ来てください」と誘いました。すると彼らは「はい、行きたいです」と言ったので、私はすぐに「でも、もし私たちがこれをプレゼントしたからという理由なら無理に来てほしくはありません」と言いました。彼らは「いいえ、私たちは本当に行きたいです。そしてあなたたちの友だちにも会いたいです」と言いました。

彼らには車がなくてバイブルスタディに来るための交通手段がなかったので、私が毎週彼らを家まで迎えに行きました。彼らがバイブルスタディに参加し始めて間もなく、神が彼らに触れ始めました。彼らは英語があまり分からなかったのですが、私たちが彼らのために祈るたびに神の愛が現れて、彼らは神に触れられました。それからほどなくして私たちはまた別のルーマニア人のカップルの存在を知りました。そこで私は、先にバイブルスタディに参加していたカップルにお願いして、近々、その新しいルーマニア人カップルと一緒に会ってもらうことにしました。数日後、私はその新しいルーマニア人カップルから電話をもらいました。その電話で彼らは「ドンさん、あなたのことを聞きまし

た。私たちは‘悪い孤独’を持っています。だからあなたに会いたいです」と言いました。さっそく私は、先に出会ったカップルを連れて、新しいカップルに会いに行きました。プレゼントや食べ物、ほかにも彼らが喜びそうな物をいろいろ持って行きました。その日以降、私たちは最初のルーマニア人カップルとともに、その新しいカップルによく会いに行くようになり、少しずつ良い人間関係を築くことができ始めていました。そんなある日、先に出会ったカップルのうちの一人が、その新しいカップルに「あなたたちはバイブルスタディに参加する必要があります。ドンさんたちがイエスについて話してくれて、それは素晴らしいです!」と言ったのです。それを聞いた途端彼らは「待ってください。私たちは共産主義の国から来ました。だから神様のことは分かりません。私たちはそのイエスという神様のことは知らないです」と言いました。

そんな彼らに対して私は、「まずは友だちになりましょう」と言って週末に彼らを連れ出しては、服など彼らが必要とする物を買って与え始めました。彼らは最初、それをとても気まずく感じた様子で拒んでいました。「コートはいららないですか?」「はい、います、でも……」「じゃあ、このコートを買いましょう。」私は彼らに対して行動によって愛を示していましたが、彼らがバイブルスタディに来そうな気配はありませんでした。そんなある日私が「前に話したバイブルスタディには、たぶん、あなたたちが仕事に就くのを手伝ってくれるアメリカ人がいると思いますよ」と言うと、彼らはすぐにバイブルスタディに来ました。彼らが初めてバイブルスタディに参加した夜、私は神に少し変わった願いをしました。「主よ、私たちには言葉の壁があって、互いにうまくコミュニケーションをとることができないので、今夜私に超自然的に話せる能力(異言のことではない)を与えてください」と祈りました。その夜のバイブルスタディでは、何人かのアメリカ人が、最近神がしてくれた素晴らしいことについて証しをしていました。その証しが終わって私が話し始めると、今夜初めて参加したルーマニア人カップルの奥さんの表情が明るくなり始め、彼女の中で何かすごい変化が起こっているのが分かりました。バイブルスタディの後で私はそのルーマニア人カップルに「ふたりのために祈らせてください」と言いました。そしてその場にいた全員で祈ったとき、神は突然彼らに触れ、その部屋全体にも神の愛があふれました。そのルーマニア人の奥さんは「さっきの証しは、あの人たちが何を言っているのかぜんぜん分かりませんでした。でもあなたが立ち上がってイエスについて話し始めたとき、イエスが私たちを愛していること、イエスが何をしてくれたのか、イエスのおかげで私たちが神様とつながることができるようになったことなど、私はあなたが言った言葉が全部分かって、あなたが言っていることを完全に理解することができました!これは神様です!神様以外にはありえません!」と言ったのです。その日以来、そのルーマニア人カップルはもちろんのこと、私や他のメンバーの人生も変えられました。

それからどのようなことが起こったのかを話しましょう。私の家は、毎週月曜の夜はいろいろな国の人たち—ルーマニア人・ブルガリア人・ロシア人など—でいっぱいになり始めま

レッスン12

した。そこに集まった人たちは神の力によって変えられ、またその人たちには、私たちが彼らを本当に愛しているということが分かっていました。その中にはアフリカから来た人たちもいました。私たちはほとんど言葉が通じませんでした。が、ともに心を合わせて祈るとき、神が彼らに触れてくれるということを理解していました。アフリカから来た彼らにも、私が彼らの助けになることなら何でもするという、言葉が通じなくても私が彼らを愛しているということはきちんと伝わっていました。神はそこに集まっていた人たちの人生と、彼らに関わる多くの人たちの人生を変えました。ここで、この一連の出来事がどのように起こったのかを振り返ってみたいと思います。それはただ、ある日私が公園で肌の色が違う人、つまり外国人らしき人を見かけたことから始まったのです。そのとき私は、熱い感情的な愛は感じませんでしたが、「自分がだれかにしてもらいたいことは何でも、他の人にしなさい」というのが神の愛であるということは理解していました。そして、自分の感情とは関係なくその人たちのために行動を起こしました。するとある変化が起こったのです。彼らは私にとっても感謝して、私に対する**Philia(フィリア)**の愛、つまり熱い感情的な愛が彼らの中に生まれました。そして彼らは私に「愛している」と言って、ハグや挨拶のキス(頬などにする)をするようになりました。彼らのその行動によって、今度は私の中に彼らに対する熱い感情的な愛が生まれたのです。もしもあなたが自分の人生の中に熱い感情的な愛がほしいと願っているなら、他の種類の愛ではなく、まずは**Agape(アガペー)**の愛を実践してみてください。自分の感情とは関係なく他の人の幸せと利益を求めて行動するのです。そうすればその結果として自然と、熱い感情的な愛が生まれてくることでしょう。

振り返りのための質問とみことば

1. 1ヨハネ5:3を読みましょう。神の愛は、私たちが何をすることで示すことができますか？

1ヨハネ5:3 神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。

2. ローマ13:9-10を読みましょう。これらの戒めと愛とは、どのように関係しているかを考えてみましょう。

ローマ13:9-10 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。^[10] 愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。

3. ローマ12:19-21を読みましょう。たとえ気持ちがついてこなかったとしても、私たちはどうすれば敵を愛することができるでしょうか？

ローマ12:19-21 愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。^[20] 次のようにも書かれています。「もしあなたの敵が飢えているなら食べさせ、渴いているなら飲ませよ。なぜなら、こうしてあなたは彼の頭上に燃える炭火を積むことになるからだ。」^[21] 悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

4. テトス2:4-5を読みましょう。この箇所は愛について、どのようなことを示していますか？

テトス2:4-5 そうすれば、彼女たちは若い女の人に、夫を愛し、子どもを愛し、^[5] 慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で、自分の夫に従順であるように諭すことができます。神のことばが悪く言われることのないようにするためです。

5. 1コリント13:4-8を読んで、愛の法則について詳しく説明してみてください。

1コリント13:4-8 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。

レッスン12

愛は自慢せず、高慢になりません。^[5] 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、^[6] 不正を喜ばずに、真理を喜びます。^[7] すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。^[8] 愛は決して絶えることはありません。

6. 1ヨハネ3:18を読みましょう。私たちはどのように愛を実践するべきですか？

1ヨハネ3:18 子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。

質問の解答 — レッスン12

1. ヨハネ5:3を読みましょう。神の愛は、私たちが何をすることで示すことができますか？
神の命令を守ること。
2. ローマ13:9-10を読みましょう。これらの戒めと愛とは、どのように関係しているかを考えてみましょう。
愛は隣人に対して悪を行わない。どんな戒めも、隣人に対してあなたがどのように接するのか、そのあなたの態度によって愛を示すことを教えている。
3. ローマ12:19-21を読みましょう。たとえ気持ちがついてこなかったとしても、私たちはどうすれば敵を愛することができるでしょうか？
「もしあなたの敵が飢えているなら食べさせ、渴いているなら飲ませよ」という命令に従うことによって。また、私たちの感情とは関係なく他の人の幸せと利益を求めることによって。
4. テトス2:4-5を読みましょう。この箇所は愛について、どのようなことを示していますか？
愛は諭す(教える)ことができる。つまり愛は単なる感情ではない。
5. 1コリント13:4-8を読んで、愛の法則について詳しく説明してみてください。
愛は忍耐強く、親切で、嫉妬したり、自慢したり、上から目線だったり、失礼な態度をとったりはしない。利己的ではなく、イライラせず、他の人が自分にした悪いことも、すぐに水に流してしまう。悪い事を喜ばず、聖書の真理を喜ぶ。いつも相手のために耐え、いつも愛する相手を信じ、いつも期待を持っている。どんな状況の中でも耐え忍ぶ。愛は途中で絶えることなく永遠に続く。
6. 1ヨハネ3:18を読みましょう。私たちはどのように愛を实践するべきですか？
ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって。

レッスン13

神の愛(2)

ドン・クロウ

前回のレッスン「神の愛(1)」では、私が公園で出会ったルーマニア人カップルについて話しました。今日はその後、その一家にどのようなことが起こったかについてさらに話したいと思いますが、その前に神の愛について、前回のレッスンで学んだことも交えながら振り返ってみましょう。この地球上でイエス・キリストよりも大きな愛を示した存在は後にも先にもありませんが、聖書に記録されている限り、イエス・キリストは「わたしはあなたを愛しています」という言い方をしたことはありませんでした。これは意外ではありませんか？人類史上最大の愛の存在は一度も「わたしはあなたを愛している」とは言わなかったのです。なぜでしょうか？それは愛が言葉以上のものだからです。愛は行動です。もしも私が家を出る直前に妻に「愛しているよ」と言って出かけ、外で不倫をしていたらどうでしょう？私の妻は、私の言葉と行動のどちらを信じるでしょう？おそらく妻は私の行動の方を信じるでしょう。なぜなら愛の要素の95%は言葉以外のものだからです。愛とは言葉ではなく行動なのです。

前回のレッスンでも読んだ1ヨハネ3章18節には「子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。」と書いてあります。愛とは行動を伴う言葉です。マタイ25章35-36節には「あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、^[36] わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。」と書いてあります。この箇所ではイエスは、愛による行動がどのようなものであるかを言い表し、愛を説明しています。また40節には「すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』」(マタイ25:40)と書いてあります。この箇所からも、愛は行動であること、愛はあなたが実際に何かをすることであるということが分かります。ヘブル6章10節には「神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてたりなさいません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。」と書いてあります。そしてマタイ22章でイエスが、律法の専門家から「律法の中で一番重要な戒めは何ですか？」(マタイ22:36)と質問されたとき、「第一に、あなたの神、主を愛し、第二に、あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」(マタイ22:37-39)と答えました。これらの二つの戒めは、正確にその意味を解釈するならば実際には一つの戒めなのです。それは先ほど読んだマタイ25章40節に「あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」と書いてあるとおりです。つまり聖書は私たちが他の人を愛することで、じつはイエス・キリストを実践的な方法で愛することになるという、その素晴らしい機会

が常に私たちに与えられていることを示しています。

ここからは、前回のレッスンに登場した公園で出会ったルーマニア人一家について話します。私たちの出会いによって彼らの人生が変わったのは、私が自分がどう感じるかとは関係なく彼らの幸せと利益を求めて行動したからです。私はたとえ肌の色や国籍が違って、私たちがだれかに手を差し伸べて、イエスがしたように他の人の幸せと利益を求めて行動を起こすとき、そこに神の愛が表されることを知っていました。イエスは感情面から言えば、十字架に行きたかったわけではありません。しかし、だからこそイエスは「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」(マタイ26:39)と祈りました。イエスは自分がどう感じるかに関係なく、私たちの幸せと利益を求めたのです。

その後のある日、例のルーマニア人カップルから電話がありました。電話の向こうで彼らは泣いていました。アメリカに来てから7年半が経っていて、彼らはカンザス州に住んで働いていました。彼ら一家は政治亡命の申請をしていたのですが、その電話で「とうとう私たちの亡命申請の結果が出ましたが、私たちの申請は認められませんでした。異議申し立てをするために30日間の猶予がありますが、申し立てをしなければ強制送還されることとなります」と私に告げました。アメリカでは一般的に政治亡命の申請が通る可能性は2~5%とされています。彼らは弁護士のところに相談に行きましたが、基本的にはその結果を覆すチャンスはないと言われたそうです。電話で私は「彼らのために祈る」と言ったものの、一体どのように彼らを助けることができるのか、その時の私には全く分かりませんでした。彼らの子どもたちが、もはやルーマニア語をほとんど話すことができなくなった今、国に強制送還されることはとても理不尽なことに思えました。

当時、そのルーマニア人一家が住んでいたカンザス州の上院議員であったサム・ブラウンバック氏に連絡を取るために、私の友人の一人が、私が住むコロラド州の州議会議員に連絡を取ってくれました。素晴らしいことに、私にはキムという名前の友人がいて、彼女は以前、ブラウンバック上院議員の下で働いていたことがありました。私がキムに連絡を取るとすぐに彼女は、ワシントンD.C.でこのルーマニア人一家の亡命申請に関わった4人の審査員に電話をかけてくれました。この一家が住むカンザス州のサブレットという場所にあるコミュニティの人たちは、一家がアメリカに居続けることができるように署名を集め、嘆願書を出すことによって彼らを助けようとしていました。そのコミュニティの人たちは嘆願書を通して、「このルーマニア人一家は善良な人たちであり、税金もきちんと払って一生懸命働いています。私たちは彼らがこの国に留まることを希望します」と訴えかけました。その時のことは、詳細もすべて記載されて新聞の記事になりました。

レッスン13

た。それは本当に奇跡でした。人々の訴えによって、その状況に理解を示した政府の高官が動き、最初の決定が覆され、ルーマニア人一家は、自分たちがアメリカに留まることができるようになったという通知を受け取ったのです。

それを知った私はカンザス州サブレットへ、そのルーマニア人一家に会いに行きました。彼らは私が来ることを知りませんでした。私が彼らの家に着いたとき、ちょうど彼らは電話でブラウンバック上院議員に亡命申請を助けてくれたことに対するお礼を伝えているところでした。一連のこのことはその地域で大きな話題となり、ちょっとした祝いの式典が予定されていましたが、その日はクリントン大統領が告発されていた裁判の最終日だったため、ブラウンバック上院議員が個人的にその式典に参加することはできませんでした。それでも、そこにはABCやNBCニュースのカメラマンと記者たちが何人も集まっていました。ルーマニア人カップルは電話を切るとすぐに私に駆け寄って私を抱きしめました。すると報道局のカメラが一斉に私の方に向けられ、私は「あなたはだれですか？どうしてこの一家を知っているんですか？」と質問されました。そこで私は、私たちがどのように出会ったのか、神の導きによって私がとった行動について、それはマタイ7章12節にあるイエスの教えのとおり、彼らの幸せと利益を求めて動いたことなど、そのすべてを記者たちの前で話しました。

それから私たちは式典の会場に行きました。そこには*赤・白・青[*アメリカの国旗の色]の風船があちこちに飾られていて、国歌などの‘愛国唱歌’と言われるような歌が歌われ始めました。会場内に私の友人であるそのルーマニア人一家が入ってきたとき、そこに集まっていた人々は皆、喜びの声を上げ感動して泣き始めました。市長は「今日2月12日は、この一家に敬意を表して‘*ジュカン[*この一家の名字]一家の日’と呼ばれるようになるでしょう」と述べました。また市長らは、一家を祝って*ワシントンD.C.の国会議事堂に掲げられていたアメリカ国旗を手に取り、それを彼らに贈りました[*ワシントンD.C.国会議事堂では、だれかの特別な日を記念して米国旗を掲揚することができる。議事堂に掲げられた米国旗には、議事堂の建築家による証明書が添付され、掲揚の理由となった人物または組織の名前、日付、および理由が記載される]。市長はさらに、一家が合法的にアメリカに滞在できること—基本的にそれは永住権—を認めた公式な書類を彼らに手渡しました。そして市長らは一人ひとり、神とこの一家についての証しをしてから私に、「祈ってください」と言いました。そこで私は祈った後、「私はこのことで、全能なる神様に感謝してもしきれません。7年半前にコロラド州のコロラドスプリングスにある公園で神様の愛を求めて祈ったことを思い出します。そして神様は、私をこのルーマニア人一家へと導き出させてくれました」というように、私は彼らとの出会いの経緯を話した後、ルーマニア人一家に「神様はいつもあなたたちのことを助けたいと思っています。アメリカ合衆国へようこそ」と言ってスピーチを締めくくりました。

この一連のことはすべて神の奇跡によって起こったのです。神の導きによって、私にはどのようなタイミングで、だれとどこで会ったらよいのかが分かりました。私の友人であるキムは、このことが起こる1年も前に、ブラウンバック上院議員が私の職場であるアンドリュー・ウォマック・ミニストリーズに来て、私と会うように手配をしていました。そのとき彼女はブラウンバック上院議員に「とにかくドン・クロウ氏と会ってください」と言ったそうです。私にはブラウンバック上院議員と会う特別な理由もなく、何だか居心地が悪かったことを覚えています。私はその時点では、ブラウンバック上院議員とのミーティングが神によるお膳立てだったとは夢にも思いませんでした。神は私がただ「自分がだれかにしてもらいたいことは何でも、他の人にしなさい」というイエスの命令を実行することによってその一家を助け、それによって神の存在と愛を示すために、すべてのことが起こる1年も前からそのミーティングを準備していたのです。このルーマニア人一家はこの奇跡を決して忘れないでしょう。そしてこの出来事を話すたびに「これはすべて神様がしてくれたことです」と言うことでしょう。このルーマニア人カップルの奥さんであるアンカは、「私の信仰は揺らいでいました。でも神様は本当に忠実な方で、私たちがアメリカに留まれるようにしたのは神様だということが分かりました」と言いました。

今、世の中には愛を求めて心の中で泣き叫んでいる人たちが大勢います。その人たちが本当の愛を知ることができる唯一の方法は、私たちクリスチャンが、聖書が教えている愛の法則を学ぼうと決心することから始まるのです。愛は親切です。愛は、イエスが私たちの救いのために十字架にかかってくれた行動によって表されているように、他の人の幸せを求めて行動していくことなのです。神の愛によって他の人を愛するということがどのようなことであるか、神の愛の法則についてさらに深く学ぶにつれ、神があなたを祝福してくれますように。

振り返りのための質問とみことば

1. マタイ7:12を読みましょう。ここに書かれている*黄金律[*山上でイエスが教えた原則(マタイ7:12)の呼び名]をあなた自身の言葉で説明してみてください。

マタイ7:12 ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。

2. マタイ7:12を読みましょう。愛を見つけようとするとき、多くの人は自分のことを本当に愛してくれる人を見つけようとします。私たちはそのように、自分を愛してくれる人を探すべきでしょうか?それとも私たち自身が他の人を本当に愛することができる人になるべきでしょうか?
3. 1ヨハネ5:3を読みましょう。愛とは感情の問題ですか?それともあなたが何かをすることでしょうか?愛とはどのようなものですか?

1ヨハネ5:3 神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。

4. 1ヨハネ3:18を読みましょう。もしもあなたが妻、もしくは夫に「愛しているよ」と言って出かけ、外で不倫をしていたら、あなたの妻、もしくは夫はあなたの言葉と行動のどちらを信じるでしょうか?

1ヨハネ3:18 子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。

5. ローマ5:6-8を読みましょう。イエスは自ら進んで死にたいと思っていましたか?
ローマ5:6-8 実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。^[7]正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。^[8]しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

6. ガラテヤ5:22を読みましょう。私たちは人生の中心に神を置かなくても自力で他の人を愛することができますか?

ガラテヤ5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

7. 1ヨハネ4:8を読みましょう。私たちが本当に他の人を愛するには神の助けを必要とします。なぜならそれは、神が唯一～の存在であるからです。～は何ですか？

1ヨハネ4:8 愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。

8. 1コリント13:5(リビングバイブル)を読みましょう。次の三つの言葉、「失礼」「自己中心」「赦さない」に基づいて愛について説明してみましょう。

1コリント13:5(リビングバイブル) 決して思い上がり、自分の利益を求めず、無礼なふるまいをしません。愛は自分のやり方を押し通そうとはしません。また、いら立たず、腹を立てません。人に恨みをいだかず、人から悪いことをされても気にとめません。

9. 1コリント13:8(リビングバイブル)を読みましょう。この地上の人生から永遠の天国へと、唯一持って行けるものは何ですか？

1コリント13:8(リビングバイブル) 神からいただいた賜物や能力は、いつかは尽きます。しかし、愛は永遠に続きます。預言すること、異言で語ること、知識などの賜物は、やがて消え去ります。

10. 箴言10:12と1コリント13:5(リビングバイブル)を読みましょう。1コリント13:5には「人に恨みをいだかず、人から悪いことをされても気にとめません」と書いてあります。愛はどれだけの罪(背き)を覆いますか？

箴言 10:12 憎しみはいさかいを引き起こす。愛はすべての罪を覆う。

1コリント13:5(リビングバイブル) 決して思い上がり、自分の利益を求めず、無礼なふるまいをしません。愛は自分のやり方を押し通そうとはしません。また、いら立たず、腹を立てません。人に恨みをいだかず、人から悪いことをされても気にとめません。

質問の解答 — レッスン13

1. マタイ7:12を読みましょう。ここに書かれている*黄金律[*山上でイエスが教えた原則(マタイ7:12)の呼び名]をあなた自身の言葉で説明してみてください。
自分がだれかにしてもらいたいことは何でも、他の人にしてあげる。
2. マタイ7:12を読みましょう。愛を見つけようとするとき、多くの人は自分のことを本当に愛してくれる人を見つけようとします。私たちはそのように、自分を愛してくれる人を探すべきでしょうか?それとも私たち自身が他の人を本当に愛することができる人になるべきでしょうか?
私たち自身が他の人を本当に愛することができる人になるべき。
3. 1ヨハネ5:3を読みましょう。愛とは感情の問題ですか?それともあなたが何かをすることでしょうか?愛とはどのようなものですか?
愛とは、感情とは関係なく神の命令に従って行動すること。
4. 1ヨハネ3:18を読みましょう。もしもあなたが妻、もしくは夫に「愛しているよ」と言って出かけ、外で不倫をしていたら、あなたの妻、もしくは夫はあなたの言葉と行動のどちらを信じるでしょうか?
行動。*行動は言葉よりも雄弁[*日本語の「不言実行」にあたる英語のことわざ“Actions would speak louder than words.”からの直訳]。
5. ローマ5:6-8を読みましょう。イエスは自ら進んで死にたいと思っていましたか?
いいえ。しかしイエスはどのように感じたかとは関係なく、私たち全員の利益と幸せを求めた。
6. ガラテヤ5:22を読みましょう。私たちは人生の中心に神を置かなくても自力で他の人を愛することができますか?
できない。
7. 1ヨハネ4:8を読みましょう。私たちが本当に他の人を愛するには神の助けを必要とします。なぜならそれは、神が唯一〜の存在であるからです。〜は何ですか?
愛。
8. 1コリント13:5(リビングバイブル)を読みましょう。次の三つの言葉、「失礼」「自己中心」「赦さない」に基づいて愛について説明してみましょう。
これら三つの言葉(「失礼」「自己中心」「赦さない」)はすべて、愛とは‘何でないか’を言い表している。

9. 1コリント13:8(リビングバイブル)を読みましょう。この地上の人生から永遠の天国へと、唯一持って行けるものは何ですか?
愛。(愛は永遠に続く。)

10. 箴言10:12と1コリント13:5(リビングバイブル)を読みましょう。1コリント13:5には「人に恨みをいだかず、人から悪いことをされても気にとめません」と書いてあります。愛はどれだけの罪(背き)を覆いますか?
すべての罪(背き)。

レッスン14

財政(1)

アンドリュー・ウォマック

今日はイエスがどのようにあなたの財政的な繁栄を望んでいるかということについて話したいと思います。財政的に繁栄することはだれにとっても重要なことです。生活のためにはお金が必要で、また、他の人の祝福となるためにもお金が必要です。神は財政の分野については私たちを放っておいて、「わたしはあなたの霊的な分野には関心があるが財政面については関心がない。その分野のことは自力でがんばりなさい」とは言いません。神はあなたを愛していて、あなたの人生におけるすべての領域—霊・たましい・からだ—をいつも気にかけ、あなたのためにあらゆる備えをしているのです。大半の人たちはある程度の財政的な繁栄はなくてはならないものであることを認識していますが、‘宗教的な教え’は基本的に人々が財政的な豊かさを持つことに反対の立場をとっています。

聖書は様々な方法で貪欲さを戒めることを教えているのと同時に、財政の繁栄が祝福であることもはっきりと示しています。3ヨハネ1章2節で使徒ヨハネは「**愛する者よ。あなたのたましいが幸いを得ているように、あなたがすべての点で幸いを得、また健康であるように祈ります。**」と言っています。何と力強いことばでしょうか。ヨハネは「すべての点で」と言っているのです。この「すべての点」とは、癒やしと健康、感情面、人間関係、そして財政のことを指しています。神はあなたがすべての分野において繁栄し、また、健康であることを望んでいるのです。神は、あなたが霊・たましい・からだのどの領域においても豊かであることを望んでいます。それが神の意志なのです。

宗教的な人たちの多くは「神はあなたが貧しくあることを望んでいる。なぜなら貧しいことは敬虔なことであり、貧しければ貧しいほど、それはより敬虔であることの表れだからだ」というようなことを言っています。じつは私はそのような考えの下で育ち、「牧師など、ミニストリーに従事する人たちはあまり多くの物を持ってはいけない。クリスチャンは質素で儉約家であるべきだ」というように教えられてきました。しかし聖書がこのように教えているということを実証することはできません。アブラハムはその時代の人としては最も裕福な人で、彼の家畜などの所有物の多さがその土地の資源にも影響を与えるほどであったため、土地の人々がアブラハムにそこから出て行くようにと頼んだほどでした。アブラハムの子イサクと、アブラハムの孫であるヤコブも、アブラハムと同様に非常に富んでいました。また、ヤコブの子ヨセフも繁栄し非常に裕福でした。そしてダビデは神殿を建てるために、今の金額に換算すると約2千6百億円を超えるような金と銀を自分の個人の財産から神にささげました。さらにダビデの息子であるソロモンは人類史上最も裕福な人でした。このように聖書を見ていくと、真から神に仕え

ていた人たちが財政的にも祝福されていたことが分かります。

しかし、財政的に苦労した人たちの例もあります。パウロはピリピ4章13節で「私を強めてくれるキリストによって、私はどんなことでもできる」と言い、11節では「どんな境遇にあっても満足することを学んだ」(ピリピ4:11)と言っています。また「私は貧しくあることも、富むことも知っている」(ピリピ4:12)とも言っています。聖書には神に仕える人々が貧困や困難を経験したことも書かれていますが、その人が貧乏であればあるほど敬虔であると書かれている箇所を見つけることはできません。それは真実ではないのです。あなたがホームレスになってみれば、その教えがいかに間違っているかを実証できるでしょう。確かに貪欲であることは間違いです。それは1テモテ6章10節に「**金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。**」と書いてあるとおりです。一部の人たちはこの箇所を取り上げ、「お金があらゆる悪の根源である」と言いますが、そうではなくここには「**お金を愛することが、あらゆる悪の根源である**」と書いてあるのです。お金を愛していて10円さえも出し惜しむ人たちがいます。また非常に裕福で、だからといってお金を愛しているわけではなく、持っているお金を惜しみなく有効に使う人たちもいます。

申命記8章18節には、財政的な繁栄の真の目的が示されています。神は、約束の地に入って行って、かつて経験したことのないような富と繁栄をこれから先に経験しようとしているイスラエルの民に対して次のように言いました。「**あなたの神、主を心に据えなさい。主があなたに富を築き上げる力を与えるのは、あなたの父祖たちに誓った契約を今日のように果たされるためである。**」(申命記8:18) この箇所から繁栄の真の目的は、自分勝手な欲望のために豊かになるというのではなく、豊かになることによって神の契約をこの地上で確立するためであるということが分かります。言い換えれば、神があなたを祝福するのは、あなたが繁栄することによって、今度はあなたが他の人の祝福となるためなのです。創世記12章2節で神はアブラハムに「**そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。**」と言いました。つまり、あなたが他のだれかを祝福する存在となるためには、まずあなた自身が祝福される必要があるのです。

だれにでも物質的な必要があり、神はその必要を満たしたいと思っていますが、神の意志はそのあなたの必要が、単に利己的な範囲を超えていくことにあります。つまり、神はあなたを財政的に繁栄させたいと思っているのです。なぜなら神は、あなたを通して神の豊かな財政を他の人へ流していくことで、あなたがその人たちの祝福となることを望んでいるからです。2コリント9章8節には「**神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。**」と書いてあります。

レッスン14

この箇所には、なぜ神があなたを繁栄させたいのか —それはあなたがすべての良いわざにあふれるようになるためだ— ということが書かれています。これはまさに聖書による繁栄の定義のようなものです。では繁栄とは何でしょうか？大きくて素敵な家や高級車、ブランドの服をたくさん持っていて、家の食卓にはいつも豪華なごちそうが並んでいることでしょうか？この箇所によると繁栄とは、「あなたのすべての必要を満たす分があり、その上さらにすべての良い働きのためにたくさん持っていること」です。もしも神があなたの心に触れて、何かをささげたいという思いが与えられたにもかかわらず、ただどうしても財政的にそれができないなら、また、だれかを祝福したいと思っているにもかかわらず財政的な理由でそれができないのであれば、あなたは聖書が教える繁栄をまだ受け取っていないということになります。神はあなたの必要がすべて満たされ、さらには‘すべての良いわざにあふれるようになる’までにあなたを祝福すると言っているのです。聖書が教える繁栄とは、ただあなたの必要が満たされるだけではなく、それを超えてあなたが他の人の祝福となることなのです。自分の必要が満たされればそれでいいというのは自分本位な考え方です。もしもだれかが「私は神様がさらに与えてくれることを信じています」と言ったなら、それを聞いた人たちは、この人は欲張りで自分勝手な人だと思ってしまうかもしれません。しかしそれは、その人がどのような動機でそれを言ったのかによって変わってきます。より豪華な家や車を手に入れるために、神に財政を祝福してくれるように願い求めるなら、それは聖書的な正しい態度とは言えません。しかし、もしもあなたがただ自分自身の必要が満たされるという範囲を超えて、他の人を祝福したいという思いで神により多くの財政を願い求めるなら、それこそが神があなたに持ってほしいと願っている心の態度です。神はあなたが繁栄することを望んでいます。あなたを繁栄させることは神の意志なのです。

マタイ6章には、私たちが必要としているものについて書いてあり、さらに「**まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。**」(マタイ6:33)と書いてあります。あなたが神を人生の優先順位が一番に置き始めるとき、神は私たちに必要なものをすべて供給してくれるのです。あなたのすべての必要が満たされて、あなたは他の人々の祝福となるのです。神はあなたが財政的に繁栄することを望んでいますが、その繁栄が実現するかどうかは、繁栄を得ようとするあなたの動機と行動次第なのです。

この学びによって、あなたの財政の繁栄のために、神が最善のものを備えてくれていることを理解し、今日から財政の分野でも神を信頼し始めることができるようにと祈ります。

振り返りのための質問とみことば

1. 2コリント8:7-8(リビングバイブル)を読みましょう。困っている人たちにお金を分け与えること(献金の奉仕)は、あることを証明する一つ的手段です。その「あること」とは何でしょうか？

2コリント8:7-8(リビングバイブル) あなたがたは、多方面にわたって指導的立場にある人々です。あつい信仰も持っています。神のことばを語るのにすぐれた人々も大ぜいいます。広い知識、燃えるような熱心、私たちに対するあふれるほどの愛も持っています。そこで今、喜んでささげるといふ精神においても、指導者になっていただきたいのです。^[8] これは命令ではありません。献金しなければならない、と言っているのではありません。ただ、ほかの人々の献金に対する熱心さを話しているのです。しかし、この献金の奉仕は、あなたがたの愛が単に口先にとどまらず、真実のものだと証明する一つ的手段にはなるでしょう。

2. 2コリント8:13-14を読みましょう。私たち全員が献金するとき、神はその献金する人たち一人ひとりにどのようなことを望んでいますか？

2コリント8:12-14 喜んでする思いがあるなら、持っていないものに応じてではなく、持っているものに応じて受け入れられるのです。^[13] 私は、他の人々には楽をさせ、あなたがたには苦勞をさせようとしているのではなく、むしろ平等になるように図っています。^[14] 今あなたがたのゆとりが彼らの不足を補うことは、いずれ彼らのゆとりがあなたがたの不足を補うことになり、そのようにして平等になるのです。

3. 2コリント8:13-14を読みましょう。献金することによって、どのようにしてすべての人が平等になり、必要が満たされることになりますか？
4. エペソ4:28を読みましょう。この箇所には「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい」と書いてあります。このほかに、この箇所には何をすべきだと書いてありますか？(どのような目的で仕事をするべきですか？)

エペソ4:28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。

5. 創世記13:2と創世記12:2を読みましょう。神がアブラハムに富を託すことができた

レッスン14

のは、アブラハムが自分のことだけではなく、他の人の～を考えていたからです。
～は何ですか？

創世記13:2 アブラムは家畜と銀と金を非常に豊かに持っていた。

創世記12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

6. 1テモテ6:17-18を読みましょう。富んでいる人がお金を使ってすべき三つのことは何ですか？

1テモテ6:17-18 今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き、^[18] 善を行い、立派な行いに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、

7. 神はあなたに財政の分野を信頼して任せられると思いますか？

質問の解答 — レッスン14

1. 2コリント8:7-8(リビングバイブル)を読みましょう。困っている人たちにお金を分け与えること(献金の奉仕)は、あることを証明する一つ的手段です。その「あること」とは何でしょうか?
あなたの愛が真実のものであること。
2. 2コリント8:13-14を読みましょう。私たち全員が献金するとき、神はその献金する人たち一人ひとりにどのようなことを望んでいますか?
神はすべての人が献金することによって皆が平等になるように図っている。神はすべての人が、持っていないものに応じてではなく、持っているものに応じて献金することを望んでいる。
3. 2コリント8:13-14を読みましょう。献金することによって、どのようにしてすべての人が平等になり必要が満たされることになりますか?
一人ひとりが、献金できるときにできる限りを献金することによって、全体として、今ゆとりがある人が他の人の不足を補うことになる。
4. エペソ4:28を読みましょう。この箇所には「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい」と書いてあります。このほかに、この箇所には何をすべきだと書いてありますか?(どのような目的で仕事をするべきですか?)
困っている人に分け与える。
5. 創世記13:2と創世記12:2を読みましょう。神がアブラハムに富を託すことができたのは、アブラハムが自分のことだけではなく、他の人の～を考えていたからです。～は何ですか?
祝福。
6. 1テモテ6:17-18を読みましょう。富んでいる人がお金を使ってすべき三つのことは何ですか?
 - 善を行う。
 - 惜しみなく施す。
 - 喜んで分け与える。
7. 神はあなたに財政の分野を信頼して任せられると思いますか?
特に正解はない。

レッスン15

財政(2)

アンドリュー・ウォマック

前回のレッスン「財政(1)」では、あなたが財政的に繁栄することは神の意志であり願いであるということをお話しました。今日の学びでは、どうすればその神の意志が実現するのかについて、鍵となるいくつかのことを話したいと思います。ルカ6章38節には「**与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。**」と書いてあります。財政の繁栄には多くの法則が関わっていますが、「与えること」を抜きにしては繁栄について語ることはできません。

財政的な繁栄について話すとき、多くの人たちは「そうか、神様は、まずは私が与えることで、私のことを繁栄させたいと思っているのか。でも私には与えられるものが何もない」と言うのです。聖書の中で、ある未亡人(やもめ)が、彼女が持っている最後のお金であった硬貨二枚を献金箱の中に投げ入れたことについて、イエスが弟子たちに話す場面があります。そのときイエスは他の金持ちたちが同じ献金箱に大金を投げ入れるのを見ていました。その後、イエスは弟子たちを呼び集めて「あの未亡人は、ここにいるだれよりも多くを与えた」(ルカ21:3)と言いました。イエスは「あの金持ちたちはみな、あり余る中から献金として投げ入れたのに、このやもめは乏しい中から持っていた生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから」(ルカ21:4)と言ったのです。神はあなたの献金がいくらであるか、その金額を見ているのではなく、あなたが持っているものの中からどれくらいの割合でささげたかを見ているのです。だれかが「私には与えられるものが何もない」と言うとき、それは真実ではありません。何もないと言っても、たとえば自分が持っている服のうちの一着をささげることもできるでしょう。本当にささげる、もしくは与える気があるのなら、だれもが何かしらものを持っているはずで、ですから、まず「自分には何もない」という言い分を捨ててください。じつは自分には何もないと思えるときほど、もしもあなたが持てるものの中から何かをささげるのなら、それは他のどんなときよりも大きな割合でささげることができるチャンスなのです。つまり、全所持金が千円のとときにそこから五百円をささげるなら、何十億円も持っている中から百万円をささげるよりもはるかに大きなささげ物をしたことになるのです。神は一人ひとりがどのような状況の中にあっても、だれもがささげることができるものとして献金を決めました。

神はなぜ私たちにささげることや与えることを教えているのでしょうか?この質問に対する答えは様々ですが、おもな理由の一つは、神はあなたに人生のあらゆる

面で神を信頼してほしいと願っているからです。もしも神など実際には存在せず聖書に書いてあることも真実ではないなら、神が私たちに「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます」と言っているからという理由で、その教えにしたがってお金や持ち物をささげることは単に愚かな行為でしかありません。もしもささげることや与えることに対する神の祝福が本当の約束ではないなら、神が意図している「あなたのすべての必要が満たされるようになる」というゴールに近づくどころか、逆にあなたはそのゴールから遠ざかっていることとなります。聖書を通して神が教えるとおりの方法でささげるためには信仰が必要です。だからこそ神は「信仰によってささげなさい」と言っているのです。

ルカ16章には財政についてのたとえ話として、ある金持ちが雇っていた管理人がその主人の財産を勝手に無駄遣いしていた話がかかれてあります。そしてイエスは「**ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなければ、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょうか。**」(ルカ16:11)と言っています。この箇所にある「不正の富」とはお金のことを意味していて、「まことの富」と比べて小さなものとして示されています。ここで言われている小さなこと、つまり、金銭のことで神を信頼したことがないなら、それよりももっと重要な霊的なことについてどうして理解したり、他の人の霊的な領域について取り扱ったりすることができるのでしょうか？ほかにこの箇所と同じようなみことばがいくつかあり、聖書には管理者が管理すべきものの中で、お金が一番初歩的で一番小さいものとして示されています。もしもあなたが財政面で神を信頼できないなら、永遠の未来のことをどうして神に信頼することができるのでしょうか？イエスがあなたの罪を赦し、それを信じることによってあなたはやがて天国に行って、永遠の時を過ごすことになるということを一体どう信じることができますか？金銭のことを神に信頼することに比べ、主に信仰を持つという霊的な信頼ははるかに大きな意味を持っています。逆に言えば、金銭のことで神に信頼することは些細なことであるからこそ、神を真に信頼し始めるに当たって欠かせない肝心なことであると言えるのです。

箴言11章24節には「**気前よく施して、なお富む人があり、正当な支払いを惜しんで、かえって乏しくなる者がある。**」と書いてあります。つまり貧しさは、お金が出ていくことによって起こるのではなく、あなたの内面から起こるのです。

マタイ6章33節には「**まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。**」と書いてあります。もしもあなたが財政面の助けを神に祈り求めているにもかかわらず神の国を第一に求めているなら、そして、まだ信仰の一步を踏み出せていないなら、また、財政面で神を信頼できず献金をささげていないなら、あなたはまだ心底から神のことを信頼しきれていないのです。

振り返りのための質問とみことば

1. ヨハネ3:16を読みましょう。神が私たちに何かを与えてくれるのはなぜ(何によって)ですか？

ヨハネ3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

2. 1コリント13:3を読みましょう。私たちが献金する動機は何であるべきですか？

1コリント13:3 たとえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることになっても、愛がなければ、何の役にも立ちません。

3. ヤコブ2:15-16を読んで、この箇所の意味を簡潔に説明してみてください。

ヤコブ2:15-16 兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、^[16]あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。

4. ルカ6:38(リビングバイブル)を読みましょう。この箇所はあなたにどのようなことを教えていますか？

ルカ6:38(リビングバイブル) 与えなさい。そうすれば与えられます。彼らは、量りのますに、押し込んだり、揺すり入れたりしてたっぷり量り、あふれるばかりにして返してくれます。自分が量るそのはかりで、自分も量り返されるのです。」

5. エペソ1:7を読みましょう。神は、神が持っている富の中から、その一部だけを私たちに与えましたか？それとも神の豊かな恵みによってすべてを私たちに与えましたか？この違いについて考えてみましょう。

エペソ1:7 このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

6. 箴言19:17を読みましょう。あなたが貧しい人に施しをするとき、それは何をする

ことになりますか？ そうすることで神はあなたに報いてくれますか？

箴言19:17 貧しい者に施しをするのは、主に貸すこと。主がその行いに報いてくださる。

7. 詩篇41:1-3(リビングバイブル)を読みましょう。貧しい人に対して親切にする人に、神がしてくれる五つのことを挙げてみてください。

詩篇41:1-3(リビングバイブル) 貧しい者に親切な人は、神から祝福を受けます。その人が困難に会うとき、主は助けの手を差し伸べてくださいます。^[2] その人を無事に守って生かし、人前で面目を施させ、敵を散らしてくださいます。^[3] 病気のときは、主ご自身が看護に当たり、痛みをやわらげ、心配事を取り去ってくださるのです。

質問の解答 — レッスン15

1. ヨハネ3:16を読みましょう。神が私たちに何かを与えてくれるのはなぜ(何によって)ですか?
愛。
2. 1コリント13:3を読みましょう。私たちが献金する動機は何であるべきですか?
愛。それは、私たちがどのように感じるかに関係なく、他の人の幸せと利益を求めること(マタイ7:12)。
3. ヤコブ2:15-16を読んで、この箇所の意味を簡潔に説明してみてください。
愛は言葉ではなく行動である。(愛の要素の95%は言葉以外のもの。)
4. ルカ6:38(リビングバイブル)を読みましょう。この箇所はあなたにどのようなことを教えていますか?
あなたが与えるために使うはかりの大きさに応じて、あなたも同じように量り返され、与え返される。
5. エペソ1:7を読みましょう。神は、神が持っている富の中から、その一部だけを私たちに与えましたか?それとも神の豊かな恵みによってすべてを私たちに与えましたか?この違いについて考えてみましょう。
神は、神の豊かな恵みによって私たちに贖うために、神のひとり子であるイエス・キリストを通して私たちにすべてを与えた。
6. 箴言19:17を読みましょう。あなたが貧しい人に施しをするとき、それは何をする事になりますか?
主に貸すこと。
そうすることで神はあなたに報いてくれますか?
はい。
7. 詩篇41:1-3(リビングバイブル)を読みましょう。貧しい人に対して親切にする人に、神がしてくれる五つのことを挙げてみてください。
 - 困難に会うとき、助けの手を差し伸べてくれる。
 - 守ってくれる。
 - 人前で面目を施す(あなたに対する世間からの評価や評判を高めてくれる)。
 - 敵を散らす(敵の手から助け出してくれる)。
 - 病気のときは主ご自身が看護に当たり癒やしてくれる。

祈りが答えられないように思えるとき

アンドリュー・ウォマック

今日は祈りが答えられないように思えるときにどう対処すべきかについて話したいと思います。さらに言えばこのレッスンでは、祈りが答えられないように‘思える’ことに重点を置いて考えていきたいと思います。事実、神は私たちが聖書のことばにしたがって信仰によって祈るなら、どんな祈りにも答えてくれるのです。1ヨハネ5章14-15節には「何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるといこと、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。^[15] 私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。」と書いてあります。これは祈りについて強い確信を与えてくれるみことばです。神はいつも祈りに答えてくれるのですが、それがあなたから見て必ずしも、答えられたように‘思える’とは限らないのです。マタイ7章7-8節には「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。^[8] だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。」と書いてあります。このみことばもまた、神が必ず祈りに答えてくれることを示しています。しかしながら私たちは、正しいこと、良いこと、自分勝手ではないと思えること、神の意志から外れてはいないと信じる何かを祈り求めたときに、その祈りが答えられなかったと思った経験がだれにでも一度はあるのではないのでしょうか。

みことばは「求めれば与えられる」と教えています。しかし私たちは過去の経験から「求めたが与えられなかった」と思うようになります。一体どちらが真実なのでしょう？この答えは意外かもしれませんが、おそらくどちらも真実であると言えるでしょう。これを読んで大半の人は「いや、ちょっと待ってください。確かにみことばには神が祈りに答えてくれると書いてあります。でも私の祈りは実現しませんでした。だから両方が真実とは言えないのではないのでしょうか」と言うでしょう。ヨハネ4章24節には「神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」と書いてあります。神は私たちの祈りに対して目には見えない霊の領域で答えてくれるのですが、それを目に見える現実の世界に現すためには、私たちの信仰が働かなければなりません。私たちの信仰の働きがあつてこそ、霊の領域にある物事をこの物理的な世界に現すことができるのです。これが基本的にヘブル11章1節のみことば、「さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」が示していることなのです。ここには「信仰は、存在しない物事を保証し」とは書かれていません。信仰によって保証される物事は目に見える物理的な世界ではなく、目には見えない霊の領域に存在しているのです。信仰とは、霊の領域で働いて、そこに存在する物事をこの物理的な世界へ引き出し、実際の形に現す力なのです。

このことをたとえると、放送や通信に使われる電波のようなものと言えます。ラジオ局は電波によって常に何かを放送していますが、電波を受信するラジオがなければその放送を聞くことはできません。しかし、だからといってそこに電波がないということにはならないのです。放送を聞くためにはラジオをつけて自分が聞きたい放送局に周波数を合わせる必要があります。そうすることでラジオは、あなたが自分の耳では直接聞くことができない電波信号をキャッチして人間の耳に分かる音に変換して放送します。神はこれと同じようなやり方で私たちの祈りに答えてくれるのです。神は霊の領域の中で私たちに祈りの答えを与えてくれます。そして私たちは信仰によって霊の領域の中に手を伸ばし入れ、祈りの答えをこの物理的な世界に持って来る必要があるのです。物理的な世界と霊の世界とは常に平行して動いています。神はいつも祈りに答えてくれますが、目には見えない霊の世界とこの物理的な現実の世界との間には隔たりがあり、私たちが信仰を働かせてその隔たりを埋めない限り、祈りが現実の形となって現れるのを見ずに終わってしまうのです。

たとえば聖書のダニエル書に登場するダニエルは、神が啓示を与えてくれるように祈り求めています。時間に限りがあるのでこの箇所の詳細は省きますが、神はダニエルのその祈りに答えるために天使ガブリエルを遣わしました。ダニエル9章22-23節には「彼は私に悟らせようとしてこう告げた。「ダニエルよ。私は今、悟りによってあなたを賢明にさせようとして出て来た。^[23]あなたが願いの祈りを始めたとき、一つのみことばが出されたので、私はそれを伝えに来た。あなたが特別に愛されている者だからだ。そのみことばを聞き分けて、その幻を理解せよ。」と書いてあります。この箇所の要点は、天使ガブリエルが「ダニエルが‘祈り始めたときに’神からの命令を受けた」と言っていることです。この箇所でダニエルの祈りが実現するまでにどれくらいの時間がかかったかを調べてみると、その時間は約3分だったことが分かります。つまり、神の命令が現実のものとなるまでに約3分間を要したということになるのです。

私たちは、神がしようと思ったことは何でも、神がパチンと指を鳴らしたその瞬間に起こるものだと勝手に想像しています。しかしそれは事実ではありません。ダニエル書のこの箇所の場合、神がガブリエルに命令を出した瞬間からガブリエルがダニエルの目の前に現れるまでの間、その距離を移動するのに約3分かかったのです。なぜ3分かかったのか、私はその理由のすべてを理解しているわけではありませんが、ここでその理由を追求することにはあまり意味がありません。私が伝えたいことは、神がガブリエルに命令を下した瞬間から、その命令が現実のものとなるまでに約3分かかったという事実です。もしも3分間というのが、祈りの答えが現れるまでの最も長い所要時間だったとしたら、おそらくほとんどの人は祈ったことが実現するまでの間、「私の祈りはすでに答えられた」と信じ続けることが容易にできるかと思います。しかし実際に祈りが実現するまでにかかる時間は必ずしもそう短くはないのです。

ダニエル書の10章では、この同じダニエルが別のことで神に祈っています。しかしこの時には、祈りの答えが実現するまでに3週間かかりました。これを読んだ多くの人たちは「なぜ神様はダニエルが前に祈ったときには3分で答え、今回の祈りには3週間もかかって答えたのだろうか?」と思うことでしょう。ダニエル10章11-12節には「それから彼は私に言った。「特別に愛されている人ダニエルよ、私が今から語ることばをよく理解せよ。そこに立ち上がれ。私は今、あなたに遣わされたのだ。」彼がこのことばを私に語っている間に、私は震えながら立ち上がった。^[12]彼は私に言った。「恐れるな、ダニエル。あなたが心を定めて、悟りを得ようとし、自分の神の前で自らを戒めようとしたその最初の日から、あなたのことばは聞かれている。私が来たのは、あなたのことばのためだ。」と書いてあります。この箇所では、ダニエルが祈った最初の日に使者を遣わしたことが分かります。それにもかかわらず、祈りの答えが現実のものとなるまでに3週間かかったのです。しかし神は忠実な方です。みことばに「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。」(ヘブル13:8)と書いてあるとおりです。

今読んだダニエル書の9章と10章の箇所を併せて解釈してみると、神はどちらの祈りにも即座に答えたのだと思います。祈りが実現するまでに一つの祈りには約3分かかり、もう一つには3週間かかりましたが、神はとこしえに変わることのない方です。押さえておきたい要点は、神は私たちの祈りに答えてくれるということです。神は常に変わることなく私たちの祈りに答えてくれるのですが、祈りが答えられてから現実のものとなるまでの間には、祈りの実現に変動をもたらす様々な要因があるのです。まず、あなたの信仰が霊の領域に届く必要があり、その信仰によって、そこにある祈りの答えを物理的なこの世界に持って来るのだということをあなた自身が理解し信じなければなりません。したがってあなたの信仰は、祈りが実現するための重要な要因の一つなのです。

続いてダニエル10章13節を見てみましょう。「ペルシアの国の君が二十一日間、私に対峙して立っていたが、そこに最高位の君の一人ミカエルが私を助けに来てくれた。私がペルシアの王たちのところに残されていたからだ。」と書いてあります。「ペルシア国の君」とは実在した人物ことではなく、サタンの手下である悪魔とその妨げを意味しています。サタンの存在は祈りの実現に変動をもたらすもう一つの要因です。神が祈りに答えても、サタンが他の人々を通して祈りの実現を妨げることがあります。たとえばあなたが財政的な助けを神に祈っていた場合、言うまでもなく、神が祈りに答えて直接あなたにお金を手渡すということは起こりません。また神があなたのためにお金を偽造することもありませんし、神が天からお金を降らせて、そのお金がいつの間にかあなたのポケットに入っているということも起こりません。ルカ6章38節には「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。」と書いてあります。神はあなたの祈りを聞いて動き、祈りに答えてくれ

レッスン16

ますが、祈りの実現は他の人々を通してもたらされるのです。あなたに関わる人たちの中には貪欲でお金に縛られている人たちもいます。そういった人たちがあなたのことをあまり良く思っていなかった場合や、あなたがその人たちの反感を買うようなことをしていた場合、サタンはその人たちを通してあなたの祈りが実現するのを妨げるのです。あなたが特に財政のために祈っているのなら、周囲の人たちがあなたの財政に起こる奇跡の一部であるかもしれないということを理解して、その人たちのためにも祝福を祈る必要があるかもしれません。

神は忠実な方です。神はみことばに基づく信仰の祈りに答えなかったことはないので。神はいつも祈りに答えてくれますが、他の様々な変動要因によって、あなたはその祈りが実現するのを見られない可能性があるのです。今日の学びがあなたの信仰を強化する助けとなり、神がいつもあなたの祈りに答えてくれているという事実をあなたが理解できるようにと祈ります。

振り返りのための質問とみことば

1. マタイ7:7-8を読みましょう。神に祈り求めるとき、どのようなことが期待できますか？

マタイ7:7-8 求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。^[8] だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。

2. マタイ7:7-8によると、神を探すとき、どのようなことが期待できますか？
3. マタイ7:7-8によると、私たちがたたくとき、どのようなことが起こると期待できますか？
4. ヨハネ10:35を読みましょう。神はみことばの約束に満たないものを与えることがありますか？

ヨハネ10:35 神のことばを受けた人々を神々と呼んだのなら、聖書が廃棄されることはあり得ないのだから、

5. ヤコブ4:1-3を読みましょう。これらの人々はなぜ、求めたものを神から受け取ることができないのでしょうか？

ヤコブ4:1-3 あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るのではありませんか。^[2] あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。^[3] 求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。

6. 1ペテロ3:7を読みましょう。もしもあなたが自分の配偶者に対してひどい扱いをしているなら、あなたの日々の祈りはどうなりますか？

1ペテロ3:7 同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らさなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。

7. 1ヨハネ5:14-15を読みましょう。祈りが答えられるための鍵は何ですか？

レッスン16

1ヨハネ5:14-15 何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるといふこと、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。^[15] 私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。

8. マルコ11:24を読みましょう。何かを祈ったとき、あなたはどうするべきですか？

マルコ11:24 ですから、あなたがたに言います。あなたがたが祈り求めるものは何でも、すでに得たと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。

質問の解答 — レッスン16

1. マタイ7:7-8を読みましょう。神に祈り求めるとき、どのようなことが期待できますか？
だれにでも与えられること。
2. マタイ7:7-8によると、神を探すとき、どのようなことが期待できますか？
だれでも見出すこと。
3. マタイ7:7-8によると、私たちがたたくとき、どのようなことが起こると期待できますか？
だれにでも開かれること。
4. ヨハネ10:35を読みましょう。神は、みことばの約束に満たないものを与えることがありますか？
いいえ。
5. ヤコブ4:1-3を読みましょう。これらの人々はなぜ、求めたものを神から受け取ることができないのでしょうか？
欲望から出た、自分の快樂のために使おうという悪い動機で求めるから。
6. 1ペテロ3:7を読みましょう。もしもあなたが自分の配偶者に対してひどい扱いをしているなら、あなたの日々の祈りはどうなりますか？
妨げられる。
7. 1ヨハネ5:14-15を読みましょう。祈りが答えられるための鍵は何ですか？
神のみこころにしたがって願うこと。
8. マルコ11:24を読みましょう。何かを祈ったとき、あなたはどうするべきですか？
すでに得たと信じる。そうすれば、そのとおりになる。

Discipleship Evangelism

～真の福音を学び
イエスに付き従う者となるための
スタディブック～



レベル3

目次

レベル3

1. あふれ出る神の愛	3-146
2. 聖霊の賜物を用いて仕える	3-153
3. 奇跡は神の栄光を現す	3-162
4. 強い信仰で結ばれた人間関係の中に働く力	3-170
5. 迫害	3-174
6. 王であるキリストと神の国	3-181
7. 救いをもたらす信仰の真の対象とは	3-192
8. 神の律法の適切な理解	3-199
9. 律法からの解放と恵みによる救い	3-207
10. 罪悪感からの解放	3-214
11. 私は神に愛されていて、私は美しい	3-224
12. 救いの実(1)	3-231
13. 救いの実(2)	3-240
14. イエスに付き従って行く者としての使命	3-248
15. 証しの用い方	3-257
16. イエスに付き従う者たちを育てるために皆の賜物を用いる	3-267

レッスン1

あふれ出る神の愛

アンドリュー・ウォマック

このレッスンでは、他の人々に仕えるために、どうすれば神の愛があなたのうちからあふれ出るようになるのかについて、いくつかのことを共有したいと思います。あなたのうちには神の力と油注ぎがありますが、どうすればその力を他の人々のために用いることができるのでしょうか？これについて学ぶために、取り上げるべきいくつかの事柄があります。ピレモン1章6節でパウロは「**私たちの間でキリストのためになされている良い行いを、すべて知ることによって、あなたの信仰の交わりが生き生きとしたものとなりますように。**」と祈っています。あなたが神の愛を流す管となり、その力を他の人々の益となるように用いていくための最初のステップは、自分自身のうちにある良いものを認めることです。持っていないもの、もしくは、持っているが認識できていないものを他の人々のために用いることはできません。しかし、あなたがひとたび自分のうちにある良いものを認識するなら、神の愛の力は自然とあふれ出します。あなたは知らず知らずのうちに他の人々に、クリスチャンとして生きる喜びや興奮を伝え始め、神があなたの人生でどのようなことをしてくれたのか、その証しを語り始めることでしょう。そして、あなたの証しを聞いた人々は、その証しによっておのずと励まされ助けられるのです。

1ヨハネ4章7-8節には「**愛する者たち。私たちは互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛がある者はみな神から生まれ、神を知っています。^[8]…神は愛だからです。**」と書いてあります。単なる感情とは違う真の愛の思いが、あなたのうちから他のだれかに向かってあふれ出るのを感じる時はいつでも、神の愛があなたからその相手へと流れ出そうとしていることの裏付けなのです。ギリシャ語には「愛」を表す言葉がおもに四つありますが、その中でも最も崇高な意味を持つアガペーの愛は、神の超自然的な愛を表しています。私たちは、だれかに対して感じる魅力や欲望から生じる単なる感情的な愛と、この超自然的で崇高な神の愛との違いを認識する必要があります。あなたから他のだれかに向かってあふれ出る思いが神の愛であるのなら、そこにはいつも利己的な動機はありません。神から来るアガペーの愛がどのようなものであるかを確かめるには、1コリント13章4-8節を読んでみてください。あなたの中にある思いがこの箇所にかかれている愛と合致するものであるならば、それは神の愛だと言うことができるでしょう。神の愛は他の人をねたんだり、自分本位な利益を求めたり、すぐに苛立ったりはしません。あなたが愛だと思っているものを見極め、それが本当に神の愛であるかを確認する必要があります。神の愛は利己的ではなく、見返りが欲しいからその人に何かをしてあげるというものではありません。あなたが神の愛の中で成長し、神の愛をしっかりと識別できるようになるにつれ、他のだれかのために自分のうちから神の愛があふれ出ていると気づいたなら、それは神が働いている証拠です。そして、だれか

のためにあなたのうちからあふれ出る神の愛を感じたなら、あなたがすべきことはただその相手に励ましの言葉をかけたり、その人の助けとなる何かをしたりすることによって、神の愛を実際に流すことだけです。それはとにかく行動を起こすことなのです。

時々、ふと心に浮かんだ人たちのことを、神の愛とあわれみの思いを持って祈ることがあります。なぜこのようなことが起こるのか、私にはその理由を説明することはできません。そういった思いと祈りは超自然的なものだからです。私は、そのように祈った後で、その人たちに電話をしたり手紙を書いたり、とにかく何らかの方法で連絡を取る必要があることを学びました。そして私が実際に連絡を取ると、その人たちはほぼ必ずと言っていいほど感動して「わあ、すごい。あなたが言ってくれたことは、あなたの口を通して神様が私に語ってくれたのだと思います。今、神様はあなたの言葉を通して私に触れ、私の人生を変えるような励ましのメッセージをくれました」というようなことを言います。これは、私が神の愛を感じ、その相手に向けて神のあわれみがあふれ出そうとしていることに応答し、行動を起こした結果です。そのようなあわれみの思いを感じる時、それは私自身の思いではなく、神の思いであることが分かります。神は愛であるので、私がだれかに対して愛を持って行動するとき、神が私を用い、私を通して神の愛がそのだれかへと伝えられるのです。イエスもこのように神の思いに応答し、人々に仕えました。マタイ14章14節には「**イエスは舟から上がり、大勢の群衆をご覧になった。そして彼らを深くあわれんで、彼らの中の病人たちを癒やされた。**」と書いてあります。イエスが人々に対して感じたあわれみと愛によって、イエスを通して神の力があふれ出し、イエスは人々を癒やしました。マタイ8章2-3節には、*ユダヤ人の律法によって汚れた者とされ、他の人々や物との接触が禁じられていたツァラアトの男性が登場し、その男性がイエスを見つけると、遠くから声を張り上げて叫びながらイエスに近づいて来て、「**イエスに向かってひれ伏し、「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります」と言った。**^[3]イエスは手を伸ばして彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われた。すると、すぐに彼のツァラアトはきよめられた。」(マタイ8:2-3)と書いてあります。イエスは神のあわれみに応答し、このツァラアトの男性に触れたのです。聖書を読んでいると、こういった神のあわれみ、つまり、神の愛を多くの箇所で見ることができます。あわれみとは単なる感情ではなく、私たちを通してあふれ出る神の思いなのです。[*当時のユダヤ人の律法では、ツァラアトの人と接触するなら、接触した人も感染し汚れた者となると言われていたため、だれもこの男性と接触することができなかった。]

イエスは周りにいる人々を本当に愛していたので、自分が十字架につけられながらも、「**父よ、彼らをお救してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。**」(ルカ23:34)と言いました。この箇所にある「彼ら」とは、まさにイエスを十字架につけた人たちのことです。しかしイエスはあわれみの思いを持って、神に彼らを赦してくれるようにと頼んだのです。私たちはこのときイエスが、鳥肌が立つほどの何か特別な

感情を感じてこのことを言ったのではないことを知っています。神のあわれみとは、感情や感覚ではなく選択なのです。イエスは、自分の感情にかかわらず神のあわれみを感じ取り、それを他の人々に向けて解き放ったのです。救われて、霊によって生まれ変わった人であるならばだれでも、その人のうちには神の霊が住んでいます。このレッスンの冒頭で読んだ1ヨハネ4章8節のみことばによれば、神は愛であり、神はあなたを通して他の人々にその愛を伝えたいと願っています。それをするために、神はあなたにあわれみの思いを注ぎ込みます。そして、あなたがその思いを感じる時、あなたは神に応答し、その神からの思いを他の人々に向けて流す必要があるのです。

それは、いつも何か特別なことをしなければならないというわけではありません。たとえば、格式張って「主はこう言われる」などと言う必要はありません。あなたがだれかに対してあわれみの思いを感じるなら、ただその人のところに行ってそっと肩などに手を置きながら、「神様はあなたを愛しています。そして私もあなたを愛しています」と言うだけで十分なのです。私がこのように言えるのは、私がまだ単に教会の参加者の一人であったころ、教会に行くのをやめてその教会から逃げ出そうとしていたときに、他の人からの言葉によって励まされ、助けられた体験があるからです。当時、その教会の人たちは、私についてありもしない噂を流していました。さらにそのうちの一人は、私のことを殺すとさえ言って脅したのです。私はとても失望し、「神様、私がやろうとしていることに対して感謝を表す人はだれもいません。今私がしていることに一体何の意味があるのでしょうか？」と神に聞きました。また私は、この状況を利用して私を攻撃してくる悪魔と戦っていました。そんなとき、遠方に住んでいる友人が私に電話をくれたのです。私は1～2分彼と話した後、「ところでどんな用で私に電話をくれたのですか？」と聞きました。彼は、「私はただあなたに愛していると伝えたくて電話しました。祈っているときに、あなたに対する神様の愛を感じたからです。だから、あなたのすべてにありがとうと伝えたくて」と、ただそのように言いました。彼は、そのとき私の身に起こっていた出来事や私が置かれていた状況については何も知りませんでした。神が彼を用いたのです。私はその友人を通して、神が私に愛していると伝えてきたことが分かりました。この出来事は、私をミニストリーの中に踏みとどまらせ、ひいては私の人生を変えました。

神の愛を流すことは、必ずしも相手に何か意味深い言葉や卓越した言葉をかけることである必要はないのです。神は愛であり、その愛があなたのうちからあふれ出るのを感じる時はいつでも、それは神の力の流れ…神のいのちの流れをあなたが感じ取っているのです。そしてあなたは、その流れに応答する必要があります。あなたが応答することによってだれかに言葉をかけ、行動を起こすなら、あなたによってその相手は祝福されます。そのとき神は、あなたの口に言うべき言葉を与えてくれるでしょう。あなたが周りの人々への愛とあわれみの思いによって仕えようと行動するなら、神があなたを用い、神はあなたを通して、周囲の人々を様々な霊的束縛から解放してくれるのです。

振り返りのための質問とみことば

注釈:ここでは、神が私たちに与えてくれたものを他の人々のために用いる方法について考えていきます。

1. ピレモン1:6を読みましょう。神の愛が私たちのうちからあふれ出るための最初のステップは何ですか？

ピレモン1:6 私たちの間でキリストのためになされている良い行いを、すべて知ることによって、あなたの信仰の交わりが生き生きとしたものとなりますように。

2. 1ヨハネ4:7-8を読みましょう。他の人に愛の手を差し伸べるための源は何ですか？

1ヨハネ4:7-8 愛する者たち。私たちは互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛がある者はみな神から生まれ、神を知っています。^[8]愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。

3. 今日のレッスンの中で著者アンドリューは、「他のだれかのために自分のうちから神の愛があふれ出ていると気づいたなら、それは神が働いている証拠です」と述べています。1ヨハネ4:7のどの部分から、これが事実であることが分かりますか？

1ヨハネ4:7 愛する者たち。私たちは互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛がある者はみな神から生まれ、神を知っています。

4. 1コリント13:4-8を読んで、神の愛とはどのようなものであるかを書き出してみましょう。

1コリント13:4-8 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません^[5]礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、^[6]不正を喜ばずに、真理を喜びます。^[7]すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。^[8]愛は決して絶えることがありません。預言ならすたれます。異言ならやみます。知識ならすたれます。

5. マタイ14:14を読みましょう。イエスは何に応答し、人々に仕えましたか？

マタイ14:14 イエスは舟から上がり、大勢の群衆をご覧になった。そして彼らを深くあわれんで、彼らの中の病人たちを癒やされた。

6. マタイ25:37-40を読みましょう。私たちが、愛とあわれみを感じるだれかに対して手を差し伸べるとき、実際にはだれに対して愛を表しているのと同じことになりますか？

マタイ25:37-40 すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。^[38]いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。^[39]いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』^[40]すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

ヘブル6:10 神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてなさいません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。

質問の解答 — レッスン1

1. ピレモン1:6を読みましょう。神の愛が私たちのうちからあふれ出るための最初のステップは何ですか？
神がキリストによって私たちに与えてくれた良いことの一つ一つをすべて知ること。
2. 1ヨハネ4:7-8を読みましょう。他の人に愛の手を差し伸べるための源は何ですか？
神。「神は愛だからです。」(1ヨハネ4:8)
3. 今日のレッスンの中で筆者アンドリューは、「他のだれかのために自分のうちから神の愛があふれ出ていると気づいたなら、それは神が働いている証拠です」と述べています。1ヨハネ4:7のどの部分から、これが事実であることが分かりますか？
「愛は神から出ているのです」の部分。(神が愛の源。)
4. 1コリント13:4-8を読んで、神の愛とはどのようなものであるかを書き出してみましょう。
 - 愛はすぐには苛立たず、寛容である。新約聖書の原語であるギリシャ語の聖書では、この箇所に書かれている愛はすべて現在形で書かれている。つまり、愛は常に継続的に、このように振る舞うということを意味している。
 - 愛は親切である。愛は実際に親切な行動をとることによって示される。新約聖書の原語であるギリシャ語の聖書では、この箇所に書かれている愛はすべて現在形で書かれている。つまり、愛は常に継続的に、このように振る舞うということを意味している。
 - 愛は人をねたまない。他の人の身に起こった良いことや成功に憤慨したり、不公平だと腹を立てたりはしない。
 - 愛は自分のことを自慢したり、自分がやったことをひけらかしたりはしない。
 - 愛は自分のことを誇らない。自分がしたことを得意がったり、自意識過剰や高慢になったりはしない。
 - 愛は見苦しい振る舞いをしない。礼儀に反することをせず、失礼な態度をとらない。
 - 愛は自分の利益を求めず、自己中心的ではない。
 - 愛はすぐに相手の挑発に乗って怒ったり、短気を起こしたり、すぐに腹を立てたりはしない。
 - 愛は人がした悪を心に留めない。いつも他の人の悪い面ばかりを見たりはしない。
 - 愛は不正を喜ばない。間違っていることを喜ばず、真理を喜ぶ。
 - 愛はすべてを耐え、すべてを望み、すべてを忍ぶ。常に相手のことを支えよう

- とする。決してあきらめない。
- 愛はすべてを信じ、信頼する。
 - 愛はすべてを忍び、決して絶えることがなく、永遠に続く。
5. マタイ14:14を読みましょう。イエスは何に応答し、人々に仕えましたか？
人々への深いあわれみ(神の思い)。一般的な辞書を引くと「憐れみ」とは「相手の気持ちや身の上を察して気の毒に思い、行動に移すこと」とある。そこに、相手を見下げたり、軽蔑したりするような気持ちは含まれない。
6. マタイ25:37-40を読みましょう。私たちが、愛とあわれみを感じる人に対して手を差し伸べるとき、実際にはだれに対して愛を表しているのと同じことになりますか？
イエスに対して。ヘブル6:10も参照のこと。

レッスン2

聖霊の賜物を用いて仕える

アンドリュー・ウォマック

今日のレッスンでは、あなたが受けた取った神の愛と賜物を、他の人々のためにどのように用いることができるのか—他の人々に仕えるために、どうすれば神の力強い働き手となることができるかについて考えていきたいと思えます。1ペテロ4章11節には「語るのであれば、神のことばにふさわしく語り、…」と書いてあります。この箇所にある「神のことば」については、人々が神殿の至聖所に置かれている契約の箱の中に、十戒が刻まれた石の板を納めていた旧約聖書の時代にさかのぼって理解する必要があります。この石の板に刻まれた十戒は、神の手により直接記されたもので、当時の人々はこれを「神のことば」と呼んでいました。つまり、「神のことばにふさわしく語り」というのは、神が告げたことを直接代弁する者として、神のことばに基づき、神から直接聞いたことを語るということを意味しています。1ペテロ4章11節は「…奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。」と続きます。このみことばは、私たちが他の人々に仕えるとき、自分の力によるのではなく、神から与えられた力によって仕えるべきであることを教えています。

クリスチャンとして生きる人生には、神からの素晴らしい恵みがあふれていますが、その一つに、神ご自身が私たちのうちに来て、聖霊として私たちのうちに住み、私たちとともにいてくれるという恵みがあります。それゆえに、私たちクリスチャンがだれかに話しかけ何かを語る時、それは単に私たち自身の能力によって話しているのではなく、神が私たちを通して語り、私たちの言葉を通して神の力が流れていくのです。それは私たちクリスチャンが文字通り神に完全に捕らえられることによって、私たちのうちにある神の霊の力が外へ向かってあふれ出すからです。私たちがその力を用いて他の人々に仕え始めるとき、その力こそが聖霊の賜物であることと、その力が何のために与えられているのかを覚えておく必要があります。神はキリストのからだに属する者たち全員に、一人ひとりそれぞれ異なる特定の賜物を与えています。事実、1コリント12章には、神の意志によって、私たち一人ひとりにいろいろな賜物が与えられていることが書かれています。その箇所、4-6節には「さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。^[5]奉仕はいろいろ*（多様性に富み）ありますが、仕える相手は同じ主です。^[6]働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。」(1コリント12:4-6)[*()]内は筆者による加筆]と書いてあります。これは、次の7節に「皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。」(1コリント12:7)とあるように、神がキリストのからだに属する者たち全員の中で、様々な異なる賜物を用いることによって、その一人ひとりの働きが、からだ全体の益となるように働くためなのです。

今読んできたこれらのみことばは、神が私たち一人ひとり全員に、超自然的な能力を与えているのだということを示しています。もしかするとあなたはその力を感じたことがなく、その能力が与えられていることに気づいていないかもしれませんが、これはみことばの約束なのです。あなたがこのスタディブックを使って今まで学んできて、すでにイエスを人生の主として受け入れているのであれば、また、神から受け取った様々な恵みを人生に適用する方法を学んできたのであれば、私は、あなたのうちに聖霊が住み、生きて働いているのを保証することができます。あなたのうちには、他の人々のために行われる奇跡の源が与えられているのです。神は他のだれかのために、あなたのうちに奇跡の種を植えました。その種が芽を出し、他の人々の人生の中にその力を解き放つことができるかどうかは、あなたの手にゆだねられているのです。聖書には、その力は聖霊によって私たち一人ひとりに与えられていると書かれています。この聖霊の力は、クリスチャンであれば一人の例外もなく、すべての人に与えられています。1コリント12章には、知恵のことば、知識のことば、霊を見分ける力、奇跡を行う力、癒やしの賜物など、聖霊の九つの異なる賜物が挙げられています(1コリント12:8-10)。またローマ12章には、それ以外の賜物も挙げられていますが、それら一つ一つを取り上げて説明することは、ここでは省略します。私たちはそれらの聖霊の賜物について自分自身で学び、私たち一人ひとり全員がうちに聖霊を住まわせていて、特別な油注ぎ—超自然的な能力—があり、それをを用いて他の人々に仕えることができるのだということを認識する必要があります。しかしながら、だれもが私と同じような方法でミニストリーをする賜物が与えられているわけではありません。それでも、たとえば教える賜物が与えられていなかったとしても、キリストのからだに属するすべての人は、他の人たちの前で信仰の証しを語ることで、それを聞いた人たちに教えることができます。逆に、具体的にはっきりと、他の人に教えるという使命を受けていて、その賜物が与えられている人たちがいます。また、教会で説教することや牧師になる使命を受けている人たちもいます。ほかに、ローマ12章に書かれている賜物のうちの一つには、もてなしの賜物があります(ローマ12:13)。多くの人は、自分に与えられている能力や賜物に気づいていない可能性があります。あなたは今のところ、ただだれかを祝福できるようになりたいという願望を持っているだけかもしれません。また、あなたはどこか人々の集まりの場に入って行ったとき、そこでくつろいでいる人たちの中で、じつは居心地の悪さを感じている人をすぐに見分けることができるかもしれません。もしくは、あなたはよく他の人に共感することができ、その相手が今経験している大変な状況に理解を示し、その人を安心させ、その人を気遣うことができるかもしれません。あなたは、これらのことがすべて、神の超自然的な賜物から来ているのだということに気づいていましたか？

ローマ12章には、ある人たちは‘分け与える人’としての使命を受けていて、福音を伝える働きを支援するためにお金を稼ぐ能力が与えられていることが書かれています。それは、その人たちに与えられた賜物であり、その人たちの人生に与えられている使命

なのです。皆さんの中の何人かは、この‘分け与える人’かもしれません。またある人たちには、勧めの賜物が与えられています。そしてまた他の人たちには、管理・運営の賜物が与えられていて、この賜物がある人は、よく教会の中で‘助ける者’と言われています(1コリント12:28)。しかし、助ける者によって成されることは教会の中だけにとどまらずバラエティに富み、いろいろな人々と関わる日常の中でも様々な形で用いられます。それから、私たちの中の何人かは、落ち込んでいる人を励ます能力を持っている人がいるでしょう。賜物の能力を用いて超自然的に他の人を励ますことは、もっぱらみことばを教える賜物を用いる私には決してできないことです。また、あなたに与えられているのは、だれかのところに行って肩などに手を置いてその人を祝福し、その人にやる気を起こさせるという能力かもしれません。ここで押さえておきたいポイントは、これらの能力はあなた自身が自然に持っている能力で、自分の性格的なものから来ているのだと、単にそのように捉えてしまうべきではないということです。あなたは今まで、これらの自分自身の特性を、単に性格診断テストなどでタイプ分けされる性格のうちの一つとして捉えていたかもしれません。しかし、あなたが持っている才能や賜物、あるいは、何か特定のことをするために、その特定の物事へとあなた自身を惹き付けていく、あなた独自の物事の視点や考え方などは、じつは神があなたのうちに与えてくれた超自然的な能力なのです。

聖書には、あなたが他の人々に仕えるとき、自分自身の力ではなく、神があなたのうちに与えた力によって仕える必要があると書かれています。フルタイムの聖職者であるかどうかにかかわらず、それぞれが今置かれている場所で、私たちはどこにいても、神と人々に仕える者となる必要があります。たとえばあなたが近所の人や、買い物に行った先でそこにいる人たちのために、居合わせたその場所で神の働きをするのなら、自分自身の力や能力によってではなく、神から与えられた力と能力によってそれをするのです。そのためにも、神との関係の中で、あなたに与えられている賜物を捜し求め、その賜物を発見することをお勧めします。そして、もしもあなたに与えられている賜物がフルタイムのミニストリーに関わるものでなかったとしても、その賜物を軽んじてほしくはありません。一人ひとり全員が、自分のうちに住む聖霊によって超自然的な能力が与えられていることを認識し、神からの賜物を用いて他の人々に仕えましょう。

賜物を用いて仕えていくためには、実践の繰り返しと時間が必要です。だれでも最初から完璧にできるわけではありません。ですから、賜物を用いることで起こるかもしれない失敗を恐れなくてください。もしもあなたが何か失敗をしたとしても、神を落胆させるようなことはなく、また、他の人々はあなたの誠実さに目を留めてくれることでしょう。あなたがしたことが完璧でなかったとしても、神の愛が相手に伝わり、神の力が働くのです。とにかく恐れずに他の人々に仕え始めましょう。そのために、あなたにも神からの賜物が与えられているということを認識し、その超自然的な力を他の人々のために用い始めましょう。

振り返りのための質問とみことば

1. 1ペテロ4:11を読みましょう。私たちはだれの力(どのような力)によって奉仕すべきですか？

1ペテロ4:11 語るのであれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン。

2. 1コリント12:4を読みましょう。賜物はいろいろありますが、それらすべての賜物を与えるのはだれですか？

1コリント12:4 さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。

3. 1コリント12:6を読みましょう。次の中から、みことばに沿っていると思われるものを選んでください。

- A. 神だけが一方的に働く。
- B. 神はすべての人を通して様々な方法で働く。
- C. 神は説教者や牧師だけを通して働く。

1コリント12:6 働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。

4. 1コリント12:7を読みましょう。“聖霊と聖霊の賜物は、皆の益となるために、私たち一人ひとり、全員に与えられています。”これは聖書の内容に沿っていますか？

1コリント12:7 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。

5. 1コリント12:8-10を読みましょう。この箇所にかかれている、神が人々に与える聖霊の賜物を挙げて、一つ一つの賜物を定義しましょう。

1コリント12:8-10 ある人には御霊を通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことばが与えられています。^[9]ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やしの賜物、^[10]ある人には奇跡を行う力、ある

人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。

6. ローマ12:6-8を読みましょう。この箇所に書かれている、神が人々に与える聖霊の賜物を挙げて、一つ一つの賜物を定義しましょう。

ローマ12:6-8 私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、^[7]奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、^[8]勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。

7. 今日学んだいろいろな賜物の中で、あなたを通して働いている賜物があることに気づきましたか？もしそうであるなら、それはどのような賜物ですか？
8. 1コリント12:7を読みましょう。賜物が用いられることによって益を得るのはだれですか？

1コリント12:7 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。

質問の解答 — レッスン2

1. 1ペテロ4:11を読みましょう。私たちはだれの力(どのような力)によって奉仕するべきですか?
神が備えてくださる力。
2. 1コリント12:4を読みましょう。賜物はいろいろありますが、それらすべての賜物を与えるのはだれですか?
神であり聖霊。
3. 1コリント12:6を読みましょう。次の中から、みことばに沿っていると思われるものを選んでください。
B. 神はすべての人を通して様々な方法で働く。
4. 1コリント12:7を読みましょう。“聖霊と聖霊の賜物は、皆の益となるために、私たち一人ひとり、全員に与えられています。”これは聖書の内容に沿っていますか?
はい。
5. 1コリント12:8-10を読みましょう。この箇所に書かれている、神が人々に与える聖霊の賜物を挙げて、一つ一つの賜物を定義しましょう。
 - 知恵のことば: 神の思考と目的によって与えられる神からの超自然的な啓示(使徒27:21-25も参照)。
 - 知識のことば: 自分の能力では知りえない事実や出来事についての神からの超自然的な啓示(使徒9:11-12も参照)。
 - 信仰の賜物: 何の疑いもなく、また、説明できる理由もなく、神が示したことを超自然的に信じる能力(1コリント13:2も参照)。
 - 癒やしの賜物: 医療行為による助けや投薬なしに、超自然的に病気や怪我などを癒やす能力(マルコ16:18も参照)。
 - 奇跡を行う力: 神の超自然力の介入によって、自然の法則に反する奇跡を生み出す能力(ヘブル2:3-4も参照)。
 - 預言の賜物: 神の靈感によって超自然的に受け取ったことばを、他の人に伝える能力(使徒11:27-28および1コリント14:3も参照)。
 - 霊を見分ける力: 神からの超自然的な啓示によって、霊の存在または、活動を見分ける能力(使徒16:16-18も参照)。
 - 異言の賜物: 神の靈感によって与えられた、通常の言語能力では理解できない*超自然的なことば(話し手自身も自分の言っていることは理解できない)を話す能力[*ただし、信じていない者たちのためのしるしとしての異言]

は、この地上のどこかにある国や地域で実際に使われている言語で語られる] (使徒2:4-11も参照)。

- 異言を解き明かす力: 神の靈感によって超自然的に異言を解釈し、他の人が理解できる言語で発話する能力(1コリント14:13-14も参照)。
6. ローマ12:6-8を読みましょう。この箇所にかかれている、神が人々に与える聖霊の賜物を挙げて、一つ一つの賜物を定義しましょう。
- 預言: 神の靈感によって超自然的に受け取ったことばを、他の人に伝える賜物。
 - 奉仕: 他の人々の必要を満たすために、実践的な方法で仕える賜物(2テモテ4:11も参照)。
 - 教える: 分かりやすく説明し、解説し、人々を教育する賜物(使徒13:1も参照)。
 - 勧める: みことばの実践を行うように相手を促し、助言を与え、励まし、相手に強く訴え、気づきを与え、慰め、注意を与える賜物(使徒13:15も参照)。
 - 分け与える: 金銭や物を惜しみなく神にささげ、他の人に分け与える賜物(箴言22:9も参照)。
 - 指導する: 指導的またはリーダーシップの賜物(使徒20:28も参照)。
 - 慈善を行う: たとえば犯罪者とその犠牲者など、試練の中にいる人々や困った境遇にある人々に対してあわれみの心を表す賜物(マタイ5:7も参照)。
7. 今日学んだいろいろな賜物の中で、あなたを通して働いている賜物があることに気づきましたか?もしそうであるなら、それはどのような賜物ですか?
特に正解はない。
8. 1コリント12:7を読みましょう。賜物が用いられることによって益を得るのはだれですか?
皆。(賜物を用いて他の人を助けることは、あなたを通して神が働くことである。)

レッスン2 — 補足のための聖書箇所

使徒27:21-25 長い間、だれも食べていなかったが、そのときパウロは彼らの中に立って言った。「皆さん。あなたがたが私の言うことを聞き入れて、クレタから船出しないでいたら、こんな危害や損失を被らなくてすんだのです。^[22]しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う人は一人もありません。失われるのは船だけです。^[23]昨夜、私の主で、私が仕えている神の御使いが私のそばに立って、^[24]こう言ったのです。『恐れることはありません、パウロよ。あなたは必ずカエサルの前に立ちます。見なさい。神は同船している人たちを、みなあなたに与えておられます。』^[25]ですから、皆さん、元気を出しなさい。私は神を信じています。私に語られたことは、そのとおりになるのです。

使徒9:11-12 すると、主はこう言われた。「立って、『まっすぐ』と呼ばれる通りに行き、ユダの家にいるサウロという名のタルソ人を訪ねなさい。彼はそこで祈っています。^[12]彼は幻の中で、アナニアという名の人が入って来て、自分の上に手を置き、再び見えるようにしてくれるのを見たのです。」

1コリント13:2 たとえ私が預言の賜物を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、私は無に等しいのです。

マルコ16:18 その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

ヘブル2:3-4 こんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、私たちはどうして処罰を逃れることができるでしょう。この救いは、初めに主によって語られ、それを聞いた人たちが確かなものとして私たちに示したものです。^[4]そのうえ神も、しるしと不思議と様々な力あるわざにより、また、みこころにしたがって聖霊が分け与えてくださる賜物によって、救いを証ししてくださいました。

使徒11:27-28 そのころ、預言者たちがエルサレムからアンティオキアに下って来た^[28]その中の一人の名をアガボという人が立って、世界中に大飢饉が起こると御霊によって預言し、それがクラウディウス帝の時に起こった。

1コリント14:3 しかし預言する人は、人を育てることばや勧めや慰めを、人に向かって話します。

使徒16:16-18 さて、祈り場に行く途中のことであった。私たちは占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをして、主人たちに多くの利益を得させていた。^[17]彼女はパウロや私たちの後について来て、「この人たちは、いと高き

神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えています」と叫び続けた。^[18]何日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り向いてその霊に、「イエス・キリストの名によっておまえに命じる。この女から出て行け」と言った。すると、ただちに霊は出て行った。

使徒2:4-11 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。^[5]さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、^[6]この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。^[7]彼らは驚き、不思議に思って言った。「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。^[8]それなのに、私たちそれぞれが生まれた国のことばで話を聞くと、いったいどうしたことか。^[9]私たちは、パルティア人、メディア人、エラム人、またメソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントスとアジア、^[10]フリュギアとパンフィリア、エジプト、クレネに近いリビア地方などに住む者、また滞在中のローマ人で、^[11]ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレタ人とアラビア人もいる。それなのに、あの人たちが、私たちのことばで神の大きなみわざを語るのを聞くと、は。」

1コリント14:13-14 そういうわけで、異言で語る人は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。^[14]もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。

2テモテ4:11 ルカだけが私とともにいます。マルコを伴って、一緒に来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。

使徒13:1 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。

使徒13:15 律法と預言者たちの書の朗読があった後、会堂司たちは彼らのところに人を行かせて、こう言った。「兄弟たち。あなたがたに、この人たちのために何か奨励のことばがあれば、お話してください。」

箴言22:9 善意の人は祝福を受ける。自分のパンを貧しい者に与えるからだ。

使徒20:28 あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。

マタイ5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。

レッスン3

奇跡は神の栄光を現す

アンドリュー・ウォマック

前回のレッスンでは、私たちが神の力によって歩み、神が与えてくれた賜物を用いて他の人々に仕えることについて学びました。今日は、私たちが神の超自然的な能力を用いて他の人々に仕えることによって、神の栄光を現すということが実際にはどのようなことであるのか、また、神は私たちがその超自然的な能力を用いることを願っているのだということについて、いくつかのことを皆さんと共有したいと思います。この学びに関連するみことばはあまりにもたくさんあって、そのすべてを取り上げることはできないので、そのうちのいくつかだけを見ていきたいと思います。まず、マタイ9章でイエスが中風の男を癒やしたことについて書かれている箇所を見てみましょう。その同じ場面の詳細については、後からマルコ2章で見ていきます。マタイ9章8節には「**群衆はそれを見て恐ろしくなり、このような権威を人にお与えになった神をあがめた。**」と書いてあります。聖霊の賜物—それは奇跡を行うカーが神の栄光を現すのです。そして、神が奇跡を行う能力を私たちに与えた理由は、じつはそこにあるということを知っていましたか？

私たちが人々に福音を伝えようとするとき、一般的によくある反応として、人々は私たちが言うことをすぐに信じようとはせずに、「あなたの言っていることが本当かどうか、どうして分かりますか？」と疑問を投げかけてきます。私は、何十万人もの人々を救いへと導いた有名な伝道師であるT. L. オズボーンが、初めて海外宣教に行ったときの彼の体験談を聞いたことがあります。彼は人々に福音の証しをしようと試みましたが、そこにいた人々はとにかく彼が言うことを信じようとはしませんでした。ある日、T. L. オズボーンがひとりの男性と話していて「聖書にはこう書いてあります」と言うと、その男性はT. L. オズボーンが持っていた聖書を指さして、「あなたが持っているその黒い本は、他の本と一体何が違うのですか？」と言ったのです。それを聞いたT. L. オズボーンは、「この人たちに、聖書に書かれていることが真実であることを分からせるためにはどうすればいいのだろうか？私には信仰があるので、信仰によって聖書が神の真実のことばであることが分かるが、どうすればまだ信仰のない彼らを説得することができるだろうか？」と考えたと言います。

その後、彼は敗北感を感じ失意の中でその宣教地を去り、自国に帰って改めて神を追求し始めました。主は彼に、聖霊の超自然的な力を用いなければならないと言いました。しるしや不思議が起こるのは、人々の人生を変える神のことばの力が実証されるためです。1ペテロ1章23節には「**あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。**」と書いてあります。神のことばには人々の人生を変える力がありますが、神を知らない人々にどうすれば、聖書に書いてあることが本当に生きた神のことばであると信じさせることができるでしょう

か?その答えこそが、奇跡が起こることの目的なのです。私たちが人々に福音のメッセージを語る時、癒やしが起こるのは神の意志であることを伝え、イエスの名によって癒やしを宣言し、実際に癒やしを行います。そして、見えなかった目や聞こえなかった耳が開かれ、その人たちが見えるように、聞こえるようになることで、神の力が実証されるのです。奇跡そのものが人々を救うのではありませんが、奇跡を目撃した人たちは、あなたが話した言葉が神のことばであることを信じるようになるでしょう。

冒頭で読んだマタイ9章のみことばと同じ場面が書かれているマルコ2章1-9節で、中風の男が癒やされた箇所について詳しく見ていきましょう。「数日たって、イエスが再びカペナウムに来られると、家におられることが知れ渡った。^[2]それで多くの人が集まったため、戸口のところまで隙間もないほどになった。イエスは、この人たちにみことばを話しておられた。^[3]すると、人々が一人の中風の人を、みもとに連れて来た。彼は四人の人に担がれていた。^[4]彼らは群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、イエスがおられるあたりの屋根をはがし、穴を開けて、中風の人が寝ている寝床をつり降ろした。^[5]イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、あなたの罪は赦された」と言われた。^[6]ところが、律法学者が何人かそこに座っていて、心の中であれこれと考へた。^[7]「この人は、なぜこのようなことを言うのか。神を冒瀆している。神おひとりのほかに、だれが罪を赦すことができるだろうか。」^[8]彼らが心のうちでこのようにあれこれと考へているのを、イエスはすぐにご自分の霊で見抜いて言われた。「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを考へているのか。^[9]中風の人に『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。」(マルコ2:1-9)実際、この箇所に書かれている癒やしと罪の赦しはどちらも、人間の理屈では不可能なことです。人間が罪を赦すことは不可能であり、また、人間が他の人の麻痺(中風)を癒やすことも不可能です。しかしそれらは神には可能であり、ここには、神がそのどちらか一方を行うことができるなら、神は確かに、その他方も行うことができるということが示されているのです。

続く10-12節には「しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」と言って、中風の人に言われた。^[11]「あなたに言う。起きなさい。寝床を担いで、家に帰りなさい。」^[12]すると彼は立ち上がり、すぐに寝床を担ぎ、皆の前を出て行った。それで皆は驚き、「こんなことは、いまだかつて見たことがない」と言って神をあがめた。」(マルコ2:10-12)と書いてあります。中でもこの箇所の10節でイエスが中風の人に、「しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」と言って、‘人の子’であるイエスが癒やしの奇跡を行なったことの目的を明らかにしました。それは、神のことばの力を目に見える物理的な形で現すことによって、イエスが物理的な領域で奇跡を行うことができるのだということを知れば、罪の赦しのような目には見えない霊的な領域における奇跡をも、イエスには行うことができるのだということ、それを見た人々が知るようになるためでした。イエスは、神のことばの力が実

証されるために奇跡を用いたのです。

このことと全く同じ趣旨がヘブル2章2-3節で述べられています。「御使いたちを通して語られたみことばに効力があり、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたのなら、^[3]こんなによろしい救いをないがしろにした場合、私たちはどうして処罰を逃れることができるでしょう。この救いは、初めに主によって語られ、それを聞いた人たちが確かなものとして私たちに示したものです。」(ヘブル2:2-3) この箇所には、神は聖霊の力によって、それを聞いた人たちを通してみことばの力を確かなものとしたということが示されています。この箇所をマルコ16章20節と併せて読んでみましょう。「弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた。」(マルコ16:20) ここで押さえておきたいポイントは、神はあなたが聖霊の超自然的な能力とそれに伴って働く力を用いて他の人々に仕えることを願っているということです。神は聖霊の賜物によって行われる奇跡を用いて、神のことばを聞いた人たちに、そのことばの確かさを示すのです。神が望んでやまないことは、すべての人の心が解放されて自由になることであり、人々は身体的・精神的な癒やしなどを実際に体験することによって神に触れられ、心の解放を得るのです。あなたが人々に仕える中で、そういった癒やしの領域を取り扱うことで人々が解放され自由になることができるのなら、その人々は主に対して心を開くようになり、主が彼らの人生に触れ、人々は主にすべてをささげるようになるでしょう。

1コリント2章1-5節でパウロはコリントの教会員に手紙を書き、彼が初めてコリントに行ったとき、どのようにコリントの人々との距離を縮め、宣教していったのかについて述べています。「兄弟たち。私があるあなたがたのところに行ったとき、私は、すぐれたことばや知恵を用いて神の奥義を宣べ伝えることはしませんでした。^[2]なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです。^[3]あなたがたのところに行ったときの私は、弱く、恐れおののいていました。^[4]そして、私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。^[5]それは、あなたがたの信仰が、人間の知恵によらず、神の力によるものとなるためだったのです。」(1コリント2:1-5) この箇所でパウロは、なぜ彼が、ことばの説得力だけを用いて神のことを伝えることはせず、聖霊の力を用いることによって神の力を目に見える形に現したのか、その理由を述べています。そしてその理由は、彼らの信仰が人間の知恵によらず、神の力によるものとなるためであったということがはっきりと書かれています。

キリスト教には‘真理’という素晴らしく理にかなった教えがあります。ひとたびその聖書の真理が分かると、なぜ今まで自分はそれを知らずにいたのか、なぜだれもがこんなにも素晴らしい真理を受け入れないのだろうかと思ってしまうほどです。しかし、キリスト教

は‘単なる教え’ではありません。キリスト教とは、真に神の力を体験することなのです。神は今も生きていて、聖書の中に書かれているのと同じやり方で、神の超自然的な力を人々の前に現したいと願っています。ヘブル13章8節には「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。」と書いてあります。イエスはこの地上に来て、人間として私たちの間でしるしと不思議と奇跡を行い、それによって神の満足を得ました。使徒10章38節には「それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。」と書いてあります。イエスは、わざを行うことによって自分が話したことばを実証し、それらのわざは、まるで大きく鳴り響く鐘の音のように、人々を彼のメッセージへと引き寄せました。イエスが行なった奇跡が神の栄光を現したのです。奇跡は神の栄光を輝かせるということが、多くの聖書箇所から示されています。イエスが神の働きをするとき、人々の人生を変えるために聖霊の力を用いる必要があったのであれば、私たちも聖霊の力を用いずにどうしてイエスよりも良い働きをすることができるのでしょうか？イエスでさえも奇跡を用いて人々を引き寄せ、人々が彼のメッセージに耳を傾けるようにしたのであれば、私たちが超自然的な神の力を用いることなく、この世の人々をどうして説得することができるのでしょうか？事実、奇跡が神の栄光を現すのです。奇跡とは、人々を引き寄せる鐘の音のようなものであり、たとえるなら、夕飯の合図に鳴らすチャイムのようなものです。あなたの空腹を満たしてくれるのは食べ物ですが、あなたの注意を夕飯に向けさせるのはチャイムの音です。チャイムによる合図がなければ夕飯を逃してしまう人もいますでしょう。それと同じように、神の奇跡の力が現れなければ、多くの人は神が実在し、神が人々の心を変えて罪を赦すことができるという事実を見逃してしまうのです。

神は、他の人々の人生を変えるために、私たち一人ひとりを通して神の奇跡が行われることを望んでいるということをぜひ理解してください。皆さんの中には、「でもそのように言われると尻込みしてしまいます。もしも私が祈った人が癒やされなかったらどうしますか？その奇跡が必ず起こるなどと、どうして分かりますか？」と言う人がいるかもしれません。そうであれば、奇跡を行うのは私たち自身ではないということを認識する必要があります。奇跡を行うのは神なのです。実際に奇跡が起こってその人が解放されるかどうか、その責任を負うのは私たちではなく、また、奇跡が起こらなかったとしても、私たちがそのために責めを負うことはないのです。私たちがすべきことは祈ることで、癒やしの奇跡を行うのは神なのです。ただし、神は私たちを通して働く必要があるのです。神は奇跡的な方法であなたを用いることを望んでいます。あなたはみことばを熱心に学び、みことばの力が、あなたが関わる他の人々の人生にどう働くのかを実際に見るためにも、まずはみことばをあなた自身の人生に適用することで、神の奇跡を行う超自然的な力を流す管となり、あなたも今日からその力を他の人々のために用い始めましょう。

振り返りのための質問とみことば

1. 奇跡とは何ですか？
2. マルコ2:10-12を読みましょう。イエスが行なった奇跡は、イエスがどのようなことをする力(権威)を持っていることを示しましたか？

マルコ2:10-12しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」そう言って、中風の人に言われた。^[11]「あなたに言う。起きなさい。寝床を担いで、家に帰りなさい。」^[12]すると彼は立ち上がり、すぐに寝床を担ぎ、皆の前を出て行った。それで皆は驚き、「こんなことは、いまだかつて見たことがない」と言って神をあがめた。

3. マルコ16:15-18を読みましょう。イエスを信じる者として、私たちはどのようなことをするべきですか？

マルコ16:15-18それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。^[16]信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。^[17]信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、^[18]その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

4. 使徒8:5-8, 12を読みましょう。人々は何を見ましたか？また、それを見てどのように反応しましたか？

使徒8:5-8, 12ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。^[6]群衆はピリポの話聞き、彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、そろって関心を抱くようになった。^[7]汚れた霊につかれた多くの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒やされたからである。^[8]その町には、大きな喜びがあった。...^[12]しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。

5. 使徒3:12を読みましょう。使徒ペテロは、彼の敬虔さが奇跡を起こしたかのように驚き見つめる人々に向かって何と言いましたか？

使徒3:12 これを見たペテロは、人々に向かって言った。「イスラエルの皆さん、どうしてこのことに驚いているのですか。どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。

6. 使徒3:16を読みましょう。奇跡は何によって起こりますか？

使徒3:16 このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたのです。

7. 新約聖書の中で、使徒ではない人たちが行なった奇跡はありましたか？
8. 1コリント1:7を読みましょう。やがて奇跡の賜物(奇跡を行う力)の働きは終わります。それはいつのことですか？

1コリント1:7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっています。

質問の解答 — レッスン3

1. 奇跡とは何ですか？
神の力の現れであると考えられる並はずれた、常識を超えた驚くべき出来事。
また、神がその力をもって、超自然的な形で自然法則に介入すること。
2. マルコ2:10-12を読みましょう。イエスが行なった奇跡は、イエスがどのようなことをする力(権威)を持っていることを示しましたか？
罪を赦す権威を持っていること。
3. マルコ16:15-18を読みましょう。イエスを信じる者として、私たちはどのようなことをすべきですか？
 - 福音を宣べ伝える。
 - 救われた人に洗礼(水のバプテスマ)を授ける。
 - 悪霊を追い出す。
 - 異言(新しいことば)で語る。
 - 病人を癒やす。
4. 使徒8:5-8, 12を読みましょう。人々は何を見ましたか？
奇跡(汚れた霊につかれた人たちから、その霊が出て行くのを見、中風の人や足の不自由な人が癒やされたこと)を見た(7節)。
そして、それに対してどのように反応しましたか？
 - イエスを信じた。
 - 水のバプテスマを受けた(12節)。
5. 使徒3:12を読みましょう。使徒ペテロは、彼の敬虔さが奇跡を起こしたかのように驚き見つめる人々に向かって何と言いましたか？
「イスラエルの皆さん、どうしてこのことに驚いているのですか。どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。」と言った。つまり、その男を癒やしたのは彼自身の敬虔さや力ではなく、神が起こしたことであると言った。
6. 使徒3:16を読みましょう。奇跡は何によって起こりますか？
イエスの名とイエスを信じる信仰。
7. 新約聖書の中で、使徒ではない人たちが行なった奇跡はありましたか？
はい。(それは次の三箇所に書かれている。)

- その人の名は不明だが、マルコ9章38節に登場する‘イエスの名によって悪霊を追い出している人’(マルコ9:38-39)。
 - ピリポ(使徒8:5-7)。
 - アナニア(使徒9:10-18)。
8. 1コリント1:7を読みましょう。やがて奇跡の賜物(奇跡を行う力)の働きは終わります。それはいつのことですか?
主イエス・キリストの現れるとき。つまり、イエス・キリストの再臨のとき。

強い信仰で結ばれた人間関係の中に働く力

ドン・クロウ

今日は、強い信仰で結ばれた人間関係の中に働く力について学んでいきましょう。このトピックについて考えるとき、聖書は全体を通して、このことを主題として教えていると言っても過言ではないでしょう。たとえば「教会」という言葉は、ギリシャ語では「Ekklesia(エクレシア)」という言葉で、「神に呼ばれた人々の集まり」を意味します。聖書を読むと、教会の人々、もしくは神の家族たちは、ともに集うことを互いに勧め合っていたことがわかります。人々は毎日集まっては一緒に祈り、励まし合っていました。それらの人々は信仰の歩みをともにすることで、強い信仰で結ばれた人間関係の中に働く力を得て互いに強められていました。また、「長老」という言葉についても取り上げてみると、「長老」という言葉は聖書の中で何度も使われていて、年上の人、成熟した人、クリスチャンとしての人生を長年歩んで来た人、そして、良い結婚関係と良い家族関係を築いてきた人を表すために使われています。もしも私が結婚生活において何か問題を抱えるようなことがあったとしたら、この長老という言葉に表されるような、長年にわたって神の知恵を得てきた敬虔な人のところに相談に行きたいと思うことでしょう。

聖書はまた、キリストのからだである教会を物理的な体として描写しているということも認識する必要があります。からだには手・目・耳、その他様々な部分があり、私たちは皆、互いの一部なのです。一つ一つの靱帯やからだの各部分には、それぞれに独自の賜物・独自の才能や、その強みと知識を発揮する独自の方法があります。そして、皆が互いの一部であるからこそ、私たちは個々の力を引き出し合うことができるのです。

ヤコブ5章16節には「**ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。**」と書いてあります。このみことばは、強い信仰で結ばれた人間関係の中に働く力について書かれている聖書箇所の一例です。おそらく皆さんも気づいているように、現代に生きるクリスチャンたちは、キリストのからだとしての機能のどこか一部を失っているように思います。なぜならそれは、私たち信者のだれもが祭司であるということ、何か問題があれば互いに助け合うというのではなく、各自が神のところへ直接話しに行くべきであるということをもとさら強調し続けてきたためであると思います。しかし聖書は、私たちが互いに罪を言い表すことを教えています。私には、ローレン・ルイス博士という友人がいます。彼は私より年上の紳士的な男性で、私たちは長年にわたって多くの時間をともに過ごしてきました。彼はギリシャ語学者であるので、常に新約聖書の原語であるギリシャ語の聖書を読んでいます。そのため、私が聖書を読んでいて何か分からないことがあると彼のところに行き、ギリシャ語の聖書では何と書かれているかを尋ねます。彼にはギリシャ語の時

制についても教えてもらうことがあります、私の聖書の学びは彼によって大いに助けられています。このようにして、私は大変多くの時間を彼と過ごしてきました。彼は知恵の人であり、とても賢く敬虔な人です。また、長年良い結婚関係と良い家族関係を築いてきた人でもあります。私たちは時折、だれもが自分の間違いや罪を告白する必要がある、私とローレン・ルイス博士のように、そういった告白をし合える人間関係を持つ必要があるのです。ところで私は、聖書には「私たちは人にではなく神の前に罪を告白すべきだ」ということが書かれているのを知っています。そして今、私がここで伝えたいことは、あなたがだれかの前で罪を告白することで、あなたの告白を聞いた相手が、あたかも神であるかのように罪を赦すことができるということではありません。私たちはあくまでも、直接神の前に罪を告白する必要があるということを踏まえた上で、ただし、私たちは自分の日々の生活の中で、互いに正直になって忠告やアドバイス、励ましを与え合える人間関係が必要なのです。

強い信仰で結ばれた人間関係の中に働く力とは、互いに正直に忠告し合える関係を持つという意味で、また、互いに主を求め続けるよう励まし合うために必要な力なのです。聖書のヘブル人への手紙には、互いに日々助言を与え合い、自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合うように、また、だれも罪に惑わされて頑なにならないように、そのためにもますます互いに励まし合い警告し合うようにと書かれています(ヘブル10:25,3:13)。これらのみことばはすべて、強い信仰で結ばれた人間関係の重要性について語っています。聖書は、強い信仰で結ばれた人間関係とは逆に、神を信じていないこの世的な人間関係が、どのように私たちの思考に悪影響をもたらすかということについても何度も警告しています。そういった人間関係の中には、私たちが足を踏み入れるべきではない物事の中に、自分でも気づかないうちに誘導されてしまう危険性があるのです。そして、そういったことは自分自身を見張ることを怠り、神の知恵を持った人たちの助言を得ていないことによって起こるのです(箴言11:14,13:20,1コリント15:33)。聖書は「不信者と、つり合わないくびきをもにしてはいけません。正義と不法に何の関わりがあるでしょう。光と闇に何の交わりがあるでしょう。」(2コリント6:14)と警告しています。

あなたがクリスチャンとしての人生を歩んでいくとき、どうか強い信仰で結ばれた人間関係の交わりの中に身を置いて、あなたにネガティブな影響を与えるような人たちからは遠ざかるようにしてください。互いの人生について心を開いて話し、切磋琢磨し合うことのできる信仰の友(箴言27:17)を持つことはとても重要です。あなたが今日学んだことをさらに黙想することで、神の祝福がありますように。

振り返りのための質問とみことば

1. 1コリント15:33を読みましょう。この箇所は、人間関係についてどのようなことを教えていますか？

1コリント15:33 惑わされてはいけません。「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。

2. 1コリント12:12を読みましょう。この箇所は、私たちクリスチャンの信仰生活について、どのようなことを示していますか？

1コリント12:12 ちょうど、からだの一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

3. ヘブル10:24を読みましょう。この箇所から、強い信仰で結ばれた人間関係について、どのようなことを学ぶことができますか？

ヘブル10:24-25 また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。^[25]ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

4. ヘブル10:25を読みましょう。この箇所から、人間関係について、どのようなことを学ぶことができますか？

5. 箴言5:22-23を読みましょう。私たちはなぜ、神を信じていないこの世的な人間関係から心を守る必要があるのでしょうか？

箴言5:22-23 悪しき者は自分の咎に捕らえられ、自分の罪の縄に捕まえられる。^[23]その人は訓戒を受け入れることなく死に、あまりの愚かさゆえに道から迷い出る。

6. 2テモテ2:22を読みましょう。私たちは、どのような人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めますか？

2テモテ2:22 あなたは若いときの情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。

7. ヘブル13:7を読みましょう。私たちは、だれたたちのことを思い出し、人生のお手本とするべきですか？

ヘブル13:7 神のことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、覚えていなさい。彼らの生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣いなさい。

質問の解答 — レッスン4

1. 1コリント15:33を読みましょう。この箇所は、人間関係についてどのようなことを教えていますか？
悪い交際は良い習慣を損なう。
2. 1コリント12:12を読みましょう。この箇所は、私たちクリスチャンの信仰生活について、どのようなことを示していますか？
私たちの体の各部分・各器官にたとえられるように、私たちは皆、キリストのからだ(教会)のメンバーである他の人たちを必要としている。
3. ヘブル10:24を読みましょう。この箇所から、強い信仰で結ばれた人間関係について、どのようなことを学ぶことができますか？
強い信仰で結ばれた人間関係の中では、愛と善行を促すために互いに注意を払うことができる。
4. ヘブル10:25を読みましょう。この箇所から、人間関係について、どのようなことを学ぶことができますか？
私たちはともに集まり、交流を深め、互いに励まし合う必要がある。
5. 箴言5:22-23を読みましょう。私たちはなぜ、神を信じていないこの世的な人間関係から心を守る必要があるのでしょうか？
あまりの愚かさゆえに道から迷い出る(23節)ようになってしまうため。
6. 2テモテ2:22を読みましょう。私たちは、どのような人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めますか？
きよい心で主を呼び求める人たち。
7. ヘブル13:7を読みましょう。私たちは、だれたちのことを思い出して、人生のお手本とするべきですか？
神のことばをあなたがたに話した指導者たち。

レッスン5

迫害

ドン・クロウ

今日は迫害をテーマとして取り上げ、マタイ10章16-23節のイエスのことばについて学んでいきましょう。イエスは自分の弟子たちを、迫害に対して備えさせたいと思っていました。イエスは、いずれ弟子たちに対する弾圧が起こることを予め彼らに分からせておきたかったのです。「**キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。**」(2テモテ3:12)おそらく迫害の背後には敵の存在があると思います。しかし、迫害とは私たちが、その迫害してくる者たちを非難し返したり、相手に抗議したりすることによって退けることができるようなものではないのです。私たちが義のために生きようとするのなら、迫害はつきものだからです。それは今読んだ2テモテ3章12節にも、「キリストに忠実に生きる人々は迫害に苦しめられる」ということが書いてあるとおりです。イエスは弟子たちに「**いいですか。わたしは狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。**」(マタイ10:16)と言って、彼らに心の準備を促しました。イエスはまず「いいですか」と言って弟子たちの注意を引いた上で、「あなたたちに知っておいてほしいことがあります。それは、わたしはあなたたちを羊として、狼の中に遣わすということです」と言ったのです。羊は私が知る限り、最もか弱く身を守るすべを持たない動物で、ただ飼い主に頼って生きている動物です。羊には牙がなく、蛇のような毒もありません。つまり、防御力が全くないのです。羊が持っている唯一の防御力とは、その飼い主である羊飼いだけなのです。

羊飼いの役割は、オオカミを羊の群れから遠ざけることなのですが、驚くべきことにイエスは、「わたしはあなたたちを羊として、狼の中に遣わします」と言って、羊飼いの本来の役割とは正反対のことを言ったのです。イエスがそのような言った理由は、弟子たちを迫害に備えさせようとしたからです。エペソ6章12節には「**私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。**」と書いてあります。私たちの身にもいずれ迫害が起こるでしょう。迫害はクリスチャンとして生きる私たちの人生にはつきものであり、イエスはそのことを私たちに知っておいてほしいと願っています。イエスは「**ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。**」(マタイ10:16)とすることによって、私たちに準備を促しています。「蛇のように賢く」とは、あらゆる状況の中で知恵を用いることによって、不必要な問題を引き起こさないということを意味しています。イエスは私たちに、いつも蛇のように賢く、鳩のように素直であって、他の人に対して悪意を持たないようにしなさいと言っているのです。

さらにイエスは、「**人々には用心しなさい。**」(マタイ10:17)と言っています。敵が

他の人々を使ってくるからです。エペソ2章2節には「かつては、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」と書いてあります。サタンは、私たちクリスチャンと、イエス・キリストがこの地上に来た目的と、そして、みことばに対して戦いを挑むために人々を使ってくるのです。「人々には用心なさい。彼らはあなたがたを地方法院に引き渡し、会堂でむち打ちます。」(マタイ10:17)と書いてあるとおりです。パウロは「ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、」(2コリント11:24)と書いています。そしてイエスも、「人々があなたがたを地方法院に引き渡す」と書いています。つまり政府でさえも、イエス・キリストの目的を妨害するために、サタンの手によって使われることがあるのです。私たちはイエスのために、公の場で神のことを語ったという理由や命令に逆らったという理由で裁判にかけられたり、権力者の前に連れて行かれたりすることがあるのです。

私はカリス・バイブル・カレッジで講師をしています。私が教える福音伝道のクラスで、ある時、手紙と個人的な証しを使って、まだ救われていない人々にどのように福音を伝えていくことができるかを、過去に私自身が実践した方法を生徒たちに講習していました。そして、その授業の一環として、私も生徒たちとともに、自分の証しを書いた手紙を50~100人の不特定多数の人たちに宛てて送りました。その数日後、私のところにマリーアンという町に住む女性から電話がありました。その電話で彼女は、「あなたは今から私が言うことに対して何も言い訳はできません。それから、この電話でイエス・キリストについて一切話さないでください。とにかく私はあなたの言い訳を許しませんから。一体あなたはどこで私の個人情報を手に入れたのですか?」とまくし立てました。私が、「あなたのことは電話帳に載っていたのですが」と答えると彼女は、「あなたは嘘つきです!私は自分の氏名や住所を電話帳に載せたことはありません!」と言いました。私が「いいえ、本当に私は電話帳であなたの氏名と住所を見たのです」と言うと彼女は、「明日、警察からあなたに連絡が入るでしょう」と言い捨てて電話を切りました。私は、「これは聖書に書いてある迫害が現実になりつつあるということなのだろうか?」と考えていました。そして翌日、実際に警察から連絡があり、彼らは私に尋問するために約2時間を費やしたのです。

このことは一体何を意味しているのでしょうか?その警察官たちは、辺りをうろついている犯罪者を捕まえるはずの時間を私のために費やし、2時間も時間を無駄にしたのです。なぜこのようなことが起こったのでしょうか?それはイエス・キリストのために、福音のために起こったのです。迫害について、聖書が言っていることは実際に起こるのでしょうか?もしも私たちがみことばの真理に立つのなら、大胆に神のことを証しするのなら、イエスのことを大胆に宣言するのなら、また、この世の人々の前でも神の義にしたがった生き方を大胆に貫くのなら、私たちは迫害にあうのです。この世には悪の勢力と

善の勢力とがあります。イエスは弟子たちに、悪の勢力に対する心構えを持たせたかったのです。

マタイ10章19節でイエスは「人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。」と言いました。なぜなら私たちは、使徒の働きの中に登場するステパノのように、聖霊によって知恵を得て語るができるからです。ステパノを迫害していた人々は、聖霊の知恵によってステパノが語ったことには反論できませんでした(使徒6:9-10)。マタイ10章22-23節でイエスは「また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。^[23]一つの町で人々があなたがたを迫害するなら、別の町へ逃げなさい。」と言っています。私たちが、みことばを‘ただ聞く者’というのではなく‘実践する者’であるなら、神の義に対抗する悪の力やイエス・キリストの目的に対する妨害が現実のものとして、私たちの身に降りかかってくるのです。

だいぶ前のことですが、ある日私は公園でブランコに座っている年配の女性を見かけました。だれかに伝道したいと思っていた私は、その女性を見て心の中で、「あの女性はきっと怖い人ではないはずだ。私が話しかけたとしても、あの女性が私に危害を加えるようなことはないはずだ!」と自分に言い聞かせ、自分自身を勇気づけながらその女性のところに行き、「ここに座ってもいいですか?」と聞いて隣のブランコに座ってその女性と会話を始めました。話しているうちに彼女の名前がジェーンであることが分かったので、「ところでジェーンさんはどんなお仕事をしていますか?」と聞きました。彼女は「ああ、私はもう歳なので仕事はしていません。もう引退しました」と言いました。そして私に、「あなたはどんな仕事をしていますか?」と聞き返してきたので私は、「*パラチャーチでミニストリーをしています」と言うと、突然彼女の表情が変わったのです。そして彼女は、「私に神とかイエスについて話さないでくださいよ!」と言いました。私は、「ああ、ジェーンさん、そんな風に言わないでください」と言うと彼女は、「もしも今、イエス・キリストが私の目の前にいたなら、私は彼の顔につばきを吐きかけてやるわ!」と言ったのです。「ああ、ジェーンさん!そんなこと言わないでください!きっとあなたは教会で、いろいろな人から傷つけられるような目にあっただけでそのように言うのだと思いますが、でもジェーンさん、そんな風に言うてはいけません!あなたに私の家族のことを話させてください」と言うと彼女は、「嫌です!あなたの家族のことなど聞きたくはありません。どうせあなたは、イエス・キリストと神があなたの家族に何々をしてくれたというようなことを話すんでしょ。私はそんなことは聞きたくありません。話さないでください」と言いました。私は、「ジェーンさん、聞いてください。お願いします。私はどうしても、あなたにイエス・キリストのことを話さなければなりません」と言うと彼女は、「嫌だと言っているでしょ!いい加減にきなさい!」と言い捨てて、その場を離れて行きました。[*パラチャーチとは超教派で協力し福音伝道の働きをする、教会ではない組織や団体。]

少し離れたところに、彼女が飼っている小型犬が紐でつながれていました。ジェーンがそこに行って犬の紐を引っ張ると、その小さな犬は「ウー」と少し唸って、それから彼女は犬と一緒に去っていきました。そこには、神に対する反抗の霊がその人の内側で暴れ出し、自分自身が制御不能になったひとりの女性がいました。彼女は敵に完全に支配されていました。私は、「自分は他の人に怒鳴られることには慣れていないし、面と向かって自分に歯向かってくる人も苦手だ」と、その出来事を思い返していました。そのような喜べない出来事だったにもかかわらず、私の心にあったのはジェーンへのあわれみと愛の思いだけでした。その思いによって私は、暴走している彼女に対して完全に冷静さを保つことができたのです。家に帰ってから主と会話する中で私は、「主よ、聞いてください。相手が面と向かって私を攻撃してきたときに、私がずっと冷静でいられたことと、今私の心にはジェーンに対する愛とあわれみの思いだけが残っていることは奇跡です」と言いました。

私たちがイエスの名によってこの世の中に出ていくとき、迫害と弾圧が起こります。しかし、私たちがイエスのために人々から拒絶されるようなときでさえも、イエスにある信仰を宣言する大胆さを私たちに与えてくれる聖霊が、どのような状況にあっても、私たちに慰めと強さを与えてくれるのです。

振り返りのための質問とみことば

1. 2テモテ3:12を読みましょう。敬虔な人生を生きようとする人々は、何を体験しますか？

2テモテ3:12 キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。

2. 「迫害」の定義は何ですか？
3. マルコ4:16-17を読みましょう。困難や迫害が起こる理由は何ですか？

マルコ4:16-17 岩地に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れますが、^[17]自分の中に根がなく、しばらく続くだけです。後で、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

4. 使徒8:1, 4を読みましょう。エルサレムでの迫害はどのようなことをもたらしましたか？

使徒8:1, 4 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた...^[14]散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。

5. マタイ5:10-12を読みましょう。～のために迫害されている人たちには祝福があります。～は何ですか？

マタイ5:10-12 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。^[11]わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。^[12]喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。

6. マタイ5:12を読みましょう。イエスを信じる者が義のために迫害されるとき、将来に何を期待することができますか？
7. 使徒9:4-5を読みましょう。サウロが迫害していたのはだれですか？

使徒9:4-5 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」^[5]彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

8. 使徒9:1を読みましょう。実際にサウロが迫害していたのはだれたちですか？

使徒9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き、大祭司のところに行って。

9. ガラテヤ6:12を読みましょう。ガラテヤ人への手紙に書かれているユダヤ人たちは、福音に、宗教的な行いを強いる律法を付け加えようとしていました。そうすることによって、彼らは何を避けようとしていましたか？

ガラテヤ6:12 肉において外見を良くしたい者たちが、ただ、キリストの十字架のゆえに自分たちが迫害されないようにと、あなたがたに割礼を強いています。

質問の解答 — レッスン5

1. 2テモテ3:12を読みましょう。敬虔な人生を生きようとする人々は、何を体験しますか？
迫害。
2. 「迫害」の定義は何ですか？
しつこく悩ますこと。信仰を理由に苦しめること。
3. マルコ4:16-17を読みましょう。困難や迫害が起こる理由は何ですか？
みことばのため。つまり、みことばを取り去るために起こる。
4. 使徒8:1, 4を読みましょう。エルサレムでの迫害はどのようなことをもたらしましたか？
使徒たち以外は散らされて、その散らされた人たちがみことばの福音を伝えながら巡り歩いた。
5. マタイ5:10-12を読みましょう。～のために迫害されている人たちには祝福があります。～は何ですか？
義。
6. マタイ5:12を読みましょう。イエスを信じる者が義のために迫害されるとき、将来に何を期待することができますか？
天の御国での大きな報い。
7. 使徒9:4-5を読みましょう。サウロが迫害していたのはだれですか？
イエス。
8. 使徒9:1を読みましょう。実際にサウロが迫害していたのはだれたちですか？
主の弟子(クリスチャン)たち。
9. ガラテヤ6:12を読みましょう。ガラテヤ人への手紙に書かれているユダヤ人たちは、福音に、宗教的な行いを強いる律法を付け加えようとしていました。そうすることによって、彼らは何を避けようとしていましたか？
キリストの十字架のゆえに自分たちが迫害されないようにした。言い換えれば彼らは、救いとはキリストへの信仰によってのみ起こり、神の恵みによるものであるということを宣べ伝えるのを避けることで、自分たちが迫害にあわれないようにした。

レッスン6

王であるキリストと神の国

ドン・クロウ

旧約聖書においてイスラエルが他のすべての国々と全く違っていた点は、イスラエルが神政国家であったということです。言い換えればイスラエルという国は、神によって直接統治されていたのです(イザヤ43:15)。後にイスラエルの歴史の中で、彼らは世界の他の国々のように、神にではなく人間である地上の王に統治されることを望みました(1サムエル8:5-19)。それで神は彼らの要望に応じて、イスラエルの王としてサウルを選びました(1サムエル10:24-25)。その後、サウルの不従順により、神はダビデを見出し、‘心が主と一つになっている者’として、サウルに代わってダビデを王に立てました(使徒13:21-22, 1列王記15:3)。

王の役割は、目には見えない神の代理として、神の存在を目に見える‘模範’という形で自らが表し、民に示すことでした(申命記17:14-20)。王が主に従ったとき、王とその国は繁栄しました。逆に王が主に従わなかったとき、王とその国の人々は捕らわれの身となり、その王国は没落したのです(1サムエル15:22-23)。

神が王を選ぶとき、預言者を遣わし、王とする者に油を注ぎ聖別しました。この油を注ぐ行為は、聖霊がその者の上に臨んで力を与えることと、国を治めるために王となる者を聖別する儀式の象徴でした。旧約の時代には、油注ぎをすることによって主の霊がその者の上に下り、神がともにいて義によって国を治めることができるように、油注ぎによってその王となる者の心を変えられたのです(1サムエル10:1,6-7,9)。神によって選ばれた人物が国を治めるようになるために、または、王となるために、その人物に油注ぎをすることが「メシア」という言葉の由来となりました。ヘブライ語で「油注がれた者」を意味する言葉は「**Mashiac(メシアニック)**」であり、ギリシャ語では「**Christos(クリストス)**」という言葉に訳されました。旧約聖書の預言者たちは、将来メシア(または油注がれた者)が天から来て、永遠に滅ぼされることのない国が、神によって建てられることを預言しました(ダニエル2:44,7:14,27)。気づいている方もいるかもしれませんが、聖書の中でイエスがユダヤ人たちに対して御国(神の国)について話したとき、いつもたとえを使って話し、そのたとえ話の奥義を語ることはせず、つまり、そのたとえ話の意味を解説したことはありませんでした(マタイ13:10-15,34)。なぜならユダヤ人たちは、自分たちの目の前にメシアであるイエスがいるにもかかわらず、相変わらず旧約聖書の概念を求め続けていて、イエスから聞いたことを悟ろうとはしなかったからです(イザヤ9:6-7,11:1-6,ダニエル2:44,7:13-14,18,27)。

神の国についての基本的な理解なしにイエスのメッセージを理解することはでき

ません。なぜなら神の国は、まさにイエスが語ったメッセージそのものであり、また、イエスが弟子たちに宣べ伝えるように命じた唯一のメッセージだったからです(マルコ1:14-15, ルカ9:1-2,使徒28:23-31,ルカ16:16,マタイ24:14)。この神の国についてのメッセージは、聖書の別の箇所では「救い」または、神が差し出した「永遠のいのち」という言葉で言い表されています(ヘブル2:3,マタイ19:16,19:23,使徒28:23-24,28,30-31)。「神の国」という言葉には、神の統治の下に集まる人々という概念が含まれています。そして、神の国に入るためには条件を満たす必要があるのです。その条件とは心の変化です。この心の変化のことを、聖書では「悔い改め」と言っています。それは神に立ち返る心の変化であり、つまり、それまでサタンと歩んでいた罪の道から離れて方向転換し、神とキリストの道を歩み始めることなのです。人がその方向転換をするとき、神は罪の赦しと永遠のいのち—それはイエスが流した血によってもたらされた賜物—をその人に与えてくれるのです(ローマ6:23)。この「良い知らせ」は、「恵みの福音」または「神の国の福音」とも呼ばれています(使徒20:24-25,ルカ4:43,ルカ16:16)。神の国には、常に恵みがあふれているという特徴があります(マタイ20:1-16)。そして、神の国はイエスの宣教活動の中で、たとえ話によってあからさまではない形で、静かに密やかに伝えられました(マタイ13:33)。将来、神の国は太陽のように輝く栄光とともに現れ、だれの目にも明らかな形で完成されるのです(マタイ13:36-43)。

振り返りのための質問とみことば

1. ダニエル2:44を読みましょう。旧約聖書の預言者たちは、将来メシア(または油注がれた者)が天から来て、神によってどのような国が建てられると預言しましたか?
 - A. 千年間続く国。
 - B. 永遠に滅ぼされることのない国。
 - C. 一時的に続く国。

ダニエル2:44この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、その国はほかの民に渡されず、反対にこれらの国々をことごとく打ち砕いて、滅ぼし尽くします。しかし、この国は永遠に続きます。

2. マタイ4:17とマタイ4:23を読みましょう。イエスが御国の福音を宣べ伝えるとき、宣教のメッセージとして言ったことばは何でしたか?

マタイ4:17 この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

マタイ4:23 イエスはガリラヤ全域を巡って会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病、あらゆるわずらいを癒やされた。

3. マルコ1:14-15を読みましょう。この箇所には、「イエスは～の福音を宣べ伝えた」と書いてあります。～は何ですか?

マルコ1:14-15*ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の国の福音を宣べ伝えて言われた。^[15]「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」[*Mark 1:14-15 Now after John was put in prison, Jesus came to Galilee, preaching the gospel of the kingdom of God, ^[15] and saying, The time is fulfilled, and the kingdom of God is at hand. Repent, and believe in the gospel. NKJVからの直訳]

4. ルカ4:43を読みましょう。イエスが神によって遣わされたのは何のためでしたか?

ルカ4:43しかしイエスは、彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」

5. ヨハネ4:25を読みましょう。イエスがユダヤ人たちに対して御国(神の国)について話したとき、いつもたとえを使って話し、そのたとえ話の奥義を語ることはせず、つまり、その話の意味を解説したことはありませんでした。なぜならユダヤ人たちは、自分たちの目の前にメシアであるイエスがいるにもかかわらず、相変わらず～からです。～は何ですか？

- A. メシアについては、ほとんど何も知らなかった。
B. メシアは決して来ないと考えていた。
C. 旧約聖書の概念を求め続けていた。

ヨハネ4:25 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」

6. ルカ9:1-2を読みましょう。十二人の弟子たちはある三つのことをするために遣わされました。その三つのこととは何ですか？

ルカ9:1-2 イエスは十二人を呼び集めて、すべての悪霊を制して病気を癒やす力と権威を、彼らにお授けになった。^[2]そして、神の国を宣べ伝え、病人を治すために、こう言って彼らを遣わされた。

7. ルカ10:1-2, 8-9を読みましょう。イエスは指名した七十二人に、行った先々でその人々に「～があなたがたの近くに来ている」と言うようにと命じてから、彼らを遣わしました。～は何ですか？

ルカ10:1-2, 8-9 その後、主は別に七十二人を指名して、ご自分が行くつもりすべての町や場所に、先に二人ずつ遣わされた。^[2]そして彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。...^[8]どの町に入っても、人々があなたがたを受け入れてくれたら、出された物を食べなさい。^[9]そして、その町の病人を癒やし、彼らに『神の国があなたがたの近くに来ている』と言いなさい。

8. ルカ23:2を読みましょう。この箇所から、当時のユダヤ人たちの定義によれば、「キリスト」という言葉の意味は、何であると言えますか？

ルカ23:2 *そしてイエスを訴え始めて、こう言った。「この者はわが民を惑わし、カエサルに税金を納めることを禁じ、自分はキリスト、つまり王だと言っている

ことが分かりました。】[*Luke23:2 And they began to accuse Him, saying, We found this fellow perverting the nation, and forbidding to pay taxes to Caesar, saying that He Himself is Christ, a King. NKJVからの直訳]

9. 使徒17:7を読みましょう。ユダヤ人たちは、使徒パウロが「～という別の～がいる」と言ってローマ法(カエサルの詔勅)に背く行いをしていると言いました。～はそれぞれ何ですか？

使徒17:7 ヤソンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、『イエスという別の王がいる』と言って、カエサルの詔勅に背く行いをしています。」

10. 使徒19:8-10を読みましょう。パウロはエペソに来て会堂に入り、～について論じて、人々を説得しようと努めました。～は何ですか？

使徒19:8-10 パウロは会堂に入って、三か月の間大胆に語り、神の国について論じて、人々を説得しようと努めた。^[9]しかし、ある者たちが心を頑なにしてお聞き入れず、会衆の前でこの道のことを悪く言ったので、パウロは彼らから離れ、弟子たちも退かせて、毎日ティラノの講堂で論じた。^[10]これが二年続いたので、アジアに住む人々はみな、ユダヤ人もギリシア人も主のことばを聞いた。

11. 使徒28:23-31を読みましょう。31節には、使徒パウロは何を宣べ伝え、何について教えたと書かれていますか？

使徒28:23-31 そこで彼らは日を定めて、さらに大勢でパウロの宿にやって来た。パウロは、神の国のことを証しし、モーセの律法と預言者たちの書からイエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた。^[24]ある人たちは彼が語ることを受け入れたが、ほかの人たちは信じようとしなかった。^[25]互いの意見が一致しないまま彼らが帰ろうとしたので、パウロは一言、次のように言った。「まさしく聖霊が、預言者イザヤを通して、あなたがたの先祖に語られたとおりです。^[26]『この民のところに行って告げよ。あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。^[27]この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らはその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』^[28]ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うこととなります。』^[29]^[30]パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、^[31]少しもはば

かることなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

12. マタイ24:14を読みましょう。全世界に宣べ伝えられるべきメッセージは何ですか？

マタイ24:14 御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。

13. 使徒20:24-25を読みましょう。24節でパウロは神の国の福音を「～の福音」と言っています。～は何ですか？

使徒20:24-25 けれども、私が自分の走るべき道のりを走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証しする任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。^[25]今、私には分かっています。御国を宣べ伝えてあなたがたの間を巡回した私の顔を、あなたがたはだれも二度と見ることがないでしょう。

14. ルカ16:16を読みましょう。神の国についての基本的な理解なしにイエスのメッセージを理解することはできません。なぜなら神の国は、まさにイエスが語ったメッセージそのものであり、また、イエスが弟子たちに～ように命じた唯一のメッセージだったからです。～は何ですか？

- A. 宣べ伝える。
- B. 無視する。
- C. 熟考する。

ルカ16:16 律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音が宣べ伝えられ、だれもが力づくで、そこに入ろうとしています。

15. マタイ6:10を読みましょう。基本的に、「神の国」という言葉には「神が統治する」という概念が含まれています。この箇所では、この概念(神がこの地上を統治すること)がどのように表現されていますか？

マタイ6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

16. コロサイ1:13-14とローマ14:9を読みましょう。「神の国」という言葉には、どのよう

な人々の集まりという概念が含まれていますか？

- A. 心の中にイエスが来てくれるように求める人々。
- B. 神の統治を受け入れて、かつ、サタンの支配を拒否し、神から罪の赦しを得ている人々。
- C. 教会に参加する人々。

コロサイ1:13-14 御父は、私たちが暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。^[14]この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

ローマ14:9 キリストが死んでよみがえられたのは、死んだ人にも生きている人にも、主となるためです。

17. マタイ4:17を読みましょう。神の国に入るためには心の変化が必要です。この心の変化のことを聖書では何と言っていますか？
- A. ざんげ。
 - B. 律法の行い。
 - C. 悔い改め。

マタイ4:17 この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

18. 使徒26:18を読みましょう。あなたが救われたとき、～から光に、サタンの～から～に立ち返り、神から罪の赦しを得ました。～はそれぞれ何ですか？

使徒26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。』

19. エゼキエル36:26-2と使徒11:15-18を読みましょう。神は、あなたが神の道を歩むようになるために、あなたに新しい心と新しい霊を与え、あなたはそれを受け取りましたか？

エゼキエル36:26-27 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたが

たに肉の心を与える。^[27]わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

使徒11:15-18 そこで、私が話し始めると、聖霊が初めに私たちの上に下ったのと同じように、彼らの上に下ったのです。^[16]私は主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは聖霊によるバプテスマを授けられる』と言われたことばを思い起こしました。^[17]ですから、神が、私たちが主イエス・キリストを信じたときに私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら、どうして私などが、神がなさることを妨げることができるでしょうか。」^[18]人々はこれを聞いて沈黙した。そして「それでは神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。

20. ルカ18:13-14を読みましょう。あなたは自分の罪の赦しを神に求めたことがありますか？

ルカ18:13-14 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』^[14]あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」

質問の解答 — レッスン6

1. ダニエル2:44を読みましょう。旧約聖書の預言者たちは、将来メシア(または油注がれた者)が天から来て、神によってどのような国が建てられると預言しましたか?
B. 永遠に滅ぼされることのない国。
2. マタイ4:17とマタイ4:23を読みましょう。イエスが御国の福音を宣べ伝えるとき、宣教のメッセージとして言ったことばは何でしたか?
「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」。
3. マルコ1:14-15を読みましょう。この箇所には、「イエスは～の福音を宣べ伝えた」と書いてあります。～は何ですか?
神の国。
4. ルカ4:43を読みましょう。イエスが神によって遣わされたのは何のためでしたか?
神の国の福音を宣べ伝えるため。
5. ヨハネ4:25を読みましょう。イエスがユダヤ人たちに対して御国(神の国)について話したとき、いつもたとえを使って話し、そのたとえ話の奥義を語ることはせず、つまり、その話の意味を解説したことはありませんでした。なぜならユダヤ人たちは、自分たちの目の前にメシアであるイエスがいるにもかかわらず、相変わらず～からです。～は何ですか?
C. 旧約聖書概念を求め続けていた。
6. ルカ9:1-2を読みましょう。十二人の弟子たちはある三つのことをするために遣わされました。その三つのこととは何ですか?
 - 悪霊を制する(悪魔を追い出す)こと。
 - 病人を治すこと。
 - 神の国を宣べ伝えること。
7. ルカ10:1-2,8-9を読みましょう。イエスは指名した七十二人に、行った先々でその人々に「～があなたがたの近くに来ている」と言うように命じてから、彼らを遣わしました。～は何ですか?
神の国。
8. ルカ23:2を読みましょう。この箇所から、当時のユダヤ人たちの定義によれば、キリスト」という言葉の意味は、何であると言えますか?
王。

9. 使徒17:7を読みましょう。ユダヤ人たちは、使徒パウロが「～という別の～がいる」と言ってローマ法(カエサルの詔勅)に背く行いをしていると言いました。～はそれぞれ何ですか?
イエス。王。
10. 使徒19:8-10を読みましょう。パウロはエペソに来て会堂に入り、～について論じて、人々を説得しようと努めました。～は何ですか?
神の国。
11. 使徒28:23-31を読みましょう。31節には、使徒パウロは何を宣べ伝え、何について教えたと書かれていますか?
神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。
12. マタイ24:14を読みましょう。全世界に宣べ伝えられるべきメッセージは何ですか?
御国(神の国)の福音。
13. 使徒20:24-25を読みましょう。24節でパウロは神の国の福音を「～の福音」と言っています。～は何ですか?
神の恵み。
14. ルカ16:16を読みましょう。神の国についての基本的な理解なしにイエスのメッセージを理解することはできません。なぜなら神の国は、まさにイエスが語ったメッセージそのものであり、また、イエスが弟子たちに～ように命じた唯一のメッセージだったからです。～は何ですか?
A. 宣べ伝える。
15. マタイ6:10を読みましょう。基本的に、「神の国」という言葉には「神が統治する」という概念が含まれています。この箇所では、この概念(神がこの地上を統治すること)がどのように表現されていますか?
みこころが天で行われるように、地でも行われますように。
16. コロサイ1:13-14とローマ14:9を読みましょう。「神の国」という言葉には、どのような人々の集まりという概念が含まれていますか?
B. 神の統治を受け入れて、かつ、サタンの支配を拒否し、神から罪の赦しを得ている人々。
17. マタイ4:17を読みましょう。神の国に入るためには心の変化が必要です。この心

の変化のことを聖書では何と言っていますか？

C. 悔い改め。

18. 使徒26:18を読みましょう。あなたが救われたとき、～から光に、サタンの～から～に立ち返り、神から罪の赦しを得ました。～はそれぞれ何ですか？

- 闇。
- 支配。
- 神。

19. エゼキエル36:26-2と使徒11:15-18を読みましょう。神は、あなたが神の道を歩むようになるために、あなたに新しい心と新しい霊を与え、あなたはそれを受け取りましたか？

はい。

20. ルカ18:13-14を読みましょう。あなたは自分の罪の赦しを神に求めたことがありますか？

特に正解はない。

救いをもたらす信仰の真の対象とは

ドン・クロウ

ある男性が自分の結婚式で、誓いの言葉を言うために牧師の前に立っていると、牧師が突然、次のようなことを言い始めたとしましょう。「新郎〇〇さん、あなたは新婦〇〇さんをあなたの専任料理人とし、家を掃除させ、また、食器洗いをさせるためにあなたの人生に迎え入れますか？今日からあなたは、その命ある限り彼女に掃除機をかけさせ、家具などのホコリを落とさせ家中を綺麗にさせることを誓いますか？」それを聞いた新婦は即座にこう言うでしょう。「ちょっと待ってください！ただあなたの世話をさせる目的で私と結婚するのなら、代わりにメイドを雇えばいいでしょう。私は、あなたが私を愛してくれて、ありのままの私を受け入れてほしいのです。もしもあなたがありのままの私を受け入れてくれるのなら、料理や掃除など、それらすべてのことを、私はあなたのためにするでしょう。でもその前にまず、私を丸ごと受け入れてほしいのです！私のすべてを！私のことを受け入れないまま、私から得られる利益だけをこの結婚の目的にしてほしくはありません。」

アメリカ人牧師であるエイデン・ウィルソン・トウザーは、彼の*著書の中で次のように述べています。「さて、クリスチャンの信仰について教える教師の役割をしている人たちの中には、救いをもたらす信仰の真の対象となるものは唯一、キリストの存在そのものに他ならないことに気づいていない人たちがいるのはおかしなことに思える。私たちの信仰の対象は、キリストの‘救世主としての身分’や‘主の権威’にあるのではなく、キリストの存在そのものなのだ。神は、キリストの三職務である預言者・祭司・王としての務めのうちのどれか一つを信じる者に救いを差し出しているのではなく、また、信仰の対象として、それらの‘キリストの職務’が差し出されているわけではない。キリストによる罪の贖いや、十字架で成されたわざ、救い主としての祭司職、これらのことだけが取り上げられ、信仰の対象として熱心に説き勧められるべきではない。これらのことはすべて、キリストの存在そのものによって具体的な形として表されているのであって、その一つ一つがキリストから分離し、独立した個々の要素として成り立つべきものでは決していないのだ。まして、キリストの務めのうちのどれか一つだけを受け入れ、他の務めを拒否するなど論外なことだ。私たちが許容してしまっているこのおかしな考え方こそが現代における異端であり、他のすべての異端と言われているものと同様に、この異端が、結果として主を否定するような悪いものをクリスチャンたちの間にもたらしたのだ。」
[*著書名：The Root of the Righteous、著者：A.W. Tozer、84-86ページより]

今日の学びの要点はつかめましたか？なぜ私たちは、キリストの存在そのものではなく、キリストが務める職務の側面など、キリストの部分的なもの、特にキリストから得

られる利益の部分ばかりを強調するのでしょうか?その考え方はまるで冒頭の結婚式の話にあった、妻を自分の専任料理人として迎え入れるのと同じようなことであり、自分の妻となるその人、言い換えれば、イエス・キリストそのものを迎え入れることにはならないのです。

振り返りのための質問とみことば

1. ヨハネ1:12を読みましょう。「この方を受け入れた人々、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」と書いてあります。「この方」「その名」とはどのような意味でしょうか？

- A. イエス・キリストご自身。
- B. 救い主としてのイエス。
- C. 主としてのイエス。
- D. 司祭としてのイエス。

ヨハネ1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

2. 使徒16:31を読みましょう。私たちはだれを信じて、だれに自分自身をゆだねますか？

使徒16:31 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」

3. ルカ6:46を読みましょう。「主」という言葉は、どのような存在を意味していますか？

ルカ6:46 なぜあなたがたは、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。

4. マタイ1:21を読みましょう。「イエス」という言葉は何を意味していますか？

マタイ1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

5. ルカ23:2を読みましょう。「キリスト」という言葉は何を意味していますか？

ルカ23:2 そしてイエスを訴え始めて、こう言った。「この者はわが民を惑わし、カエサルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることが分かりました。」

6. ローマ1:16を読みましょう。この箇所によると、福音とは何ですか？

ローマ1:16 私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。

7. ローマ1:1-3を読みましょう。この箇所によると、神の福音の中心とは何ですか？また、それは何(だれ)を指していますか？神の福音の中心には御子のすべてが含まれていますか？それとも一部だけが含まれていますか？

ローマ1:1-3 キリスト・イエスのしもべ、神の福音のために選り出され、使徒として召されたパウロから。^[2]——この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、^[3]御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、

8. ヨハネ6:54を読みましょう。私たちが食べ物や飲み物を自分の体内に取り入れるとき、それはどのようなことを意味しますか？

ヨハネ6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。

9. ガラテヤ3:27を読みましょう。キリストにつくバプテスマを受けると、何を着たことになりますか？それはどのような意味ですか？

ガラテヤ3:27 キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。

10. 使徒9:5-6を読みましょう。この箇所で、回心したサウルがイエスにした二つの質問は何ですか？

使徒9:5-6 *彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」^[6]それで彼は震えながら、驚いて言った。「主よ、あなたは私に何をしてほしいのですか。」すると、主は彼に言われた。「立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならないことが告げられる。」[*Acts 9:5-6 And he said, Who are You, Lord? Then the Lord said, I am Jesus, whom you are persecuting. It is hard for you to kick against the goads. ^[6] So he, trembling and astonished, said, Lord, what do You want me to do? Then the Lord said to him, Arise and go into the city, and you will be told what you must do. NKJVからの直訳]

11. ローマ7:4を読みましょう。救いを結婚にたとえるなら、私たちはだれと結婚して、だれのものとなりましたか？その方のどのような側面を受け入れて結婚しましたか？

ローマ7:4 ですから、私の兄弟たちよ。あなたがたもキリストのからだを通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたがほかの方、すなわち死者の中からよみがえった方のものとなり、こうして私たちが神のために実を結ぶようになるためです。

12. イエス・キリストとの良い結婚関係を楽しんでいますか？いつもイエスと話し、互いに理解し合い、イエスを愛し、いつもイエスを賛美していますか？

質問の解答 — レッスン7

1. ヨハネ1:12を読みましょう。「この方を受け入れた人々、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」と書いてあります。「この方」「その名」とはどのような意味でしょうか?
A. イエス・キリストご自身。
2. 使徒16:31を読みましょう。私たちはだれを信じて、だれに自分自身をゆだねますか?
主イエス。
3. ルカ6:46を読みましょう。「主」という言葉は、どのような存在を意味していますか?
 - 主人(自分の仕える人)。
 - 主権者。
 - 信頼できる親方。
 - 人生を支配する権利を持つ者。
 - 神。
4. マタイ1:21を読みましょう。「イエス」という言葉は何を意味していますか?
救い主。
5. ルカ23:2を読みましょう。「キリスト」という言葉は何を意味していますか?
 - 王。
 - メシア。
6. ローマ1:16を読みましょう。この箇所によると、福音とは何ですか?
信じるすべての人に救いをもたらす神の力。(福音とはキリストそのものであり、キリストがもたらすすべての利益が含まれている。)
7. ローマ1:1-3を読みましょう。この箇所によると、神の福音の中心とは何ですか?
御子に関するもの。
また、それは何(だれ)を指していますか?
主イエス・キリスト。
神の福音の中心には御子のすべてが含まれていますか?それとも一部だけが含まれていますか?
御子であるイエス・キリストのすべてが含まれている。

8. ヨハネ6:54を読みましょう。私たちが食べ物や飲み物を自分の体内に取り入れるとき、それはどのようなことを意味しますか？
その食べ物や飲み物に含まれるすべての要素を取り入れることを意味する。それはある意味、取り入れたものが自分の中で命となり、強さとなることでもある。
9. ガラテヤ3:27を読みましょう。キリストにつくバプテスマを受けると、何を着たことになりますか？
キリストを着たことになる。
それはどのような意味ですか？
キリストのすべてを身に着けること。
10. 使徒9:5-6を読みましょう。この箇所、回心したサウルがイエスにした二つの質問は何ですか？
• あなたはどなたですか？
• あなたは私に何をしてほしいのですか？
11. ローマ7:4を読みましょう。救いを結婚にたとえるなら、私たちはだれと結婚して、だれのものとなりましたか？
主イエス・キリストと結婚し、主イエス・キリストのものとなった。
その方のどのような側面を受け入れて結婚しましたか？
イエス・キリストが持つ一部の側面ではなく、イエス・キリストのすべて。
12. イエス・キリストとの良い結婚関係を楽しんでいますか？いつもイエスと話し、互いに理解し合い、イエスを愛し、いつもイエスを賛美していますか？
特に正解はない。

レッスン8

神の律法の適切な理解

ドン・クロウ

ある日、ジョーと私は湖に行き、そこで出会ったビルとスティーブと話していました。その時、そのうちのひとりが「神様やイエス・キリストについて一度も聞いたことのない人が、死んで神様の前に立ったとき、自分とイエス・キリストとの関係について神様にどう説明することができるのだろうか?」と聞いてきました。そこで私は、「ビル、たとえば君がスティーブの家を訪ねたところ、スティーブは留守で彼の妻だけがそこにいたとしよう。もしもそこで、君がスティーブの妻と不倫関係に陥ってしまったとしたら、たとえば君がモーセの十戒や聖書を一度も読んだことがなかったとしても、その不貞の罪を犯したことで罪悪感を覚えるんじゃないかな?その罪悪感と、自分がしてしまったことに対して責任を問う思いはどこから来るのだろうか?」と問いかけました。

じつは、神はすべての人の心に律法と良心とを与えることによって、何が正しくて何が悪いことなのかを感覚的に判断する能力を与えたのです。つまり律法と良心は、自分の行為について自分を責めたり弁明したりして、自分自身の善し悪しをさばく役割を果たすのです(ローマ2:14-15)。

それまでの会話でビルは私に、彼が今までどれほど善良な人間として生きてきたかということを主張し続けていました。彼には、すべての人に救い主が必要であるということが、本当の意味で分かっていませんでした。私は聖書の出エジプト記20章を開いて、十戒が書かれている箇所を読み始めました。そして、「ビル、君はこれまでの人生で常に神様を一番にして、神様のことをいつもこの世の何よりも愛してきたかい?もしそうでないなら君は十戒の中の最初の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:3)と言いました。それから、「君は神様の前で神様以外の何かを称賛したことがあるかい?もしそうなら君は二番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:4)。「イエス・キリストの名を単なる普通の言葉としてみだりに口にすることはあるかい?ならば君は三番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:7)。「君はいつも神様を賛美して礼拝するための時間を取ってきたかい?もしそうでないなら君は四番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:8)。「君は若かったころ、いつも自分のお父さんとお母さんを尊敬していたかい?そうでないなら君は五番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:12)。「今までだれかに対して、ものすごく怒ったことはあるかい?もしそうなら君は六番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:13とマタイ5:21-22を比較・参照)。「女性を見たときに情欲を抱いたことがあるかい?ならば君は七番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:14とマタイ5:27-28を比較・参照)。「自分のものではないものをこっそり取って自分のものにしてしまったことはあるかい?ならば君は八

番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:15)。「どんなときも真実を話してきたかい?そうでなければ君は九番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:16)。「他人のものを欲しいと思ったことはあるかい?ならば君は十番目の戒めを破ったことになる」(出エジプト記20:17)。そして続けて、「イエスが罪人を救うために来たと言った理由が分かるかい?」(マルコ2:16-17)と言いました。

心を与えられている律法と良心によって、自分のことを十分に善良な人間だと判断したり、天国に行くための基準にかなう良い人になろうとしたりすることの問題点は、すべての人が皆、律法の基本である十戒を破ったことがあり、律法を完璧に守れる人はだれもいないという事実があるからです。ヤコブ2章10節には「**律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はすべてについて責任を問われるからです。**」と書いてあります。律法は決して私たちが義とするためにあるのではなく、ただ私たちの罪を明らかにするためにあるのです(ローマ3:19-20)。

ですから、すべての人が救い主を必要としているのです!「救い主」という言葉には、罪に対する罰からあなたを救うことができるという概念が含まれています。イエスは私たちが罪による滅びから救い、私たちが永遠のいのちを持てるようにしてくれたのです(マタイ1:21)。天国に行ける基準を満たせるほどに善良な人間になるためには、神と同等の義を持たなければなりません(2コリント5:21)。福音の良い知らせとは、イエスによって私たちの罪が赦されるというだけでなく、神が私たちに贈り物として、神ご自身の義を無償で差し出してくれているという喜ばしい知らせなのです。「もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。」(ローマ5:17)

振り返りのための質問とみことば

1. マルコ2:16-17を読みましょう。イエスはどのような人を救う(招く)ために来ましたか？

マルコ2:16-17 パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと一緒に食事をしているのを見て、弟子たちに言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちと一緒に食事をするのですか。」^[17]これを聞いて、イエスは彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人です。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。」

2. ローマ2:1を読みましょう。他人をさばくとき、私たちは自分自身に対して何をしていることになりますか？それはなぜですか？

ローマ2:1 ですから、すべて他人をさばく者よ、あなたに弁解の余地はありません。あなたは他人をさばくことで、自分自身にさばきを下しています。さばくあなたが同じことを行っているからです。

3. ヤコブ2:10を読みましょう。律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はどのような責任を問われますか？

ヤコブ2:10 律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はすべてについて責任を問われるからです。

4. ガラテヤ3:10を読みましょう。もしも律法を守ること(律法の行い)によって義人になろうとするなら、どのように律法を守らなければなりませんか？また、どのように律法を守り続ける必要がありますか？天国に行くために、十分に善良な人になろうと試みたとしても、なぜその試みによって救われないのかが分かりましたか？

ガラテヤ3:10 律法の行いによる人々はみな、のろいのもとにあります。「律法の書に書いてあるすべてのことを守り行わない者はみな、のろわれる」と書いてあるからです。

5. ガラテヤ2:16を読みましょう。義と認められることは、贈り物として神の義を受け取ることであり、その義がその人を神の前に正しい者とし、神との正しい関係に導きます。罪人が義と認められることは、イエス・キリストへの信仰によってもたらされ、ただ一度のイエスの死と復活によって、すべての人のために、イエス・キリストによって成し遂げられました(1コリント15:3-4,ローマ4:25)。人は～によって義と認

められることはありません。～とは何ですか？人は何によって救われ(義と認められますか？律法によって義と認められる人はいますか？

ガラテヤ2:16 しかし、人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによって義と認められないからです。

6. ローマ6:14を読みましょう。クリスチャンとして、あなたは何の下にありますか？
- A. 律法の下にある。
B. 恵みの下にある。

ローマ6:14 罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるのです。

7. エゼキエル18:20を読みましょう。もしもあなたが律法の下にあったなら、あなたの罪に対する罰は何ですか？

エゼキエル18:20 罪を犯したたましいが死ぬのであり、子は父の咎について負い目がなく、父も子の咎について負い目がない。正しい人の義はその人の上にある、悪しき者の悪はその者の上にある。

8. ローマ4:6-8を読みましょう。恵みの下では、神はあなたの罪をどのように扱いますか？

ローマ4:6-8 同じようにダビデも、いと関わりなく、神が義とお認めになる人の幸いを、このように言っています。^[7]「幸いなことよ、不法を赦され、罪をおおわれた人たち。^[8]幸いなことよ、主が罪をお認めにならない人。」

9. ローマ5:1を読みましょう。信仰によって義と認められた今、私たちはどのような利益を受けていますか？

ローマ5:1 こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

10. ローマ5:9を読みましょう。イエスの血によって救われた(義と認められた)私たちは、何から救われましたか？

ローマ5:9 ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。

11. ローマ10:4を読みましょう。キリストは私たちに神の～を与えるために律法を終わらせました。～は何ですか？

ローマ10:4 律法が目指すものはキリストです。それで、義は信じる者すべてに与えられるのです。

12. 1コリント1:30を読みましょう。イエス・キリストは私たちにとって何となりましたか？

1コリント1:30 しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。

13. ピリピ3:9を読みましょう。もしもあなたがモーセの律法の下にあるなら、あなたは～を手に入れようとしています。～は何ですか？

ピリピ3:9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。

14. 1コリント11:1を読みましょう。クリスチャンとして、私たちはキリストの律法の下に生きています。キリストの律法は、ただ従うべき一連の規則ではありません。キリストの律法とは、実生活の中で～に応答し～に倣う者となることです。～はだれですか？

1コリント11:1 私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。

15. ローマ8:3を読みましょう。律法が間違っていたからというのではなく、私たちの～の弱さのために、私たちは律法を守ることができず、よって、律法が私たちを救うことはできませんでした。～は何ですか？

ローマ8:3 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。

質問の解答 — レッスン8

1. マルコ2:16-17を読みましょう。イエスはどのような人を救う(招く)ために来ましたか?
罪人。
2. ローマ2:1を読みましょう。他人をさばくとき、私たちは自分自身に対して何をしていることになりますか?
自分自身にさばきを下していることになる。
それはなぜですか?
さばくあなたが同じことを行っているから。
3. ヤコブ2:10を読みましょう。律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はどのような責任を問われますか?
すべてについて責任を問われる。
4. ガラテヤ3:10を読みましょう。もしも律法を守ること(律法の行い)によって義人になろうとするなら、どのように律法を守らなければなりませんか?
律法の書に書いてあるすべてのことを守り行う。
また、どのように律法を守り続ける必要がありますか?
常に一つのミスもなく、ずっと守り続けなければならない。
天国に行くために、十分に善良な人になろうと試みたとしても、なぜその試みによって救われないのかが分かりましたか?
はい。
5. ガラテヤ2:16を読みましょう。義と認められることは、贈り物として神の義を受け取ることであり、その義がその人を神の前に正しい者とし、神との正しい関係に導きます。罪人が義と認められることは、イエス・キリストへの信仰によってもたらされ、ただ一度のイエスの死と復活によって、すべての人のために、イエス・キリストによって成し遂げられました(1コリント15:3-4, ローマ4:25)。人は～によって義と認められることはありません。～とは何ですか?
自分自身の行い。律法を行うこと。
人は何によって救われ(義と認められ)ますか?
ただイエス・キリストを信じることによって。
律法によって義と認められる人はいますか?
だれもいない(肉なる者ではだれもいない)。

6. ローマ6:14を読みましょう。クリスチャンとして、あなたは何の下にありますか？
B. 恵みの下にある。
7. エゼキエル18:20を読みましょう。もしもあなたが律法の下にあったなら、あなたの罪に対する罰は何ですか？
死。
8. ローマ4:6-8を読みましょう。恵みの下では、神はあなたの罪をどのように扱いますか？
 - 罪を赦す。
 - 罪をおおう。
 - 罪を認めない(罪に対する罰を負わせない)。
9. ローマ5:1を読みましょう。信仰によって義と認められた今、私たちはどのような利益を受けていますか？
神との平和を持っている(神は私たちのことを怒ってはいない)。
10. ローマ5:9を読みましょう。イエスの血によって救われた(義と認められた)私たちは、何から救われましたか？
私たちの罪に対する神の怒り。
11. ローマ10:4を読みましょう。キリストは私たちに神の～を与えるために律法を終わらせました。～は何ですか？
義。
12. 1コリント1:30を読みましょう。イエス・キリストは私たちにとって何となりましたか？
 - 神からの知恵。
 - 神からの義。
 - 神からの聖。
 - 神からの贖い。
13. ピリピ3:9を読みましょう。もしもあなたがモーセの律法の下にあるなら、あなたは～を手に入れようとしています。～は何ですか？
自分の義。
14. 1コリント11:1を読みましょう。クリスチャンとして、私たちはキリストの律法の下に生きています。キリストの律法は、ただ従うべき一連の規則ではありません。キリ

ストの律法とは、実生活の中で～に応答し～に倣う者となることです。～はだれですか？

キリスト。

15. ローマ8:3を読みましょう。律法が間違っていたからというのではなく、私たちの～の弱さのために、私たちは律法を守ることができず、よって、律法が私たちを救うことはできませんでした。～は何ですか？

肉。

レッスン9

律法からの解放と恵みによる救い

ドン・クロウ

昨夜私は、自分が犯したすべての間違い(罪)のために罰を受け続けている女性の夢を見ました。ひとりの男がその女性につきまとって、彼女が何か間違いを犯すたびに、男はうんざりとした様子で首を横に振りながらベルトで彼女を殴りました。彼女が少しでも間違っただけの言葉を発したり、間違っただけのことをしたりすると、その男は必ず、罰するために彼女を殴るのです。彼女は、殴られたことで痛む足を引きずりながらも、笑顔で良い態度をとろうとがんばっているのですが、どんなに努力しても罰を避けることができないのです。その女性が犯す間違いというのは決して大きなものではありませんでしたが、この男は彼女が犯すありとあらゆる小さな間違いをすべて見つけては、そのつど彼女を殴るのでした。その状況は絶望的に思えました。彼女はどうしても小さな間違いを犯し続けてしまうのです。私はその女性のことがかわいそうになり、彼女を殴る意地の悪い男から逃れられるように彼女を助けたいと思いました。そこで目が覚めたのです。

目が覚めてから私は、私たち人間が受けるに値しないにもかかわらず、神から無償で与えられた神の恵みと好意について考え始めました。私たちの心が神の恵みの中で確立されているなら、私たちはもはや自分の行いの良さや、自分自身の努力や能力によって律法を守ることで神に受け入れてもらおうとはしなくなります。私たちは神の恵みを受け入れることで、神の律法を破ることによって生じる罰から逃れられるようになるからです。それがイエスによる救いです。

好意という言葉について考えてみましょう。好意とは、だれかからの承認・支持、または祝福を得ることを意味します。だれかに気に入られたいと思うとき、あなたはどうしますか？あなたはきっと、常にその人を喜ばせるような言動を心掛け、その人に嫌われるようなことはしないように気を配るでしょう。それはある意味、その人の前で常にミスなく、正しい言動だけをとり続けることです。そのようなことは本当に可能でしょうか？実際には、それはまるで重力に逆らうことと同じくらい不可能なことなのです。しばらくの間だけ、あなたはそのような言動をとり続けることができるかもしれませんが、最終的には失敗してしまうのです。なぜならあなたは、‘常に正しくなければならない’という意志の力だけでは、‘あなたがあなたらしくあること’を完全に制御し続けることができないからです。

以前の私は、まるでこの夢に出てきた女性のようなものでした。すべてを正しく行おうと常になんかがんばっているにもかかわらず、どうしても何かしらの小さなミスをしてしまい、そのたびに挫折感を覚えていました。私は、もしも自分が何一つミスを犯さずに一日を

過ごすことができたなら、きっとその先に何かを達成することができるだろうと思っていました。しかし結局は、いつも自分の至らなさによって私が完璧な者となる日が来ることはなく、ミスを犯すたびに私は、天の父なる神を失望させてしまったと感じ自分を責め、自分自身を痛めつけていました。そして私は自らを打ちのめしながら、自分には一体何ができるのだろうかという思いで己の無能さのことばかりを考えていました。そのような私は、決して自分自身が満足のいく者となることがなく、何事に対しても、合格基準を満たすことはありませんでした。私には、私を助けてくれるだれかが必要でした！

神のあわれみによって、私たちに助け手が送られました。その助け手の名はイエスです。神は私たちを、私たち自身と、律法を守るための私たちの虚しい試みから救い出すためにイエスを遣わしたのです。私たちが律法を全うできなかったために受けなければならなかった罰を、イエスが身代わりとなって引き受けてくれたので、私たちは死ななくていいようになり、それどころか自由を得て、神とともに生きられる永遠のいのちを持てるようになったのです。イエスが私たちに義の賜物をくれたので、私たちは父なる神の前で義と認められ、聖なる者とされ、律法が定めるすべての必要条件を満たすことができるようになりました。イエスが死んで葬られ、そして、復活したことによって神が私たちのために成し遂げたことを通して、私たちは神との平和を持つことができるようになったのです。今や私たちは、それに見合う資格なしに無償で与えられた神の好意を得ています。それが神の恵みです。

あなたはこの神の恵みを知り、神があなたを愛しているがゆえに、この恵みを与えてくれたのだということを理解し、それを心で疑いなく信じる必要があります。神の恵みの中であって、あなたの心を不安や恐れのない、健全でゆるがないものとする、それはつまり、あなたがイエスにあって豊かな人生を送るために必要なものはすべて、神がイエスを通してすでに与えてくれたのだということは何の疑いもなく信じることによって、あなたが確固たる強い心を持つようになることなのです。

もしも私たちが、信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げる代わりに、自分自身の欠点・過ち・罪にばかり目を向け続けるなら、私たちの心は悲しみに占領され、自分が神から何か良いものを受け取れるということを知る力を失ってしまうでしょう。神の義と恵みを信じて、それを受け取るのは私たちの心です。ですから、私たちの心は完全に神のものでなければなりません。私たちの心が完全に神のものとなる時、私たちの心は満たされて休息を得るのです。「**何よりも、あなたの心を守りなさい。心は生活全体に影響を与えるからです。**」(箴言4:23 リビングバイブル)

振り返りのための質問とみことば

1. このレッスンの中で、「恵み」はどのように定義されていましたか？
2. 私たちの心が神の恵みの中で確立されているなら、私たちはもはや自分の～によって神に受け入れてもらおうとはしなくなります。～は何ですか？
3. ヘブル10:14を読みましょう。このレッスンの著者であるドンに至らなさが、いつも彼自身を不完全な者にしました。このみことばによると、私たちは何によって完璧な者となり、完成させられますか？

ヘブル10:14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。

4. ローマ5:17を読みましょう。イエスが私たちに義の～をくれたので、私たちは父なる神の前で義と認められ、聖なる者とされ、律法が定めるすべての必要条件を満たすことができるようになりました。～は何ですか？

ローマ5:17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。

5. イザヤ26:3を読みましょう。もしも私たちが、信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げる代わりに、自分自身の欠点・過ち・罪にばかり目を向け続けるなら、私たちの心は悲しみに占領され、自分が神から何か良いものを受け取れるということを感じる力を失ってしまいます。私たちは、自分の思考を何に留め続ける必要がありますか？

イザヤ26:3 *あなたは、思考をあなたに留め続ける者を全き平安のうちに守られます。[*Isaiah 26:3 You will keep him in perfect peace, whose mind is stayed on You, because he trusts in You. NKJVからの直訳]

6. エペソ3:17を読みましょう。私たちの心は完全に神のものでなければなりません。私たちの心が完全に神のものとなると、私たちの心はどのようになりますか？

エペソ3:17 信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。そして、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

7. ローマ4:5を読みましょう。救いとは、あなたの働きや努力に対する報酬ですか？それとも神の恵みによる無償の贈り物ですか？

ローマ4:5 しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

8. ローマ5:17を読みましょう。義(神との関係において正しい者とされ、神と一致すること)は贈り物です。贈り物とは、それを手に入れるために働く必要があるものですか？贈り物はどのようにして手に入れますか？

ローマ5:17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。

9. ローマ6:23を読みましょう。この箇所にかかれている神の恵みによる無償の贈り物(賜物)とは何ですか？

ローマ6:23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

10. テトス3:5を読みましょう。私たちが行った義のわざ(良い働きや行い)のうち、神の救いを得るのに役立ったものはありますか？

テトス3:5 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

11. ローマ6:14を読みましょう。‘神の恵みの下にいる’ことがどういうことであるか、あなた自身の言葉で言い表してみましょう。

ローマ6:14 罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下にではなく、恵みの下にあるのです。

12. ローマ11:6を読みましょう。神の祝福が恵みによって与えられているなら、その祝福が与えられるのは私たちの～によるものではありません。～は何ですか？

ローマ11:6 恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。そうでなければ、恵みが恵みでなくなります。

13. ローマ3:24を読みましょう。このみことばの意味をあなた自身の言葉で言い表してみましょう。

ローマ3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

14. エペソ1:7を読みましょう。罪の赦しとは、何によることですか？

エペソ1:7 このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

質問の解答 — レッスン9

1. このレッスンの中で、「恵み」はどのように定義されていましたか？
それに見合う資格なしに無償で与えられた神の好意。
2. 私たちの心が神の恵みの中で確立されているなら、私たちはもはや自分の～によって神に受け入れてもらおうとはしなくなります。～は何ですか？
行いの良さ。
3. ヘブル10:14を読みましょう。このレッスンの著者であるドンの至らなさが、いつも彼自身を不完全な者にしました。このみことばによると、私たちは何によって完璧な者となり、完成させられますか？
キリストご自身がささげ物となることによって、私たちは永遠に完成され、完璧な者となった。
4. ローマ5:17を読みましょう。イエスが私たちに義の～をくれたので、私たちは父なる神の前で義と認められ、聖なる者とされ、律法が定めるすべての必要条件を満たすことができるようになりました。～は何ですか？
賜物(贈り物)。
5. イザヤ26:3を読みましょう。もしも私たちが、信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げる代わりに、自分自身の欠点・過ち・罪にばかり目を向け続けるなら、私たちの心は悲しみに占領され、自分が神から何か良いものを受け取れるということを感じる力を失ってしまいます。私たちは、自分の思考を何に留め続ける必要がありますか？
主イエス。
6. エペソ3:17を読みましょう。私たちの心は完全に神のものでなければなりません。私たちの心が完全に神のものとなると、私たちの心はどのようになりますか？
満たされて休息を得る。
7. ローマ4:5を読みましょう。救いとは、あなたの働きや努力に対する報酬ですか？それとも神の恵みによる無償の贈り物ですか？
神の恵みによる無償の贈り物。
8. ローマ5:17を読みましょう。義(神との関係において正しい者とされ、神と一致すること)は贈り物です。

贈り物とは、それを手に入れるために働く必要があるものですか？

いいえ。

贈り物はどのようにして手に入れますか？

ただ手を伸ばし、受け取ることによって。

9. ローマ6:23を読みましょう。この箇所にかかれている神の恵みによる無償の贈り物(賜物)とは何ですか？
永遠の死の代わりに与えられた永遠のいのち。
10. テトス3:5を読みましょう。私たちが行った義のわざ(良い働きや行い)のうち、神の救いを得るのに役立ったものはありますか？
ない。
11. ローマ6:14を読みましょう。‘神の恵みの下にいる’ことがどういうことであるか、あなた自身の言葉で言い表してみましょう。
 - 私たちの罪に対する罰から免れている。
 - キリストを通して、神が私たちに与えた最善のものを受け取っている。
 - 義とされている。
 - 神に受け入れられている。
 - 罪を赦されている。
 - 神のあわれみを受けている。
12. ローマ11:6を読みましょう。神の祝福が恵みによって与えられているなら、その祝福が与えられるのは私たちの～によるものではありません。～は何ですか？
行い。
13. ローマ3:24を読みましょう。このみことばの意味をあなた自身の言葉で言い表してみましょう。
義と認められることは、キリスト・イエスが十字架の上で成し遂げた贖いによって、それを信じる者たちに与えられた神の恵みによる無償の贈り物である。
14. エペソ1:7を読みましょう。罪の赦しとは、何によることですか？
神の豊かな恵み。

レッスン10

罪悪感からの解放

ドン・クロウ

ある日、酔っ払った男性が運転する車が逆走して、対向車と正面衝突する事故を起こしました。この事故で18歳の少女が亡くなりました。少女の遺族はその男性を告訴し、裁判で150万ドル(約1.6億円)の賠償金を勝ち取りました。

しかしその遺族は、賠償金を全額受け取る代わりに936ドル(約10万円)を受け取ることで、裁判を終わらせることにしたのです。少女の遺族がそのような理由は、この男性に対し、936ドルという金額をある特定の 방법으로支払わせるためでした。そしてそれは、少女の遺族がこの男性に、本人が酔っ払って犯した事故をいつまでもずっと思い起こし、反省し続けてほしいと考えたからです。その特定の支払い方法とは、小切手を使って毎週1ドルずつ支払うやり方で、小切手の支払い先には自分が殺してしまった少女の名前を書き、その小切手を少女の遺族に宛てて送るというものでした。150万ドルもの巨額な罰金を支払うことを考えれば、936ドルで和解できることは一見良い条件に思えるかもしれませんが、初めのうちは週に1ドルずつ支払うことは簡単に思いましたが、しばらくすると、自分が殺してしまった少女の名前を小切手に書くことで、自分が犯した事故のことが彼の心に重くのしかかり彼の思考を支配するようになりました。そして彼は、毎週小切手を書くたびに自分が殺してしまった少女のことばかりを考えるようになり、やがてうつになってしまいました。

それから数年後、とうとう彼はその賠償金の支払いをやめてしまいました。遺族は彼を法廷に連れ戻し、彼に支払いを再開するように命じました。命じられた支払い期間中の6~7年間のうちに、彼は4、5回にわたって支払うことを中断しました。しかし、そのたびに彼は法廷に連れ戻され、支払いを再開するように命じられたのです。

遺族の主張は、私たちは彼に対して怒っているのではなく、ただ彼に、自分がやったことを思い出してもらい、その罪を忘れずにいてほしいだけだというものでした。

このことについて考えてみると、賠償金を支払い続けている男性と同じように、この遺族もまた、過去の出来事に束縛され続けていたと言えます。娘を失ったことを思い出させる小切手を毎週受け取ることが、ある意味、この遺族が娘の死を乗り越えて前に進んでいくことをできなくさせていたのです。

この男性はその後、遺族が彼に対して‘残酷で異常な刑罰’を科したとして、逆にその遺族を訴えました。彼は、「この刑罰が私を殺す!この刑罰は私の人生を破壊する

ものだ!このままでは私は過去の過ちを克服して人生を続けていくことは決してできない」と主張しました。

この話を踏まえて、私は今までに、クリスチャンであるにもかかわらずこの男性のように、依然としてさばきの下にいて感じている多くの人々に出会ってきたことを思い出しました。そういったクリスチャンたちは、「イエスが私たちの罪の代価をすべて支払ってくれた」と聞いているにもかかわらず、宗教的な義務感に縛られたままで、この男性が毎週賠償金を支払い続けなければならなかったのと同じように、自分で罪を償い続けなければ神に受け入れてはもらえないというように感じてしまっているのです。

振り返りのための質問とみことば

1. この男性が賠償金を支払い続けている間、彼と少女の遺族との関係はどのようなものになりましたか？
2. ヘブル10:1を読みましょう。律法は、何をすることができませんか？

ヘブル10:1 律法には来たるべき良きものの影はあっても、その実物はありません。ですから律法は、年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって神に近づく人々を、完全にすることができません。

3. ヘブル10:1を読みましょう。旧約聖書の時代に献げられていたいけにえが、私たちを完全にするには不十分であったということについて、この箇所は私たちにどのようなことを示していますか？
4. ヘブル人10:2を読みましょう。もしもそれらのいけにえが完全に罪を解決することができたなら、神を礼拝する人たちは、どのようになったはずですか？

ヘブル人10:2 それができたとしたら、礼拝する人たちは一度できよめられて、もはや罪を意識することがなくなるので、いけにえを献げることは終わったはずですよ。

5. 酔っ払って事故を起こしてしまったこの男性は、何をしなければならませんでしたか？
6. ヘブル10:14を読みましょう。神は聖なるものとされる人々を～によって永遠に完成しました。～は何ですか？

- A. 人々の良い行い。
- B. 人々が教会に通うこと。
- C. 人々が十戒を守ること。
- D. イエス・キリストが一つのささげ物となること。

ヘブル10:14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。

7. ヘブル10:14によると、イエス・キリストが一つのささげ物となることによって、信仰によりそれを信じた人々はどれくらいの期間、神によって罪が赦され完成された者となりますか？

- A. 次の罪を犯すまでの間。
 - B. 過去の期間だけ(過去の罪だけが赦される)。
 - C. 永遠に。
8. 創世記20:1-18を読みましょう。この箇所が登場する二人の男性はだれですか？

創世記20:1-18 アブラハムは、そこからネゲブの地方へ移り、カデシュとシュルの間に住んだ。ゲラルに寄留していたとき、^[2]アブラハムは、自分の妻サラのことを「これは私の妹です」と言ったので、ゲラルの王アビメレクは、人を遣わしてサラを召し入れた。^[3]その夜、神が夢の中でアビメレクのところに来て、こう仰せられた。「見よ。あなたは、自分が召し入れた女のために死ぬことになる。あの女は夫のある身だ。」^[4]アビメレクは、まだ彼女に近づいていなかった。そこで彼は言った。「主よ、あなたは正しい国民さえも殺されるのですか。^[5]彼が私に『これは私の妹です』と言ったのではありませんか。彼女自身も『これは私の兄です』と言いました。私は、全き心と汚れのない手で、このことをしたのです。」^[6]神は夢の中で彼に仰せられた。「そのとおりだ。あなたが全き心でこのことをしたのを、わたし自身もよく知っている。それでわたしも、あなたがわたしの前に罪ある者とならないようにした。だからわたしは、あなたが彼女に触れることを許さなかったのだ。^[7]今、あの人の妻をあの人に返しなさい。あの人は預言者で、あなたのために祈ってくれるだろう。そして、いのちを得なさい。しかし、返さなければ、あなたも、あなたに属するすべての者も、必ず死ぬことを承知していなさい。」^[8]翌朝早く、アビメレクは彼のしもべをみな呼び寄せ、これらのことをすべて語り聞かせたので、人々は非常に恐れた。^[9]アビメレクはアブラハムを呼び寄せて言った。「あなたは何ということを私たちにしたのか。私がいいたい、罪となるどんなことをあなたにしたというのか。あなたが、私と私の王国に大きな罪をもたらそうとすると。あなたは、してはならないことを私にしたのだ。」^[10]また、アビメレクはアブラハムに言った。「あなたはなぜ、こんなことをしたのか。」^[11]アブラハムは答えた。「この地方には、神を恐れることが全くないので、人々が私の妻のゆえに私を殺すと思ったのです。^[12]また、本当に、あれは私の妹、私の父の娘です。でも、私の母の娘ではありません。それが私の妻になったのです。^[13]神が私を父の家から、さすらいの旅に出されたとき、私は彼女に、『このようにして、あなたの真実の愛を私に尽くしてほしい。私たちが行くどこでも、私のことを、この人は私の兄です、と言ってほしい』と言ったのです。」^[14]アビメレクは、羊の群れと牛の群れと、男女の奴隷たちを連れて来て、アブラハムに与え、またアブラハムの妻サラを彼に返した。^[15]アビメレクは言った。「見なさい。私の領地があなたの前に広がっている。あなたの良いと思うところに住みなさい。」^[16]サラに対しては、こう言った。「ここに、銀千枚をあなたの兄に与える。これはあなたにとっ

て、また一緒にいるすべての人にとって、あなたを守るものとなるだろう。これであな
あなたは、すべての人の前で正しいとされるだろう。』^[17]そこで、アブラハムは神に
祈った。神は、アビメレクとその妻、また女奴隷たちを癒やされたので、彼らは再
び子を産むようになった。^[18]主が、アブラハムの妻サラのことで、アビメレクの家
のすべての胎を堅く閉じておられたのである。

9. 創世記20:2,5を読みましよう。この箇所では嘘をついてアビメレクを騙したのはだ
れですか？

創世記20:2,5 アブラハムは、自分の妻サラのことを「これは私の妹です」と言っ
たので、ゲラルの王アビメレクは、人を遣わしてサラを召し入れた。...^[5]彼が私に
『これは私の妹です』と言ったのではありませんか。彼女自身も『これは私の兄
です』と言いました。私は、全き心と汚れのない手で、このことをしたのです。」

10. 創世記20:7を読みましよう。言うまでもなく、神はアブラハムが嘘をついたことを
良しとはしなかったはずですが。しかし、この箇所では神は、アブラハムとアビメレクの
どちらの味方をしていいますか？それはなぜですか？創世記15:1,18とヤコブ2:23
も読みましよう。

創世記20:7 今、あの人の妻をあの人に返しなさい。あの人は預言者で、あなた
のために祈ってくれるだろう。そして、いのちを得なさい。しかし、返さなければ、
あなたも、あなたに属するすべての者も、必ず死ぬことを承知していなさい。」

創世記15:1,18 これらの出来事の後、主のことばが幻のうちにアブラムに臨んだ。
「アブラムよ、恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたへの報いは非常に
大きい。」...^[18]その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫に、
わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで。

ヤコブ2:23 アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」と
いう聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

11. 創世記20:7,17-18を読みましよう。アブラハムは間違っことをしたにもかかわらず、
神が命じたのは、だれがだれのために祈ることでしたか？
- A. アブラハムがアビメレクのために祈ること。
B. アビメレクがアブラハムのために祈ること。
C. 互いに祈り合うこと。

創世記20:7,17-18今、あの人の妻をあの人に返しなさい。あの人は預言者で、あなたのために祈ってくれるだろう。そして、いのちを得なさい。しかし、返さなければ、あなたも、あなたに属するすべての者も、必ず死ぬことを承知していなさい。」...
^[17]そこで、アブラハムは神に祈った。神は、アビメレクとその妻、また女奴隷たちを癒やされたので、彼らは再び子を産むようになった。^[18]主が、アブラハムの妻サラのことで、アビメレクの家すべての胎を堅く閉じておられたのである。

12. ローマ8:31を読みましょう。私たちは時々、失敗してしまいます。それでも、だれが私たちの味方でいてくれますか？

ローマ8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

13. ローマ4:8を読みましょう。たとえ私たちが間違い(罪)を犯したとしても、神は～と言いました。～は何ですか？

ローマ4:8 幸いなことよ、主が罪をお認めにならない人。」

14. ヘブル8:12-13を読みましょう。新しい契約(新約の時代)において、神は何をしなないと約束しましたか？

ヘブル8:12-13 わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」^[13]神は、「新しい契約」と呼ぶことで、初めの契約を古いものとされました。年を経て古びたものは、すぐに消えて行くのです。

15. エペソ2:5, 8-9を読みましょう。私たちは何によって救われますか？

エペソ2:5,8-9 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。^[8]この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。^[9]行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

16. テトス3:5を読みましょう。～によっては、私たちは救われません。～は何ですか？ 私たちはどのように救われますか？

テトス3:5 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみ

によって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちが救っていただきました。

17. エペソ1:6を読みましょう。私たちは、神がその～によって私たちが救ってくれたことで、神を永遠にほめたたえるのです。～は何ですか？神はその愛する方において私たちが～いただきました。～は何ですか？

エペソ1:6 *それは、神がその愛する方において私たちを受け入れてくださったその神の恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。[*Ephesians 1:6 To the praise of the glory of His grace, by which He made us accepted in the Beloved. NKJVからの直訳]

質問の解答 — レッスン10

1. この男性が賠償金を支払い続けている間、彼と少女の遺族との関係はどのようなものになりましたか？
互いに赦せない思いと苦い思いを持ち、敵意に満ちた関係になった。
2. ヘブル10:1を読みましょう。律法は、何をすることができませんか？
神に近づく人々を、完全(欠点や欠陥のない者)にすることができない。
3. ヘブル10:1を読みましょう。旧約聖書の時代に献げられていたいけにえが、私たちを完全にするには不十分であったということについて、この箇所は私たちにどのようなことを示していますか？
旧約時代のいけにえは絶えず—毎日・毎週・毎月—献げられていた。絶えず繰り返し献げられていたという事実そのものが、私たちの罪の問題を完全に、かつ、永久的に解決することができなかつたことを示している。
4. ヘブル人10:2を読みましょう。もしもそれらのいけにえが完全に罪を解決することができたなら、神を礼拝する人たちは、どのようになったはずですか？
もはや罪を意識する(自分はダメだという思いに打ちのめされる)ことがなくなつたはず。
5. 酔っ払って事故を起こしてしまったこの男性は、何をしなければなりませんでしたか？
自分の罪について常に考えなければならなかつた。
6. ヘブル10:14を読みましょう。神は聖なるものとされる人々を～によって永遠に完成しました。～は何ですか？
D. イエス・キリストが一つのささげ物となること。
7. ヘブル10:14によると、イエス・キリストが一つのささげ物となることによって、信仰によりそれを信じた人々はどれくらいの期間、神によって罪が赦され完成された者となりますか？
C. 永遠に。
8. 創世記20:1-18を読みましょう。この箇所に登場する二人の男性はだれですか？
 - **アブラハム。**
 - **アビメレク。**

9. 創世記20:2, 5を読みましょう。この箇所では嘘をついてアビメレクを騙したのはだれですか？
アブラハム。
10. 創世記20:7を読みましょう。言うまでもなく、神はアブラハムが嘘をついたことを良しとはしなかったはずです。しかし、この箇所では神は、アブラハムとアビメレクのどちらの味方をしていますか？
アブラハム。
それはなぜですか？創世記15:1, 18とヤコブ2:23も読みましょう。
アブラハムには神と結んだ契約があり、神の友としての立場が与えられていたから。
11. 創世記20:7, 17-18を読みましょう。アブラハムは間違っただけをしたにもかかわらず、神が命じたのは、だれがだれのために祈ることでしたか？
A. アブラハムがアビメレクのために祈ること。
12. ローマ8:31を読みましょう。私たちは時々、失敗してしまいます。それでも、だれが私たちの味方でいてくれますか？
神。
13. ローマ4:8を読みましょう。たとえ私たちが間違い(罪)を犯したとしても、神は～と言いました。～は何ですか？
罪を認めない。つまり、私たちに罪に対する罰を負わせない。
14. ヘブル8:12-13を読みましょう。新しい契約(新約の時代)において、神は何をしなないと約束しましたか？
もはや彼ら(私たち人間)の罪を思い起こさない。つまり、私たちに罪に対する罰を負わせない。
15. エペソ2:5, 8-9を読みましょう。私たちは何によって救われますか？
神の恵みによって。つまり、それに見合う資格なしに無償で与えられた神の好意と親切によって。
16. テトス3:5を読みましょう。～によっては、私たちは救われません。～は何ですか？
私たちが行った義のわざ。
私たちはどのように救われますか？
神のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって救われる。

17. エペソ1:6を読みましょう。私たちは、神がその～によって私たちを救ってくれたことで、神を永遠にほめたたえるのです。～は何ですか？

恵み。

神はその愛する方であって私たちを～くださいました。～は何ですか？

受け入れて。

レッスン11

私は神に愛されていて、私は美しい

ドン・クロウ

ある日、マイケルが私のオフィスにやって来て、彼のクラスメイトであるパトリシアに関する重大な秘密を教えてくださいました。パトリシアは、私がカリス・バイブル・カレッジで受け持っていたクラスのうちの一つに出席していた生徒なのですが、彼女はいつも自分に注目を引き付けるような派手目な格好をしているといった感じの生徒でした。マイケルの話によると、ある日彼女が私の授業中に、メモ帳に何かを書き、マイケルがふとそのメモを見ると、そこには「私は愛されている。私は美しい」などと書かれていたということです。そして、なぜパトリシアがそのような言葉をメモ帳に書いていたのか、その本当の理由は、じつは彼女自身は自分が愛されているとか、美しいなどとは感じていなかったどころか、他の人からの拒絶を感じ、自分はだれからも愛されていないと感じていたからだということです。

私たちはだれもが、健全な自尊心を持ち、自分が神との正しい関係にあることを知る必要があります。また、だれもが同じ基本的欲求—それは愛されたい、受け入れられたい、存在価値を認められたいという思いが満たされる必要があります。しかし、今日の様々な宗教的教えは私たちに、自分は愛されていない、自分には価値がない、自分は受け入れられていないというように感じさせるのです。そしてサタンは、信者たちを攻撃するための最強の足場の一つとして、罪悪感と自分自身を責める思いを用いて私たちに虐げると同時に、そういった思いをもたらすことによって、その信者自身を、自分があたかもとても霊的で崇高な思いを持っているかのように錯覚させるのです。

ここで読者の皆さんに質問があります。初めてイエスを受け入れたときに、「イエスはあなたのことを愛しているというだけでなく、あなたがイエスを受け入れたことによって、イエスがあなたにとって完璧な義となった」と教えられた人はどれくらいいますか？事実、イエスが与えてくれた義は、私たちの必要をすべて満たす完璧な義です。「しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。」(1コリント1:30)そして、そのことこそが福音の良い知らせなのです。「私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。^[17]福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。」(ローマ1:16-17)「しかし、働かない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。」(ローマ4:5)神は、私たちがただ宗教的な信仰心を持つためや、物質的な利益を得るために私たちに呼んだものではありません。神は、私たちが神にあって確信を持ち、神に頼り、神を信頼し

切るために私たちを呼んだのです。

神はすでにあなたを愛していて、現に今あなたを愛している以上にあなたのことを愛することはできません。なぜなら、神は愛だからです(1ヨハネ4:8)。しかしあなたは、神の愛を今よりももっと受け取り、もっと感じ、もっと体験することができます。神に信頼すればするほどあなたは、神を愛することを発見していくのです。聖書には「**私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。**」(1ヨハネ4:19)と書いてあります。今日学んだことについてじっくりと考え、神の愛を信じ、神の愛をさらに受け取っていきましょう!

振り返りのための質問とみことば

1. ローマ8:38-39を読みましょう。ローマ人への手紙を書いた使徒パウロが確信していることはどのようなことですか？

ローマ8:38-39 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、^[39]高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

2. 私がバイブルカレッジで学んでいたとき、その学校の教授によって配られた資料には「義とは、神が、イエスを信じるすべての者を義であると単に宣言する、言わば神による司法行為のようなもので、その人自身が義とされるのではない」と書かれていました。その後、自分で聖書を学ぶにつれて、義とは、神からの賜物であり、イエスを信じるすべての者が神の前に義とされることであると確信しました。ローマ5:19を読みましょう。イエス・キリストの従順(律法を完璧に守り、十字架につけられたこと)によって多くの人が～のです。～は何ですか？

- A. 義人であると単に宣言される。
- B. 義人だと思われる。
- C. 義人とさる。

ローマ5:19 すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。

3. 2コリント5:21を読みましょう。神は、罪を知らない(罪を一度も犯したことがない)方(イエス・キリスト)を私たちのために罪とされました。それは、私たちが～のためです。～は何ですか？

2コリント5:21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあって神の義となるためです。

4. コロサイ1:21-22を読みましょう。イエス・キリストはこの地上に来て、私たちの罪のために身代わりとなって死にました。そのことによって私たちは、～に聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として立つことができるようになりました。～は何ですか？

- A. 配偶者の前。
- B. 友だちの前。
- C. 神の前。

コロサイ1:21-22 あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが、^[22]今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。

5. エペソ1:6を読みましょう。神がその恵みによって、～ので、私たちは神を永遠にほめたたえるのです。～は何ですか？

エペソ1:6 *それは、神がその愛する方であって私たちを受け入れてくださったその神の恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。 [*Ephesians 1:6 To the praise of the glory of His grace, by which He made us accepted in the Beloved. NKJVからの直訳]

6. ヘブル10:14を読みましょう。イエス・キリストが十字架につけられ、一つのささげ物となることによって、信仰によりそれを信じた人々はどれくらいの期間、神によって罪が赦され完成された者となりますか？

- A. 再び罪を犯すまでの間。
- B. 次に教会に行くまでの間。
- C. 永遠に。

ヘブル10:14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。

7. ヘブル10:15-17を読みましょう。新約の時代において、神は私たちの罪に対してどのような約束をしましたか？

- A. 私たちが罪を犯すたびに、その一つ一つを覚えておく。
- B. 私たちが十一献金をしないとき、*それを罪として覚えておく。 [*新約の時代、十一献金をしないことは罪ではない。]
- C. もはや私たちの罪を思い起こさない。

ヘブル10:15-17 聖霊もまた、私たちに証ししておられます。というのも、^[16]「これらの日の後に、わたしが彼らと結ぶ契約はこうである。——主のことば——わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにこれを書き記す」と言った後で、^[17]「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」と言われるからです。

8. ローマ6:1-2を読みましょう。神の恵みは、私たちのどんな罪よりも大きいのです。しかし、だからといって神の恵みの素晴らしさを示すために罪を犯し続けるべきでしょうか？

ローマ6:1-2 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。^[2]決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。

9. ヘブル9:12を読みましょう。イエスは私たちのために、どのような贖い(私たちの罪の代価を支払い私たちを解放したこと)を成し遂げましたか？
- A. 一時的な贖い。
 - B. 部分的な贖い。
 - C. 永遠の贖い。

ヘブル9:12 また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。

10. ローマ8:33を読みましょう。神に選ばれた者たちを訴える資格がある人はいますか？

ローマ8:33 だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。

11. ローマ8:34を読みましょう。神の民である私たちを‘罪がある’と非難する資格がある(さばく資格がある)人はいますか？

ローマ8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

12. ローマ8:35を読みましょう。私たちクリスチャンを神の愛から引き離せる人はいますか？

ローマ8:35 だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

13. ローマ8:31を読んで、このレッスンを一言でまとめてみましょう。

ローマ8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

質問の解答 — レッスン11

1. ローマ8:38-39を読みましょう。ローマ人への手紙を書いた使徒パウロが確信していることはどのようなことですか？
どんなものも、神の愛から私たちを引き離すことはできないと確信している。(死と生、天使や他の霊的な存在、今と未来という時間、高いところや深いところの空間的な力、そのほかのどんな被造物—その他のこの世界に存在するすべてのもの—も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできない。)
2. 私がバイブルカレッジで学んでいたとき、その学校の教授によって配られた資料には「義とは、神が、イエスを信じるすべての者を義であると単に宣言する、言わば神による司法行為のようなもので、その人自身が義とされるのではない」と書かれていました。その後、自分で聖書を学ぶにつれて、義とは、神からの賜物であり、イエスを信じるすべての者が神の前に義とされることであると確信しました。ローマ5:19を読みましょう。イエス・キリストの従順(律法を完璧に守り、十字架につけられたこと)によって多くの人が～のです。～は何ですか？
C. 義人とされる。
3. 2コリント5:21を読みましょう。神は、罪を知らない(罪を一度も犯したことがない)方(イエス・キリスト)を私たちのために罪とされました。それは、私たちが～のためです。～は何ですか？
この方にあって神の義となる。
4. コロサイ1:21-22を読みましょう。イエス・キリストはこの地上に来て、私たちの罪のために身代わりとなって死にました。そのことによって私たちは、～に聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として立つことができるようになりました。～は何ですか？
C. 神の前。
5. エペソ1:6を読みましょう。神がその恵みによって、～ので、私たちは神を永遠にほめたたえるのです。～は何ですか？
その愛する方(イエス・キリスト)にあって私たちが受け入れてくださった。
6. ヘブル10:14を読みましょう。イエス・キリストが十字架につけられ、一つのささげ物となることによって、信仰によりそれを信じた人々はどれくらいの期間、神によって罪が赦され完成された者となりますか？

C. 永遠に。

7. ヘブル10:15-17を読みましょう。新約の時代において、神は私たちの罪に対してどのような約束をしましたか？

C. もはや私たちの罪を思い起こさない。

8. ローマ6:1-2を読みましょう。神の恵みは、私たちのどんな罪よりも大きいのです。しかし、だからといって神の恵みの素晴らしさを示すために罪を犯し続けるべきでしょうか？

決してそんなことはない。神は罪を憎んでいる。

9. ヘブル9:12を読みましょう。イエスは私たちのために、どのような贖い(私たちの罪の代価を支払い私たちを解放したこと)を成し遂げましたか？

C. 永遠の贖い。

10. ローマ8:33を読みましょう。神に選ばれた者たちを訴える資格がある人はいますか？

だれもない。

11. ローマ8:34を読みましょう。神の民である私たちを‘罪がある’と非難する資格がある(さばく資格がある)人はいますか？

だれもない。

12. ローマ8:35を読みましょう。私たちクリスチャンを神の愛から引き離せる人はいますか？

だれもない。

13. ローマ8:31を読んで、このレッスンを一言でまとめてみましょう。

神が私たちの味方であるので、だれも私たちに敵対することはできない。

レッスン12

救いの実(1)

ドン・クロウ

‘救われる’という一度きりの信仰の行為が、もしもその後続がなかったらどうなるのでしょうか？もしも救いが無効になるようなことがあったとしたら、それでもなお、最初に受けた救いの約束を最終的に受け取ることができるのでしょうか？聖書には「**アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。**」(創世記15:6)と書いてあります。もしもアブラハムが信じることをやめてしまったなら、彼が義と認められたことは無効になるのでしょうか？

みことばによって示されているとおり、私たちは、‘信仰’はただ一度限りで完了される行為(*アオリスト・不定過去)によって始まり、その後、クリスチャンとしての人生の中で、その信仰が継続されていくことを知っています。このことは*ギリシャ語の聖書では現在形で書かれている箇所[*以下文中、現在形と表記]からはっきりと見て取ることができます。たとえば、**現在形**で書かれている命令は、継続的または反復的にその命令を実行することが求められています。それらの、**現在形**で書かれている箇所については、次の語句を補足しながら読んでいくと聖書の理解がぐっと深まります。その補足のための語句は「**繰り返し**」、「**何度も何度も**」、「**絶えず**」、「**常に**」、「**習慣的に**」、「**ライフスタイルとして**」、「**途切れることなく**」などです。次のみことばを、**現在形**が使われている箇所を拾い上げながら読み、その現在形の箇所が全体の意味にどのように影響するかを考えてみましょう。[*アオリスト・不定過去とは、ギリシャ語の文法用語で、動作が単純・単独的・瞬間的であることを示し、過去の動作を総括的に完結した出来事として述べる場合に使われる。]

「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる***(現在形:初めて信じて以来、信じ続けることを意味する)者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3:16)[*()]内は筆者による加筆]

「**なぜなら、キリストは聖なるものとされる***(現在形:初めて聖なるものとされて以来、聖なるものであり続けることを意味する)人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。」(ヘブル10:14)[*()]内は筆者による加筆]

「**神から生まれた者はだれも、罪を犯しません***(現在形:罪を犯さないことが自分のライフスタイルとして途切れることなく続いている。言い換えれば、悔い改めた心を表し続けていることを意味する)。**神の種がその人のうちにとどまっている***(現在形:神の種がその人のうちに初めてとどまって以来、とどまり続けていることを意味する)。」

意味する)からです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができない*(現在形:罪を犯すことができない状態が自分のライフスタイルとして途切れることなく続いていることを意味する)のです。」(1ヨハネ3:9)[*()内は筆者による加筆]

「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて*(現在形:初めて悔い改めて以来、悔い改めの必要が起こるたびにそのつど悔い改めることを自分のライフスタイルとして続けていることを意味する)福音を信じ*(現在形:初めて信じて以来、信じ続けることを意味する)なさい。」(マルコ1:15)[*()内は筆者による加筆]

「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる*(現在形:初めて信じて以来、信じ続けることを意味する)者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。」(ヨハネ5:24)[*()内は筆者による加筆]

「あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改める*(現在形:初めて悔い改めて以来、悔い改めの必要が起こるたびにそのつど悔い改めることを自分のライフスタイルとして続けていることを意味する)なら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。」(ルカ15:7)[*()内は筆者による加筆]

「神はそのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今ほどここででも、すべての人に悔い改め*(現在形:初めて悔い改めて以来、悔い改めの必要が起こるたびにそのつど悔い改めることを自分のライフスタイルとして続けていることを意味する)を命じて*(現在形:その命令が命じられ続けていることを意味する)おられます。」(使徒17:30)[*()内は筆者による加筆]

「まことに、まことに、あなたがたに言います。信じる*(現在形:初めて信じて以来、信じ続けることを意味する)者は永遠のいのちを持っています。」(ヨハネ6:47)[*()内は筆者による加筆]

「しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる*(現在形:初めて信じて以来、信じ続けることを意味する)人には、その信仰が義と認められます。」(ローマ4:5)[*()内は筆者による加筆]

「ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ地方全体に、さらに異邦人にまで、悔い改めて*(現在形:初めて悔い改めて以来、悔い改めの必要が起こるたびにそのつど悔い改めることを自分のライフスタイルとして続けていることを意味する)

神に立ち返り*(現在形:初めて神に立ち返って以来、神に立ち返る必要が起こるたびにそのつど神に立ち返ることを自分のライフスタイルとして続けていることを意味する)、**悔い改めにふさわしい行いをする***(現在形:悔い改めにふさわしい行いを、常に行い続けることを意味する)ようと**宣べ伝えてきました。**」(使徒26:20)[*()]内は筆者による加筆]

まとめ: 聖書の中で、**現在形**は何百回と使われています。今日の学びの目的は、救いという主題に関連する現在形の箇所をすべて拾い上げて見ていくということではなく、信仰による救いは絶え間なく継続されていくべきものであるという真理を理解することです。その真理は、それぞれ異なる考え方を持つ^{*1}アルミニウス主義と^{*2}カルヴァン主義の教えからも学ぶことができます。[*¹アルミニウス主義:17世紀初頭にオランダで、オランダの神学者ヤコブス・アルミニウス(Jacobus Arminius 1560-1609)による反カルヴァン主義から始まった神学思想。][*²カルヴァン主義者:フランス出身の神学者ジャン・カルヴァン(Jean Calvin 1509-1564)によって始まり、16世紀にヨーロッパを中心に広がった神学思想。]

救いは永久に保証されるものであると主張するカルヴァン主義は、「真の信者であつてもつまずいたり罪を犯したりするかもしれない。それでも、クリスチャンとしての信仰は保たれる」と教えています(1コリント1:8)。また、それらの、救いは永久に保証されるものであると信じる人たちは、真のクリスチャンは罪に対して死んでいるので、罪のうちに生き続けることはないと信じています(ローマ6:1-3)。そして、一度信じた後にキリストにある信仰から完全に離れてしまう人たちについては、もともと本当には救われていなかったのだと考えています(1ヨハネ2:19)。

一方、アルミニウス主義の神学では、「真の信者であつてもクリスチャンの信仰から離れてしまうことがある」と教えています。彼らは一般的に、信仰から離れた人たちは救いを失うことになるかと信じていて、そのように教えています。このような考え方に基づく彼らの主義は、「いわゆる名ばかりクリスチャンが悔い改めにふさわしい実を結ぶことなく、絶え間なく続ける反抗や故意に犯す罪のうちに、真の信者としての信仰生活を続ける余地を残しません。

聖書の中で使徒ヨハネは「もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。」(1ヨハネ1:8)と言っていますが、また別の箇所では「神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。」(1ヨハネ3:9)とも言っています。この二つの箇所は互いに逆説的ですが、聖書の内容に矛盾があるということではありません。全く罪を犯さないクリスチャンはいませんが(1ヨハネ1:8)、しかし、クリスチャンであれば皆、神の命令を守って生きているのです(1ヨハネ2:3)。クリスチャンであつてもまだ、その人の中に罪と肉欲が存在しますが、しかし、罪がその人を支配したり、その人の特性になったりすることはないのです(1ヨハネ3:9)。なぜなら真の悔い改めと信仰は、決してその人を完璧にするものではありませんが、その人に思考の変化・心の変化・人生の方向転換をもたらすか

らです(使徒26:18,1ヨハネ1:8)。「実」とは、その人の信仰が実際に生きたものであり、真実なものであるかどうかを試された後の結果を現すものです。信仰とは、揺るぎない超自然的な信念であり、真のクリスチャンがどのような行動をとるのか、また、その行動がもたらす結果がどのようなものとなるか、その人のうちにある信仰がその鍵を握っているのです。このことを表している箇所がヘブル人への手紙11章にあり、信仰によって行動した人々の実例が示されています。また、この信仰と行動の関係について別の言い方をすれば、私たちが現在行なっていることは、私たちが信じていることの結果であると言えるでしょう。ヤコブ2章18節には「しかし、「ある人には信仰があるが、ほかの人には行いがあります」と言う人がいるでしょう。行いのないあなたの信仰を私に見せてください。私は行いによって、自分の信仰をあなたに見せてあげます。」と書いてあります。

聖書の中で使徒たちが「行い」について否定的な言い方をしているとき、その行いとは「律法の行い」、つまり、その人が努力することや何か良い行いをするによって救いを得ようと試みることを意味しています。

聖書はまた、救いの実—それは良い行い、もしくは信仰の行い—についても語っています。それらの行いとは、悔い改めと信仰から生じる、それにふさわしい行いであり(使徒26:20, マタイ3:7-10, 1テサロニケ1:3, ヤコブ2:14-26)、その人が本当に救われたことの証拠を示します。悔い改めと信仰のどちらにも同じく言えることは、両者ともにその結果として「良い行い」という共通の実、または証拠が現れるということです。私たちは良い行いによって救われるのではなく、良い行いをするために救われるのです(エペソ2:8-10—律法の行いと信仰の行いを比較)。「行い」とは、その人の信仰が本当に生きたものであるかどうかを試されるものであり、信仰によって受け取る恵みが、時間の経過とともにその人の人生や行動に良い影響をもたらすものでないのなら、その恵みが本当に神の恵みであると見なすことはできません(テトス2:11-12)。それは、イエスが「実によって真の信者を見分けるように」と教えているとおりです(マタイ3:8, 7:16-20, 25:34-40, ヨハネ13:35, 14:23, 使徒26:20, ローマ2:6-11, ヤコブ2:14-18, 1ヨハネ3:10)。

振り返りのための質問とみことば

1. 聖書の中で、現在形で書かれている命令は、私たちにどのようなことを求めていますか？
2. ヨハネ3:16を読みましょう。現在形の部分の意味を踏まえて理解すると、このみことばはどのような意味になりますか？

ヨハネ3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

3. 1ヨハネ3:9を読みましょう。「神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。」の部分は、現在形の意味を踏まえて理解すると、どのような意味になりますか？

1ヨハネ3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

4. ルカ15:7を読みましょう。「一人の罪人が悔い改めるなら、大きな喜びが天にあるのです。」と書いてありますが、このみことばにある「悔い改める」を現在形の意味を踏まえて理解すると、どのような意味になりますか？

ルカ15:7 あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。

5. 使徒17:30を読みましょう。このみことばを現在形の部分の意味を踏まえて理解すると、神は、今はどこでも、すべての人に、どのようなことを命じていますか？

使徒17:30 神はそのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今はどこでも、すべての人に悔い改めを命じておられます。

6. 使徒26:20を読みましょう。このみことばの意味を、現在形の部分の意味を踏まえて説明してみましょう。

使徒26:20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ

地方全体に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えてきました。

7. 1ヨハネ2:3を読みましょう。神と個人的な関係を持っていること、つまり、個人的に神を知っていることの結果として、どのようなことが起こりますか？

1ヨハネ2:3 もし私たちが神の命令を守っているなら、それによって、自分が神を知っていることが分かります。

8. ヤコブ2:18を読みましょう。ヤコブの手紙を書いたヤコブは、このみことばの中で、「行いのないあなたの信仰を私に見せてください(それは不可能なこと)。私は～によって、自分の信仰をあなたに見せてあげます。」と言っています。～は何ですか？

ヤコブ2:18 しかし、「ある人には信仰があるが、ほかの人には行いがあります」と言う人がいるでしょう。行いのないあなたの信仰を私に見せてください。私は行いによって、自分の信仰をあなたに見せてあげます。

9. 1テサロニケ1:3を読みましょう。信仰から出た働き、もしくは行動は、このレッスンの中で何と呼ばれていますか？

1テサロニケ1:3 私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。

10. ガラテヤ2:16, 21を読みましょう。律法の行いとは、自分の働きや良い行いをすることによって救い、もしくは～を獲得しようとすることです。～は何ですか？(このみことばの21節によれば、律法の行いは私たちを救うことはできず、また、律法の行いには、私たちに義を得させる力はありません。)

ガラテヤ2:16, 21 しかし、人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによっては義と認められないからです。^[21]私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。

11. ローマ2:7-10を読みましょう。ここには異なる二つのグループの人々が結ぶ実が表されています。その二つのグループとは、どのような人々のグループですか？

ローマ2:7-10 忍耐をもって善を行い、栄光と誉れと朽ちないものを求める者には、永遠のいのちを与え、^[8]利己的な思いから真理に従わず、不義に従う者には、怒りと憤りを下されます。^[9] 悪を行うすべての者の上には、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、苦難と苦悩が下り、^[10]善を行うすべての者には、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。

質問の解答 — レッスン12

1. 聖書の中で、現在形で書かれている命令は、私たちにどのようなことを求めていますか？
継続的または反復的にその命令を実行すること。
2. ヨハネ3:16を読みましょう。現在形の部分の意味を踏まえて理解すると、このみことばはどのような意味になりますか？
神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる(現在形:初めて信じて以来、信じ続けることを意味する)者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。
3. 1ヨハネ3:9を読みましょう。「神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。」の部分は、現在形の意味を踏まえて理解すると、どのような意味になりますか？
神から生まれた者はだれも、罪を犯しません(現在形:罪を犯さないことが自分のライフスタイルとして続いている。言い換えれば、悔い改めた心を表し続けていることを意味する)。
4. ルカ15:7を読みましょう。「一人の罪人が悔い改めるなら、大きな喜びが天にあるのです。」と書いてありますが、このみことばにある「悔い改める」を現在形の意味を踏まえて理解すると、どのような意味になりますか？
初めて悔い改めて以来、悔い改めの必要が起こるたびにそのつど悔い改めることを自分のライフスタイルとして続けている。
5. 使徒17:30を読みましょう。このみことばを現在形の部分の意味を踏まえて理解すると、神は、今はどこでも、すべての人に、どのようなことを命じていますか？
初めて悔い改めて以来、悔い改めの必要が起こるたびにそのつど悔い改めることを自分のライフスタイルとして続けることを命じている。
6. 使徒26:20を読みましょう。このみことばの意味を、現在形の部分の意味を踏まえて説明してみましょう。
ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ地方全体に、さらに異邦人にまで、悔い改めて(現在形:初めて悔い改めて以来、悔い改めの必要が起こるたびにそのつど悔い改めることを自分のライフスタイルとして続けている)神に立ち返り(現在形:初めて神に立ち返って以来、神に立ち返る必要が起こるたびにそのつど神に立ち返ることを自分のライフスタイルとして続けていることを意味する)、悔い改めにふさわしい行いをする(現在形:悔い改めにふ

さわしい行いを、常に行い続けることを意味する)ようにと宣べ伝えてきました。

7. 1ヨハネ2:3を読みましょう。神と個人的な関係を持っていること、つまり、個人的に神を知っていることの結果として、どのようなことが起こりますか？
 - **神に命じられたことを常に行い続けるようになる。**
 - **神の命令を守り続けるようになる。**

8. ヤコブ2:18を読みましょう。ヤコブの手紙を書いたヤコブは、このみことばの中で、「行いのないあなたの信仰を私に見せてください(それは不可能なこと)。私は～によって、自分の信仰をあなたに見せてあげます」と言っています。～は何ですか？
行い、または自分の行動。

9. 1テサロニケ1:3を読みましょう。信仰から出た働き、もしくは行動は、このレッスンの中で何と呼ばれていますか？
信仰の行い。

10. ガラテヤ2:16, 21を読みましょう。律法の行いとは、自分の働きや良い行いをすることによって救い、もしくは～を獲得しようとすることです。～は何ですか？(このみことばの21節によれば、律法の行いは私たちが救うことはできず、また、律法の行いには私たちに義を得させる力はありません。)
義と認められること。

11. ローマ2:7-10を読みましょう。ここには異なる二つのグループの人々が結ぶ実が表されています。その二つのグループとは、どのような人々のグループですか？
 - **イエスを信じる人々のグループ。**
 - **イエスを信じない人々のグループ。**

レッスン13

救いの実(2)

ドン・クロウ

今日はまず、次のみことばに注目してみましょう。「このことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。義を行わない者はだれであれ、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」(1ヨハネ3:10) ここには、「義を行うことによって救われる」というのではなく、「*このこと(義を行う者かどうかを見分けること)によって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。」(1ヨハネ3:10) [*()]内と下線は筆者による加筆]と書いてあります。

聖書の中でイエスは、「こういうわけで、あなたがたは彼らを実によって*見分けることになるのです。」(マタイ7:20) [*下線は筆者による加筆]

神はみことばを通して、救いについての二つの側面を語っています。一つ目は、私たちは恵みのゆえに、信仰によって救われる(エペソ2:8-9)という側面、二つ目は、救いの実である良い行いに関して、救われた人はだれでも良い行いをするようになる(エペソ2:10)という側面です。なぜ私たちは実について話すことを恐れるのでしょうか? 聖書はこの話題に触れることを避けてはいません。なぜならこの‘実’を見分けることこそが、私たちが本当に神の国に属していて、心からみことばに沿った生き方をしているかどうかを見分ける方法だからです。

「もし私たちが神の命令を守っているなら、それによって、自分が神を知っていることが*分かります。^[4]神を知っていると言いながら、その命令を守っていない人は、偽り者であり、その人のうちに真理はありません。^[5]しかし、だれでも神のことばを守っているなら、その人のうちには神の愛が確かに全うされているのです。それによって、自分が神のうちにいることが*分かります。」(1ヨハネ2:3-5) [*下線は筆者による加筆]

「あなたがたは、神が正しい方であると*知っているなら、義を行う者もみな神から生まれたことが*分かるはずです。」(1ヨハネ2:29) [*下線は筆者による加筆] このみことばの意味は明らかです。つまり、神とキリストの性質は義であるので、義を実践する人はだれでも、神とキリストの性質がその人のうちにあることの証拠を示すことになる、もしくは、ヨハネが言っているとおり言い方をするなら、「神から生まれたことが分かる」という意味です。

ここで1ヨハネ3章5-10節を、*ギリシャ語の聖書では現在形で書かれている箇所 [*以下文中、現在形と表記]を拾い上げながら見ていきましょう。(この箇所と同様に現

在形で書かれた箇所を読み解くときには、「繰り返し」、「何度も何度も」、「絶えず」、「常に」、「習慣的に」、「ライフスタイルとして」、「途切れることなく」などの語句を補足しながら読むと、みことばの理解をぐっと深めることができます。)「あなたがたが知っているとおりに、キリストは罪を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪はありません。^[6]キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。罪を犯す*(現在形)者はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。^[7]幼子たち、だれにも惑わされてはいけません。義を行う*(現在形:ライフスタイルとして常に行っている)者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。^[8]罪を犯している*(現在形:罪を犯すことがその人の性質なので、ライフスタイルとして常習的に罪を犯している)者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。^[9]神から生まれた者はだれも、罪を犯し*(現在形:ライフスタイルとして、悔い改めのない心を表し続けている)ません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯す*(現在形:ライフスタイルとして罪を犯し続ける)ことができないのです。^[10]このことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。義を行わない*(現在形)者はだれであれ、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない*(現在形)者もそうです。」(1ヨハネ3:5-10) [*()]内は筆者による加筆]このみことばの中でヨハネは、「ここに書いてあることこそが、だれが神の子どもであり、だれが悪魔の子どもであるかを見分ける方法だと言っているのです。なぜなら、義を行わない者、兄弟を愛さない者たちは、その人のうちに父の性質がないことを示しているからです。本当に救われて新しく生まれ変わったのかどうか、その実が目に見える形で分かるのは重要なことです。

「私たちは、自分が死からいのちに*移ったことを*知っています。兄弟を愛しているからです。愛さない者は死のうちにとどまっています。」(1ヨハネ3:14) [*下線は筆者による加筆]

「私たちは神から出た者です。神を知っている者は私たち*(使徒たち)の言うことを聞き、神から出ていない者は私たち*(使徒たち)の言うことを聞きません。*それによって私たちは、真理の霊と偽りの霊を*見分けます。」(1ヨハネ4:6) [*()]内と下線は筆者による加筆]

「愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。」(1ヨハネ4:8) 愛は信者のしるしです。神の性質は愛だからです。

「*このことから分かるように、神を愛し*(現在形:絶え間なく神を愛し続ける)、その命令を守る(現在形:命令を守り続ける)ときはいつでも、私たちは神の子どもた

ちを愛するのです。」(1ヨハネ5:2)[*()]内と下線は筆者による加筆]

「神から生まれた者はみな罪を犯*(現在形:ライフスタイルとして、悔い改めのない心を表し続ける)さないこと、神から生まれた方がその人を守って*(現在形:その人を守り続ける)おられ、悪い者はその人に触れることができないことを、*私たちは知っています。^[19]私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、*私たちは知っています。」(1ヨハネ5:18-19)[*()]内と下線は筆者による加筆]

ヨハネの手紙の中で使徒ヨハネは、なぜこれらのことを私たちと共有したのでしょうか?その答えが次のみことばにあります。「神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、*あなたがたに分からせるためです。」(1ヨハネ5:13)[*下線は筆者による加筆]

まとめ:義、聖さ、愛などの御霊の実は、救われたことの証拠を示します。あなたが神を信じない人たちと同じようなライフスタイルで生きている間は、自分が本当に神に属しているのだという確信を持つことはできないでしょう。なぜなら、あなたの良心が自分自身を責めるので、神との関係において自信を持つことができないからです。みことばの中で使徒ペテロは、「自分たちの召しと選びを確かなものとするように、いっそう励みなさい。」(2ペテロ1:10)と戒めています。つまり、神の栄光の福音にふさわしいライフスタイルを生きることによって、あなた自身が本当に神に属しているのだということを心で確信できるように励みなさいと言っているのです。最後に、実については、「私たちが実を結ぼうと努力することによって救われる」ということではなく、「実を見分けることこそが、私たちが本当に神に属しているかを見分ける方法だ」ということを再確認しておきましょう。

振り返りのための質問とみことば

1. 使徒8:13, 18-22を読みましょう。13節でヨハネは、真の信者の‘実’、もしくは証拠について述べています。この‘実’とは、心にあるすべてのことが源となって現れてくるものです。18節から後半で、信者であるシモンの心が神の前に正しくないことが分かったと、ペテロはシモンに対してどのようなことを言いましたか？

使徒8:13, 18-22 シモン自身も信じてバプテスマを受けると、いつもピリポにつき従って、しるしと大いなる奇跡が行われるのを見ては驚いていた。^[18]シモンは、使徒たちが手を置くことで御霊が与えられるのを見て、使徒たちのところに金を持って来て、^[19]「私が手を置く者がだれでも聖霊を受けられるように、その権威を私にも下さい」と言った。^[20]しかし、ペテロは彼に言った。「おまえの金は、おまえとともに滅びるがよい。おまえが金で神の賜物を手に入れようと思っているからだ。^[21]おまえは、このことに何の関係もないし、あずかることもできない。おまえの心が神の前に正しくないからだ。^[22]だから、この悪事を悔い改めて、主に祈れ。もしかしたら、心に抱いた思いが赦されるかもしれない。

2. 2ペテロ1:5-11を読みましょう。私たちの召しと選びを確かなものとする実(証明もしくは証拠)とは、どのようなことですか？

2ペテロ1:5-11 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、^[6]知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、^[7]敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。^[8]これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。^[9]これらを備えていない人は盲目です。自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまって、近視眼的になっているのです。^[10]ですから、兄弟たち。自分たちの召しと選びを確かなものとするように、いっそう励みなさい。これらのことを行っているなら、決してつまずくことはありません。^[11]このようにして、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国に入る恵みを、豊かに与えられるのです。

3. マタイ25:34-40を読みましょう。この箇所を示されている信者の特質を表す行動を挙げてみましょう。

マタイ25:34-40 それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの

父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。^[35]あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、^[36]わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』^[37]すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。^[38]いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。^[39]いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』^[40]すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

4. ヨハネ13:35を読みましょう。その人たちがイエスの弟子(イエスに付き従う者)だということは、何によって分かりますか？

ヨハネ13:35 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

5. マタイ7:21-23を読みましょう。ここに書かれている‘彼ら’が神の国から退けられたのはなぜでしょうか？

マタイ7:21-23 わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。^[22]その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』^[23]しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』

6. ヨハネ14:23を読みましょう。もしもその人が本当にイエスを愛しているなら、その人は何をしますか？

ヨハネ14:23 イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

7. 使徒26:20を読みましょう。このみことばの中で、使徒パウロが「宣べ伝えてき

た」と言っているのはどのようなことですか？

使徒26:20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ地方全体に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めてふさわしい行いをするようにと宣べ伝えてきました。

8. ヤコブ2:17を読みましょう。もしもあなたの信仰に良い行い(ふさわしい言動)が伴っていないなら、それはどのような信仰と言えるでしょうか？

ヤコブ2:17 同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。

質問の解答 — レッスン13

1. 使徒8:13, 18-22を読みましょう。13節でヨハネは、真の信者の‘実’、もしくは証拠について述べています。この‘実’とは、心にあるすべてのことが源となって現れてくるものです。18節から後半で、信者であるシモンの心が神の前に正しくないことが分かったと、ペテロはシモンに対してどのようなことを言いましたか？
「罪(この悪事)を悔い改めて、心に抱いた思いが赦されるように主に祈れ」と言った。
2. 2ペテロ1:5-11を読みましょう。私たちの召しと選びを確かなものとする実(証明もしくは証拠)とは、どのようなことですか？
その人の信仰に、聖霊のすべての性質、つまり、救われて新しく生まれ変わった新しい性質が加えられること。
3. マタイ25:34-40を読みましょう。この箇所を示されている信者の特質を表す行動を挙げてみましょう。
 - 空腹な人に食べ物を与える。
 - 他の人をもてなす。(渴いている者に飲ませ、旅人に宿を貸す。)
 - 貧しい人に服を着せる。(貧困に苦しんでいる人に必要な物を与える。)
 - 病気の人を看病をする。
 - 刑務所にいる人に手を差し伸べる。
4. ヨハネ13:35を読みましょう。その人たちがイエスの弟子(イエスに付き従う者)だということは、何によって分かりますか？
弟子たちが互いに示す愛。
5. マタイ7:21-23を読みましょう。ここに書かれている‘彼ら’が神の国から退けられたのはなぜでしょうか？
 - 彼らは不法を行う者たちだったから。(ここには現在形が使われていて、不法を行うことが彼らのライフスタイルであり、彼らの性質であったことが示されている。そしてイエスは、「わたしはおまえたちを全く知らない」と言った。)
 - 彼らは宗教的で*失われた[*本来いるべき神の下から離れてしまった]人々だったから。(彼らは、自らが神に立ち返る心の変化や思考の変化を体験することが全くなかった。)
6. ヨハネ14:23を読みましょう。もしもその人が本当にイエスを愛しているなら、その人は何をしますか？

イエスのことばを守る(行う)。

7. 使徒26:20を読みましょう。このみことばの中で、使徒パウロが「宣べ伝えてきた」と言っているのはどのようなことですか？
悔い改めにふさわしい行いをする。つまり、自分の行いによって悔い改めを証明すること。

8. ヤコブ2:17を読みましょう。もしもあなたの信仰に良い行い(ふさわしい言動)が伴っていないなら、それはどのような信仰と言えるでしょうか？
死んだ信仰。(その信仰がその人を救うことはない。－ヤコブ2:14)

イエスに付き従って行く者としての使命

アンドリュー・ウォマック

今日はイエスの*弟子(イエスに付き従って行く者)[*以下文中、弟子と表記]となることと、他の人をイエスの弟子として育てていくことについて話します。主が私たちに命じたこと、それは人々を救いに導き「イエスが私の主です」と告白させ、罪の赦しを受けさせることだけでなく、弟子を作りなさいと言ったことを思い出してほしいのです。イエスを人生の主として迎え入れることと、罪の赦しを受け取ることは言うまでもなく非常に重要で、私はここで、それらのことの重要度が低いと言うつもりは全くありません。しかし、救いの真の目的は、ただ単に救われて生まれ変わったというだけで終わるのではなく、クリスチャンとして成熟していくことであるべきです。そして、イエスの弟子としてクリスチャンたちが目指すべき目標は、自らが出て行って他の人々を導き、その人々をイエスの弟子として育てていくことではないでしょうか。

イエスは、私たちクリスチャンが出て行って弟子を作り、新しい弟子がクリスチャンとして成熟し、その弟子がまた別の弟子を作り育て、増え広がりになりなさいと言いました。今日、世界中の大半の教会はこのことを実践していません。私たちクリスチャンは、人々を救いに導き育てていくという役目をフルタイムの聖職者や牧師と呼ばれる人たちに丸投げしてきました。また、私たちはその役目を、世界中を飛び回り、一度に何千人もの救いが起こる大きな伝道集会を開催するような伝道師たちにも任せきりにしてきました。そういった伝道集会で起こる救いの中には、本当には救われておらず、ただ特別な気持ちを感じたというだけで救いに数えられる人たちもいると思われませんが、その一方で、本当に救われて主との関係を持ち始める人たちもたくさんいるはずです。しかし今日、救いが起こる場においてほとんどの場合、主との関係を継続し続けることによってイエスの弟子になっていくという側面が重要視されることはなく、そういった、その場限りの伝道は、もともと神が意図したものではないのです。

このことは責任感がない単なる子ども好きな人にたとえることができると思います。赤ちゃんや小さい子どもがとにかく可愛いからといって、ただ眺めるためだけに子を持つのは全く無責任なことと言えるでしょう。しかし、先ほど述べたような、今日私たちが行なっている伝道のやり方は、このたとえと同じようなことなのです。自分の子を持ったのであれば当然のこととして、あなたにはその子を訓練し育てる責任があります。しかし私たちがしていることは、人々に、「重要なのは‘イエスが自分の主である’」と告白して救われることだ」と言い、そこで救いが起こると、その救いを称賛しながら「今日からあなたはクリスチャンです。神様を信じて聖書を読んでいればすべて大丈夫です」というようなことを言って、それで終わりなのです。しかしそのようなやり方は、

聖書の中で主が重んじたやり方ではありません。

このように、私たちがその場限りの伝道をしてきたために、主に対して心からの決心をしたものの、その後、成熟に至ることのないクリスチャンをたくさん生み出してきました。そういったクリスチャンたちは、自分の成長を助けてくれるものが何もないので、ましてや自分と同じ信仰を持つように他の人を育てていくことはできません。そして、イエスの良い証し人となっていくどころか、逆に否定的なことばかりを言うネガティブな証し人となってしまっているのです。イエスが私たちに望んでいることは、私たちが教会外に出て行って他の人々との接点を持っていく中で弟子を作り、その弟子もまた成熟して、同じ信仰を持つ別の弟子を作り育てていけるようになることです。

もしもあなたが半年に一人の割合でだれかを救いに導き、なおかつ、自分の時間を割いてその人を成熟したクリスチャンに育て、あなたに育てられたその人もまた、別のだれか一人を同じ信仰を持つ成熟したクリスチャンに育てることができたとしても、半年後のクリスチャンの数は二人に増えるだけです。そしてその後、あなたと、あなたが育てた人がそれぞれ新たに一人ずつを主に導き、また半年かけて自分の時間を割いて他の一人を弟子として育てたなら、一年後にはクリスチャンは四人になります。このやり方でクリスチャンが増え広がる速さは、一見すると、大規模な伝道集会を開いて一気に何千人もの人々を主に導き、イエスが主であると告白させるやり方とは比べ物にならないと思えるかもしれません。そして大半の人が、「前者のやり方では最初の一年でクリスチャンが四人に増えるだけなのに対して、伝道集会のやり方なら一気に何千人もの救いを生み出すことができるのだから、私たちは伝道集会のやり方をすべきだ」と言うでしょう。たとえば、一度の集会で千人ほどの人々を主に導くことができる伝道師がいて、その伝道師が大きな集会を年に何度も、ちよくちよく行なったなら、一年で35,000人もの人々を主に導くことができるかもしれません。もちろんそれは良いことであって、だれもそのやり方を批判すべきではありません。しかし、そういった伝道集会で救われた人々の数を世界人口と比較するなら、それはバケツの中に落ちた一滴のしずくのようなものにすぎません。それでもなお、ほとんどの教会はこういった伝道集会のやり方によってクリスチャンを増やし、今までなんとか持ちこたえてきました。

もしも私たちが新しいクリスチャンを育てることに力を入れ、半年ごとにだれか一人を主に導き、半年で二人に増えたクリスチャンがそれぞれにまた同じことを繰り返し、他の人を救いに導き育成していくことをやり続けるなら、そのクリスチャンたちはわずか12年半の間に世界人口にも匹敵する数の人々を主に導くことになるのです。「そんなことはあり得ない」と言う人がいるかもしれません。しかし、そのように言う人は実際にそれを計算してみてください。私の試算では、伝道集会の開催によって12年

半の間に導かれる人々の数は12.5万人程度であるのに対して、先ほど述べたような一人のクリスチャンが半年ごとに別のだれかを導き、新たに導かれた人もキリストのからだの一部となって、また別のだれかを導くことができるように育てていくというやり方を続けるなら、たった12年半の間に、導かれる人々の数は、55億人ほどにまで達する可能性があるのです。

もしも私たちが、クリスチャンとして、ただ自分だけが勝利の人生を歩み成熟できればそれでいいというのではなく、自ら出て行って自分の信仰を他の人にも伝えたいという熱意によって行動を起こすなら、また、訓練を受けるだけで終わるのではなく、逆に訓練する側の者となっていくのなら、そして、私たち一人ひとり全員が、この‘弟子を育てる’という概念を自分のものにして、さらに、成熟したクリスチャンになることを目指して主に付き従い続け、他のだれかを育て始めるなら、次のようなことができるでしょう。あなたが一年かけてだれか一人を育てたとすると、一年目の終わりには、あなたとあなたが育てた人で、クリスチャンは二人になり、さらに、二年目の終わりには四人になります。そして、もしも全員がこれをやり続けることができれば、十年目の終わりには、キリストのからだの一部として育成され、他の人を育てることのできるクリスチャンを1,024人にまで増やすことができます。これをずっとやり続けていくなら、最初はたった一人だったクリスチャンが、二十年目の終わりには100万人を超えるほどになるのです。なんと素晴らしいことでしょう。これこそが、主が確立させた‘イエスの弟子が増え広がっていく方法’—それは、人々をただ救いに導いて終わるのではなく、救われた人々をイエスの弟子として育成していく方法—なのです。このやり方こそが、神の王国を広げていくための断然ベストな方法であるにもかかわらず、私たちは、先入観による勝手な判断により、その場しのぎのやり方を続けてきたのです。

大規模な伝道集会に行き、そこで決心してクリスチャンになったという宣言をした人たちのうち、一体どれくらいの人たちが、依然として怒りや苦み・嫉妬心を持ち続け、ネガティブな証し人となってしまっていることでしょうか。また、そういった、クリスチャンになったと言っているだけで何も変わらない人たちを見て、「その辺りの教会にいるこのような偽善者たちと比べれば自分も同じくらい善良な人と言えるだろうから、自分にはキリスト教の教えは必要ない」と考え、真の福音に見向きもしなくなってしまう人たちがどれくらいいるか、もしもその統計を出したなら、結果の数はどれほどになるでしょうか。

このレッスンで押さえておきたいポイントは、クリスチャン一人ひとりが皆、イエスの弟子を作り育てていくことこそが、神が定めた‘世界中に福音を伝える方法’であるということです。あなたがイエスのことばにとどまり続けられない限り、単に真理の存在そのものがあなたを自由にするわけではありません(ヨハネ8:31-32)。神は、私たち一人

ひとりがイエスのことばにとどまり続けることによって、私たち自身が神の真の豊かさをフルに体験できるようになることを望んでいます。しかし、イエスのことばにとどまり続けることは、ただそれだけで終わることではなく、神が定めたやり方で、福音伝道を実践していくことでもあるのです。この、神が定めたやり方がベストなものではないと決めつけた人々は皆、これに代わる別のやり方をしてきましたが、それらの別のやり方は、実際にはうまく機能してこなかったのです。

今日の学びを通して神があなたの心に語りかけ、弟子を作り育てていくことの重要性を明らかにしてくれるように祈ります。そして、あなたが神との関係を持ち続けることで、イエスの弟子となり、さらには、イエスの弟子を育てていく者となっていけるようにあなたを力づけたと思います。

振り返りのための質問とみことば

1. 聖書の中でイエスが人々を呼び集め、「クリスチャンになりなさい」とは一度も言わなかったことを知って、あなたは驚くかもしれません。イエスが言ったのは、「弟子になりなさい」ということでした。福音書(マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ)を読んで、イエスの弟子になることについて書かれている箇所をできるだけ多く見つけ出し、別の紙に書き出してみましよう。
2. 使徒の働きの中で人々は、「クリスチャンになるように」と勧められたのではなく、「弟子になるように」と勧められました。使徒の働きを読んで、人々が「弟子(たち)」と呼ばれている箇所をできるだけ多く見つけ出し、別の紙に書き出してみましよう。
3. *新約聖書[*新改訳2017]の中で弟子」という言葉は、317回も使用されています。一方、「*クリスチャン」[*新改訳2017では「キリスト者」と訳されている]という言葉が使用されているのは3回だけです。聖書の中で「クリスチャン」(もしくは「キリスト者」という言葉が使用されている三つの箇所を別の紙に書き出してみましよう。
4. マタイ10:25を読みましよう。この箇所によると、弟子とはどのような者ですか？

マタイ10:25 弟子は師のように、しもべは主人のようになれば十分です。家の主人がベルゼブルと呼ばれるくらいなら、ましてその家の者たちは、どれほどひどい呼び方をされるでしょうか。

5. ルカ14:26を読みましよう。“イエスの弟子になることは、他の人のために自分のいのちまでも無条件にささげることを意味します。”これは聖書の内容に沿っていますか？

ルカ14:26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。

6. ルカ14:33を読みましよう。“イエスの弟子になることは、イエスを一番にするために、文字通り何かを捨てることを意味します。”これは聖書の内容に沿っていますか？

ルカ14:33 そういうわけで、自分の財産すべてを捨てなければ、あなたがたは

だれも、わたしの弟子になることはできません。

7. マタイ19:29を読みましょう。“イエスのために、家、兄弟、姉妹、父、母、子ども、土地を捨てた人はだれでも、その百倍を受け、永遠のいのちを受け継ぎます。”これは聖書の内容に沿っていますか？

マタイ19:29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子ども、畑を捨てた者はみな、その百倍を受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。

8. 使徒14:22を読みましょう。“弟子たちは信仰を持ち続ける必要があります。”これは聖書の内容に沿っていますか？

使徒14:22 弟子たちの心を強め、信仰にしっかりとどまるように勧めて、「私たちは、神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならない」と語った。

9. ヘブル10:14を読みましょう。ある人が聖書の教えを、「クリスチャンになることは神の恵みによることなので、私たちの努力によるものではない」と強調するのに対して、また別のある人は「弟子となることは真の犠牲と献身が求められる」と教えていることについて、この二つの教えは相対するものだと異議を唱える人たちがいます。“真実は、キリストの贖いを受けることについては、私たちの側の努力は何一つ求められるものではなく、つまりキリストの贖いは完璧なものであるために、私たちの努力を必要としませんが、キリストが私たちを呼ぶとき、私たちはいつも、私たちのすべてを主に完全にささげ切ることが求められています。”これ（上記の“から”内）は聖書の内容に沿っていますか？

ヘブル10:14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。

10. 使徒11:26を読みましょう。“キリストが人々を招いたのは、クリスチャンと呼ばれる肉的な信者たちと、弟子と呼ばれる別の種類の信者たちという二種類の異なる信者たちを作るためではありませんでした。実際にはもともと、‘弟子’と‘クリスチャン’とは同一の信者たちを指す呼び方でした。”これは聖書の内容に沿っていますか？

使徒11:26 彼を見つけて、アンティオキアに連れて来た。彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを教えた。弟子たちは、アンティオキアで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。

11. マタイ28:19を読みましょう。イエスが信者たちに命じたことは「行って、あらゆる国の人々を～としなさい」ということでした。～は何ですか？

- A. 弟子。
- B. 改宗者。

12. マタイ28:20を読みましょう。“信者は、イエスが命じたすべてのことを守るように、他の人に教えなさい。”これは聖書の内容に沿っていますか？

マタイ28:19-20 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、^[20]わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

13. ヨハネ1:12を読みましょう。“イエスは、彼を受け入れない人々にではなく、受け入れた人々に、神からの特権(赦し・義と認められることなど)を与えました。”これは聖書の内容に沿っていますか？

ヨハネ1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

質問の解答 — レッスン14

1. 聖書の中でイエスが人々を呼び集め、「クリスチャンになりなさい」とは一度も言わなかったことを知って、あなたは驚くかもしれません。イエスが言ったのは、「弟子になりなさい」ということでした。福音書(マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ)を読んで、イエスの弟子になることについて書かれている箇所をできるだけ多く見つけ出し、別の紙に書き出してみましよう。
特に正解はない。
2. 使徒の働きの中で人々は、「クリスチャンになるように」と勧められたのではなく、「弟子になるように」と勧められました。使徒の働きを読んで、人々が「弟子(たち)」と呼ばれている箇所をできるだけ多く見つけ出し、別の紙に書き出してみましよう。
特に正解はない。
3. *新約聖書[*新改訳2017]の中で「弟子」という言葉は、317回も使用されています。一方、「*クリスチャン」[*新改訳2017では「キリスト者」と訳されている]という言葉が使用されているのは3回だけです。聖書の中で「クリスチャン」(もしくは「キリスト者」という言葉が使用されている三つの箇所を別の紙に書き出してみましよう。
 - 使徒11:26。
 - 使徒26:28。
 - ペテロ4:16。
4. マタイ10:25を読みましよう。この箇所によると、弟子とはどのような者ですか?
自分の師(先生)のように、または、自分の主人(自分の仕える人)のようになっていく者。
5. ルカ14:26を読みましよう。“イエスの弟子になることは、他の人のために自分のいのちまでも無条件にささげることを意味します。”これは聖書の内容に沿っていますか?
はい。
6. ルカ14:33を読みましよう。“イエスの弟子になることは、イエスを一番にするために、文字通り何かを捨てることを意味します。”これは聖書の内容に沿っていますか?
はい。
7. マタイ19:29を読みましよう。“イエスのために、家、兄弟、姉妹、父、母、子ども、土

地を捨てた人はだれでも、その百倍を受け、永遠のいのちを受け継ぎます。”これは聖書の内容に沿っていますか？

はい。

8. 使徒14:22を読みましょう。“弟子たちは信仰を持ち続ける必要があります。”これは聖書の内容に沿っていますか？

はい。

9. ヘブル10:14を読みましょう。ある人が聖書の教えを、「クリスチャンになることは神の恵みによることなので、私たちの努力によるものではない」と強調するのに対して、また別のある人は「弟子となることは真の犠牲と献身が求められる」と教えていることについて、この二つの教えは相対するものだと異議を唱える人たちがいます。“真実は、キリストの贖いを受けることについては、私たちの側の努力は何一つ求められるものではなく、つまりキリストの贖いは完璧なものであるために、私たちの努力を必要としませんが、キリストが私たちを呼ぶとき、私たちはいつも、私たちのすべてを主に完全にささげ切ることが求められています。”これ(上記の“から”内)は聖書の内容に沿っていますか？

はい。

10. 使徒11:26を読みましょう。“キリストが人々を招いたのは、クリスチャンと呼ばれる肉信的な信者たちと、弟子と呼ばれる別の種類の信者たちという二種類の異なる信者たちを作るためではありませんでした。実際にはもともと、‘弟子’と‘クリスチャン’とは同一の信者たちを指す呼び方でした。”これは聖書の内容に沿っていますか？

はい。

11. マタイ28:19を読みましょう。イエスが信者たちに命じたことは「行って、あらゆる国の人々を～としなさい」ということでした。～は何ですか？

A. 弟子。

12. マタイ28:20を読みましょう。“信者は、イエスが命じたすべてのことを守るように、他の人に教えなさい。”これは聖書の内容に沿っていますか？

はい。

13. ヨハネ1:12を読みましょう。“イエスは、彼を受け入れない人々にではなく、受け入れた人々に、神からの特権(赦し・義と認められることなど)を与えました。”これは聖書の内容に沿っていますか？

はい。

レッスン15

証しの使い方

ドン・クロウ

今日は、あなた自身の個人的な証しを用いて伝道することについて話したいと思います。使徒5章42節には「**そして毎日、宮や家々でイエスがキリストであると教え、宣べ伝えることをやめなかった。**」と書いてあります。初代教会の*弟子(イエスに付き従って行く者)[*以下文中、弟子と表記]たちは、毎日集まっては協道にそれることなくあちこちの宮や家々を巡り歩き、イエスがキリストであることを教え、福音を宣べ伝え続けていたことに注目してください。もしも見ず知らずの人の家を訪ね回って人々に福音を伝えていくと聞いたら、大半の人は、それは並外れているとか、気まずいやり方であると感じることでしょう。今日の学びでは、私が実際に伝道して歩く中で、イエスの弟子を作るための扉が開かれ、人々がイエス・キリストに立ち返って救われるのを見てきた実体験から学んだことの一部を皆さんと共有したいと思います。

伝道活動は、実際にやってみれば、他の人から聞いて想像していたほどには難しいものではありません。聖書の中で、パウロ自身の証しが書かれている箇所が三箇所あることに気づきました。その箇所は使徒9章・22章・26章で、パウロがまだ救われていない人々の前で自分の証しを用い、パウロ自身の体験、つまり、イエスとの出会いによってパウロの身にどのようなことが起こったのかを語っています。私たちが行なってきたイエス・キリストの福音を伝える活動の中で発見した、最も良い伝道の切り出し方の一つは、「祈りの歩行」と呼ばれるものです。訪問した家のドアをノックして、中から出てきた人に「私たちはこの地域の人たちのために、祈るために一軒一軒回っています。私たちは、祈れば神様が祈りを聞いて答えてくれることを信じています。もしもあなたやご家族のことで、健康面や何か抱えている問題などあればぜひ祈らせてもらいたいのですが、私たちに祈ってほしいことはありませんか?」と聞くのです。中にはすぐに「そうですねえ、はい、～のことを祈ってもらえますか?」と言ってくる人もいます。また中には、多少の気まずさや恥ずかしさを感じている様子で「いいえ、今は祈ってもらうようなことは特にありません」と言う人たちもいます。そのような反応が返ってきた場合、私たちはそこで自分の証しを話し始めます。

私が自分の証しを用いるときは次のように切り出します。「私には子どもが三人いるのですが、あなた様にもお子さんがいらっしゃるようにお見受けします。私の家には1981年の12月14日に双子の女の子が生まれました。でも後から出てきた方の子は死産でした」というように話すと、それを聞いた人は「あぁ、それはとてもお気の毒でしたね」と言います。私は「はい。でも気の毒だとは思わないでください。そのときにどんなことが起こったのかをお話してもいいですか?」と言って証しを始めます。「後から出てきた方の子は逆子でした。つまり、その子は足の方から先に出てきたのです。出てくる途中で赤ちゃんに酸素が行

かなくなってしまう、生まれたときにその子は産声をあげませんでした。つまり、その女の赤ちゃんは死んで生まれてきたのです。」

「助産師はその赤ちゃんを取り上げ、手のひらでありっただけの力で彼女を叩き、肺に羊水が溜まったままである場合に備えて肺の吸引を行い、可能な限りすべてのことを行いましたが、とうとう諦めざるを得ませんでした。私は、このような状況に直面した他の多くの父親と同じような思いで、‘私はたった今、自分の娘を亡くしてしまったのだ。一体この先どうしたらいいのだろうか’と呆然としていました」と、ここまで話したところで、その玄関先で私の証しを聞いている人に、「ところで聖書を読んだことはありますか?」と尋ねます。すると、「はい、少しだけ読んだことがあります」とか、「いいえ、読んだことはありません」というように答えが返ってきます。そこで私は、「私がこれを聞いた理由は、聖書の使徒10章38節という箇所には『イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。』と書いてあることについてお話したいと思ったからです。私の赤ちゃんがその後どうなったかを聞いてください。私がこれから話すことをあなたが信じるか信じないか、どう受け取るかはあなた次第ですが、とにかく、私の赤ちゃんが死んでしまったところに話を戻しましょう。その時の私は、数日後にはこの赤ちゃんを埋葬しなければならないと考えていました。でもその前に、私の赤ちゃんをただ抱きしめたいと思ったのです。そして私が自分の赤ちゃんを抱き上げると、聖書の中でいわゆる悪霊と呼ばれているものの存在がその子の体を覆っているのを感じました。すると、その悪霊が目には見えない力で私の身体に攻撃を仕掛けてきたので、私は金縛りにあったように一時的に動けなくなりました。しかし、私はすぐに『イエス・キリストの名によって、今ここにいる汚れた霊に命じる。この赤ん坊から手を引け。そしてイエスの名によって、この子の中に命が戻るように命ずる』と言いました。すると、今まで一度も息をしなかったこの小さな赤ちゃんが、口を大きく開けて一回だけ息をして、そのまま、また息をしなくなりました。私はもう一度、『イエス・キリストの名によって、汚れた霊よ、今すぐこの子から手を引くように命ずる!そしてイエスの名によって、命よ、この子の中に戻りなさい!』と言いました。すると今度は、彼女は数回あえいでから息をして、ついに息をし始めたのです。」

ここで、証しを聞いている相手を「〇〇さん」と名前で呼んで証しを続けます。「〇〇さんをご存知のように、脳に酸素が行かない状態が3分以上続くと脳に障害が残ります。でも、その子は今も生きていて脳に何の障害もなく、あらゆる点で完全に健康です。私たちは、神様が彼女のためにしてくれたことをその子の名を呼ぶたびに思い出して、ずっと語り続けていきたいと思ったので、ラテン語で‘生命’を意味するヴィータという名前をその子に付けました。神様が彼女を生き返らせてくれたからです。それ以来、私は熱心に聖書を学んできて、次のようなことが分かりました。私の子どもに取りついていた汚れた霊のことからも分かるように、この世界には本当に、サタンの支配と統治下にある闇の王国が存在し、また同時

に、神の愛するひとり子イエス・キリストの統治下にある神の王国が存在するのです。」

「イエスは、この地上に来たとき、人々が悔い改めてイエスを信じることによって、つまり、人々が罪の赦しを受けてイエスに立ち返り、イエスに付いて行くことによって、闇の王国から抜け出て、イエスの王国の中へ移るように呼びかけ始めました。あなたが私の話を聞いてどう信じるかは分かりませんが、先ほどお話したことは、私と私の家族の身に実際に起こったことなのです。そして今日、私たちがあなたの家を訪問した本当の理由をお話したいと思います。聖書の中でイエスは私たちに、弟子を作りなさいと言いました。でも私は、多くの人が忙しいという理由で、または、ただ行きたくないという理由で教会に行けない、もしくは行かないということに気づきました。また、その人が教会に通っていたとしても、教会の礼拝中に何か質問がある場合、その場で手を挙げて『先生(説教者・牧師、または神父を意味する)、あなたが今言ったことはどういう意味か教えてください』と聞くのは難しいということに気づきました。だから今日、私たちがここに来たのです。私たちは‘10分間の集中みことばレッスン’をやっています。そのレッスンでは、聖書のことばを理解できるようになるために、毎回いくつかの質問をしていきます。一方が質問をして、もう一方が答えるという対話式のレッスンです。そして、レッスンの中で私たちが説教をしたり、聖書から何かメッセージを語ったりするのではなく、いくつかの質問を投げかけていくことで、参加者自らが、聖書箇所が意味していることを発見できるようにお手伝いするというものです。」

「どうですか?このレッスンに興味はありますか?もしも興味があるのであれば、〇〇さんのご都合の良い日時に私たちがまたここに来て、今日のように話しながら学ぶことができます。もしも初回のレッスンで得るものが何もなく、役に立たない、励まされる内容ではない、身にならないと感じたなら、あなたはそれ以降もう二度と私たちに会う必要はありません。私たちはあなたにしつこくつきまどったり、あなたを教会や何かの組織に参加させたりするためにこのレッスンをやっているのではないからです。私たちの目的は、イエス・キリストがあなた個人のためにどんなことをしてくれたのか、それをあなたに伝え、あなたが自分自身のために聖書のことばを理解できるようになるのを助けるためです。聖書の中には、私たちがまだ完全に知り尽くしていないことや理解できていないこともたくさんありますが、私たちはそのような難しい内容に取り組むのではなく、短い時間でもできる簡単な学びのためにこのレッスンをやっています。どうですか?このレッスンに興味はありますか?」と聞くと、何人もの人が「はい、興味があります」と答えたので、私たちは彼らの家に行く日時を決め、その弟子育成のためのレッスンを始めました。私たちはいわゆる‘電子レンジ伝道’と呼ばれているようなやり方—それは手っ取り早く言葉で相手を説き伏せて、本人がその状況をまだよく分かっていないうちに‘救いの祈り’をさせてその人を改宗者にするというようなやり方—をするためにこの弟子育成をやり始めたものではありません。私たちの活動の目的は、このレッスンを順序立ててやり通すことで、参加者がイエス・キリストのことと、イエスが十字架につけられたことの意味を理解できるようになるのを助けることです。

私はこの弟子育成のレッスンについて、自分の牧師に話しました。すると牧師は私に、「ドン、そのレッスンは、初回以降どうなるのですか?」と尋ねました。私は、「初回のレッスンを終えると参加者は、イエス・キリストに応答して、神が差し出しているあわれみと罪の赦しを受ける取るためにどうすべきなのかが分かるようになります。私たちは、いわゆる‘高圧的なセールスマン’のようなやり方は決してしないのですが、それでも参加者たちは自然と、初回のレッスンを通して神にどう応答すべきなのか、心で分かるようになるのです」と答えました。さらに牧師が「では、レッスン15(最後のレッスン)の後はどうなりますか?」と尋ねました。私は「もしもその人が私たちと一緒に最後のレッスンまで終えたなら、おそらくその人は罪の悔い改めをして、水によるバプテスマと聖霊によるバプテスマを受けるまでになるでしょう。しかし、そのようなことが起こるのは必ずしも最後のレッスンを終えた後だけでなく、たとえばレッスン6を終えた時点で起こることもあります」というように、私の実体験から答えました。

マタイ28章でイエスは、「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。その過程で、父、子、聖霊の名によって彼らにバプテスマを授けなさい」(マタイ28:19)と言いました。私たちはこのレッスンを通して、ノンクリスチャンの人たちがイエス・キリストのことで、イエスが十字架の上で成し遂げたことについて理解できるように教えていきます。それらのことを毎週少しずつ教えていく中で、参加者たちとの人間関係と友情を築いていきます。参加者らは、だんだんと私たちに対して愛情を持ち始め、私たちのことを信頼するようになります。私たちは参加者に説教をするのではなく、あくまでもみことばを教えるのです。私たちがまず聖書を声に出して読み、続いて参加者にも読んでもらい、その後に質問を投げかけていくことで、参加者自らがみことばの中に質問の答えを見つけられるようになります。レッスンを続けるうちに私たちは、毎週のように人々が、自ら進んでイエス・キリストが自分の主であることを堂々と告白するのを見るようになります。なぜならこのレッスンの参加者は、キリストを受け入れることと、キリストに付き従って行くこと、そして、キリストに献身するということがどのようなことであるか、その意味が分かるようになるからです。私たちが行ってきたこのようなやり方は、今日の伝道で主流となっているやり方とは大きく異なります。

私たちが出て行って、失われた人々に伝道するために個人的な証しを用いることが、まずはだれにでもできる伝道のやり方です。クリスチャンであればだれもが個人的な証しを持っているはずだからです。私たちは、自分で作った*トラクト[*伝道目的の証しを綴った小冊子]を頻繁に用います。私は「娘の死」と題した自作のトラクトを持ち歩き、よく訪問した地域の家の玄関先にある郵便受けに入れたりもします。私たちのこの伝道チームのメンバーの一人であるジョー・ローズは、アルコールと麻薬に溺れていた過去があり、「奴隷からの解放」というトラクトを書きました。また、15歳のときからずっと麻薬中毒で、その後イエスによって解放された証しがあるロッキー・フォーリーは、「ヤク中の死」と題したトラクトを書きました。私たちはこういったトラクトを使いながら、訪問先で人々に証しをするのです。

しかし中には、「私には自分の赤ちゃんが死んで8分後に生き返ったというようなすごい証しはありません」と言う人もいるかもしれません。私は、多くの人がじつはそのようなすごい証しは持っていないということも理解しています。あなたには、たとえばほとんどの人が経験する罪、道徳的墮落、また、神に対する背きの力に屈することなく、アンドリュー・ウォマックのように、神の力によって幼年時代からずっと清く守られてきたというような証しがあるかもしれません。一人ひとり、何かしらの証しがあると思いますが、それでもあなたが、自分の証しは伝道のために十分効果的であるとは思えないという場合には、代わりに私の証しを使うこともできるでしょう。私たちが初めてこの弟子育成の活動を開始して、人々に伝道することを始めたころ、ジョー・ローズは彼自身の証しではなく私の証しを使っていました。しばらくすると彼は、私の証しを人前で話すことにおいて、本人である私が自分の証しを話す以上に上手く私の証しを話すようになったので、彼と一緒に訪問した家の玄関先で私はよく、「ねえ、ジョー、私の身にどんなことが起こったのか、この人に話してあげてくれないか」と頼んでいたほどです。

新約聖書の中で使徒パウロも、失われた人々に伝道するために彼の個人的な証しを用いていたのですから、私たちも同じように証しを用いることができるはずです。今の私たちにはパソコンがあり、パソコンにはWordPerfect、Microsoft Wordといった様々な種類のソフトが搭載されています。それらのソフトを使えば、あなた自身の個人的な証しのトラクトを作るのは簡単です。そして、そのトラクトをだれかに渡すとき、「この冊子は本屋さんで購入したものではありません。ここに書いてあるのは、私の身に実際に起こった話です」と言えば、あなたのトラクトはぐっと効果的なものになるでしょう。

まずはあなた自身の証し—自分の身にどのようなことが起こったのか—どうやってイエス・キリストと出会ったのかを書いてみましょう。そして、訪れた家の玄関先で自分がそのトラクトを使って伝道している場面を想像しながら、実際に証しをする練習をしてみてください。

今日学んだことについてもっと詳しく知りたい方は、私のウェブサイト(www.krowtracts.com)にアクセスして、Articles(アーティクルズ)という項目の下にある「Tips On Sharing Your Faith (ティップス・オン・シェアリング・ユア・フェイス/信仰を共有するためのヒント)」を見てみてください。あなたが自分の個人的な証しを書き終えて、それを話す練習をしたら、私のウェブサイトにあ「Tips On Sharing Your Faith」を読んで勉強してみてください。そこに書いてあることをたださらっと読むだけではなく、重要なのはしっかりと内容を学ぶことです。国や民族に対する大規模な伝道活動も、私たち一人ひとりが出て行って、まずは一人に対して福音を伝え、イエスに導き、弟子を育てていくことから始まるのです。皆さんに神の祝福がありますように。

振り返りのための質問とみことば

1. マルコ16:15を読みましょう。イエスはだれに福音を宣べ伝えなさいと言いましたか？

マルコ16:15 それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。

2. マタイ28:19-20を読みましょう。だれを弟子にするべきですか？

マタイ28:19-20 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子となさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、^[20]わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

3. 使徒8:5, 26, 16:13-15, 23, 20:20-21を読みましょう。どのような場所で伝道が行われていましたか？

使徒8:5, 26 ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。^[26]さて、主の使いがピリポに言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」そこは荒野である。

使徒16:13-15, 23 そして安息日に、私たちは町の門の外に出て、祈り場があると思われた川岸に行き、そこに腰を下ろして、集まって来た女たちに話をした。^[14]リディアという名の女の人が聞いていた。ティアティラ市の紫布の商人で、神を敬う人であった。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた。^[15]そして、彼女とその家族の者たちがバプテスマを受けたとき、彼女は「私が主を信じる者だと思いでしたら、私の家に来てお泊まりください」と懇願し、無理やり私たちにそうさせた。…^[23]そして何度もむちで打たせてから二人を牢に入れ、看守に厳重に見張るように命じた。

使徒20:20-21 益になることは、公衆の前でも家々でも、余すところなくあなたがたに伝え、また教えてきました。^[21]ユダヤ人にもギリシア人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰を証してきたのです。

4. マルコ4:11-12を読みましょう。人々が本当に救われるためには、その前にどのようなことを体験する必要がありますか？

- A. 見る。
- B. 知る。
- C. 聞く。
- D. 悟る。
- E. 上記のすべて。

マルコ4:11-12 そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえて語られるのです。^[12]それはこうあるからです。『彼らは、見るには見るが知ることはなく、聞くには聞くが悟ることはない。彼らが立ち返って赦されることのないように。』」

5. 使徒28:23-24を読みましょう。パウロはどれくらいの時間をかけて神の国のことを証しし、聖書の説明をして人々を納得させようと思いましたか？

使徒28:23-24 そこで彼らは日を定めて、さらに大勢でパウロの宿にやって来た。パウロは、神の国のことを証しし、モーセの律法と預言者たちの書からイエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた。^[24]ある人たちは彼が語ることを受け入れたが、ほかの人たちは信じようとしなかった。

6. 使徒16:14を読みましょう。だれかが本当にキリストに立ち返るとき、その人は何を開かなければなりませんか？

使徒16:14 リディアという名の女の人が聞いていた。ティアティラ市の紫布の商人で、神を敬う人であった。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた。

7. 使徒2:37を読みましょう。その人の心が開かれ、神の前に自分が罪人であることを認めたなら(心を刺されたなら)、その人はどのような反応をするのでしょうか？

使徒2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

8. 使徒16:31と2:38を読みましょう。その人が心を刺されたなら、次にすべきことは何ですか？

使徒16:31 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」

使徒2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

9. 使徒2:42とヨハネ8:31-32を読みましょう。悔い改めてイエスを信じ、バプテスマを受けたなら、次にその人がすべきことは何ですか？

使徒2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていました。

ヨハネ8:31-32 イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。^[32]あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

10. ローマ10:14-15を読みましょう。人々がキリストに出会うためには、どのようなことが起こる必要がありますか？

ローマ10:14-15 しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。^[15]遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。

質問の解答 — レッスン15

1. マルコ16:15を読みましょう。イエスはだれに福音を宣べ伝えなさいと言いましたか？
すべての造られた者に(この世のすべての人々に)。
2. マタイ28:19-20を読みましょう。だれを弟子にするべきですか？
あらゆる国の人々。
3. 使徒8:5, 26, 16:13-15, 23, 20:20-21を読みましょう。どのような場所で伝道が行われていましたか？
 - 町で。
 - 荒野(砂漠)で。
 - 川岸で。
 - 牢屋の中で。
 - 公衆の前で。
 - 家々で。
4. マルコ4:11-12を読みましょう。人々が本当に救われるためには、その前にどのようなことを体験する必要がありますか？
E. 上記のすべて。
5. 使徒28:23-24を読みましょう。パウロはどれくらいの時間をかけて神の国のことを証しし、聖書の説明をして人々を納得させようとしていましたか？
朝から夕方まで(おそらく6~8時間程度)。
6. 使徒16:14を読みましょう。だれかが本当にキリストに立ち返るとき、その人は何を開かなければなりませんか？
心(その人の存在の中心を占めているもの)。
7. 使徒2:37を読みましょう。その人の心が開かれ、神の前に自分が罪人であることを認めたなら(心を刺されたなら)、その人はどのような反応をするのでしょうか？
自分をそのように導いてくれた人に「どうしたらよいのでしょうか?」と聞く。
8. 使徒16:31と2:38を読みましょう。その人が心を刺されたなら、次にすべきことは何ですか？
 - 悔い改めて主イエスを信じる。
 - バプテスマを受ける。

9. 使徒2:42とヨハネ8:31-32を読みましょう。悔い改めてイエスを信じ、バプテスマを受けたなら、次にその人がすべきことは何ですか？
- 使徒たちの教えを守り続ける(学び続ける)。
 - イエスのことばにとどまり続ける(みことばを学び、実践し続ける)。
10. ローマ10:14-15を読みましょう。人々がキリストに出会うためには、どのようなことが起こる必要がありますか？
- だれかがその人の所に遣わされる。
 - だれかがその人に福音を宣べ伝える。
 - だれかがイエス・キリストのことを宣べ伝えることで、その人がイエスを信じることができるようになる。
 - その人がイエスを信じることで、救い主の名を呼び求めるようになる。

レッスン16

イエスに付き従う者たちを育てるために 皆の賜物を用いる

ドン・クロウ

今日は、イエスの*弟子(イエスに付き従って行く者)[*以下文中、弟子と表記]を育てるために賜物を用いることについて話したいと思います。神から私たち一人ひとりに与えられている賜物は、どのような賜物でもすべて、イエスの弟子を育てるために用いることができるのです。私たちは何か月にもわたって、このスタディブック(Discipleship Evangelism/ディサイプルシップ・エヴァンジェリズム)による弟子育成のプログラムに取り組む中で、人々が救われ、聖霊によるバプテスマと水のバプテスマを受けることによって、人々の人生が変えられるのを目撃し、このプログラムが大きな成果を出すのを見てきました。そんなある日、私と友人との会話の中で私が「今の私たちクリスチャンには何か欠けているように思えるんだ。そして、その欠けている何かによって私たちは、大事な機会を失っているように思える」と言うと私の友人は、「私はそんな風に思ったことはなかったけれど、それはどういう意味なの?」と私に尋ねました。

ここからは、内向きの教会—それはつまり、そこに来ると人がただ座って牧師の話を聞き、礼拝が終わるとすぐに皆帰ってしまうような教会—をどうすれば外向きの教会—それは皆が教会の建物から出て行って、外の人々に積極的に伝道していくような教会—に変えることができるのか、その具体的な方法を皆さんと共有したいと思います。統計によれば、約95%のクリスチャンは今までだれのことも救いに導いたことがなく、伝道活動の約90%はノンクリスチャンにではなく、クリスチャンに対して行われているのです。そして世界中で、伝道活動が最も盛んに行われている場所は教会の建物内なのです。つまり私たちは*日曜学校[*子どものための聖書の学び・礼拝]の教室内で伝道し、また、礼拝をする講堂内で伝道しているのです。私たちの伝道が教会の建物内でばかり行われているので、傍から見れば私たちは、まるで教会内部の人たちが救われる必要があると考えているかのように見えることでしょう。

教会の建物そのものを意味する教会堂というものが初めて建てられたのは、*コンスタンティヌス1世[*キリスト教徒の迫害を中止し、324年にキリスト教をローマ帝国の公式宗教としたローマの皇帝]の下、3世紀になってからのことでした。それ以来、教会の人々は外へ出て行って失われた人々(ノンクリスチャン)に伝道することをやめ、教会の内向化が進み、クリスチャンたちは教会の建物内に引っ込んだまま外へ出て行かなくなりました。統計によると、教会外へ出て行って伝道するための活動は、全米の教会で行われている様々な活動の中でたった0.5%、つまり1%にも満たないのです。これは今日アメリカにある、おもだったキリスト教宗派の中には、失われた人々に本気で伝道するために活動している教会がほとんどな

いことを意味しています。私たちが外へ出て行って伝道し、イエスの弟子を育てていくことは、キリスト教の信仰において重要な要素の一つであり、私たちクリスチャンはこのことを再認識する必要があります。ではどうすれば、私たちがこのような従来の傾向を抜け出し、教会を外向きに変えることができるのかについて考えてみましょう。

マルティン・ルターは宗教改革を通じて、信仰によって義とされるという神からの啓示を広めることで、救いと伝道に対する教会の関心を引き起こしました。そして1800年代にはジョン・ウェスレーが草分けとなり大衆伝道が始まりました。しかしそれ以降も、新約聖書の使徒たちが行なっていた、個人的な関わりを持ちながら行う伝道と弟子の育成は、現代に至るまでずっと再現されないままできました。とは言っても、読者の皆さんは「そのやり方が分からない」と言うかもしれません。今日のこの学びを通して皆さんは、そのやり方が確実に分かるようになります。そして、そのやり方とは、じつはとても簡単なものです。あなたの証しを用いながら仲間と一緒に家々を訪ねては、新しい人々に出会って伝道していくことがどれほど簡単なことであるかを教えましょう。伝道することと弟子を育てていくことが、じつはだれにとっても簡単にできることであるというのが、この学びにおいて私が焦点を当てたいことです。‘だれにでも簡単にできる’というのは朗報です。

伝道や弟子を育てる活動に関わろうとするとき、他のだれかからただ言われたこと（それはあなたが本当はやりたくないこと）をするのではなく、あなたが本当にやりたいと思うことができるとしたら、あなたはどのようなことをしたいですか？ここからは、あなたがやりたいと思うことについて一緒に考えていきましょう。私たちがやっている伝道と弟子育成のやり方を人々に紹介するとき、「見てください。私たちはこのようなことをしています。この活動を通して私たちは、他の人々の人生に触れているのです。私たちの活動によってたくさんの人々が救われて生まれ変わり、聖霊に満たされて、水の洗礼を受けてきました」と言うと、それを聞いた人たちは「素晴らしいですね!」という言葉返してくれます。しかし、私が「では今、私と一緒に伝道に行きたいと思う人はどれくらいいますか?」と尋ねると、「はい」と言って手を挙げるのは200人中2人ぐらいです。大半の人たちは、自らが伝道するのは恐れ多いと思っていたり、どうすればいいか分からなかったりするのを手挙げません。そこで私は、「今言ったことは忘れてください。皆さん自身が伝道することについては心配しないでください。怖がる必要ありません。私たちが出かけに行って、人々をバイブルスタディに誘って弟子を育成するレッスンの場を設けますから」と言います。そして次に、何人ぐらいの人がバイブルスタディで教えたいと思うかと尋ねると、「はい」と答える人はだいたい10～12人ぐらいで、それより多いことはありません。

この学びの中で伝えたいことは、キリストのからだに与えられているすべての賜物が、失われた人々に伝道するために、また、その人々を愛し育てていくためにいかに用いることができるかということです。この活動のためには、一人ひとりに与えられている、異なったすべ

ての賜物が必要で、それらの賜物はキリストのからだ、つまり地域教会の中でだけ、まんべんなく見つけられるのです。たとえば地域教会の中には、「私は人々が聖霊のバプテスマを受けられるように、癒やされるように、そういった様々なことのために祈りたいです」と言う人もいます。であればその人には祈るためだけに活動に参加してもらうことができます。また他の人は、「私はそのように祈ることはあまり得意ではありません」と言うかもしれません。そういった人には次のようなことを聞いてみるとよいでしょう。「お菓子作りは得意ですか？ちょっとしたメッセージカードを書いて送るのはどうですか？伝道活動のために電話をかけられますか？ゴミ拾いはどうですか？シングルマザーのためにベビーシッターをすることができますか？」ベビーシッターがいてくれれば、そのお母さんは私たちの集まりに参加するために、子どもを家に置いて出かけることができます。「家事などの手伝いはできますか？とりなしの祈りはどうですか？」皆さんのうちの何人かは、とりなしの祈り手としての賜物が与えられているでしょう。とりなしの祈り手には、伝道チームが救いに導こうとしている人たちの名前を伝えて、その人たちのために祈ってもらいます。とりなしの祈りの働きをする人たちは、毎週出かけて行く伝道・弟子育成チームのためにも祈ります。グループの一員として祈ることもできますし、または、ひとりでもチームのために祈り、とりなしをすることができます。

このようにだれにでも、伝道し弟子を育てる活動に参加するチャンスがあるのです。このレッスンで学んだやり方をしていけば、どのような賜物も用いることができます。私たちがイエスの弟子として外へ出て行ってこの奉仕活動をするために、まず教師として教える人と、その教師の補助をする人によってチームを作ります。さらに、仕える賜物を持った人たちのうち二人が組んで、教師たちのチームの後から付いて行き、食べ物や手作りのお菓子を配ったり、全体の状況を把握することに務めたりして活動の実務的な部分を助けます。また、そこにとりなしの祈り手たちの働きも加わります。

この活動によって私たちが見るものは何でしょうか？私たちは、神が人々の人生を変えていくのを見るのです。なぜなら、この活動の中で私たちが出会う人々は、気にかけてもらい、様々な助けを受けて養われ、そこに神の愛が表されているのを見るからです。その働きをするのはだれでしょうか？それは、当然その働きをするはずの人たち、つまり教会のすべての人たちによって行われるのです。エペソ4章11節には「**こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。**」と書いてあります。教会は、皆の前に立つ‘牧師’と呼ばれる人だけが働き人なのではなく、からだ全体として皆が働きをしているのです。牧師が教会の参加者全員にこの奉仕のやり方を教えて実践力を付けさせ、教会の信者たち全員が外へ出て行ってその働きを行うようになるとき、その教会は真に成功した教会と言えるでしょう。

ここでたとえ話を使って、現代の多くの教会の現状について説明してみましょう。もしも私たちが他国に対して宣戦布告をしておきながら、大統領が「私たちは過去の戦争

によってあまりにも多くの兵士を失ったので、この戦争では軍隊を解除して軍の大將だけを戦地に送ることにする」と言ったらどうなるでしょう。おそらくそれを聞いた他の国々は私たちのことをあざ笑うでしょう。しかしこれが今、私たちクリスチャンと教会に関して起こっていることなのです。悪魔が私たちのことをあざ笑っているのは、私たちが大將、つまり、五役者だけを派遣してすべてを行おうとしているからです。それ以外の人々は、「五役者たちにすべての働きを任せよう。そして私たちは、彼らの働きのためにお金を出して、資金的な援助だけをしよう」と言っているようなものです。私たちクリスチャンは、万軍の主の軍隊を強化することに失敗してきました。しかし神の願いは、私たちがその軍隊を増強することです。そして、私たちに与えられているすべての賜物は、万軍の主の軍隊を増強するために、つまり、伝道活動と弟子育成のために用いることができるのです。

私たちは伝道活動と弟子育成のための強力な手段を提供することによって、皆さんが神の軍隊を建て上げるための手助けをしたいと思っています。—それはこのアメリカ国内だけでなく、世界中で、皆さんにその助けとなる手段を提供できることを願っています。神の軍隊を建て上げることは、私たちが作った教材であるこのスタディブック (Discipleship Evangelism/ディサイプルシップ・エヴァンジェリズム) による学びと、神が私たちに与えてくれているすべての戦略を用いることによって可能になるのです。

失われた人々に伝道するために、新しく救われた人々を導くために、また、「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」(マタイ28:19)というイエスの命令を守るために、読者の皆さんがチームとなって活動し、それぞれの賜物を用いていく中で、神の祝福がありますように。

振り返りのための質問とみことば

1. ここからは、福音を伝えることと弟子の育成、そして、失われた人々に本気で伝道していくためのチームを作っていく方法を手短かに説明します。以下のアンケートには様々な奉仕活動が挙げられています。そして、皆さんの教会にいる人たちは、それらの奉仕活動のうちのどれかに興味を持っているかもしれません。救いに導こうとしている人たちと継続して関わり、教会に与えられているすべての賜物を用いて皆で奉仕することで、それらの人たちを神の王国へと導くことができ、また、その人たちの霊的な成長を早めることができます。以下は、皆さんの教会メンバーへのアンケートです。メンバーの皆さんがアンケートに答えた後、ノンクリスチャンの人たちと継続して関わっていくためのチームを作っていきます。

アンケート

以下の奉仕のうち、興味を持っているものに印を付けてください。(最低1つ。複数選択可。)

- 地域の家を訪ねて行って、新しい人とのつながりを作っていく。
- このスタディブック(Discipleship Evangelism/ディサイプルシップ・エヴァンジェリズム)を使って教える。
- とりなしの祈り:失われた人々と伝道チームのために祈る。
- 地域内で経済的に困っている家庭に食べ物やその他の必需品を配って回る。
- 電話または訪問によって、ノンクリスチャンの人たちに連絡を取る。
- 親切の実践による伝道:ノンクリスチャンの人たちのためにお菓子などを作る、メッセージカードを送る、その他、実践できる手伝いをする。
- シングルマザーとその子どもたちのための手伝いをする。
- ノンクリスチャンの人たちが教会に来るために送り迎えするなど、交通手段を提供する。
- その他(あなたがやりたいこと): _____

2. 以下の「弟子育成レッスンを振り返るためのフォーマット」は、このスタディブック (Discipleship Evangelism/ディサイプルシップ・エヴァンジェリズム) を使ったレッスンを行なった後で、そのレッスンを振り返って記録をつけていくためのサンプル的な書式です。このフォーマットは、牧師またはリーダーたちに、行なったレッスンの回数や結果を報告するために使うことができます。

弟子育成レッスンを振り返るためのフォーマット

レッスンを行なった日付/レッスンNo.: _____

レッスンを教えた人の名前: _____

レッスンを受けた人の名前: _____

レッスンを行なった場所: _____

レッスンの主題: _____

レッスン内容はどうだったか?(上手くいった点、上手くいかなかった点など): _____

3. ヤコブ1:22を読みましょう。みことばを聞いただけで実践しないなら、それはどういうことになりますか？

ヤコブ1:22 みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となっではいけません。

4. マタイ7:24-27を読みましょう。賢い人になるためにはイエスのことばをただ聞くだけでなく、何をしなければなりませんか？

マタイ7:24-27 ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。^[25]雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。^[26]また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。^[27]雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。」

5. エペソ4:11-12を読みましょう。奉仕の働きをすべき人はどのような人たちですか？

エペソ4:11-12 こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。^[12]それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

6. 使徒8:1, 4を読みましょう。みことばの福音を伝えながら巡り歩いたのは、どのような人たちでしたか？

7. 使徒8:1, 4によると、逆にみことばの福音を伝え歩くために出て行かなかったのは、どのような人たちでしたか？

使徒8:1, 4 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。^[4]散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。

8. 使徒11:19-22を読みましょう。新約聖書の初代教会では、一般の信者たちが福音を伝える働きをし、その後で、使徒たちのようなリーダーがそれに対して補足

的指導を行なっていました。今日の私たちの教会では逆に、リーダーが物事の先頭を切り、その他のメンバーたちがそれに付いて行きます。そういった福音を伝える働きの様子は、この箇所ではどのように表されていますか？

使徒11:19-22 さて、ステパノのことから起こった迫害により散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで進んで行ったが、ユダヤ人以外の人には、だれにもみことばを語らなかった。^[20]ところが、彼らの中にキプロス人とクレネ人が何人かいて、アンティオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、主イエスの福音を宣べ伝えた。^[21]そして、主の御手が彼らとともにあったので、大勢の人が信じて主に立ち返った。^[22]この知らせがエルサレムにある教会の耳に入ったので、彼らはバルナバをアンティオキアに遣わした。

9. 1コリント12:14-18を読みましょう。私たちは互いにキリストのからだの各部分が必要としています。ですから自分を他の人と比べるべきではありません。そして、キリストへの完全な献身とは、自分一人ですべてを行うことではなく、からだ全体の中での一つの部分として、神があなたに与えてくれた賜物を用いることなのです。あなたはこのレッスンで学んだことをどう実践しますか？

1コリント12:14-18 実際、からだはただ一つの部分からではなく、多くの部分から成っています。^[15]たとえ足が「私は手ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。^[16]たとえ耳が「私は目ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。^[17]もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が耳であったら、どこでおいを嗅ぐのでしょうか。^[18]しかし実際、神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。

質問の解答 — レッスン16

1. ここからは、福音を伝えることと弟子の育成、そして、失われた人々に本気で伝道していくためのチームを作っていく方法を手短かに説明します。以下のアンケートには様々な奉仕活動が挙げられていますが、皆さんの教会にいる人たちは、それらの奉仕活動のうちのどれかに興味を持っているかもしれません。救いに導こうとしている人たちと継続して関わり、教会に与えられているすべての賜物を用いて皆で奉仕することで、それらの人たちを神の王国へと導くことができ、また、その人たちの霊的な成長を早めることができます。以下は、皆さんの教会メンバーへのアンケートです。メンバーの皆さんがアンケートに答えた後、ノンクリスチャンの人たちと継続して関わっていくためのチームを作っていきます。
このレッスンの本文を参照してください。
2. 以下の「弟子育成レッスンを振り返るためのフォーマット」は、このスタディブック (Discipleship Evangelism/ディサイプルシップ・エヴァンジェリズム) を使ったレッスンを行なった後で、そのレッスンを振り返って記録をつけていくためのサンプル的な書式です。このフォーマットは、牧師またはリーダーたちに、行なったレッスンの回数や結果を報告するために使うことができます。
このレッスンの本文を参照してください。
3. ヤコブ1:22を読みましょう。みことばを聞いただけで実践しないなら、それはどういうことになりますか？
自分を欺くことになる。
4. マタイ7:24-27を読みましょう。賢い人になるためにはイエスのことばをただ聞くだけでなく、何をしなければなりませんか？
聞いたことを行わなければならない。
5. エペソ4:11-12を読みましょう。奉仕の働きをすべき人はどのような人たちですか？
聖徒たち(聖職者と呼ばれる特定の人たちだけではなく、一般の信者たちを含む)。
6. 使徒8:1, 4を読みましょう。みことばの福音を伝えながら巡り歩いたのは、どのような人たちでしたか？
教会に対する激しい迫害が起こったときに散らされた人(一般の信者)たち。
7. 使徒8:1, 4によると、逆にみことばの福音を伝え歩くために出て行かなかったのは、

どのような人たちでしたか？

使徒たち。(この箇所から、新約聖書に書かれている初代教会は、教会員全員が弟子の育成と伝道を担っていたことが分かる。)

8. 使徒11:19-22を読みましょう。新約聖書の初代教会では、一般の信者たちが福音を伝える働きをし、その後で、使徒たちのようなリーダーがそれに対して補足的指導を行なっていました。今日の私たちの教会では逆に、リーダーが物事の先頭を切り、その他のメンバーたちがそれに付いて行きます。そういった福音を伝える働きの様子は、この箇所ではどのように表されていますか？

散らされた人々の中にいたキプロス人とクレネ人(一般の信者たち)が、ギリシア語を話す人たちにも主イエスの福音を宣べ伝えた。そして、大勢の人が信じて主に立ち返ったと聞き、エルサレムにある教会はバルナバ(リーダーたちのひとり)を遣わした。

9. 1コリント12:14-18を読みましょう。私たちは互いにキリストのからだの各部分を必要としています。ですから自分を他の人と比べるべきではありません。そして、キリストへの完全な献身とは、自分一人ですべてを行うことではなく、からだ全体の中での一つの部分として、神があなたに与えてくれた賜物を用いることなのです。あなたはこのレッスンで学んだことをどう実践しますか？

(著者の願いとして)読者の皆さんが出て行って、神から与えられている賜物を用いて他の人々の助けとなることを実践していくことを望みます。